

日曜学校教案誌

第2号

2001年7・8・9月号



日本キリスト改革派教会
中部中会教育委員会

も く じ

まえがき	木下裕也	1
巻頭説教		
「私を受け入れてくださるキリスト」	遠山信和	2
日曜学校フェスティバルの報告	四日市教会日曜学校	6
論文		
「契約の子どもの教会教育」	吉岡良昌	8
教会学校教師のための実技講座	吉田実	16
日曜学校・教会学校訪問		
関キリスト教会	関キリスト教会 伊藤孝	20
2001年7・8・9月分カリキュラム		24
聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例		25
7月1日		26
7月8日		34
7月15日		42
7月22日		50
7月29日		58
8月5日		66
8月12日		74
8月19日		82
8月26日		90
9月2日		98
9月9日		106
9月16日		114
9月23日		122
9月30日		130
2001年10・11・12月分カリキュラム		138
編集後記		139

まえがき

木下裕也（豊明伝道所宣教師）

先の中部中会第一回定期会におきまして『子どもカテキズム』と『教案誌』の出版費用 40 万円を中会財務から支出する旨の提案を承認していただきました。教案誌作成のころみに、このようなかたちで中会的な支援をいただけましたことを感謝しております。

同時にこの提案をめぐる質疑の中では、貴重なご意見やご要望を承りました。いずれ中会教育委員会のほうでもとりまとめや検討をなさるかと思いますが、教案誌編集部としても心から受け止めさせていただいて、よりよいものをつくることのできるよう努めたいと思います。有志のかたちで始めたこのわざを、徐々に中会もしくは大会の正式な働きとして、その内実をととのえつつスライドさせていくことのできるよう、今後も慎重にその方策を求めていきたいと考えております。あわせて『カテキズム』『教案誌』がより多くの教会の日曜学校で用いただけますよう、さらなるご加禱とご協力のほど、よろしく願い申し上げます。

さて、私たちの教会では、毎月一回の日曜学校教師会のプログラムの中に「教案研究」の時間を設けています。その月の聖書箇所についての解説、カテキズム研究、指導上の留意点等について牧師が簡単な解説をほどこした後に、教師たちが自由に質問し、語り合います。各分級の担当者ごとに意見がとびかうこともあります。いずれにせよ、日曜学校の準備を教師個々の手にゆだねるのではなく、共同作業のかたち

で教課への理解を深めていくことがねらいです。

ところで「教案研究」の時を持つうちに気づいたひとつのこととして、教師ひとりひとりが「教える」べき言葉と言うよりも（もちろん日曜「学校」である以上は、この側面がきわめて重要であることは言うまでもありませんが）、みずからが聞くべき言葉として毎回与えられているみ言葉を聞き始めるようになったということがあります。み言葉の前に座すというときには大人も子どももありませんから、これは当たり前のようにして起こってくることも知れませんが、やはり興味深いことでもあります。

例えばある日の聖書箇所はサムエル記上 17 章の「ダビデとゴリアト」の箇所であったのですが、いつものように教案を検討する中でひとりの教師が、今の自分の目の前に岩のように立ちはだかっているゴリアトとは何であるのかと真剣な面持ちで問うたことがありました。教師たちがこのような角度から問い、み言葉に聞き、子供たちに語る言葉を獲得していくとなみを重ねていくことが大切ではないかと深く思わされた次第です。

私たちの教師会も行事の計画や事務的な事柄に追われて時間の余裕がなくなってしまうことはしばしばなのですが、何とかこれからもこの時間を確保したいと願っています。『教案誌』をただ虎の巻として用いるのではなく、教案研究の題材として用いていきたいと思うのです。

「私を受け入れてくださるキリスト」

- ルカによる福音書 19章 1～10節による説教 -

2001年4月30日(月)日曜学校フェスティバル開会礼拝

遠山信和(恵那教会牧師、中部中会教育委員)

日曜学校のフェスティバルで、このようにそれぞれの教会において教会学校の奉仕をしておられる皆さんがともに集まり、研鑽のとき、あるいは情報交換のとき、交わりのときを持つことができますことを感謝いたします。

エリコというのは、実に豊かなところであります。砂漠をバスで運転していきますと、とおいにみどりが見えてまいりますけれど、バスが近づけば近づくほどこれが豊かなみどりのオアシスである事が分かります。エリコには2つの豊かな泉がありまして、湧き出ていて、周り一帯を緑にしているんです。エリコには、日本でも見たことが無いようないろんな果物がたくさん売られていました。

ですから人口の多いところであり、徴税人も多かったんですが、ザアカイは、徴税人のかしらで金持ちであった、といわれています。

ザアカイはお金持ちだったんですけれど、人々から尊敬を受けなかった。むしろ馬鹿にされ、いやがられ、後ろ指をさされる。そういう徴税人でした。「徴税人はローマの手下だ。われわれはどうしてローマに税金を納めなければならないんだ」。人々はそうつぶやきました。それだけではなくて、騙し取るということを徴税人は行っていたので、人々から嫌われ、憎まれ、拒絶されていたんですね。そして彼は家庭らしい家庭を持っていなかったのでしょうか。貧しい生まれだったのでしょうか。教育のない、貧しい人間が成功するためにどうしたらいいだろうか。そう考えて彼は徴税人になったのです。しかも彼は背が低かった、と書いてあります。背が低いといっても、一般的にあの人は背が低

いほうだねというのではなく、見た瞬間に背が低いと分かるような背の低さだったんですね。

確かに劣等感をばねにして成功する、という人もたくさんありますね。ここに出てくるザアカイも、「見返してやる」という思いで、これまでそれこそ必死に成って働いて徴税人になって、それも徴税人のかしらになって、たくさんのお金をもうけてきたのでしょう。「自分は貧しいし、背が低い、みんなが自分を見て馬鹿にする。よおし、徴税人になって見返してやる」。こういうところがあったのでしょう。

ザアカイは、単に徴税人というだけではなくて、徴税人のかしらになりました。私は、大金持ちになることは、そう簡単な事ではないと思います。そしてリーダーになると言うことは、そんなにたやすい事ではないと思います。不正な取立てをしたとしても、悪いことをして大金持ちになるということも、そんなに簡単な事ではないでしょう。しかもそのかしらになると言うことは、徴税人であろうと、あるいは海城であろうと、あるいは暴力団、やくざであろうと、かしらになるということは決して甘い世界ではないと思います。かしらになるということは、頂点に立ってリーダーシップを取るということは、ものすごいへんな事で、やはりある技量のある人でないとかしらになったり、リーダーになったりすることはむずかしいでしょう。私たちは、社長さんなどを見ると、「うらやましいなあ、権限がある。部下を怒鳴りつける事が出来る。部下を思うように使って、そして部下たちはかしらのために一生懸命仕えている。ああうらやましいなあ」、と思いますが、おそらく社長になったら、「ああ、社長ってたい

へんだな。苦勞が多い。寂しい。孤独である。不安である」と思うでしょう。社長である人は、孤独であり。不安があるだろうと思います。

ザアカイは、確かに金持ちになったのですが、不安も寂しさもある。人びとから後ろ指をさされる。人々は彼を見て、背が低いために馬鹿にするというようなところがあって、決してですね、金持ち担ったにもかかわらず満足はしていなかったに違いありません。彼は寂しかった。自分の心の中に何かぼっかり穴があいているようなむなしさを感じていたんでしょう。自分に無いものを持っているイエス様には是非会いたいと思っていたのです。しかし彼は背が低いので、群集のために見る事が出来ない。それほど低かったんですね。「それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。」40 何歳の男だったかもしれませんけれども、彼には子どもっぽいところがあったのでしょうか、むしろイエス様に合いたい一身で彼はイチジク桑の木に登りました。そしてイエス様が、「今日はあなたの所に泊まることにしている」といわれると、急いでその気から降りてきました。5節、「イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。『ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。』」ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。」

今までこのザアカイという徴税人は、探していたんです。自分を受け入れてくれる人をお金もちにはなつたけれど、お金では幸せを買うことができません。ウソをついたり、ごまかしたり、ひどいことを言ってお金を奪い取ることもあった。汚れたこの私だけれど、この私をそのまま受け入れてくれる人はいないだろうか。彼の無意識の心の叫びは、自分を愛し受け入れてくださる方を求めているのでした。

周りの人たちは、「あの人は罪深い男のとこ

ろに行って宿をとった」とつぶやきましたが、彼は、「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します」と言いました。イエス様は、決して、あなたの全財産を貧しい人に分けて上げなさいといわれたんじやなくて、私はあなたの家に泊まることにしているといわれたのにもかかわらず、彼は大喜びをしてイエス様を迎えるわけです。そして、私は財産の半分を貧しい人々に施します。迷うことなく、決断しました。

彼はイエス・キリストに出会って、その愛に触れて、価値観が変わって、よし、自分にできることをしようといって、財産の半分を貧しい人に施しますとイエス様に応えるのです。

マックス・シェーラーという方が次のように述べています。世の中にはたくさん人間がいるが、2種類に分けられる。上品な人と下品な人である。下品な人とは、人と人とを比較する人。人と人とを比較して、私のほうがえらいとか劣るとか、傲慢になったり卑屈になったりする人である。上品な人とは、比較を超えた世界に生きている。誰もがその人として尊いのだというように、その人の存在そのものに絶対的な価値を置いている人である。うぬぼれることも相手を馬鹿にすることもなく、人の優位にたちたいとか、負けたくないということもない。

上品な人は、常に自分を、自分の知恵や力を必要としている人に役立てたいと願い、実践している。下品な人はいかにして得るかを考えるが、上品な人は与えることを喜ぶ。

イエス様との出会いの中で、自分があるがままに受け入れてくださった神の愛に触れて、ザアカイは、与えることを喜ぶ人に変えられていったんです。

マックス・シェーラーはまた、わが国の教育は、人と人が比較され、競争原理が持ち込ま

れている。いす取りゲームなどで競争心をあおり、いかにして勝つか、いかにして得るかが強調され、力の原理が導入されている。ともいえました。これは日本においても同じことといえるのでありましょう。こうした中で、心に病を抱えた子供や大人たちがたくさんあることを思います。今の学校教育は、力の論理があります。できるかできないか、できない者は切り捨てられていくというようなどころがあるのです。心の病を抱えた人がありのままに生きるとはどういうことなのでしょう。

東洋大学の伊藤隆二教授が、ベルギーのゲールという町のことを紹介しておられます。これは私が行きたい町のひとつなのですが、ベルギーは、人口 1000 万人 アントワープ近くのゲールという町は、人口 2 万 5000 人、戸数は約 5000 戸のところ、心の病を持つ人を 3000 人を受け入れています。この里親制度は、何と 350 年も続いてきているのです。里親の条件は、30 歳以上、家の中に寝たきりがいない。一定の収入がある。1 部屋をその人のために提供する、ということが里親になる条件だそうですが、小さな町に 3000 人も心の病を持つ人を受け入れているというのは驚きです。

神経症や精神分裂病、うつ病など、心の病を抱えた人と関わっていくときに、それがどんなに大変なことであるのかを知らされます。日本では、こうした人たちは精神病院に閉じ込めて、薬づけにされて、何十年経ってもよくなるということが多いのですが、ゲールにおいては、そこで多くの人々が生きる喜びを見出し、癒されていくようになるんです。里親になった家庭には、月 8 万円をベルギー政府が援助して、お医者さんが派遣されて、この町に国立病院が出来ているということですが、ゲールの町の人たちがしてきたことは、イエス様がザアカイになさったことではないでしょうか。

「素人に任せてもいいんですか」という質問

に対して、当地の方は、「素人だからいいんです。あずけるとき一切の病歴は問いません。一切関係ない。その人の人間としての価値を見ますから」。とお答えになったそうです。心の病を持っていた人が、あるときゲールの町に来て、そこで暮らしていくうちに、絶望から希望に変えられていく。それを見る子供は生きた教育をうけていくのです。その子供たちが、大人になったら自分も里親になって心の病を持った方々を受け入れていこうと思うようになって、これが 350 年も続いてきているんです。里親になる家族の人たちにただひとつお願いすることは、「その患者を受容してください。存在を喜んでください。」このことだけをお願いするのだそうです。「ゲールの人たちはみなお互いを受容し合っている。これ以上の教育を私は知らない。」伊藤教授はこのように述べておられます。

イエス様は、エリコにこられたのですが、5 節を見ると、「その場所に来ると」と言われています。ザアカイは木に登るんですが、イエス様はちょうどそこにくると、イエス様のほうからザアカイの所にきてくださいました。

第 2 番目にイエス様は、ザアカイを見上げるわけです。バルテマイという男は、目が見えないで、物乞いをしていました。そしてイエス様の足元にひざまずきましたけれど、今度はイエス様のほうが、木に登っているザアカイを見上げるんです。なんと大切なことを教えているんでしょう。人々が馬鹿にし、人々が避けていた男をイエス様は見上げる。そうして彼に対してお話をするんです。

第 3 番目に、「ザアカイ」と呼びましたから、ザアカイはびっくりしたでしょう。どうしてイエス様は、このザアカイの名前を知っていたんだろうかということですが、イエスさまの弟子にはマタイがいました。マタイも徴税人をしていたので。あるいはエリコに下っていく

途中で、マタイがイエス様にお話したのでしょうか。「エリコには、ザアカイという徴税人がいて、彼は徴税人のかしらなんです。背が小さいんですが、ずいぶんあくどいことをして大金持ちになったけれど、とってもさびしい人間なんです。」そんな話を聞かれたのかもしれませんが。イエス様はその男を見たときに、これがザアカイだということが分かって、近づいて、彼を見上げて、「ザアカイ」と名前を呼ぶんです。「急いで降りてきなさい。今日はあなたの家に泊まることにしている。」イエス様ははじめから計画をしておられたわけです。

人々はつぶやきました。あのイエス様は、罪人に話しかけて、あんな汚れた男の家に行って泊まろうとまでしている。ところがイエス様は、「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである」とおっしゃいました。ザアカイは、自分が失われた者であるということをよく知っていました。

ルカの福音書 18 章 18 節以下には同じ金持ちですが、ユダヤの最高議会の議員である人が、イエス様に質問したことが書かれています。

「善い先生、何をすれば永遠の命を受け継ぐことができるのでしょうか。」どうしたらいいのでしょうか、とイエス様に質問したところ、「律法を守り行いなさい。」「それは子供のときから奪っています。」でも、「あなたに欠けているものがまだ一つある。持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」そういわれて、彼はイエス様のもとを去っていきました。

この二人の違いはどこにあるのでしょうか。一人は自分が失われたということに気がついて

いないんです。自分は失われていない。私が失われた人間だなんてとても考えられない。私はよい家庭に育ち、幼い頃から宗教教育を受け、家庭教育を受け、幼い頃からそれらのものをみんな守っており、父と母を敬い、勉強し、自分は議員になり、お金持ちにもなった。すべてがうまくいっている。ところがザアカイは、お金持ちにはなりましたが、自分が失われた者であるということに気がつきました。イエス様を見て興奮するのは失われているからです。

「心の貧しいものは幸いです。神の国はその人のものです。」ザアカイは心が貧しかったんです。議員の青年は心が富んでいました。同じ金持ちでしたけれど、一人は心が富んでおり、一人は心が貧しいもので、一人は、「何が必要ですか、私は十分やっています」と言い、一人はイエス様の所に走って行って、イエス様を見たい、イエス様に出会いたい、そしてイエス様が迎えてくださると大喜びしたわけです。

エリコはのろわれた町でした。ヨシユアが、神の民を連れてやってきたときにエリコは城壁で囲まれていました。そしてヨシユアが叫ぶと、自分の軍隊が叫び、そうするとユリコの城壁が崩れ落ちたのです。ヨシユアは言いました。この町を再び立てるものはのろわれよ。彼はのろいをかけました。ヨシユアによつてのろわれた湯所がユリコでしたけれど、そののろわれた場所にすんで、のろわれた生活をしていたのが、このザアカイだったんですが、イエス様はこののろいを祝福として変えるんです。

これは私たちの生涯にも起こることです。のろいが祝福に変えられる。罪あるものを招いてくださる方によつて、私たちもこの祝福の中に入れられていることを感謝したいと思います。

※ 2001 年 4 月 30 日（月）に四日市教会で開催された「日曜学校フェスティバル」（四日市教会主催）の開会礼拝の説教を掲載させていただきました。

日曜学校フェスティバル

2001年4月30日 四日市教会にて

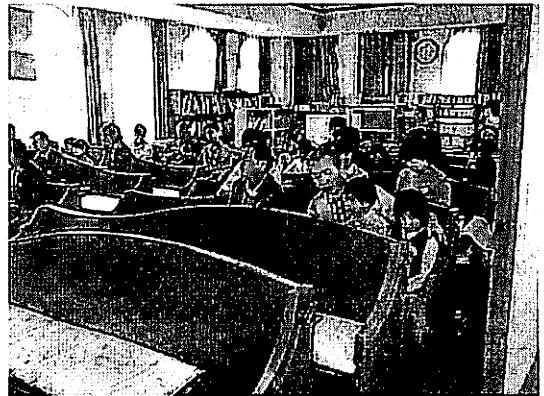
日曜学校教師の交わりと情報交換を目的とした初めての試み「日曜学校フェスティバル」が4月30日（月）、四日市教会を会場に行われました。

当日は朝から小雨模様でしたが、中会内の10教会・伝道所から38人の日曜学校教師と子どもたちが集まり、楽しい時をもつことができました。

10時30分から開会礼拝を行ない、恵那教会の遠山先生に「私を受け入れてくださるキリスト」と題してザアカイのお話から説教していただきました。遠山先生は、ご都合で開会礼拝のあととんぼ返りで帰られました。ご奉仕ありがとうございました。

さんびと交わりの集い

開会礼拝のあと、四日市教会の日曜学校で使っている讃美歌を中心に、さんびとみなさんの自己紹介の時間をとりました。



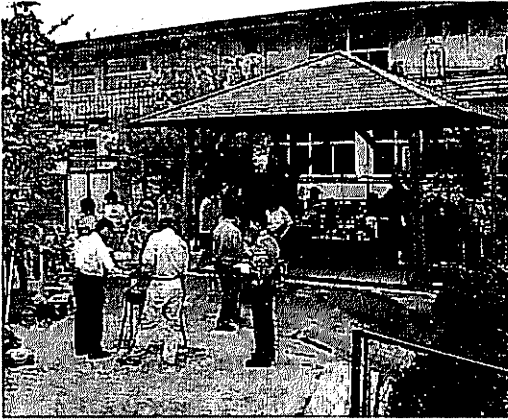
アイデアの展示と紹介

みんなの名前もわかったところで、もちよった教材などのいっぱいアイデアをわかちあいました。



お昼はバーベキュー

心配された空模様も、お昼前には雨もやみ、予定通り外でバーベキューを楽しみました。時間もたっぷりあって、楽しい交わりの時となりました。



情報交換と交わり

午後からは、会堂では午前中からの続きで幼稚科や小学科向けの教材や工作、ゲームなどの紹介と分かち合い。食堂では、中高生向けの「聖書深読」の紹介が行なわれました。



これはほんとうに「宝の山」！

今回、はじめての試みにもかかわらず、たくさんの方々の御参加をいただいて感謝しています。この試みが、これからの中部中会の日曜学校教師の交わりのために主に用いていただけるようにと願っております。

四日市教会日曜学校 伊藤治郎

契約の子どもの教会教育

吉岡良昌（大会教育委員、東部中会教育委員）

東部中会教会学校教師研修会プログラム

発題講演「契約の子どもの教会教育」

2:30-3:20 開会礼拝と発題講演

賛美歌 461

聖書 Iペトロ 2:9-10

マルコ 10:13-16

- I. 教会教育の戦略的課題
- II. 家庭教育の大切さ
- III. 両親教育の必要性
- IV. 信仰・希望・愛の態度教育
- V. 聖書の用い方
- VI. 信仰共同体は愛の育成の場
- VII. こどもの礼拝(信仰の育成)の課題
- VIII. 教会学校(希望の育成)と親の協力

3:30-4:20 分団での話し合い

討議課題

- ①教会教育の礼拝共同体的教育機能 vs 学校化
- ②キリスト教教育主事的働きは必要か否か
- ③教会は両親教育をしてゆく責任があるとすれば、どのような方法が考えられるか
- ④こどもの自己愛を育てることは罪人の教理と矛盾しないか
- ⑤こどもの礼拝参加をどのように具体化できるのか
- ⑥教会学校と親はどのように協力したらよいか

4:30-5:00 全体会(分団の書記の報告による)

閉会祈禱 主の祈り

はじめに

聖書/Iペトロ 2:9-10 から、教会教育の基本を確認しておきます。

生きた石、聖なる国民として、キリスト者は個人として、また、共同体として、神のみわざの証人として働くように召されていますが、その際、この働きを導く真の教師は神であり、聖霊であり、キリストです。この神による教育のうち、共同体としての神の教育が教会教育と呼ばれる内容を指しています。教会教育としていろいろ論じられても結局大事なのは、成長させてくださる神の働きです。その意味で、教会教育は、霊的な教育であり、祈りと聖霊の導きなくしては、ありえません。この大原則をまず、最初に確認しておきます。

次に、聖書/マルコ 10:13-16 から、契約の子どもに関する基本的な聖書理解の確認をしておきます。

神の国とはただ人間が受け取るだけの神からの賜物です。こどもの無力から生じる依存性や受容の態度がここでは弟子の手本とされています。「純真無垢な」子どもとしての評価ではありません。この子どもは神の国の「契約共同体」の一員として、また信者の家族の一員として、神の救済活動としての契約共同体の教育の下に置かれています。単なる子どもが無制約的に神に受容されているわけではありません。

このように、このテキストでは子どもが共同体としての家族の視点から位置付けられています。同様に、Iコリント7章の信者の子どもは聖であるという主張や、使徒言行録2章の幼児洗礼の示唆も、信仰共同体の枠組みの中で育て

られ教育されることが前提となっていることを忘れてはなりません。幼児洗礼は、割礼のように、神の恩寵による救いの契約の確認の証印です。こどもは親との霊的有機的一体性の基盤の上で授洗し、推定上再生者と見なされています。従って、教会はこのこどもを会員として受容し、信仰告白に向けて信仰教育を施す責任を神に対して負っています。

I. 教会の礼拝共同体的教育機能 vs 教会の学校化

まずはじめに教会全体の教育をめぐる課題について考えます。

教会規定の中に訓練規定があります。それは、教会は教会員を訓練してゆく責任があるという主旨で書かれています。この訓練 discipline も教会教育の一つと考えられます。訓練規定の主な言葉を拾ってみます。

第1条「訓練は、教会の会員を教え、導き、教会の純潔と繁栄とを増進するために、」

第4条「教会は、母がその子らをかかれらの益のために矯正するごとく、教会の子らがキリストの日にとがなきものとして聖前にたちうるように行なうべきである。」

第5条「教会の子らの霊的栄養、指導および未陪餐会員の訓練は、本来親達に神から委託されており、親達は、その義務を神と教会に対して忠実にはたさねばならない。また、真の信仰を家庭において振起させることは、教会の主要な義務である。」

第6条「教会は聖書と教理問答書において子らを教えるために特別のそなえをすべきである。この目的のために、小会は、その権威の下に教会学校または聖書学校を設置し指導すべきであり、その他の有益な方法をも採用すべきである。」

以上、訓練規定は契約のこどもの教育にも触れていることがわかります。訓練規定は、会員の教育訓育と戒規との両側面から叙述されています。積極的な教育に関わる規定は上記の箇条を含めて2章で終わり、残り3章から19章まですべて戒規と教会裁判に関わる叙述です。これは何を意味しているのでしょうか。恐らく必要が生じてこのような形に成文化されたのでしょう。しかし、教会教育、キリスト教教育の貧困さを語っているとも受け取れます。教会の訓練、教育と言うと、まず、消極的・否定的な戒規や裁判をイメージし、積極的な、豊かな成長することの喜びや希望がイメージされて来なかったということでしょう。

しかし、これからは教会教育の積極面に着眼する必要があると思います。牧師の活動としての説教・礼拝・洗礼式聖餐式の礼典執行や、賛美歌の指導、牧会活動等々は、すべて教会教育です。長老・執事の教会活動も、年代別の各グループ活動、委員会活動もやはり教会教育です。これらすべては、キリスト教会という信仰共同体が会員の霊的成長をめざして行っている教会教育であり、キリスト教教育なのです。これを礼拝共同体的教育機能と呼ぶことにしましょう。

これに対して、教会活動のこれらの教えあう活動すべてを学校 school と考えて教会学校 church school と呼ぶことも可能です。いわゆるCS「教会の学校化」という考え方です。

SS(sunday school)からCS(church school)という名称変更の運動の背後には、日曜学校だけを学校と呼ばず、教会活動の教育的側面すべてを学校と呼ぼうと考え、CSと言うようになったと思われます。結果的には、従来のSS日曜学校をCS教会学校と代弁しているに過ぎないように受け取られてきました。

昨年のCS教師研修会で、岩崎長老は「教会教育(学校)の活動にも戦術的な面と戦略的な

面があり、戦術とは、個々の技術、教師の教え方や教材の作り方等を言うが、戦略とは、教会全体が教育方針を立て、プランを練り、組織をつくり、動かすことを言う」と述べています。そして今、改革派教会が問題にすべきは、今後の教会教育の戦略を立て直すことである、と述べています。しかもこれは教会のトップの責任であるとも言っています。

ちなみに松戸小金原教会は、教会全体の教育を司る教育委員会を教会学校委員会と名づけ、成人男子会や婦人会をも教会学校と見做して、教会の教育機能を学校という名称で統一していることが特徴です。このように、教会学校活動を教会のトップである小会のポリシーの下でしっかり指導していることがわかります。

以上述べてきたように、まず第一に教会全体の教育的活動を積極的に捉え直すこと。そして第二に、討議課題として掲げたように、教会教育全体を礼拝中心の信仰共同体として位置付け、その共同体としての教育的機能の豊かさを追求してゆく姿勢をとるのか。もしくは、教会の学校化を図って、教会の教育的機能を学校として再組織し、教会学校の充実を図るのか。あるいは、その両者の中間を採って、礼拝共同体的教育機能と学校型機能との統合形態としての教会教育像を描くのか、今トップのポリシーが問われているということです。この戦略を明確にして、教会教育のヴィジョンを掲げ、その中に、日曜学校を位置付けない限り、CSの衰退は免れ得ないということです。

現在の改革派教会の現状は両者の統合というより、両者の混在というべきであろう。牧師や教育委員会の長は小会のメンバーとして、信仰共同体としての教育機能を代表しているし、教会学校校長はいわゆる教会学校の責任者として、学校制度を導入しています。そしてこの両者はそれぞれの活動をしており、両者の関係に

ついては余り深く自覚されていません。

統合ではなく、混在であると幾分批判めいて述べた理由として、更に次のことが指摘されるからです。それは以前、「まじわり誌」においても指摘したように、式文や礼拝指針を読む限りにおいては、教会学校校長の任務は、日曜学校の責任者というよりも、教会教育全体の責任者の立場として理解されているということです。

教会学校の目的はキリスト者の成長と完成であり、その目的に従って、契約の子らを訓育し、成人会員を教え、さらに未信者と未信者の子らに教育的伝道を行い、その教会学校の責任者を校長と呼び、その教会学校校長の任職式を執行できるように式文が整えられています。

この考え方は日曜学校をのみ教会学校と呼ぶ考え方と全く異なっています。教会全体のキリスト教教育が視野に入っています。この発想のもとにこれまでアメリカを中心になされてきた教会教育のシステムが、いわゆる宗教教育主事（キリスト教教育主事）の導入なのです。この導入をして教団では早や40年が経っていますし、福音派の諸教会でも導入しつつあります。しかし、改革派教会は規定に定めていても未だ実行していないし、また、この種の議論さえこれまで為されて来ないのが現状なのです。私も最近この事実気づき、事の重大性を思い、大会教育委員会で議論を始めているところです。

II. キリスト教教育主事的働きは必要か

キリスト教教育主事(Director of Christian Education)という名称は改革派ではまだ聞き慣れない言葉ですが、日本キリスト教団では1960年より養成が発足し、200名近い人材を派遣しています。キリスト教教育主事とは、教会の教育についての機能を担う専門職をさします。教会の礼拝共同体的教育機能や教会学校の働きを

導く指導者のことを指しています。現改革派の礼拝指針や式文によれば、教会学校校長の職務がそれにあたります。しかし、現教会学校校長は任職式をしたりして職務に就いている例は極く少数なため、すなわち、専門的教育を受けていないため、日曜学校の校長としての機能は果たせても、教会全体の教育プログラムを立案したり、実行したりする能力に欠けているというのが実情です。まだわたしの個人的な意見なのですが、今、改革派神学校が新しいカリキュラムを導入し、女性の献身者、奉仕者を募集し始めていることは、キリスト教教育主事の養成につながる可能性があるのではないかとということです。教会学校校長という名称を保持してもいいのですが、各教会に1名専門家スタッフを置くことは、経済的にも不可能なので、初めに、各中会に数名キリスト教教育の専門家が派遣されるようになれば、中会全体の教育的課題や各個教会の教会教育がより豊かに遂行される道が開けるのではないかと期待しているところで

す。教会は伝道活動と教育活動を通して成長してゆくことを考えた場合、キリスト教教育主事の働きが教会の活性化につながることは容易に予想できることです。

III. 家庭教育の大切さ

東部中会創立55周年記念の長期計画の中で、改革派信仰の継承として、「少子社会の中でキリスト者として結婚を重んじ、家庭形成に励み、神の愛に基づく契約の子を育てることに尽力する」と書かれています。

コメニウスという人は「誕生前の学校」と称して、人間形成はまず、神聖な結婚の段階から問題とされなければならないと言っています。神の国の進展のために、「神の子孫」となるべき、こどもの誕生と養育を将来的課題と考えて

祈る信仰深い青年男女の結婚からすでにこどもの教育は出発していると言うのです。共に信仰の価値を共有し、共に祈る信仰者同士の結婚を真剣に考え祈るべきではないかと思います。

親がこどもの教育に有利な条件としてルーシー・W・バーバーは『就学前のこどもの宗教教育』の中で次のように述べています。

1. 両親は本質的にこどもに最善のことを期待する。
2. 親となることは、こどもに何かを教える機会を提供する。
3. 両親はこどもの自然な教師である。
4. 両親は誰よりもこどもと身体的接触をする機会に恵まれている。
5. だれよりもこどもについて熟知している。
6. こどものユニーク性を知っている。

まじわり8月号で田上雅徳氏は信仰生活にもマザー・ビヘイヴィア（血肉化した信仰としての、母から伝えられた立ち振る舞い）というべきものがあるのではないかと述べています。これは信仰における態度教育のことであり、ウエスターホフが言う、「経験的信仰」を指しています。経験的信仰とは、親の態度やしつけによって体験的・行動的にこどもに信仰が伝えられるということです。幼児に対して神の愛・恵・ゆるしは親の態度によって伝えられます。家庭でこどもと一緒に祈り、賛美し、礼拝する体験ができることは親にとっても大きな救いとなります。信仰が足りないと自分の力不足を嘆く親も、礼拝を通して神の働きと力によって補うことができるからです。

幼稚園の創立者フレーベルは『人間教育』の中で印象深い言葉を述べています。乳飲み子は母のお乳を飲み込むばかりでなく、母親の人格全体を飲み込んでいると言います。それほど、親の態度、霊性、生き方が過不足なくこどもに

伝えられるということです。

ホーレス・ブッシュネルの『キリスト教養育論』も契約の子の教育をする場合の参考となります。「こどもはクリスチャンとして成長すべきであって、決してそれ以外の者として自分自身を知るべきではない。」という命題を掲げています。これは、こどもは罪のうちに成長すべきであって、成熟した年齢になって回心をすべきだという当時のリバイバル運動への反論を意味しています。

ブッシュネルによれば、こどもに罪の自覚を集中させ、回心を強要する日曜学校の教育方法は、こどもの魂をかたくなにさせ、心理的損傷を与えるだけだと言います。そういう方法ではなく、神の救いの恵みが、教会や家庭という有機的な共同体のつながりを通して、聖霊が働くことを通して、こどもの心に注ぎ込まれることから、キリスト教教育は出発すべきであると説きます。聖霊の働きかけとしての霊的力や雰囲気は、信仰者の親を通して、家庭の生活を通してこどもに伝えられてゆくからです。クリスチャンホームは神の恵みの手段となり、家庭のテーブルは聖なる儀式となり、家庭の生活は救いの力の要素となると言っています。

それでは、何故、就学前のこどもの宗教教育は態度教育なのか。幼児の認識能力の発達について研究したピアジェの理論によれば、就学前のこどもの認識的発達段階は感覚運動的段階であると言います。幼児は見たり、聴いたり、触ったり、味わったりして、感覚器官を通して、また、身体を動かすことによって学習します。このように感覚器官及び筋肉運動と環境との相互作用によってこどもは学習しています。そして、この際、態度は認識と感情と筋肉運動のすべてを結びつけているものとして機能し、しかも、価値や信念は態度によって伝達可能であるため、態度教育が有効であるということになります。

こうして、就学前の契約のこどもの教育の主役は親ということになります。この時期のこどもにとって親の権威は絶対的であり、小さな神のごとき存在として受け取られているということも重要な要素となります。

家庭教育のかなめとは何でしょうか。それはこどもにとって「絶対的な受容の場所」であり、「居場所」であることではないでしょうか。「自分は守られている」という基本的な信頼感を育む場所であれば、個々のしつけのほとんどが生かされてゆくのではないかと考えられます。

最後に、態度教育の一般原則として、否定的な、何々してはいけない方式ではなく、肯定的な強化学習を心掛けるとよいと、パーパー氏は言います。「ぼくには力があるんだ。ぼくは価値のある人間なんだ。」と思えるように、一步一步力を築き上げてゆく方向に強化してゆくしつけが良いと考えられています。

以上、就学前の契約のこどもの教育方法について論じ、家庭教育の大切さを説いてきましたが、それではこのような家庭での両親による信仰教育の大切さを説き、指導する人は誰かという課題が残されています。いわゆる両親教育の担い手は誰かと言う課題です。普通この責任は牧師にあると考えられるかも知れません。実際多くの牧師は、この仕事をしてきています。しかし、それも充分ではなく、助け手がいるということも考えられます。そこで登場するのがキリスト教教育主事ということになります。

こどもにとっての権威者が親である期間中は、親による態度教育が決め手となるので、この親を助ける教会の働きが課題となりますが、小学生になる頃から、こどもにとっての権威の対象は、学校の先生等に移ってゆきます。親もそれほど完全ではないと子供ながらに理解してくる時期だからです。そうすると、今度は権威の対象として、教会の牧師や教会学校の先生の

出番となりますが、今回はこの点については省略します。

最後に両親教育について次のことを指摘したいと思います。それは、こども自身がおとなを親へと成長させてゆく力を持っているという事実です。注意深くこどもの要求に耳を傾ける親であれば、こどもが何を欲しているのか、およそわかるものです。こどもの要求に答える営みの中で、おとなは徐々に親にさせてもらえるのです。こどもから学ぶ親という一面も忘れてはいけないということです。

IV. 信仰・希望・愛の態度教育

以下、家庭における契約のこどもの就学前のこどもの教育方法についてヒントとなることを紹介したいと思います。信仰・希望・愛についての親の態度教育の方法について述べたいと思います。

信仰をもった親が愛情込めて赤ちゃんを抱きしめたり、要求に応じた世話をすることによって、その親はこどもに何らかの仕方で、信仰・希望・愛を教えていると考えられますが、もう少し、分析してその状況を考えてみます。以下、信仰・希望・愛を態度で教えてゆく方法についてパーバー氏の見解を取り込んで述べてゆきます。

まず、信仰を教えるのに、信仰的態度で伝えるためには、次の3点が目安となります。

- (1) 愛し世話をしてくれる人に依存し、信頼する態度を養う。のちにこの態度が神に頼る前兆となる。
- (2) 自然、天気、風景、植物、まわりの自然環境を楽しむ態度を養う。この態度は、自然の造り主なる神に感謝できる信仰的態度となる。
- (3) 日常の出来事、起きること、寝ること、食事をする事など、秩序のある生活態度を養う。この態度は神がいつも生活を守ってくださると

いう神の摂理信仰の前兆となる。

この3点についての細かい説明は紙面の関係で省きます。

次に愛について考えてみます。

神を愛することと、隣人を愛することがキリスト者の目標となりますが、乳幼児の場合は自分自身を愛することから出発せざるを得ないということです。自己中心性の中に閉じ込められた状態で生まれてくる乳幼児にとってまず、大切なことは、自分自身が誰かによって受け入れられ、大切にされ、愛されるという経験をもつことです。

ですから、自己愛から隣人愛へそして神への愛という順序で成長してゆくということです。自分を大切に思えない人がどうして他人を大切に扱うことができるでしょうか。自己を愛する人は隣人を愛し自己を嫌い否定する人は、隣人も嫌い、否定するのです。もちろん、この愛の連鎖反応の根底に神の愛がまず注がれていることは言うまでもないことです。

ですから、乳幼児に対して、「罪人」と呼び、自己否定を求めることは逆効果となります。「罪人」の自覚はもう少し成長し、自我の自覚が生じてからの課題となります。幼児洗礼を受けているこどもは、すでに霊的に神の愛と保護とゆるしの中に置かれ育まれていると信じていることができます。このように、こどもの自己愛を育てることはキリスト教教育として正しいのかどうか、議論の余地があると思いますので、議論してください。

最後に、希望の教え方について考えてみましょう。

希望とは自己の将来への信頼、自分の未来に対して神の見守りを確信する態度と言えるでしょう。来るべき神の国への信頼を含むということで、希望はまた信仰や愛と不可分の要素で

す。6歳以下の乳幼児はまだ未来の感覚が育っていないのではつきりとは言えませんが、次の2つの態度が可能であるとバーバー氏は言っています。

(1) 人生への積極的・楽天主義的態度

赤ちゃんは身体的・精神的欲求不満に陥ることがたびたび生じ、そのために泣きわめくこととなりますが、この欲求不満が大人の世話によって解消されることを体験してゆくことが人生に対する楽天的・積極的態度を生み出す力となります。それから、恐れや怯えから開放される体験も希望的態度を養う力となります。

(2) 学習することの喜びに満ちた態度

乳幼児は誕生と共に学習することを開始します。身体や、感覚器官を使って、この世界の探検の旅にでかけます。このこどもと環境との相互作用を「遊び」と言いますが、それはこどもにとっての真剣な学習を意味しています。この遊びに夢中になり、学習することの喜びを体験できることが、未来の可能性への希望へとつながってゆくのです。

以上、信仰・希望・愛の態度教育について略述しましたが、教会はどのような助けを与えることができるのでしょうか。信仰の態度教育の対しては、教会の礼拝が大きな役割を果たすことができます。しかし、こどもが受け入れられる教会の礼拝のあり方については、改革派教会は未だ、途上であって、今後ともこどもの礼拝のあり方をめぐって改革されてゆかねばならないと思います。

愛の態度教育についてはどうでしょうか。これは教会の共同体の愛の交わりが力を与えたいと思います。こどもは家庭以外に、教会の共同体のメンバーとして、年齢を問わずあらゆる種類の多くの人々に触れる機会が用意されています。この共同体に受け入れられ、家庭以外の第二の「居場所」があるというこどもの体験は大

きな成長のきっかけを作ることになります。今後の社会生活の基礎ともなるし、隣人愛の実践の場所ともなります。

希望の態度はどうでしょうか。教会学校での学びの体験が学習することの喜びを一層成長させるはずですが、教会は幼稚園や保育園に劣らないほどの絵本や図書を揃えて置くべきでしょう。聖書に関する幼児向け図書は特に充実させる必要があると思います。

契約の子の親は、教会学校の先生になるか、ヘルパーの役割でもよいのですが、とにかく、教会学校を家庭教育の延長と考えて、親自身も積極的に協力する姿勢が求められていると思います。これは我が子にとっても素晴らしいことなのです。母も一緒に先生と教会学校に参加している姿を見て、こどもは教会への信頼感を持ち、安心して学習に励めるからです。

V. こどもの礼拝のあり方をめぐって

東部中会 55周年記念宣言・長期計画の中に、「各教会と中会は、礼拝におけるこどもの問題に取り組み、礼拝参加の在り方やこども礼拝の持ち方を工夫し考案する。」と書かれています。昨年のCS教師研修会で松戸小金原教会の岩崎長老は、「こどもは難解な大人向けの説教で忍耐するのではなく、平易でわかることばで、福音を聞く権利がある」と述べていました。

大人の信仰生活の死活問題は礼拝生活であるように、こどもの信仰生活も礼拝を通して成長することは明らかです。そして主の日の礼拝を公同礼拝と称し、大人の礼拝とは正式には言っていない。というっかり大人の礼拝と言いつつ間違えることはあっても、原則は大人もこどもも平等に神に招かれている公同礼拝とみなしています。

しかし、現状はうっかり大人の礼拝としばしば呼ぶように、こどもを排除している大人の論理が支配していることがわかります。説教も大

人向けです。それでは、こどもの礼拝はどのようなのでしょうか。大概、これが教会学校の礼拝で充分だとみなしていることが多いと思います。私の提案は、これを正式なこどもの礼拝というならば、大人の礼拝と同じだけのウエイトをもって、教会全体が公式に第2の礼拝として認め、尊重すべきであるということです。教会全体のこどもの礼拝に対する大人の意識が問われています。

私自身、こどもの礼拝の説教担当の時は、大人の礼拝以上に、真心をを込め、全身全霊で語るように努力しています。こどもは大人以上に私のやり方を見ているし、いつかは真似をするかも知れないからです。偽らざる自分を出す以外に道はないのです。

VI. CS 教師の在り方

最後に CS 教師の在り方姿勢について一言述べて終えたいと思います。教師だからといって教える人と考えなくてよいのではないかと。学習する人、学ぶ人としての姿勢を示せばよいのではないかと。教師は自分自身の信仰の成長のためにも生涯学習する人であれば良い。真の教師はただ一人イエスキリストのみであるから。

このイエスについて、生涯学び続ける人であれば、それで充分なのではないかと。教師もこどもと一緒に信仰生活に励んでいるという意識でやってゆくことが大切ではないでしょうか。教師は教える者というよりも、こどもから教えられ、こどもから学ぶ用意のできている人を言うのではなからうか。そういう意味で、教会は教える共同体というよりも、神を唯一の教師とする学ぶ共同体と言い換えた方が良いのかも知れません。

※ 2000年9月10日に開催された東部中会教会学校教師研修会の発題講演の要旨です。

承諾を得て、日本キリスト改革派教会東部中会教育委員会『2000年教会学校教師ノート第24号』から転載しました。

教会学校教師のための実技講座

吉田実 (神戸長田教会牧師)

〈神さまは素晴らしいデザイナー〉

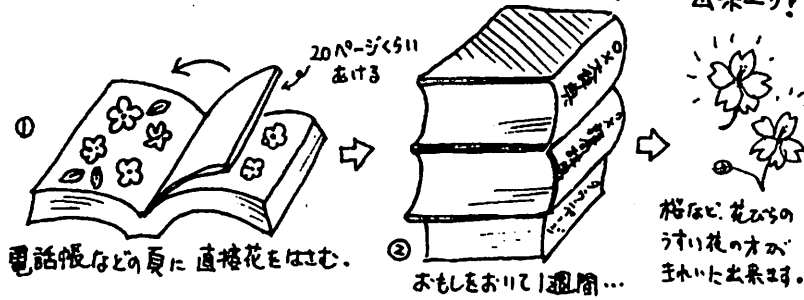
自然をじっくり見つめると、そこには天と地をお創りになった神様の素晴らしいデザインを発見することができます。たった一輪の小さな野の花でも、その色と形、花卉の質感など、実に絶妙なバランスでできています。子どもたちと一緒に観察しながら、たった一輪の小さな花を、栄華を極めたソロモン王よりも美しく着飾ってくださる神様の大きな思いやりと愛は、

今も私たちの上に、より一層豊かに注がれているということを覚えましょう。そしてそのことをいつも忘れないように、押し花を使ったしおり等の作品にしてみてもいいでしょうか。押し花は一週間でだいたいできあがりますので、二週計画で行うとよいでしょう。透明粘着シートなどを使ってコーティングすれば美しく丈夫な作品ができあがります。ぜひ挑戦してみてください。

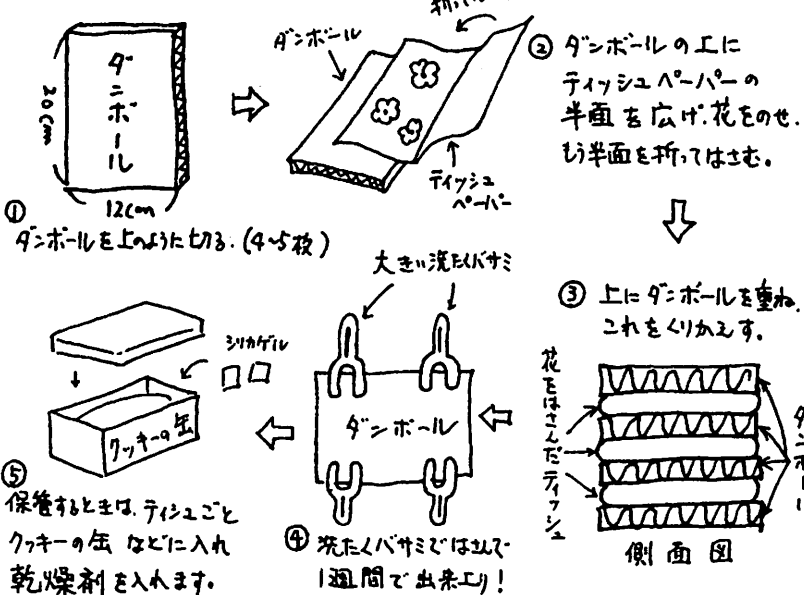
押花のつくり方

◎めんどくさがり屋さんコース

せーせーと3つから使おう!?



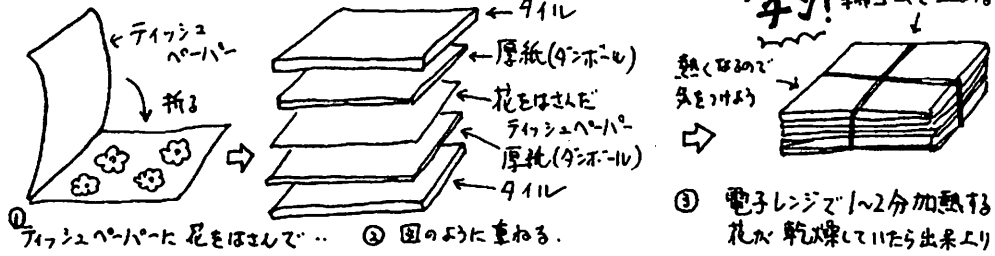
◎ちょっと凝ってみたい方コース



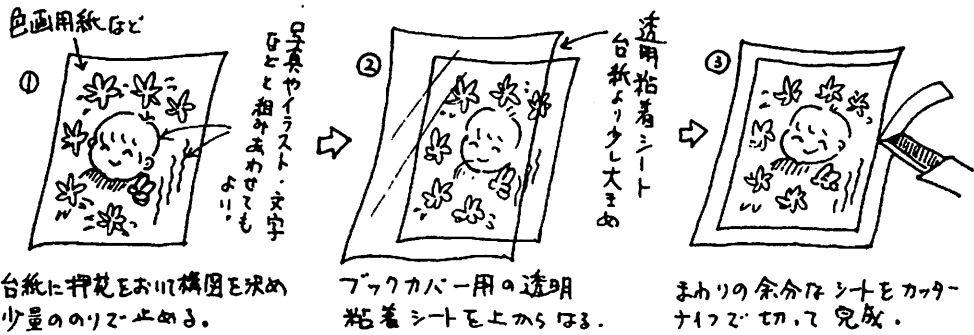
牛乳パックなどの厚紙を使い、
こういうピンセットをつくと、花を挟むのに便利だ。



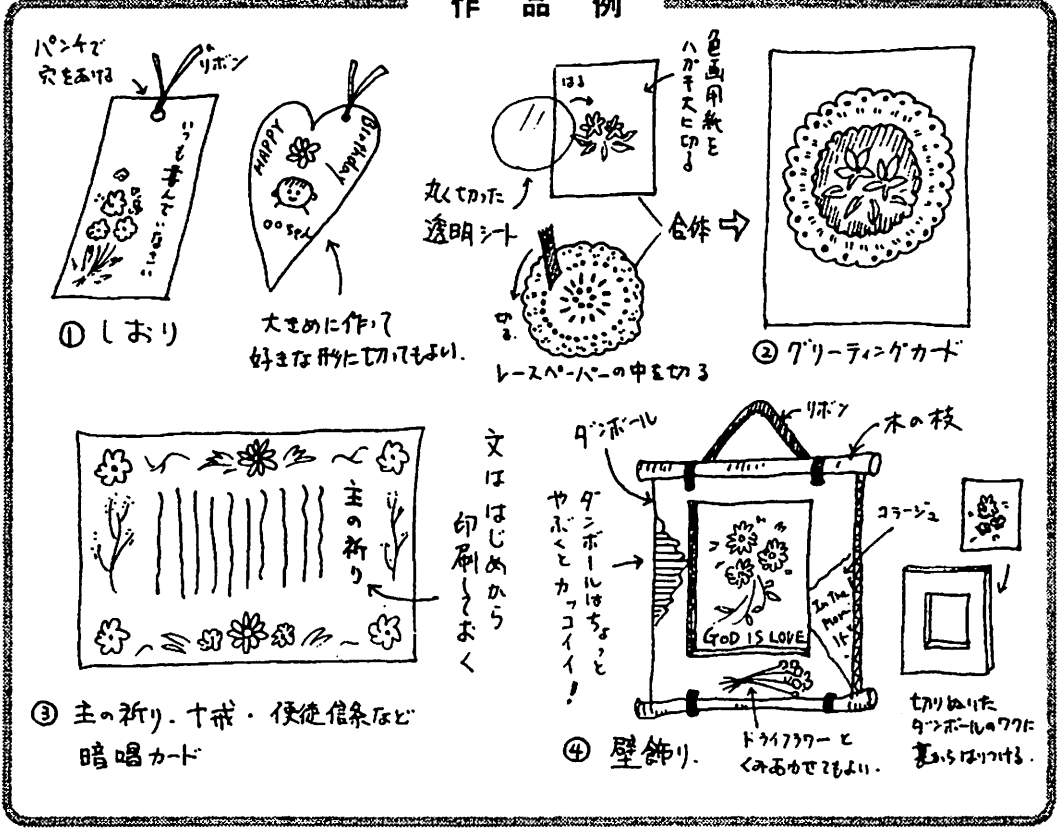
◎究極の裏技!? 電子レンジでチンして押花をつくろう!



押花作品作り方の基本



作品例



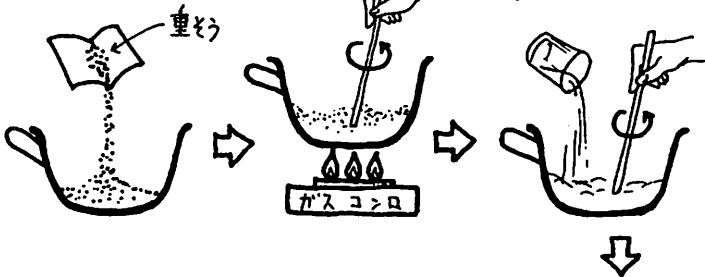
〈神さまは素晴らしいデザイナー その2〉

美しい花の陰に隠れて普段はあまり目立たない一枚の木の葉でも、よく観察すると、とても精巧に、また美しく造られています。木の葉の葉脈を取り出してみますと、そのことがよく分かります。葉脈は、根から吸い上げられた水分を葉のすみずみにまで送ったり、また葉で作られる養分を茎へ送り出したりする働きを担っています。神様は、このように一枚の木の葉でさ

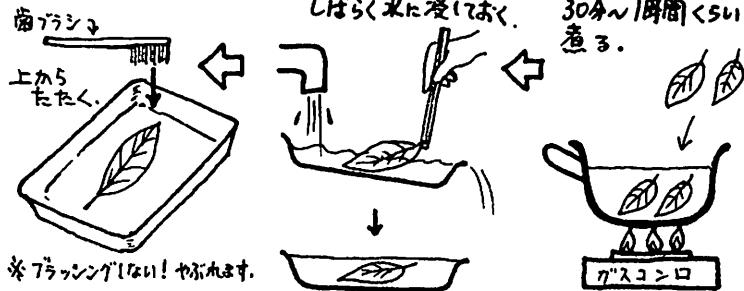
え、枯れないように、またちゃんと役割を果たせるように細かく気を配ってくださるお方です。この神様は、私たちの人生の隅々まで、よりいっそう深い愛をもってご配慮くださるお方であることを、作品を作りながら、子どもたちと共に覚えましょう。少々手間がかかりますが、うまくできあがったときは感動ものです。夏期学校など、時間的にゆとりがある時の教材に適しています。

葉脈の取り出し方

- ① 重曹 60グラムをほうろくか ステンレスの鍋に入れる。(アルミはアルカリ液にとけるので不可。)
- ② ガスコンロで5分くらい空煎りする。
- ③ 冷えた水 600ml くらいを少しずつ加え、とむぎ(たけ) 注意しながら、かきまぜる。(強アルカリなので注意！)



- ④ 出来たアルカリ溶液に葉を入れ、ガスコンロ(鍋火)で30分~1時間くらい煮る。
- ⑤ 葉を発泡スチロールのトレイに取り出し、十分に水洗いし、しばらく水に浸しておく。



※ブランチングしない! やぶれます。



⑤で水に浸す時時間があれば一晩浸しておく。次の日は作業しやすくしています。歯ブラシでトーンと上から拭きます。



※日曜学校教案誌編集部より

西部中会においても、教会学校・日曜学校の活性化のためにさまざまな活動が行われています。その一つである「教会学校教師のための実技講座」を紹介いたします。西部中会教育委員会『リフォルマング』第19号、第20号に掲載の二回分です。

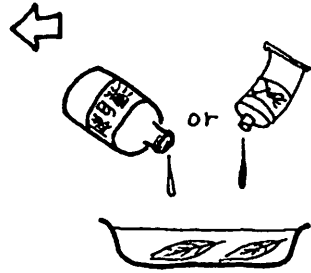
《注意》

重曹（重炭酸ナトリウム）は、空煎りすると、炭酸ナトリウムになり、その水溶液は非常に強いアルカリ性になります。この溶液はタンパク質をとかすので、皮膚や衣服につけないよう、注意しましょう。ついてしまったら、すぐ水道水で洗いましょう。子供達には薬品を触らせないように注意し、⑥以下の安全な作業から取り組ませましょう。

⑧ 取り出して、ペーパータオルの上に広げて乾かして、完成。



⑦ 真白にしたい時は漂白剤を、色をつけたい時は食紅や絵の具を水にとかし取り出した葉脈を浸す。

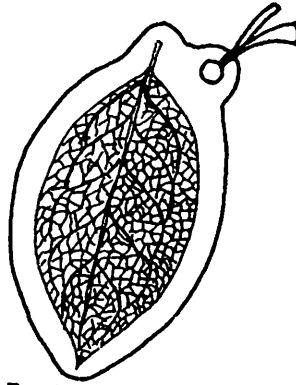


葉脈を使った作品例

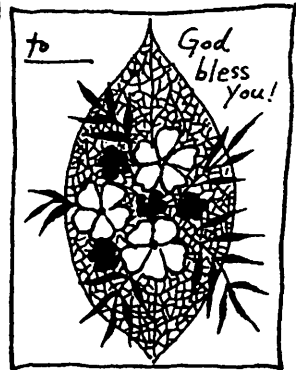
台紙にうすくのりをつけて葉脈をおき、透明フィルムで封入する。



前回ご紹介しました要領でしおりをつくってみましょう。

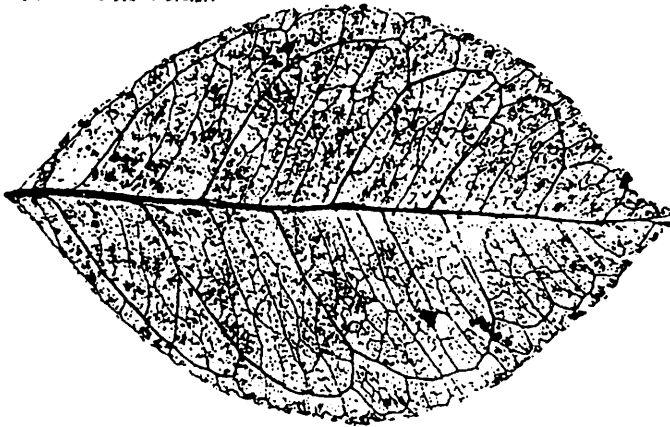


透明粘着フィルムはさみこして封入すると、両面から観察できる。



押し花と組み合わせても美しい。

ミカンの葉の葉脈



葉脈取りに適した葉は、

- ・ ミカン
- ・ キンモクセイ
- ・ ヒイラギ
- ・ ヒイラギモクセイ
- ・ ナンタン
- ・ ツバキ などです。

ポイント



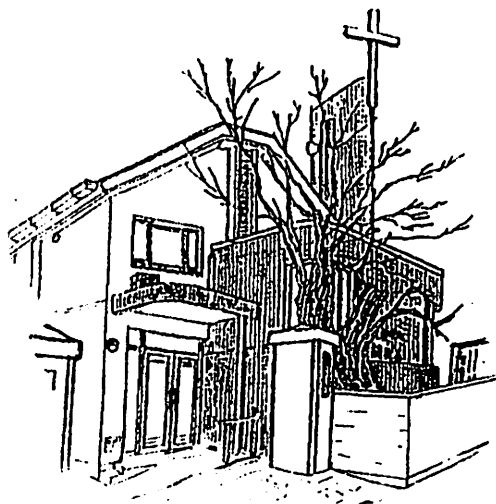
関キリスト教会教会学校の紹介

関キリスト教会教会学校校長 伊藤孝

はじめに

関教会は、1891年に米国南長老教会のカミング宣教師によって、福音宣教が始まりました。現在、関市の人口は約76000人、教会は、関市内のほぼ中心に位置しています。関教会の現住陪餐会員数は、131名です。関教会のCSは、教師14名、生徒27名です。

私たちの教会も、高齢化、少子化問題が深刻で、契約の子供たちも成長し、進学、就職とともに、関の町から出て行く子供達も少なくありません。CS教師と生徒もクリスチャン二世から三世へと世代交代しています。



1. 教師会

CS教師会は、毎月1回、第4週の礼拝後に行われています。教師会においては、教師の学びを中心に、各クラスの現状報告と行事計画の話し合いをしています。学びとして2000年度は岩井素子著『キリスト教教育シリーズ(1~3)』、2001年度には改革派松戸小金原教会作成『教会学校(日曜学校)教師心得』~①教会学校教育の目的と範囲、②校長と教師、③教会学校の基本的な教育原理、④教会学校の働き(活動内容)、⑤教会学校の教育方法、⑥教会学校の管理~を、担当者の発表のもとに学びをしています。

2. 教材

CSの教材は、これまで幼稚科、小学科は、『成長』を用いていましたが、2001年の4月から、日本キリスト改革派教会中部中会教育委員会の日曜学校教案誌と子どもカテキズムを、中学科と高校科は、ウェストミンスター信仰告白と小教理問答を用いています。

3. 合同礼拝

第一主日は、合同礼拝として、9時~9時30分まで、全員で礼拝堂にて西堀牧師のお話しを聞きます。そして分級に分かれ、10時まで、幼稚科と小学科はお楽しみ会(液晶ビジョンやテレビで映画鑑賞)を、中高科は親睦会をします。それ以外の主日は、各クラスで礼拝、分級(学び)をしています。

4. CSの年間行事

- ◎1月 カルタ取り大会
- ◎2月 ぜんざい会
- ◎3・4月 イースター、進級式
- ◎5月 春の遠足(小倉山公園、昨年は金華山登山)
- ◎6月 花の日(松風園・老人ホーム慰問)
- ◎8月 一泊修養会(場所は教会で、昨年のサマーキャンプは、那加教会と太田伝道所と関との合同キャンプ)
- ◎9月 中会信徒研修会参加



2000年合同サマーキャンプ（那加、太田、関）

◎11月 中会CS教師研修会

◎12月 クリスマス祝会（第1部・・・礼拝、
第2部・・・ページェントなど）

※関教会の行事（5月の野外親睦会、8月の夏
期一泊修養会）にも参加します。

5. 各クラスの紹介

○幼稚科 教師2名、生徒3名（2歳、4歳、5
歳）

小学科と合同礼拝をします。分級では教案
誌の中の工作やお絵かきをしたり、成長の聖
句カードでお話を聞きます。

○小学科1・2・3年生 教師2名

4月の新学期から低学年は、一人も居なく
なり、何かの働きかけをしたいと考えていま
す。

○小学科4・5・6年生 教師2名、生徒男1名
女7名

主な学び・・・2001年度4月から、日曜
学校教案誌と『こどもカテキズム』をテキス
トとしています。教案誌に紹介してある、ゲー
ムやクイズ等補助教材のアイデアを取り入れ
ながら、なるべく話だけに終始せぬよう工夫
しています。絵を用いたり、家から物を持っ
て来たり、生徒が興味を持ち、かつ、実生活

との関わりが解るように配慮しています。時
には、聖書の中の登場人物をイメージして絵
をかかせるなど生徒の想像力を働かせるアク
ティビティも取り入れています。

課題・・・生徒の興味を常に引きつけるの
が困難な時があります。こちらの説明が長く
なったり解りにくくなると、生徒はすぐ集中
力を失います。以前のような書き込みテキス
トがないので、オリジナルの補助教材の準備
が必要と思われます。分級の時間が短時間
ではありますが、その中でさまざまな学びをう
まく取り入れる事が、今後の課題です。そし
て教師が生き生きと神様、イエス様の愛を伝
える事です。

○中学科 教師2名、生徒男3名、女5名

今年度の学びは、前半30分は「英語で聖
書を学ぼう」と題して、本誌のプログラムに
沿ったオリジナル教材を使っています。「救
われたザアカイ」の話では、聖書箇の英語で
の言い方、英語の題名、ザアカイの英語名、
徴税人の英語の言い方（中学の教科書にも出
てくる）、「彼は背が低かった」など簡単な
英語文などを組み入れました。そして最後に
英語の暗唱聖句を紹介します。（酒井担当）

後半30分は、これで3年目になる『ウエ

ストミンスター信仰告白』の朝拝で読む箇所の学びです。今年からは、プリントの形式を新しくして、自分で黙読し読めない字や意味の分からない語句をチェックする時間を取るようにしました。いずれ、プリントや教師の助け無しでも、信条を自分で読めるようになって欲しいと願っています。(長谷川担当)

どちらの学びも、こどもはとても真剣です。「学ぶことが楽しい」「知ることが嬉しい」こどもたちの姿に、私たち教師も励まされています。

CSの時間は、思いっきり「お勉強モード」なので、遊ぶ時間も作ろうと工夫しています。昨年クリスマス祝会の劇は、名探偵ホームズが、「誰がイエスを殺したか？」のなどに迫るミステリーに仕立てました。3学期に3年生が高校受験に合格した時は、お祝いにボーリングとカラオケに行きました。「お遊びモード」のこどもたちは、イケイケノリノリのコギャルとスマートボーイズです。いっぱい勉強して、いっぱい遊んで、その活動の中で、イエス様の愛をいっぱい感じて欲しい・・・そう願って祈りつつ中学科のご奉仕をさせていただきます。

○高校科 教師1名、生徒男4名、女4名

学びは、『ウェストミンスター小教理問答・伝道的講解(第一部)』を2000年より始め、現在は、問34まで進んでいます。

分級のプログラム・・・学びの問答に関連した聖書の箇所を選んで読む。小教理問答書を一段落ずつ読んで解説し、質疑応答、献金・祈り(教師、全員で主の祈り)、交わり。

6. CS 合同礼拝

プログラム・・・開会祈祷(司会者)

- 賛美歌
- 主の祈り
- 十戒
- こどもカテキズム

聖書

お話

暗唱聖句

献金・感謝の祈禱

報告

暗唱聖句と『こどもカテキズム』を1問ずつ唱和し、皆でゴスペルソングを歌い、覚えているところです。

2001年度 C. S. 予定表						
月	幼稚園科	小学科	中学科	高校科	司会	礼拝の語
4	合同礼拝・進級式					
8	奥村	兼松	伊藤	長谷川	古田	礼拝の語
15	兼松	清水	伊藤	西井	古田	礼拝の語
22	古田	三輪	伊藤	長谷川	古田	礼拝の語
29	清水	伊藤	水井	西井	水井	礼拝の語
5	合同礼拝					
13	古田	三輪	大西	伊藤	長谷川	古田
20	兼松	古田	伊藤	西井	古田	礼拝の語
27	清水	伊藤	奥村	長谷川	水井	礼拝の語
6	合同礼拝					
10	奥村	三輪	水井	伊藤	西井	古田
17	三輪	清水	伊藤	長谷川	水井	礼拝の語
24	清水	伊藤	兼松	西井	古田	礼拝の語
7	合同礼拝					
8	古田	三輪	奥村	伊藤	長谷川	古田
15	奥村	兼松	伊藤	西井	古田	礼拝の語
22	古田	伊藤	清水	長谷川	水井	礼拝の語
29	清水	伊藤	大西	西井	古田	礼拝の語

7. お楽しみ会

お楽しみ会では、液晶ビジョンやテレビでアニメーションビデオ鑑賞をします。

教会には、次のようなビデオがあります。

- アニメ・親子劇場 1～13巻
- パン屋のペンの大作戦 1～6巻
- 愉快的野菜たちのエンターテイメント「ヴェジテールズ」 1～6巻
- 新約聖書アニメーションビデオ ～イエス様の誕生・よみがえったイエス様・エジプトのヨセフ、その他

8. 教案誌

中部中会教育委員会によって、『日曜学校教案誌』ならびに『こどもカテキズム』が創刊されました事を感謝いたします。21世紀を迎えましたが、科学の進歩とともに、神様の御恵みとイエス様の愛から離れている人々のいかに多いことでしょう。教会のCSも厳しい現実ですが、福音の種が蒔かれますが、さまざまな環境におかれた種は、神様の恵みの内にやがて実を結び、収穫を迎えます。



CS 春の遠足

「惜しんでわずかしか種を蒔かない者は、刈り入れもわずかで、惜しまず豊かに蒔く人は、刈り入れも豊かなのです。」(コリントⅡ 9:6)

私たちのご奉仕が、たとえ小さな種蒔きであっても、それを育て導いて下さる神様を信じ、教会学校の働きに励み、決して落胆はしません。

教案誌が、教育委員会の先生方と教会学校教師の働き御働きに感謝しますとともに、改革派教会全体の教案誌として用いられます事をお祈り致します。



クリスマス祝会

9. 成人の教会学校

上記のCSの他に、成人たちの教会学校は、毎月1回、壮年会、姉妹会、青年会として、第一主日の朝拝後にもたれています。それぞれ、会長、書記、会計などの役員がたてられ、現在

は『ウェストミンスター小教理問答・伝道的講解』を、会員が輪番で学びあっています。

また求道者、初心者のために、毎週の朝拝前と夕拝前の30分間ですが、受洗・信仰告白準備会がもたれています。担当は牧師です。

日曜学校 2001年度カリキュラム (7～9月分)

2年サイクル第1年 (子どもカテキズム問1～36)

月日 教会暦	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単 元 の 目 標			
7月1日	唯一の神	問 8	ウ小教理 問 5
		使徒 17:22-34	申命 6:4-5
日本における子どもの救いと成長を阻害する多神教から決別する。			
8日	生ける神	問 9	ウ小教理 問 5
		出エジプト 32:1-6	申命 6:4-5
生きた愛の神を教える。愛を裏切らないように励ます。			
15日	三位一体の神	問 10	ウ小教理 問 6
		マタイ 28:19	マタイ 28:19
救いの神、愛の神の視点から三位一体の神を提示する。			
22日	三位一体の神の交わり	問 10	ウ小教理 問 6
		ヨハネ 4:7-16	ヨハネ 4:16b
三位一体の神の交わりの中に入れられる救いとその喜び、安心を伝える。			
29日	主権者なる神	問 11	ウ小教理 問 7、8
		ダニエル 3:1-30	ダニエル 3:29c
主権者、全能者なる神への絶対的信頼を確信をもって証しする。			
8月5日	天地創造	問 12	ウ小教理 問 9
		創世 1章	ヨハネ 1:3
自然は神の作品。そこに置かれていることへの安心と感謝、責任を証しする。			
12日	摂理の神(1)	問 13	ウ小 11、ハイデルベルク 26-28
		マタイ 10:26-31	ローマ 8:28
神は今ここで一人一人に良き意思をもって働きかけている。安心と感謝、責任を。			
19日	摂理の神(2)	問 14	ウ小 11、ハイデルベルク 26-28
		ヨハネ 9:1-12	エレミヤ 31:3b
占いなどによって子どもたちの心が浸食されている。占いを拒否し伝道へ。			
26日	人間の創造	問 15	ウ小教理 問 10
		創世 2:6-25	創世 2:7
人間の素晴らしさを証しする。			
9月2日	墮落	問 16	ウ小教理 問 12、13、15
		創世 3:1-7	ローマ 5:12a
人間を創造し、愛された神の悲しみのまなざしの中で、人間の墮落を語る。			
9日 (15敬老の日)	罪	問 17	ウ小教理 問 14
		マルコ 10:17-27	マルコ 10:27
人生の目的、喜びを失わせる罪。混乱、破壊、悲惨の原因が罪である。			
16日	罪の悲惨	問 18	ウ小教理 問 17、18、19
		創世 3:8-24	創世 2:17
キリストを仰ぎながら罪の姿を知る。子どもたちに自分自身の姿を内省させたい。			
23日	わたしも罪人	問 19	ウ小教理 問 16
		創世 4:1-16	ローマ 6:23
悔い改めを新たにす。分級で、個別に幼子の魂と語り合い、祈ってほしい。			
30日	神の怒り	問 20	ウ小教理 問 19
		創世 6:9-22	ローマ 5:9b
正義の神が審き罰することの正当性を語る。問 21の光のもとで。			

聖書研究・カテキズム研究・説教展開例・分級展開例

パウロがギリシャのアテネの町のアレオバゴスの丘で語った伝道説教です。説教そのものは序論(22b-23)、本論(24-29)、結論(30-31)に分かれ、32-34には説教の成果が記されます。

〔1〕「知られざる神に」

パウロはアテネの町の至るところに偶像があるのを見て憤慨し(16)、イエス・キリストを死者の中から甦らせたもうた唯一の生ける神について語ります。

福音の宣教とは人を偶像の神々から真の神へと立ち返らせることです。偶像を拝している人々にも、永遠にして絶対なる創造主を求める心はなお宿っています(コヘレト 3:11)。ただ原罪によって真の神を仰ぐ視力が妨げられているために、その心が真の神礼拝に向かわず、偶像に向かってしまうのです(ローマ 1:18 以下)。パウロはギリシャ人たちが信仰に厚い人々であったことは認めています(22)が、それが偶像に向かっていたのでは、せっかくの信仰心も無意味です。

真の神への無知の中に置かれたまま、「知られざる神」(23)を拝んでいたギリシャ人たちの、その偶像崇拜のさまを、パウロは真の神の存在を証しする手がかりとして用います。真の神は世界と万物の創造主であるゆえに手で造った宮などには住まわれず(24)、すべての人に命と息とすべてのものを与えて下さる神は、人の手によって世話してもらう必要もない(25)と、パウロは造り主でなく造られた者を神として拝する彼らの愚かさど倒錯を指摘します(イザヤ 44:9 以下も参照)。

さらに、パウロは神が人間にとって近い方であり、誰もが捜し求めさえすれば神を見出すことができることを説きます(27)。「我らは神の中に生き、動き、存在する」(28)は、ギリシャ哲学からの用語であったようすし、「我らもその子孫である」もギリシャ神話の神ゼウスをたたえる詩からの引用のようです。パウロはこれら当時のギリシャ人たちになじみの深かった言葉をいわば逆手に取って、やはり真の神を紹介する手だてとしているのです。

〔2〕今は悔い改めの時代である

唯一の生けるまことの神は、み子イエス・キリストの十字架と復活のみわざによって、ご自身をはつきりと啓示なさいました。そしてイエス・キリストの受肉によって、文字通り人間に近い方とされました。

パウロは言います。それゆえに、主イエスが復活される以前の時代には、ご自身に対する人間の無知を、神は大目に見られたかも知れない。しかし、主イエスの復活以後の無知は許されない。福音が明確にあらわされた今からは、神はすべての人々に真の悔い改めと信仰をお求めになる。あなたがたも今こそ偶像を捨てて、真の神へと立ち返らなければならない。

このように、伝道説教においてはただお一人の真の神が証しされると同時に、イエス・キリストの復活が必ず語られます。主の復活こそ福音の核心です。

〔3〕伝道説教の成果

ところが、それまではパウロの説教に耳を傾けていたギリシャ人たちは、復活について語られるとある者はあざ笑ひ、ある者はいずれまた聞かせてもらうと言って、おそらくは多くの者が立ち去ったと思われ(32)。パウロもその場を立ち去ります(33)。合理的精神に富んだ(一コリント 1:22)ギリシャ人(合理的精神と偶像崇拜は深く結び合います)には、復活の指針はあまりにも受け入れがたかったのでしょうか。しかし、福音の宣教は人よりも賢い神の愚かさ、人よりも強い神の弱さを語ることで、目に見える成果がどうであれ、復活の指針は必ず語られるべきものです。

このときの伝道説教は失敗に終わったのでしょうか。神のみ言葉は決して空しくかえることはありません。34には、この説教を聞いて信仰に入った人々の名が記されます。

カテキズム 子どもカテキズム 問8
ウェストミンスター小教理問答 問5

子どもカテキズム

問8 私たちの神さまのほかに神々はいますか。

答 神さまはただお一人しかおられません。

私たちをお造りくださった神さま、生きておられる真の神さまです。

〈唯一神信仰の継承〉

この問答は、私たちの周囲が多神教の世界であることを踏まえながら、唯一神を信じるキリスト教信仰について教えています。いつの時代も、神の民は、異教の神々に取り囲まれ、異教の神々と闘ってきました。その闘いの中で、唯一の神こそ生けるまことの神であるという信仰の確信を与えられました。旧約は、「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である」(申命 6:4)と語り、神の唯一性を主張しています。これが旧約のイスラエルの民の信仰です。新約のキリスト教会は、この神の唯一性の信仰を継承しました。新約においても、神の唯一性の信仰が前提とされています(コリント一 8:5-6)。

〈神の唯一性〉

神の「唯一性」とは、神が「一なるお方」であるということです。「一なる」とは、数的にも質的にも一である、シンプルであるということです。すなわち、完全、絶対、普遍、永遠、不変ということです。一なるお方は、他のどんな存在の助けをも必要とせず、御自身ですべてを成し遂げてくださる完全な、また絶対的なお方です。一なるお方は、シンプルであり、表も裏もないのであり、昨日と今日、明日で変わることもなく、真実、誠実なお方、また永遠のお方です。ですから、「まこと」なる神です。この神は、救いの歴史において、「三位一体の神」として現れてくださいました。しかし、それは三つの神ではなく唯一神であり、三位一体の熟慮のもとで、神の御心は一つであり、神の御計画も一つです。三位一体の愛も一つであり、その御業にも一致と調和と統一があります。神が「一なるお方」であるということに、神の御性質の基礎があります。

〈生ける人格である神〉

この「一なるお方」が、生ける人格として私たち

を交わりの内に招いてくださいました。神の「人格」については、6月24日のカテキズム研究を参照してください。聖書は、他者に働きかける存在を「生ける」存在として語ります。私たちに語りかけ、働きかける神が「生ける神」であり、語りかけてこない神は「偽りの神」「死せる神」です。唯一なる神は、「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神」(出エジプト 3:15)であり、神の民に語りかけ、働きかけ、救いの御業を成し遂げる神です。

〈神の語りかけ、神の招き〉

唯一なる神は、その三位一体の熟慮の中で、天地を創造し、人を創造し、それら被造物を三位一体の愛の交わりの内へと招くことを決意してくださいました。神のこの決意に基づいて、万物が造られました。私たちの墮落の後も、神のこの決意は変わることなく、なお、神は私たちを招いておられます。その招きの言葉の頂点が、主イエス・キリストです。今もなお、聖霊において、キリストの福音が宣べ伝えられています。唯一なる神は、まことなるお方であり、変わることなく、疲れることなく、あきらめることなく、私たちを招き続けておられます。

〈私たちも神に似せられる〉

私たちは、聖霊を与えられ、主イエス・キリストと結び合わせられて、神に対して生きる者とされました。キリストこそ、神が人となった、まったき人です。神は、私たちをキリストに似た者として完成してくださいます。私たちは、シンプルで、まことなる存在として新たにされます。神に対して真実に、また誠実に歩むのです。神が生ける人格であり、まことなるお方であるから、私たちも、互いに生ける人格として語り合い、信頼し合い、仕え合います。キリスト教信仰は、生ける神と生ける私たちとの、人格的なまことの交わりなのです。

使徒言行録 17章 22 - 34 節

子どもカテキズム 問8

「アテネで伝道するパウロ、唯一の創造者なる神を信じる」

〔単元のねらい〕

「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」（申命記 6:4-5）。この御言葉を子どもの心に根づかせ、偶像にひかれないう導く。「天と地と、見えるものと見えないものすべての造り主」（ニカイア信条）なる神観を植えつけ、養う。

イエスさまの使徒、お弟子さんのパウロさんたちが、伝道の旅をして、アテネと言う町に来た時のことです。町を歩いていると、道の右側には、「病気を治すカミさま」、左側には、「お金持ちにしてくれるカミさま」、また進んでゆくと、「頭を良くするカミさま」がありました。それだけでなく、「何でも願い事を叶えてあげるカミさま」もありました。その中の一つには、「まだ、私たちの知らない神さま」という「ほこら」（刻んだカミを納めている小さな家、小屋）もありました。みんな、金や銀を使って、人間の形をしたカミを造ったり、石や木を切って彫刻して動物を刻んだものでした。それを偶像と言います。

パウロさんはそれらを見て回るうちに、心の中でこのような思いが湧いてきました。「神さまはただお一人しかおられないのだ。それなのに、このアテネの町の人々は人間が造りだした物を神さまとして拝んでいる。それは、真の神さまが最も悲しまれる事だ。真の神さまに対して、してはならない最も悪いことだ。」

それで、パウロさんは、アテネの町のアレオバゴスという、人が最も集まる場所に立って、説教を始めました。「アテネの町の皆さん、今から、私たちにとって、一番大切なことをお話します。どうぞ、聞いてください。皆さんは、町中に数え消えれない位のカミガミの像を置いて、そのカミを拝んでいますね。『まだ、私たちの知らない神さま』の為に、祭壇を造り、ほこらを造っているのですね。びっくりしました。皆さんはとても信仰の心がおありなのです。感心しています。けれども、今日、私は皆さんがまだ名前を知らない神さまで、その真の神さまのお名前を教えてあげます。その神さまは、世界とその中の全てを造られた神さまです。」

続けて、パウロさんはこう言いました。「あなた

がたが知らないで拝んでいる神さまは、私たちが住んでいるこの天と地をお造りになりました。神さまが私たち人間をお造りくださったのですから、その神さまを私たち木や土、鉄や金などで刻んで造ってはなりません。私たち人間は神さまに造られたのですから、私たちが神を造ったりすることは決して決してできません。お造り下さったこのひろい世界の中にも、真の神さまをお入れすることはできません。」

皆の中に、「シルバニア」のおもちゃで遊ぶのが好きなお友達がいるでしょう。その小さなお家に、自分が入ることはできません。真の神さまをこの世界にお入れすることはできないのです。それが、私たちをお造りくださった真の神さまなのです。

私たちをお造りくださった神さまは、お一人の神さまです。太陽は造ったけれども、月と星は真の神さま以外のカミガミが造ったというではありません。お一人の神さま、真の神さまだけがお造りになりました。私たちの神さまが私たちをお造りくださったのですから、私たちの神さま以外にはカミガミはいません。真の神さまは、唯一の神さま、ただお一人の神さまです。この真の神さまより偉い人も、大切なものも決してありません。

さて、パウロさんは続けてこのように説教しました。「神さまは世界を造って下さり、僕たち私たちは神さまのお造りになられた世界の中に置かれ、今、生かしていただきます。神さまの世界ですから、もし、私たちが神さまを知りたいと思えば、神さまがおられる事が分かるのです。神さまはすぐ近くにおられます。」

けれども、その時のアテネの人達には、神さまを知ろうとすれば、神さまがおられることは分かりましたが、そのお方のお名前は分かりませんでした。

けれども、今ではもう違います。神さまは、アテネの人達のためにも、僕たち私たちのためにもイエスさまをお遣わしになりました。イエスさまは、真の神さまであり、同時に、人間となってくださいましたから、この世界の中に入ってくださいることがお出来になるのです。

パウロさんが最後にお話したことは一番伝えたいことでした。「どうぞ、アテネの皆さん、もう、これからは、自分勝手に神さまを造っては決していきません。絶対だめです。これからは、イエスさまを信じて、礼拝しましょう。誰でも、イエスさまを信じれば、本当の神さま、真の神さまを礼拝できるのです。」

私たちは今朝、日曜学校の礼拝で、真の神さまを礼拝しています。神さまは遠くにおられるのではありません。イエスさまの教会に来て今このように礼拝している場所に、真の神さま、イエスさまが共にいてくださいます。私たちはこれからも、真の神さま、イエスさまだけを礼拝します。それが、神さま

に喜ばれることです。日本も、昔のアテネと同じように、人間が金や銀、石や木を用いて造ったカミガミがいっぱいあります。「やおよろずのかみがみ」(八百万の神々)と言われます。そして、いろんな人達が思い思いに、「これが本物の神さまです。この神さまは、病気を直してくれる神さまです。この神さまは頭を良くしてくれる神さまです」と言っています。中には、「この神さまは、ぼっくり死ねるようにしてくれる神さまです」と言うカミさへいるそうです。「この神さまにお辞儀したり、手を合わせてお願い事をすればかないます。礼拝しなければ罰があたりますよ」と言う人もいます。私たちは、真の神さまを教えてもらいました。イエスさまだけを礼拝します。今日、神さまは私たちが日曜学校に来て、礼拝しているのを、どれほど喜んでおられることでしょう。一人一人を心から喜んでおられます。だったら、来週も、日曜学校に来て、真の神さまに喜んでもらいたいと思いませんか。そして、もっともつと、真の神さま、イエスさまのことを教えてもらいたいと思います。

今週の暗唱聖句

聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。

あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

申命記 6章 4～5節

〈こどもへの質問〉

Q1 この世界にあるすべてのものを創られたのは神さまですが、この創り主なる神さまのほかにも神さまはいるでしょうか？

いいえ、本当の神さまはただ一人おられるだけだったよね。

Q2 日本にも人によって金や銀、また木や石で造られた神さまがたくさん祭ってありますが、このように人間が造ったものを神さまとして拝んでもいいのでしょうか。

いいえ、人間が造ったものには何の力もないんだよね。そして、本当の神さまは、このように人間が造ったものを神さまとして拝むことをとっても悲しまれるんだよね。

〈祈り〉

天の父なる神さま。すべてのものを創られた本当の神さまはただ一人しかおられないことを知りました。どうか、私たちが本当の神さまを信じて心から礼拝することができますように導いてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

工作 くるくるひよこカード

画用紙

① 正三角形9こを折り線に従って折り目をつける。
あ=おもて ア=うら

② ①のように折り曲げ六角形を作る。

③ ★印のところに軽くひねるようめくって他の面を出す。

たまごの絵をかき ひよこ

のりしろを(け)に貼りつける。
このように
どこまでもかぎりなく たまご→ひよこ→にわとり がくり返される。

〈目標〉

私たちの周りにあるさまざまな「神」と呼ばれるものは偽物であり、また人間が作り出したものであることに気づかせる。全てのものの造り主なるただ一人の神様がおられるだけであることを教える。

〈展開例〉

1. 日本にはどんな神々（仏）がまつられているか

神社	}	日神、月神、風神、雨神、田神、
		山神、海神、水神、雷神などの
		自然をつかさどる神
		キツネやヘビなどの動物の神
お寺	—	大木などに宿る植物の神
		安産の神、受験の神、良縁の神、
		イボ取りの神、商売繁盛の神
		亡くなった人を神としてまつる

シャカという昔いた人間を仏としてまた空想の仏（菩薩、観音など）を礼拝する。

神社や仏像の写真などを用いて話をするとよい

2. 考えよう→なぜ人は「神々」を拝むのか。

- ・神様に造られた人間は礼拝の対象を常に求める
- ・自然の災害などはすべて神の怒りのあらわれとして見ていたので、神をまつり敬うことで身を守る手段とした。
- ・豊作や安産、無病息災などを祈る対象として作った。 ↓
- ・人間が作り出したもので、実際にはいない。
- ・それを拝まなかったり、そまつにするとたたりやばちが当たると考えられているが、そんなことはない。
- ・すべてのものを造られ、支配なさっておられる神様はただお一人の、聖書に示されている神様だけである。
- ・本当の神様がわかるといろんなものを恐れずに生きることができる。

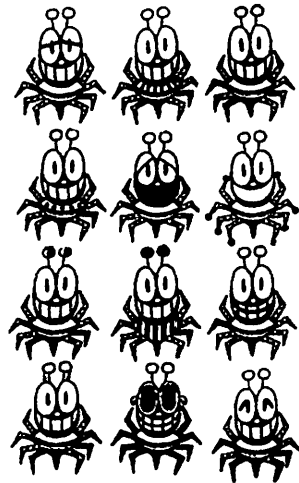
「たとえ天や地に神々と呼ばれるものもがいても、私たちににとっては唯一の神、父である神がおられ、万物はこの神から出、私たちはこの神へ帰っていくのです」【コリント8章5、6節】

4. 本物を探そう

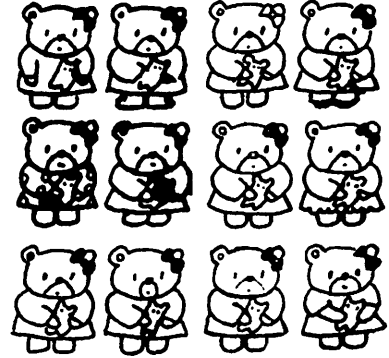
本物と同じものを探そう！



本物



本物



本物がどれかを探すとき、偽物ばかりを比べていてはわからない。本物を知ってはじめて偽物を見分けることができる。

本当の神様はただお一人だけである。神様は御自分がどのような御方であるかを御言葉をとおして私たちにはっきりと教えてくださっている。

「あなたには、わたしのほかに神があってはならない」という十戒の第1戒を心に刻みつけたい。

〈祈り〉

この世界との中の全てのものをお造りになった父なる神様。私たちに偽物を見抜くことができる目をお与えください。本当の神様だけを信じ、従っていくことができますように。

〈目標〉

私たちの神様は、生ける真の神様のみであることを子どもたちの心に根付かせる。

〈指導上の注意〉

自分の確信を持って、様々な場面で子どもたちが迷うことのないように語る。

〈展開例〉

次のポイントを押さえつつ、今日のお話の確認のために、生徒と対話をしつつ一緒に考えましょう。

・自分たちの周りにある偶像について考える。仏像、地藏、神社等々。

・それらが動くことも喋ることも何もできないモノであることを確認する。

・次に、私たちの信じている神様はどうかを考える。神様は目に見ることが出来ず、声を聞くこともできない。しかし、神様が今生きて方って下さることを子どもたちに説明する。

・子どもたちに、生けるまことの神様のみが私たちと共にいてくださる方であることを確認する。

〈ワーク〉

1. 私たちの信じる神様はどんな方？

下の※のところから選んで()を埋めよう。

神様は()で、今も()本当の神様です。この神様が世の中の全てのものを()のです。本当の生きている神様ですから、人間の手助けを()方です。

※ア) 必要とされる、イ) たくさんおられる方、ウ) 創られた、エ) 寝ておられる、オ) ただ一人の方、カ) 壊された、キ) 生きておられる、ク) 必要となさらない

2. 神様は生きておられるんだよね！

その神様はどのようにして私たちに語りかけてくださるでしょうか？(少し前のお話しの復習)

(ヒント) 神様からの愛の手紙。今みんなも持っているよ。

〈ワークの答え〉

1. オ、キ、ウ、ク 2. 聖書

〈目標〉 唯一の創造者なる神を信じる

〈指導上の心得〉

○今日から2ヶ月間、唯一のまことの神について学んでいく。「正しい信仰は神のこぼりが生むのであり、正しい神観から生ずるものである。」(岡田稔著『キリスト教』後編第2章より)との確信に基づき、じっくりと正しい神観を語っていきたい。

○次の展開例はワークシートにしてみるとよい。

〈展開例〉【導入】世の中にはたくさんの神々が信じられています。

それらはひとつをのぞいて、みんな人間がつくったものです。その一つとは、聖書によって証しされている、生けるまことの神です。世界中のクリスチャンは、この生けるまことの神を信じているのです。【書いて覚える】「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず」これは全世界のキリスト教会で告白されている使徒信条の最初のこぼりです。告白とは、そのとおりに信じます、とみんなに言い表すことです。この言葉を書いてみましょう。我は「わたし」のこぼりです。「天」は神さまがおられるところ。「地」はわたしたち人間が住んでいる

ところ。【天地】は、天と地という場所をあらわしているだけでなく、わたしたち人間も含めて、そこに暮らすすべての生き物をもあらわしているのです。つまりわたしたち人間も神さまによって造られたのです。「全能」とはすべてのものを造り、支配しておられるということです(カテキズム問11)。神様は①なにもないところからすべてのものを②御自身の言葉によって③すべて極めてよく造られました。これら3つは、神様の創造のすばらしさをあらわす大切なポイントですので、今日おぼえましょう。「父なる神」とは、私たちを養い育ててくださる、天のお父様ということです。神様は父として完全なお方です。神さまは私が祈る前から、私になくはないことを全て知っておられます。私たちはそのような神さまに愛され、守られているのです。

〈祈り〉

私たちの造り主、全能の父なる神様。あなたによって愛され、生きることができると感謝いたします。

〈目標〉神様は天地を創られ、今も全てを支配しておられる「生ける真の神」ただ一人である。

〈展開例〉みなさんは「八百万（やおよろず）の神」という言葉を知っていますか？ 日本には昔からとてもたくさんの神様がいるということを表した言葉です。太陽の神、月の神はもちろん、台所の神、さらにはトイレにまで神がいるというのが、日本の古くからの神様についての考え方です。今日の礼拝のお話のローマの町もそうでした。ローマ神話というのを読んだことがある人もいかもしれませんね。お酒の神や海の神、愛の神など、いろんな神々が出てきます。また、今日の聖書のお話にもあったように「知られざる神」まで拝んでいたのです。

○聖書の教える神様は比類ない神様

それに対して、聖書は何と言っているのでしょうか。「主は唯一の主」（申命記 6:4,5）、神様はただ一人しかおられない、と教えています。そして、そのただ一人の神様は、創世記の最初にあるように、この天地を創られた方であり、今もすべてを支配しておられる方です（マタイ 10:29）。私たちの信じる聖書の神様は、今も生きて働かれる真の神様です。

神様がただ一人であられるというのは、見方を換えれば「他に比べるものがない」ということです。二つ以上の物がある時、私たちはそれを比べる、どちらがいか計る、ということが出来ます。このリングとあっちのリングはどちらが大きいか。あるいはどちらがおいしいか。そして、こっちのリングの方が大きいけれど、おいしいのはあっちというような評価をします。どちらが値打ちがあるかを決めるのです。たくさんの神々があれば、私たちはそれを比べます。「お金もうけをさせてくれるのはこの神様が一番効果的」とか「この病気にきくのはこの神様。でもあの病気にはあっちの神様」とか言って、神々を比べて優劣を決めることが出来るのです。

しかし、ただ一人であられる神様は何とも比べようがありません。神様はこの天地を造られ、今も生きて働いておられる力ある方ですから、だれも神様にはかないません。先週学んだように、神様は、限りがなく永遠に変わることのない方ですから、だれもかなうものがない、何とも比べられない、という神様のご性質も永遠に変わることがありません。聖書の神様は永遠に比類なき神様なのです。

○「神々」に頼ることの愚かさ

聖書の教える生ける真の唯一の神様に対して、「神々」のことを考えてみましょう。これは、来週学ぶことですが、実は「神々」は人間が作り出したものなのです。聖書の教える神様がこの天地を造られた。そして神様に造られた人間が神々を作り出したのです。もうこれで、どちらが本当に信頼できるかがわかりますよね。（エレミヤ 10:1-11）

人の作った神々は「かかし」と同じだと神様はおっしゃいます。こけおどしだけで、実際にはなにもできません。あるお寺の掲示板にこう書かれていました。「同じ木から作ったものでも、あるものは人に拜まれる仏像となり、あるものは人に踏まれる下駄になる。」お坊さんの言いたかった事は、きっと、生れた時は同じような人でも、その後の暮らし方で人に尊敬される人になることもあればふみつけられるような人になることもある、ということだったのでしょうか、ちょっと考えると「仏像の本質は下駄と同じだ」ということです。だれが下駄を頼るのでしょうか？ 人の作った神々に頼るということは、結局下駄に頼るのと同じこと、愚かなことなのです。

○私たちのまわりにあふれる「神々」

人間は、自分たちの作り出したいろんなものを頼りにして、「神々」にしています。それは、神社に祭つてある神々や、お寺に置かれている仏像だけではありません。人間が作り出して頼りにしているもの。どんなものがあるか、ちょっと考えてみましょう。いかがですか？（「お金」「仕事」「学歴」等々）

私たち人間は、本当にいろんなものを「神々」にしているのです。雑誌についている「星占い」等も、それで一喜一憂して自分の行動を変えたりするのなら、十分に「神々」になっています。

しかし、私たちはそんな「神々」にふりまわされなくていいのです。私たちを創られた力ある神様は、私たちに一番良いことをしてくださる（ローマ 8:28）方なのですから。

〈祈り〉天の父なる神様。あなたは、天と地と海とその中のすべてを創られた、生ける真の唯一の神様です。そのあなたが、私たちと一緒にいてくださるので、私たちはもう人の作った神々に頼る必要がありません。どうかますますあなたを信頼する力を与えてください。

テキスト 出エジプト記 32章 1～6節

32～34章がひとつのまとまりをなしています。ここには、きわめて深刻な神の民の背信の罪とその処罰、そしてそれを覆ってあまりある神の赦罪の恵みが、印象深く記されています。

(1) 金の子牛

エジプトの国、奴隷の家から贖い出された神の民イスラエルは、荒れ野を旅して神の山シナイに到着します。そこで神は彼らに十の戒めをお授けになり(20章)、彼らとの間に恵みの契約を結ばれます(24章)。

これらのこのの後、民は山の麓にとどまりますが、モーセはひとり山頂にとどまって四十日四十夜を神とともに過ごし、神の戒めを受けます。神はモーセと語り終えられたとき「二枚の掟の板、すなわち、神の指で記された石の板」(31:18)を彼にお授けになります。この十戒の刻まれた板を携えてモーセは下山し、民のところに戻ります。

ところがモーセの留守中に、麓では目を覆うような背信行為が繰り広げられていました。民はモーセの兄で、祭司の務めを担っていたアロンに、「先立って進む神々」(1)を要請し、アロンはこれにこたえて民全員から金の耳輪(これは出エジプトの際にエジプト人から得たものです)を徴収して雄牛の像を造ります。民はこれこそが自分たちをエジプトの国から導き上った主なる神々だ(4)と言ってこの偶像にひれ伏し、祭壇を築いて献げ物を献げ、「立っては戯れ」(6)ます。これは第一戒、および第二戒への違反であり、最も深刻な罪です。

神はご自身の選びの民へのひたすらなる愛と憐れみゆえに彼らをエジプトの地から救い出し、約束の地を望ませ、荒れ野における再三の不信仰や喧嘩にもかかわらず、海を二つに開き、マナや飲み水を与え、そして恵みのみ言葉を与えて彼らを恵みの契約の成員とされました。

しかし、イスラエルはモーセがなかなか下山しないこと不安から、金の子牛を刻むことによってこれら一切の恵みを反故にしてしまったのです。

モーセが戻って来るまで忍耐して信仰に立ち続けることこそ、この時に彼らに求められたことであったのですが、彼らはこの試みを信仰によって耐え抜くことができませんでした。アダムのおすえたる人間の罪の真相が赤裸々に描かれている場面です。

列王記上 12:28 には、北イスラエル王国の王ヤロブアムが、やはり金の子牛の像を造って礼拝の対象としたとの記事があります。神の民イスラエルの偶像崇拜が時代をこえて根深かったことが、理解されます。

アロンが主宰した「主の祭り」(5)は、見るも無残なものであったようです。み言葉を欠いた時、人がいかにはなはだしく祭儀を歪曲するかを示す実例です。

(2) 神の審きと憐れみ

下山したモーセはこの光景を目にするや、聖なる怒りに燃え、携えていた二枚の石の板を投げつけて砕きます(19)。これは契約の破棄を意味したとされます。モーセはまた金の子牛の像も粉々に砕いて焼き、水に混ぜて民に飲ませますが、これは民への処罰であったとされます。

モーセはイスラエルの共同体から罪を一掃するための徹底的な処置を行います。「主につく者」としてレビ人の全員が集められ、聖なる剣によって「おのおの自分の兄弟、友、隣人を殺」(27)し、一日で三千人が倒れる(28)ほどの審きです。この後モーセは神に、心から民の罪の赦しを懇願します(31)。

神は深い憐れみをもって民の罪をお赦しになり、荒れ野の旅の継続と旅路における恵みの臨在を約束され、再び彼らと契約を締結され、モーセが砕いた十戒の石の板を再授与されます(34:1)。イエス・キリストの十字架において示された贖いの恵みにもつながる、くすしい赦罪の恵みです。この恵みこそ神の民の歩みの土台です。

カテキズム 子どもカテキズム 問9
ウェストミンスター小教理問答 問5

子どもカテキズム

問9 神々とは何ですか。

答 人間が造り出したものです。死んだ人や生きている人、動物や植物などの自然、作り話の神々を拝むことは、私たちの神さまがもっとも悲しまれる愚かなことです。

〈神を見失った人間〉

現代は、宗教に対して、非常に複雑な反応を示す時代です。一方では、人間主義（ヒューマニズム）や科学技術の発展の影響によって、神など必要ない、神などいないと考えられています。しかし他方では、人々は神秘的なものに魅力を感じて、その力に頼ろうといたします。そのため、さまざまな宗教が生み出され、社会問題化しています。このどちらも、人間がまことの神を知らないということ、まことの神を見失っているということ、すなわち罪と墮落の結果として起こってくる当然の帰結です。

私たちは、本来、神との交わりの中に生きる存在として造られました。神のかたちにかたどって造られ、神の息を吹き込まれ、霊的な存在、人格的な存在として造られました。それ故に、私たちは、神との交わりを求めます。神を必要としているのです。しかし、人間は神を見失いました。また、人間はエデンの園から追い出され、人間の側から神との交わりに至る道は閉ざされました。

〈人間の思いの反映としての八百万の神〉

そこで、人間は、自らさまざまな神々を造り出して、礼拝します。偶像礼拝をするのです。

私たちの周りには、さまざまな偽りの神々が氾濫しています。商売繁盛の神、交通安全の神、受験合格の神、縁結びの神・・・など、数え上げていくときりがありません。これらはいずれも私たち人間の心の欲望、不安、恐れと結びついています。人間の心には、自分の能力を超えた問題について、何ものに頼らねばおれない思いがあります。偽りの神々とは、人間の不安や恐れ、人間の欲望の反映にほかなりません。人間は、不安や恐れの対象になるものを神として祭り、なだめることによって、不安や恐れを解消しようとします。あるいは、大きな力を持つ存在を神として仰ぎ、そこから力を得よう

とします。偶「像」を拝むというのも、その「像」そのものに力があるというのではなく、その背後の偽りの神々をなだめ、あるいはそこから力を得ようとすることです。私たち人間の数限りない思いをいやすために、数限りない神々が必要とされ、「八百万（やおよろず）の神」ということになります。

これらは、自分が中心となり、自分の利益を求め、自分が基点となって神を考えることです。自分が神であるということです。偶像礼拝、八百万の神とは、究極的には、自己神化にほかなりません。

〈生ける神、語りかける神〉

いずれにせよ、偽りの神々は、人間の考え、人間の知恵によって造り出された存在です。人間の側の働きかけがないならば、存在の根拠を持たない神々です。その意味で、本来、「偽りの神々」など存在しないのです。偽りの神々は、すべて、「死せる神々」にほかなりません。偽りの神々に従って生きるならば、それは、人間の欲望や恐れに従って生きること、あるいは人間の知恵に基づいて生きることにはほかなりません。このことを神は悲しまれます。

私たちの神は、神の側から語りかけ、働きかけてくださる生ける神です（7月1日のカテキズム研究を参照）。人間の要請に従って行動するのではなく、御自身の御心に基づいて、御自身の良しとなさるところに従って、愛をもって語りかけてくださいます。それは、とりわけ主イエス・キリストにおいて現実となりました。神は、キリストにおいて、私たちが神との交わりにあずかる恵みの道を切り開いてくださいました。神の側から切り開かれた道です。私たちは、この愛をもって働きかけてくださる三位一体の神との交わりの中に生かされます。私たちが、唯一の生ける神を信頼し、神に依り頼むことを、神は喜んでくださいます。ここに、神を喜び、神の栄光をあらわす人生があります。

出エジプト記32章1～6節

子どもカテキズム 問9

「金の雄牛を造って拜んだイスラエル、私たちの神を愛する」

〔単元のねらい〕

「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」(申命6:4-5)。この御言葉を子どもの心に根づかせ、偶像にひかれないう導く。

このお話は、旧約聖書の物語です。昔、イスラエルの人々はエジプトで奴隷にされて苦しめられていました。そのイスラエルをエジプトから脱出させるために神さまが選ばれたのは、モーセという人でした。そのモーセが、数百万人のイスラエルの人々をエジプトから導き出して、シナイ半島の荒れ野に到着しました。三ヶ月めのことです。神さまはモーセにシナイ山に登るようにお命じになりました。そこで、モーセは神さまの御言葉を記された石の板を与えられます。有名な十戒が与えられたのです。

ところが、モーセがシナイ山の頂きで神さまにお会いしている間に、ふもとは大変なことが起こっていました。イスラエルの人々は、最初の内は、モーセが神さまに直接に会って、これからのことをいろいろ教えてもらうことを喜びました。しかし、いつまで立ってもモーセは降りてきません。だんだん不安になって来ました。「もしかすると、モーセは山で遭難したのかな、死んでしまったのかな、とにかく、戻ってこない、このままでは、自分たちは荒れ野で死んでしまうかもしれない。」そこで、彼らはモーセと共に指導者の一人であった、アロンの所に来てこう言いました。「さあ、私たちの先頭に立って進んでくれる神々を造ってください。あのモーセがシナイ山でどうなったのかもわからないのですから。」すると、アロンは言いました。「よし、分かりました。神々を造ろう。私の頭の中に、どんな神々を造るのかイメージがあります。あなたがたは、金を持っているでしょう。その金を集めて持ってきて下さい。」そうして、アロンは、金を火で溶かして、若い雄牛の形に造り上げました。それを見た人々は、口々に叫びました。「やった一、これこそ、私たちがエジプトから導き出してくれた神さまだ。もう、安心だ。さあ、お祝いしよう。美味しい食事、お酒を用意しよう。」

神さまはこのイスラエルの人々の恐ろしい行為を

見ておられました。そこで、モーセにこの人達がどんなに恐ろしいこと、不信仰、偶像礼拝をしているかを見せるために、山を降りるように命じられました。神さまは、このイスラエルの偶像礼拝を心から悲しまれ、憤られました。

何故、イスラエルの人達は、金の若い雄牛を造ってしまったのでしょうか。何故、それを神さまだといって、礼拝したのでしょうか。偶像礼拝の罪を犯したのでしょうか。真の神さまを忘れたからです。子どもカテキズム問46の答えの中にこうあります。「私たちは真の神さまを忘れるときに、必ず、自分のために神々を造りだします。」真の神さまを忘れるとき、私たちは自分で自分を支えよう、自分で自分を守ろう、自分で自分のこれからのことを考えようとしします。不安になるのです。不安になると、助けがほしくなります。そのときに、偶像を造ってしまうのです。そしてこれこそ、神さまが最も悲しまれることです。本当はそのときこそ、私たちをしつかり支えておられる神さまを信じれば良いのです。真の神さま、それは、「天と地と、見えるものと見えないものすべての造り主」(ニカイア信条)なる神さまです。この世界、宇宙はすべて神さまがお造りになりました。目に見えるもの、動物も植物も、海の魚や空の鳥も、太陽も星も月も、小さな昆虫や私たち人間も、真の神さまがお造りくださいました。目に見えない天使や悪魔、人間が憧れる真理とか美しさとかといったもの、そのようなものもすべて神さまがお造りになりました。私たちの真の神さまだけが、本当に私たちのことを心に留めていてくださる、生きておられる神さまです。

真の神さまを信じない人たちは、いろいろな神々を考えだしました。イスラエル人は金びかの牛を造って拝みました。神社には、キツネが飾られてい

ます。勿論、キツネは神さまでも、神さまの遣いでもありません。死んだ人を仏さまとか、神さまにする人たちもいます。「私は神さまだ、私の命令に従いなさい」と自分を神さまにしてえざる人もいます。人間は人間で、死んでも生きていても、神さまになれるわけではありません。ある人たちは、宇宙の果ての果てに、神さまがおられて人間を救いに来てくれるとか言います。ある人は、「神さまは自分の心の中にいるのだ」と言います。結局、自分自身を神さまにしてしまっているのです。

昔、有名なお寺が火事に遭ったそうです。お坊さんたちは、必死で何をしようか、仏像を取りにお寺に入ったそうです。仏像が焼けてしまうと、お寺が成り立たなくなるからだそうです。仏像は、お坊さんに助けられたのです。人間が造った物ですから、人間が助け出さなければなりません。でも、本当の神さまは、私たちが助けてあげなければならぬことはまったくありません。私たちは、私たちの神さまだけを信じます。礼拝します。人間が造った神々は生きていません。死んでいます。動きません。喋りません。

私たちは、神さまがお造りになられた素晴らしい世界の中に住んでいます。それなら、その世界のなかにある、水や空気、森や大地を汚してはいけませんね。感謝して、守らねばなりません。でも、森や大きな木、荘厳な山などは神さまではありません。太陽を拝む人もいますけれど、太陽を拝むのも愚かなことです。太陽は神様がお造りくださったのですから、礼拝するなら、神さまに向かってするのでなければなりません。

僕たち私たちは、真の神さまを教えられています。ですから、知らないでいる人々のために、真の神さま、イエスさまを礼拝するように教えてあげることが神さまへのご奉仕です。神さまへの感謝の行いです。「僕は、真の神さまを知っているんだぞ」とえざる必要はありません。逆に、「神社に来たんだから、ここはお寺なんだから、手を合わせて拝みなさい」と誘惑されても、「僕は日曜学校に行ってるんです。出来ません」と神さまに愛されている子どもとして、まだ知らない多くの人達のお手本になってください。

今週の暗唱聖句

聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。

あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

申命記 6章 4～5節

〈こどもへの質問〉

Q1 モーセさんがシナイ山で神さまにお会いしているうちに、アロンさんとイスラエルの人々は何をしましたでしょうか？

そう、なんと金を集めて、それで雄牛の形を造り、それを神さまだと言って拝みはじめたんだよね。

Q2 どうしてイスラエルの人々は、金で造った雄牛を神さまにしてしまったのでしょうか？

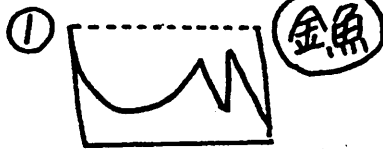
それは、イスラエルの人々が本当の神さまを忘れてしまったからだったよね。でも、人間は神さまを造ることはできないし、それは、神さまがいちばん悲しまれることなんだよね。

〈折り〉

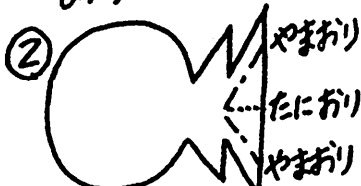
天の父なる神さま。目に見えるものも、見えないものも、すべて神さまがお造りになりました。どうか、私たちが生きておられる本当の神さまを心から信じてことができますよう、導いてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

工作 & ゲーム

金魚すくい

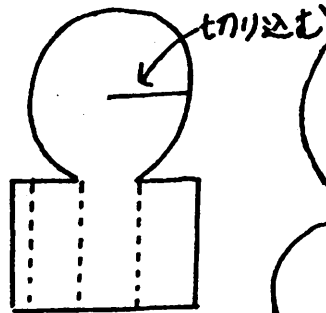


① 色紙を半分に折って金魚のりんかくを半分かき、切りぬく。

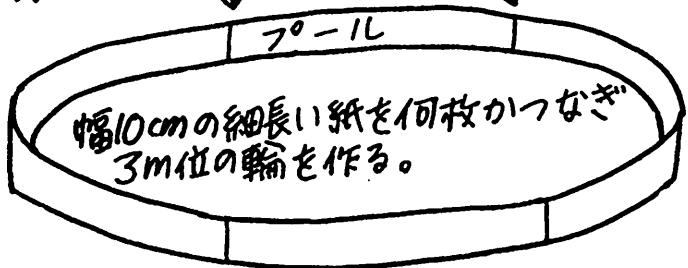
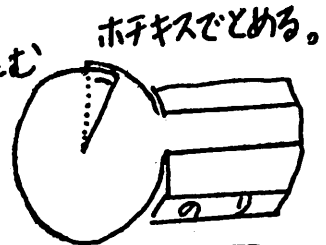


② やまおりにたにおり、かんたんにひれとつらこをかき。

赤、黒、ピンク、オレンジなどでたくさん作るとよい。



この中に金魚をたくさん入れて金魚すくいをたのめます。

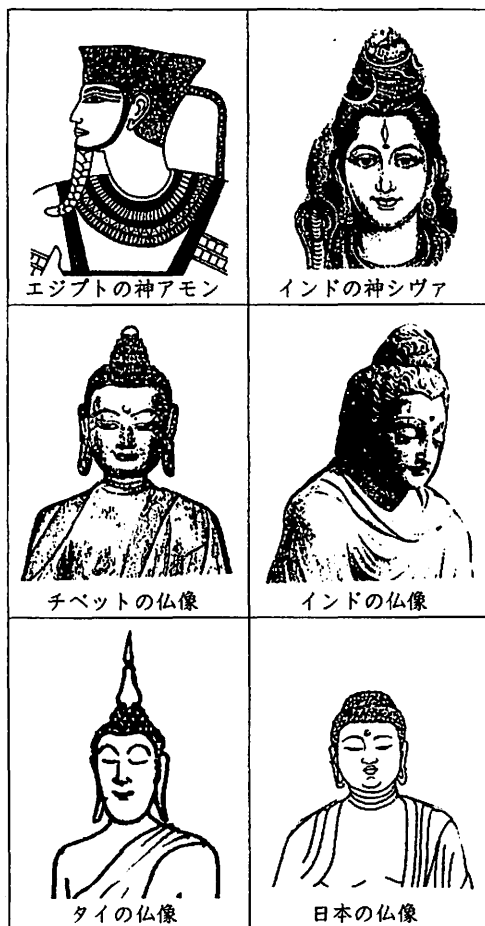


〈目標〉

人はなぜ偶像を作り、礼拝するのか。その愚かさ
に気づかせ、目に見えない本当の神様だけを礼拝す
ることの大切さを教える。

〈展開例〉

1. 世界のいろいろな偶像を比べてみよう。



『ガンダーラ美術の見方』『日本の仏像を知る事典』
『仏像の世界』『インド神話入門』『エジプトの神々
の事典』などを参照

- ・ 偶像の顔や姿が国によって違っていないか。
- ・ 同じ仏像でもなぜ国が違うと顔が違うのか。
(自分の理想の顔の偶像を作る)
- ・ 外国の偶像は日本人が見たら、ありがたいと感
じるだろうか。

2. 人はなぜ偶像を作り、拝むのか。

- ・ 神様から離れてしまった人間は自分に都合のよ
い神様作り出す。
- ・ 自分の願いや欲望をかなえてくれる神様がほし
くなる。 →形をもっている方が拝みやすい
- ・ 偶像の愚かさ →しゃべれない、見えない、聞
こえない、動けない、人を助けられない

3. 偶像クイズ

問題と答えを書く。答えの上に紙を貼っておき、
生徒に考えさせてからはがす



(千手観音)

(不動明王)

- ・ 千手観音に手がたくさんあるはどうして？
→たくさんの人を一度に救ってほしいから
- ・ 不動明王はなぜ怖い顔をしているのですか。
→悪いことを厳しく叱ってほしいから
- ・ 仏像の耳はなぜ大きいのですか。
→人々の願い事をよく聞いてほしいから
- ・ 仏像のひたいに丸つぶがあるのはどうして？
→智恵を表すもので賢い仏であってほしいから
- ・ 仏像が薄目をしているのはなぜ？
→大きく開けると外の形に心がうばわれ、閉
じると見えない。内と外を同時に見るため
- ◎そんな形をした仏などが本当にいるわけではない
- ◎偶像とは人間の願いを表したもの
- ・ 数多くの願いがあるので多くの偶像を作り出した
- ・ 下から上への願いをあらわしたものが偶像である
- ・ 本当の神様は上から下に向かって御自身のこと
について教えてください →聖書によって
イエス様御自身によって

〈祈り〉

私たちの造り主なるただお一人の神様。あなたの
御名をほめ讃えます。偽物の偶像を拝む罪からお守
りください。ただお一人の生ける神様だけをおそれ
て生きることができますように。

〈目標〉

偶像に引かれず、真の神様のみを礼拝すべきことを、子どもの心に根付かせる。

〈指導上の注意〉

教師自身が偶像を拝むことがいけないことであり、生ける真の神様のみを礼拝すべきことをしっかりと頭に置いておく。

〈展開例〉

次のポイントを押さえつつ、今日のお話の確認のために、生徒と対話をしつつ一緒に考えましょう。

- ・神社やお寺に行って手を合わしたり、何かの像とかにお辞儀などをして拝むことは良いことか。
- ・そこにまつられているものは何か？ 力ある存在か？ 無力な人の手によって作られたものか？
- ・私たちが礼拝すべき方はどなたか。真の神様のみを礼拝すべきこと、それを神様が喜んでくださることを教える。そこからさらに突っ込んで、主の日の礼拝を守るの意味もここで教えることができればなお良い。

〈ワーク〉

1. 神様は、人間が拝むために像を造ったりすることを許しておられるでしょうか。神様が教えておられる聖書の箇所を書きましょう。
2. 神様は、誰を礼拝しなさいと命じておられますか？
3. お寺で、手を合わせなさいと言われました。みんなはどうすれば良いかな？ 下の中から選んで、一番神様が喜んでくださる方法を教えて！
 - a. 手を合わせて神様にお祈りすれば良い。
 - b. 怒られるのイヤだし、お寺とかでは手を合わせなさいいけないから、手を合わす。
 - c. 神様以外を礼拝するのは神様がしてはいけないと命じておられるから、手を合わせない。

〈ワークの答え〉

1. 創世記 20:4,5 2. 生ける真の神様 3. c

〈目標〉人間の欲望の現れにすぎない偶像と決別し、生ける神に心を向ける。

〈指導上の心得〉

◇偶像の本質（造り主を忘れ、人間の欲望を最優先する生き方の反映）をしっかりとおさえない。◇道徳主義にならないよう、Q & Aをすすめるにあたり、常に生けるまことの神を示そう。

〈展開例〉【準備】偶像カードを作る。「スポーツの神様」「TV ゲームの神様」「勉強の神様」「お金の神様」など自由に。【Q & A】ねらい：自分の内に偶像に頼りたい心があることに気づき、その間違いに気づく。偶像カードを並べて、Q1 こんな神様はありません。でももしあったらいいなあと思うことはありますか。たとえば、勉強の神様。毎日拝んだらテストの成績がどんどん良くなるんですよ。

Q2 このような神々がよくないと思う人はなぜですか。簡単に自分の願いがかなえられてしまうと、まことの神さまを忘れ、いばりんぼうになり、なまけものになってしまうから、等。Q3 どうしていばりんぼうやなまけものはいけないのですか。私たちを

おつくりになったまことの神さまは、いばりんぼうでもなまけものでもないから。その神様に似せて人間はつくられたから。Q4 こんなカードじゃなくて、ドラえものの道具だったらどうですか。ほしいと思いますか。のび太は、道具に頼りすぎたりしてよく失敗をします。どうしてだと思いますか。神様の導き。道具も偶像になり得ることを確認しよう。

【読む】カテキズム問 8。偶像と比べた、まことの神の一番の特徴は、「生きている」こと。私たちは聖書を通して、まことの神と出会う。その神は愛の神であって、傲慢なお方でもないし、怠け者でもない。いつも私たちのために働いておられ、私たちに本当に必要なものをご存知である。時には私たちの願いどおりになさらないことによって、私たちに努力することやがんばることを教えてくれる。まことの神さまは、私たちが正しく生きることができるようにしてくださる。

〈祈り〉

生けるまことの神様。あなたによって守られ、正しく生きることができると感謝いたします。

〈目標〉「神々」は人が自分たちの都合で造り出したものである。「罪」ある人々は自分の都合で造った神々に惹かれるものであるが、人の造った神々には何の力も無い。私たちが「神々」から自由になるためには、真の神様にしっかりと目を向けている必要がある。

〈展開例〉今週はもう一度、真の神様と人の作った神々とのことを、いっしょに考えてみましょう。

○なぜ、人は「神々」を作るのか

今日の聖書箇所（出エジプト 32:1-6）は、モーセに率いられてエジプトを脱出したイスラエルの民が、モーセがシナイ山で神様から十戒をいただいている間に自分たちで金の雄牛の像を造って神として拜んだ、というところ。なぜ、イスラエルの民は金の雄牛＝神々を造ろうとしたのでしょうか？

それは、モーセが山に登ったまま帰ってこないで心細くなってきたからです。自分たちをエジプトから連れ出してくれたリーダーがいなくなってしまったので、これからどうなるのだろうと心配になって、モーセに代わって自分たちを導いてくれる「神々」がほしくなったのです。しかし、実際にはたとえモーセがいなくても、本当の意味で彼らをエジプトから救い出してくださった真の神様がいるはず。これまでの荒野の旅の中でも、彼らは幾度となく神様の力を見てきたはず。それなのに、どうして別の神々を造ろうとしたのでしょうか？

それは、イスラエルの民が神様の方を見ずに、自分たちのことしか考えていなかったからです。彼らは神様のことを考えようとせず、自分たちに都合のよいことばかりを考えていたのです。ですから、時にはきびしいこともおっしゃる神様よりは、自分の都合にあった自分の神々を造ったのです。

これは、昔のイスラエルの民だけの事ではありません。今の私達にも充分当てはまる事です。私たちはもともと、神様に従うよりは自分が神様みたいになって好きなようにしていきたいという「罪」を持っている（創世記 3:4、蛇の誘惑を参照）者ですから、心細い時にも神様に従おうとするよりは、自分に都合のよい神々を造ろうとするのです。神々は人が自分で造ったものですから、いくらでも自分たちの言う事を聞かせる事ができます。そんな口当たりのいい神々の方に、「罪」ある人間は心惹かれるのです。

○人の造った「神々」の無力さ

先週もお話ししたように（エレミヤ 10:1-11）、人が自分の都合で造った神々には何の力もありません（詩篇 115:4-8）。人の造った神々は自分からは何もできず、いくら頼ってみたところで、本当の意味で人を安心させる事はできません。そのような神々＝偶像に頼る者は、そんな偶像と同じようになる（115:8）と聖書には書かれています。「目があっても見えない」者になってしまう。神様から与えられている神を想う心＝「霊」があるのに、本当の神様がますます見えなくなってしまうのです。

先週もお話ししましたが、私たち人間は、自分の安心のために、いろんなものを自分の都合で「神々」にしてしまいます。私たちが真の神様にしっかりと目を向けていなければ、弱い私たちはすぐに自分の都合で何の力もない「神々」を造ってしまいます。そして、ますます真の神様が見えなくなってしまうという悪循環に入り込んでしまうのです。そうになってしまうと、人は自分が造り出した「神々」にとらえられて自由を失ってしまうのです。

○真の神様に従う

私たちの真の自由、人間らしい生き方とは、私たち人間の「本来の姿」である神様に従うところにあります（4月22日教案参照）。もちろん、人の造った神々とは逆に、唯一の生ける真の神様は私たちを創られた方ですから、私たちの都合で働かれるわけではありません。しかし、神様はこの私を選んで「あなたは価高く、貴い」（イザヤ 43:3）と言ってくくださる方です。神様の御心は、私たちの都合とは違うけれども、すべてのことが私たちの真の益となるように計られているのです（ローマ 8:28）。

私たちが神様の方を向いているなら、イエス様が天に昇られる前に約束して下さったように（マタイ 28:20）、神様がいつも私たちといっしょにいてくださることがわかりますから、私たちは心細くなる必要はありません。そこには「神々」の入り込む隙間はないのです。

〈祈り〉天の父なる神様。どうか、私たちがむなし「神々」に心惹かれたりしないように、いつもあなたの方を向いて、あなたがいつもいっしょにいてくださることを覚えることができるように助けてください。

テキスト マタイによる福音書 28章 19節

18～20は復活の主イエスが弟子たちにお語りになった宣教命令です。三つにして一つなる神ご自身が弟子たちを福音の役者とされます。彼らは主イエスのこの力強いみ言葉によって全世界に遣わされます。彼らが主イエスから委ねられた使命は、三位一体の神のみ名によって洗礼を授けること、み言葉を教えることです。このことによって彼らは全地の民をも主イエスの弟子とするのです。

(1) 父と子と聖霊の名によって

主イエスの宣教命令は、神の救いの歴史が新しい局面に入ったことを示唆します。マタイによれば、主イエスが地上を生きられた時代には、福音は神の選びの民イスラエルに向けて語られましたが、主イエスの復活以後は全世界の民に、すなわち異邦人たちにも福音の門戸が開かれることとなります。宣教命令は、その新たなる時代の幕開けを告げるものと位置づけることができます。

「父と子と聖霊」という言い方は、新約聖書中この箇所にはしか見られませんが、こうした言辭はすでに初代教会の洗礼式文にあったようです。

3:13 以下には主イエスご自身がヨルダン川でバプテスマのヨハネから洗礼をお受けになった記事がありますが、そのおりに聖霊が鳩のように主イエスの上に降り(16)、み父が主イエスをメシアとして任職するみ声が天から聞こえた(17)とあって、すでにここに三位一体的な構造を見ることができます。

そして主イエスは、弟子たちにも「父と子と聖霊の名によって洗礼を授け」るよう命じておられます。これは、弟子たちがこれから授ける洗礼が主イエスご自身の洗礼を根拠として持つものであることを示

します。また、弟子たちが主イエスご自身の権威を帯びて、主イエスの宣教のお働きをそのまま受け継いで、全世界に出ていってみ国の進展に仕えるのだということをも示します。

ちなみに19の「名」は原文では単数形であり、三位の位格の区別はあっても、神がひとりの神にいますことを示しています。

(2) インマヌエルの約束

20の主イエスの「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」との約束は、主イエスのご降誕のおりにみ使いがヨセフに告げたみ言葉(1:23、イザヤ7:14も参照)の成就と見ることができます。このインマヌエルの約束は、教会とキリスト者のすべてのいとなみのもといです。

三位一体の神は、おん自ら人の救いのためにお働きになります。これを家を建てることになぞらえることができるかと思えます。父なる神は救いの設計図を引かれます。子なる神は設計図に従って家を建てられます。すなわち救いのみわざを地上の歴史において実行されます。聖霊なる神は家を空家ではなく、文字通り生きた家となさいます。

このように、私たちのひとりひとりが信仰を持ち、洗礼を受けて教会につらなっていることの背後には、三位の神がごぞつて働いて、救って下さった事実があるのです。こうして私たちは三位の神との恵みの交わりへと引き入れられ、救いの歴史の流れにしっかりと組み込まれます。このことは個々の信仰者にも当てはまりますが、ここで主イエスが「あなたがた」と仰せになっているように、教会共同体にも当てはまります。

カテキズム 子どもカテキズム 問10
 ウェストミンスター小教理問答 問6

子どもカテキズム

問10 私たちの神さまにはいくつの位格がありますか。

答 真の神さまには三つの位格があります。御父なる神さまと御子なる神さま（イエスさま）と聖霊なる神さまです。この三位は同質であり、三位一体の神さまです。

〈唯一神信仰の継承〉

この問答は問8を前提にしています（7月1日のカテキズム研究を参照）。多神教の世界の中で、唯一神信仰を担うことが、旧約の民の使命でした。

新約の民は、この唯一神信仰を継承しました。唯一神信仰は前提です。その上で、新約のキリスト教会は、この唯一神の中に三つの「人格」があることを確信してきました。他者に働きかけ、他者との交わりを持つ主体としての「人格」です。本来、「人格」を持っておられるとは、霊的な存在である神の御性質です（6月24日のカテキズム研究を参照）。その意味で、人間の「人格」は、神にかたどって造られ、命の息を吹き込まれて、神から与えられた「人格」です。このことをわきまするために、教会は、教理の言葉として、神の「人格」のことを特に「位格」という言葉で言い表しました。すなわち、唯一の神は、三つの位格を持っておられます。他者に働きかけ、他者と交わりを持つ主体としての「位格」です。

〈救済史における神の御業〉

神の「位格」は、他者に働きかけ、交わりを持つ主体ですから、他者との関係の中で具体的にあらわれます。すなわち、救いの歴史の中で現実化します。

旧約の歴史において、神は唯一なるお方であり、造り主なる全能の神です。神は、旧約の民に、唯一の神として御自身の御業をお示しになりました。三位一体の神ということは、暗示的に示されるにとどまりました（たとえば創世1:26の「我々」）。

唯一なる神が三位一体の神であるということが明確になったのは、主イエス・キリストの御業によつてです。主イエス・キリストの福音を聴き、十字架と復活の御業において主と出会い、聖霊降臨の出来事を体験した弟子たちは、「イエスこそ神の子、キリストである」と告白することへと導かれました。新約の教会は、このキリストの光のもとで、旧約と主イエス御自身の御業を理解したのです。

主イエスは唯一の神を「わたしの父」と呼び（マタイ 7:21）、天からの声は主イエスを「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と呼びます（マタイ 3:17）。ここに、父なる神と子なる神の関係が示されています。また、主イエスは「父は別の弁護者を選わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。この方は、真理の霊である」（ヨハネ 14:16-17）と語り、その通り、弟子たちが一つになって集まっていると聖霊が降り、弟子たちは聖霊に満たされて、福音を宣べ伝える者とされました（使徒 2:1-4）。ここに、父でもなく子でもない、もう一人の「位格」としての神がおられます。そして、主イエスは、弟子たちに、「彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け」（マタイ 28:19）と、大宣教命令をお与えになりました。新約の教会は、主イエスがお示しくださったこれらの真理を明確に受け止めて、自らの信仰の確信としたのです。ですから、三位一体の信仰は、教会が造り出した信仰ではなく、主イエス・キリストの御業に基づいた信仰です。

〈一なる神の三つの働き〉

三位一体の真理は、キリスト教信仰の核心であり、神秘です。一と三の関係を合理的に考えて理解することはできません。三つの主体には、その働きに区別があり、違いがありますが、神の本質は一つ（同質）であり、神の御心も一つであり、神の愛も一つです。神に分裂や不一致、不調和はありません。

この一つなる神が、三つの主体の働きによって、私たちを御自身の三位一体の交わりの内に招いてくださるのです。神御自身が人となり、十字架につけられて死んでくださり、私たちの内に住み、私たちの心を作り変えて、私たちを御自身の交わりの内へと招いてくださっています。ここには、私たち罪人を救い出す神の愛と固い決意と熱心があります。三位一体の神とは、ひたむきに罪人を愛してくださる愛の神、救いの神なのです。

マタイによる福音書 28章 19節

子どもカテキズム 問 10

「三一の神、三つの位格と一つの本質」

〔単元のねらい〕

既に、子どもらは、「天のお父さま、イエスさま、聖霊」と耳で何度も聞いて来たであろう。今日は、未整理の神理解を整理することを目標とする。「神秘」、とりわけ「三位一体」は単なる説明ではなく、「神賛美・神礼拝」の業の中で、聖霊のお働きを祈り求めながら行う以外にあり得ない。つまり、礼拝（祈り）のなかで体得される。もちろん、今日一回限りの礼拝でそれを悟らせようと身構えなくとも良い。毎主日の子ども礼拝式の充実を求め、日々の祈りへと導きたい。しかし、第一回目は、事柄の説明に中心を置かざるをえまい。

十字架に掛けられ、復活されたイエスさまは、40日間お弟子さんたちにお姿を現されました。そして、その後、天に昇って行かれ、父なる神さまの右の王座に着かれました。イエスさまが天に昇って行かれる前に、こう仰いました。それが今日の聖書の御言葉です。「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」全部覚えられたら素晴らしいですね。全部覚えられなくても、この御言葉は覚えて欲しいと思います。それは「父と子と聖霊の名によって洗礼を授け」です。もう一度、皆で読んでみましょう。「父と子と聖霊の名によって洗礼を授け」。また子どもカテキズムの問い 10 も読んでみましょう。「御父なる神さまと御子なる神さまイエスさまと聖霊なる神さまです。三位一体の神さまです。」今日は、わたしたちの唯一の神さま、真の神さまは「父と子と聖霊の三位一体の神さま」であるということ学びます。そして、三位一体の神さまを皆で礼拝しましょう。

僕たちわたしたちは、これまで「神さまはただお一人しかおられません。私たちをお造りくださった神さま、生きておられる真の神さまです」と、問い 8 で学びましたね。でも、今日のカテキズムを読んだお友達の中には、もしかすると「アレッ、何だか、私たちの真の神さまは三人おられるのかな」と迷ってしまう人もいらっしゃるのでしょうか。私たちはこれまで、イエスさまを神さまと呼んで来ましたね。勿論、イエスさまは真の神さまです。けれども、イエスさまは、神さまのことをいつでも「私の父」と仰っ

した。ある時に、「私を見た者は、父を見たのだ」(ヨハネ 14:9) とも仰っていました。つまり、神さまには、父なる神さまとその御子なる神さまイエスさまがおられることが分かりますね。そうすると、「そうか神さまは三人ではなくて、イエスさまと天のお父さまのお二人なのか」と考えるお友達もいるかもしれません。私たちの真の神さまは御父なる神さまと御子なる神さまのお二人なののでしょうか。そうではありません。

イエスさまは、こうも仰っていました。「わたしはあなたがたに、聖霊なる神さまを遣わしてあげましょう。その神さまが来られたら、あなたがたいつも一緒にいてくださり、あなた方を助けてくださいます。あなたがたを慰め励ましてくださいます。信仰を与えてくださいます。心を込めてお祈りして待っていなさい」と約束してくださりました。

つまり、真の神さまには、父と子と聖霊なる神さまがおられるのです。そのお一人お一人は、それぞれ固有の神さまだということです。先生には、人格と言うものがあります。それは先生とみんなとは違う人間ってということです。人格がない人間はいないのです。それは、人間が神さまに似せて造られたので、人間には人格があるのです。ですから、当然造ってくださった神さまには「位格」があるのです。お一人の神さまの中に、三人の神さまのご性質がそれぞれ三分の二つあるわけではないのです。父と子と聖霊の三つの位格（人間で言えば人格）が、混ざり合ったり、離れ離れになることなく存在しておられるのです。神さまは、ある時には、父なる神さまになって、ある時にはイエスさまになって、またあるときには聖霊なる神さまに変化するのではないのです。

そして、この三つの位格つまり三位であられる父と子と聖霊は、本質を一つにしておられます。先程、イエスさまが「私を見た者は、父を見たのだ」(ヨハネ 14:9)と仰ったことを紹介しましたね。またイエスさまは、「わたしと父とは一つである」とも仰っていました。何度も何度も、イエスさまは、「私が父の内におり、父が私の内におられる」とも仰っていました。頭の中が混乱するかもしれませんね。けれども、三位の神さまは、ばらばらなお方ではないということです。離れ離れになることのないお方なのです。いつも、一緒なのです。イエスさまは永遠のはじめから天のお父さまの懐におられました。つまり、天のお父さまとイエスさまとは一つなのです。

イエスさまは天のお父さまからお生まれになられたので、御子なる神さまと言います。反対に御子なる神さまのイエスさまとの関係で神さまは父なる神さまです。ですから、御子なる神さまのイエスさまは父なる神さまより劣っているわけではまったくありません。神さまのご性質、本質は全く同じです。

そして、聖霊なる神さまは、天のお父さまから私

たちの所に、イエスさまを通して来てくださいます。だから、聖霊なる神さまは、御父と御子とお働きは違いますが、同じ神さまなのです。

この神さまは、私たちを愛して下さいます。イエスさまは僕たちの所に来てくださったのです。今、イエスさまは天に戻られました。けれども、イエスさまを信じる僕たち私たちのところに、聖霊なる神さまは来てくださいます。信じる人には、聖霊なる神さまが今、一緒にいてくださるのです。聖霊なる神さまは、天におられる父なる神さまと御子なる神さまイエスさまとつながって、交わりをもっておられます。ですから、聖霊なる神さまと一緒にいてくだされば、私たちはイエスさまと、そして天のお父さまとも遠く遠くに離れてしまっているのではないのです。

今朝も、この礼拝の場所には聖霊なる神さまがおられます。三位一体の神さまがここにおられるのです。「御父なる神さまと御子なる神さま(イエスさま)と聖霊なる神さま、三位一体の神さま」は私たちを包んでお守り下さいます。

今週の暗唱聖句

だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。
彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け(なさい。)

マタイによる福音書 28 章 19 節

〈こどもへの質問〉

Q1 イエスさまは、天に昇っていかれる前に、誰の名によって洗礼を授けなさいとおっしゃいましたか。

「父と子と聖霊の名によって」とおっしゃったんだよね。

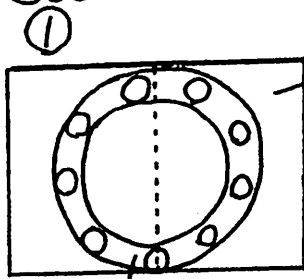
Q2 それでは、「父と子と聖霊」というのは誰のことでしょうか？

それは、ただ一人の真の神さまのことなんだよね。

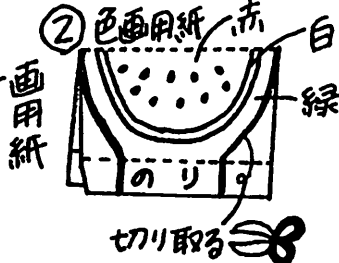
〈祈り〉

天の父なる神さまと御子なるイエスさま、そして聖霊なる神さまが、ただ一人の真実の神さまであることを知りました。どうか、私たちが神さまの真理を正しく知ることができますように助けてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

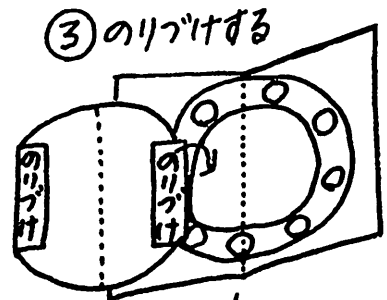
工作 すいかをどうぞ



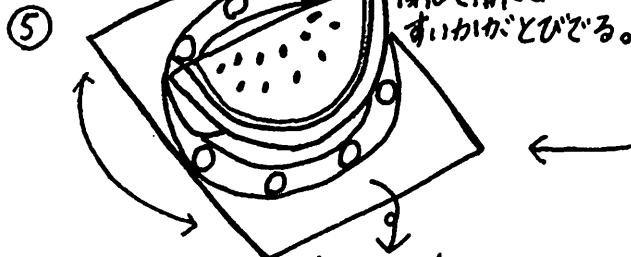
① お皿の絵をかき



② 画用紙



③ のりづけする



④ たたんではりつける

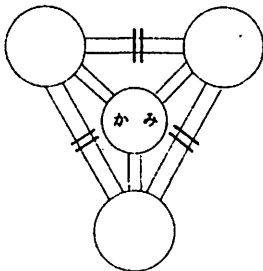
わたしは よのおわりまで いつも
あなたかたとともにいる。(マタイ28:20)

〈目標〉

私たちの信じる神様は「三位一体」の神であることを学ぶ。3人の神がおられるのではなく、父なる神、子なる神、聖霊なる三位一体のお1人の神がおられる。

〈展開例〉

1. 「三位一体」の図を完成させよう！



模造紙に上のような図を書く

- ・○の中に何を入れればよいでしょう。
- の中にちち（左）こ（右）せいれい（下）と書き入れる。
- ・父と子を結ぶ線に直角の線が入っているのはなぜかを考える。（父は子と同じではない）
- 父と聖霊、子と聖霊についても同じように考える
- ・それぞれが神と線とつながっているのはなぜか。（父も子も聖霊も神である）
- ・父と子と聖霊の神は3人の神ではなく、1人の神であることを覚えさせる。
- ・なぜ聖霊が下にくるか。（父と子から遣わされる）
- ・各生徒にこれと同じ図をコピーしたものを配り、ことばを記入させ、分かりやすいように色をぬってもらおう。

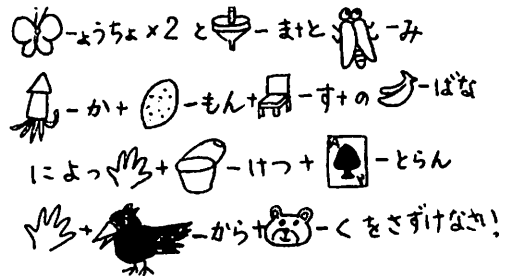
2. 父と子と聖霊のそれぞれの働きを線で結ぼう。

- | | |
|------|-----------------------------|
| ちち | ・つみびとをすくうすくいぬし |
| こ | ・わたしたちにちからをあたえたすてけくださるたすけぬし |
| せいれい | ・せかいをつくり、みちびかれるつくりぬし |

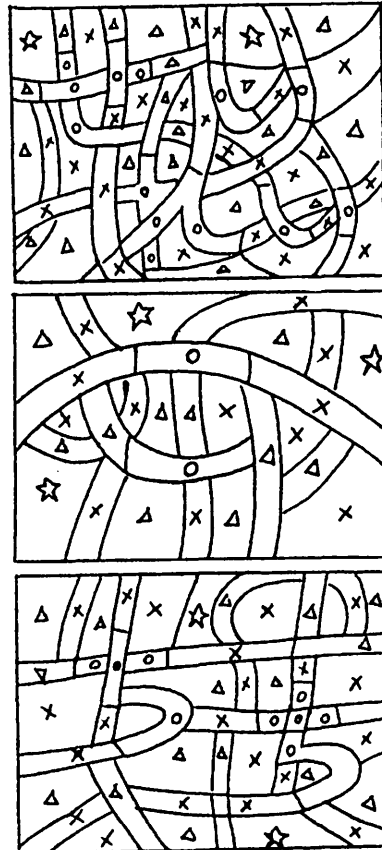
☆父と子と聖霊が私たちどう関係があるのか、その働きから説明する。

3. 暗号を解読せよ！

次の暗号文を解読して御言葉を完成させてください



4. この中に三つで一つの神様の名前が隠されています。○のところをぬって見つけてください。



〈祈り〉

天にいらっしゃる父なる神様、神様が三位一体の神様であられることを教えてください有り難うございます。神様のことを正しく知ることができますように。

〈目標〉

神様は三位一体であり、三位一体の神として私たちと交わってくださることを教える。

〈指導上の注意〉

三位一体とは神の状態の変化ではないので、水と氷などの例は使わず、三位一体として存在していることをストレートに伝える。

〈展開例〉

次のポイントを押さえつつ、今日のお話の確認のために、生徒と対話をしつつ一緒に考えましょう。

- ・神様は何人おられるかとの質問をする。そして、神様はお一人であることを確認する。
- ・そのお一人の神様には幾つの位格があるか？
父・子・聖霊の三つ。
- ・この方は何か力や性質に違いがあるか？
- ・この神様はどのように私たちと交わってくださるか？ 父なる神は御子イエス・キリストを通して聖霊において私たちと交わってくださる。

〈ワーク〉

1. 神様には三つの位格があります。

それは何だったかな？ 覚えてるかなあ？

2. 次の()を下の※から言葉を選んでうめよう。

()神様が()を与えようと神様の()を私たちに与えて下さり、()にかけてくださいました。そのイエス様はよみがえられて天に昇られ、()なる神様を通して私たちと()をしてくださいます。

※ア) 十字架、イ) 交わり、ウ) 御子、エ) 石打、オ) 父なる、カ) 救い、キ) 聖霊、ク) 知らん顔、

3. マタイ福音書 28:19 を書いて覚えましょう。

〈ワークの答え〉

1. 父、子、聖霊 2. オ、カ、ウ、ア、キ、イ

〈目標〉三位一体の神を、歴史に現れた救いの神の事実から理解する。

〈指導上の心得〉経絡論的三位一体(カテキズム研究参照)の教えを基に理解していこう。数式は、科学的に三位一体の神を証明するものではない。

〈展開例〉【聴く】(3つのカードを用意する。表に「父なる神」「子なる神」「聖霊なる神」、裏に無限大印“∞”と書く。)6月24日に、私たちが信じているまことの神様は、「霊」であり、限りのないお方(無限)であることを学びました。霊であり無限であられる神様はただお一人です。でもその神さまは、聖書にはまるで3人の別々の神様かのように、示されています。(カードを表にしてならべよう。)父なる神様は創世記に書いてあるとおり、天地の造り主です。また新約聖書を見ると、子なる神イエス様のことが書かれています。父なる神様は、イエス様のことを、「これは私の愛する子」と呼ばれ、私たちの罪のあがないのために十字架におつけになりました。聖霊なる神さまも、イエスさまの約束どおり、ペンテコステの日に来られ、今も、信じる者の内に

住んでくださり、私たちが神様から離れないように守ってくださっているからです。このようにまるで3人の神様がいるように思えるのですが、聖書には神様はただ一人とはっきりと書いてあるのです。この教えを三位一体の神といいます。これは人間が考え出したのではなく、聖書に書いてあることをすなおに言葉であらわしたことです。【算数で】ではこれらの教えを算数であらわしてみましょう。昔聖書の学者が集まって、「父は無限、子も無限、聖霊も無限」(アタナシオス信条)と宣言されたことがあります。父なる神、子なる神、聖霊なる神は、みな同じく無限なるお方なのです。無限大印は“∞”と書きます。(カードを裏にして)このカードはどう見ても3枚です。でも $\infty + \infty + \infty = \infty$ であることを知っていますか。わたしたちの目には3つの∞に見えますが、こたえはひとつの∞なのです。これは不思議な算数ですが、まことの神さまをあらわしているかのようです。

〈祈り〉歴史にあらわれた、三位一体の神様をすなおに信じることができますように。

〈目標〉神様は、「父・子・聖霊」の三つの位格をもっておられるが、その本質においてはただお一人である、ということを整理する。人の知識で理解するのではなく、神様への信頼において受け入れるように勤める。

〈展開例〉「三位一体（さんみいつたい）」という言葉聞いたことがありますか？ 今日、このことについて聖書の教えていることを学びましょう。

○三つの位格

マタイ 28:19 には、よみがえられたイエス様が天に昇られる前に弟子たちに残された言葉が書かれています。そこに「父と子と聖霊の名によって洗礼を授け」という言葉があります。洗礼というのは、神様に選ばれた者であるという「しるし」として行われるものですから、その権威を保証する「名」とはもちろん神様の名前であるはず。つまり「父と子と聖霊＝神様」だということです。

「父なる神様」・父なる神様とはこの天地を創り、今も支配しておられる「創り主」である神様です。

「子なる神様」・子なる神様とは、父なる神様からお生まれになった神様＝イエス様のことです。イエス様は私たちを罪から救うためにおいでになった「救い主」である神様です。

「聖霊なる神様」・聖霊なる神様は、イエス様が天に昇られる前に約束してくださった、私たちに力を授けて下さる「たすけ主」である神様です。

「父なる神様」「子なる神様」「聖霊なる神様」それぞれについて詳しくは今後学んでいきますが、今日は、神様にはこれら三つの人格（神様は人ではないので人格と言うのはおかしいから、「位格」という言葉をつかうのですが）があるということ覚えておいてください。私という人格とあなたという人格が違って、お互いに自由にふるまうことができるように、父なる神様と子なる神様と聖霊なる神様の三つの位格（人格）はそれぞれ違って、お互いに自由に働かれるのです。

○一つの本質

先週、先々週、とくに先々週に「神様はただお一人である」ということを共に学びました。それなのに、神様に「父と子と聖霊」という三つの位格があるというのは、いったいどういうことでしょうか？

三つの位格があるということは、けして三人の神

様がいらっしゃるということではありません。神様はやはり一人なのです。

一人の神様が、時には父であり、時には子であり、時には聖霊であるという「三重人格」だということでもありません。もしそうだったら、子なる神様であるイエス様が地上におられた間は父なる神様は天にいらっしゃらなかったことになりませんが、けしてそうではありませんね。イエス様ご自身が、しばしば天の父なる神様にお祈りされていた事が、聖書に書かれています。

また、一人の神様に「父の部分」「子の部分」「聖霊の部分」があるわけではありません。一人の神様をそのように三つの部分に分けてしまうと、それぞれは不完全なものになってしまいます。しかし、実際はそうではなく、父も子も聖霊も、それぞれに完全な位格（人格）を持っておられ、独自に働くことができるようになります。

では、「三位一体の神様」とはどういう存在だと考えればいいのでしょうか？ 私たちにはとても想像できません。もとより、神様は目に見えない「霊」ですから、それを形としてイメージすることはできないのですが、三つの独自の位格（人格）を持ちながらただ一人であられる神様というのは、私たちに具体的には想像できないものです。それは、完全な神様の存在に比べて、私たちが不完全なものだからです。私たちの知恵は神様の知恵に遠く及ばず、私たちのものさしで神様を計ることなどとうていできないのです（詩篇 139:6）。私たちは、神様について知ろうとする時に、自分の知識や知恵によって判断するのではなく、聖書の教えることを素直に受け入れられるようになりたいと願います。なぜなら、聖書は私たちが信頼する神様の御言葉だからです。私たちが神様を全面的に信頼するからこそ、御言葉をも全面的に受け入れられるのです。

〈祈り〉天の父なる神様。今日は、ただ一人の神様が、「父」「子」「聖霊」という三つの人格を持っておられることを学びました。ただ一人であられるのに三人であるということは、私たちの知識や知恵で理解することが大変難しいことです。どうか、私たちが、自分の知恵に頼らず、あなたの御言葉の教える事をあなたを信頼する事によって受け入れることができるようにしてください。

テキスト ヨハネの手紙 — 4章7～16節

ヨハネの手紙一は、主イエス・キリストを通して人間に示された神の愛を繰り返して語りますが、中でもこの箇所は神の愛を凝縮されたかたちで美しく語っています。この手紙のクライマックスとも言われる部分です。

(1) 神は愛である

聖書において愛は単なる理念や哲学といったものではなく、生ける神の現実の、そして具体的な行為です。

神は愛(8)であるとは、神の本性、本質そのものが愛であるということです。それゆえにまた神は愛の源でもあります(7)。

神の愛はさわめて具体的なかたちで、歴史の中の出来事として人間に啓示されました。人間は神のかたちに似せて、創造の冠として神の特別の愛と配慮のもとに造られました。にもかかわらず、人間は神に背き、罪と死の支配のもとに置かれました。

しかし、神はイエス・キリストを犠牲の供え物として十字架につけて死なせることによって、人間を罪と死から救い出されました。ここに神の愛が明瞭に示されたのです(9,10)。聖書において愛とは人類愛や人道主義的な愛、あるいはセンチメンタリズムではなく、イエス・キリストを通して啓示されている神の愛です。この愛こそが真に人を生かすのです。

10を見ると、この神の人への愛が、人の側の神への愛に先行するものであることがわかります。愛の交わりにおける主導権を神が握っていて下さることが明らかに語られています。愛そのものであられ、

愛の源でもあられる神がまず人を愛してくださいます。だからこそ人も、神の愛に応答し、神と人との愛することができるのです(マタイ 22:37 以下)。

神はイエス・キリストの贖いのみわざによって、私たちが始祖アダムにあって喪失していた神のかたちを回復させて下さいました。これが、私たちが神と人との愛することができることの根拠です。これは私たちがみずから獲得したというのではなく、神が与えて下さった根拠です。私たちは愛し合うことができるようにされているのですから、たがいに愛し合うべきです(11)。

(2) 聖霊によって神とひとつになる

三位の神はその永遠の交わりにおいて、まったく愛の中におられます。み父とみ子とは愛の帯である聖霊によって結ばれて、親密な交わりを保持しておられます。

そして聖霊は、神と人とを結びつけ、一つにする愛の帯でもあられます。

神は私たち人間に聖霊を分け与えて下さいました(13)。この聖霊によって、私たちは三位の神と結合され、ひとつにされます。聖霊が与えられていることによって「わたしたちが神の内にとどまり、神もわたしたちの内にとどまってくれることが分かります(13)。

三位の神が、ご自身の愛の交わりに私たちをも引き入れて下さるのです。聖霊こそが教会と個々のキリスト者の神との一体性の保証です。

カテキズム 子どもカテキズム 問10
 ウェストミンスター小教理問答 問6

子どもカテキズム

問10 私たちの神さまにはいくつの位格がありますか。

答 眞の神さまには三つの位格があります。御父なる神さまと御子なる神さま（イエスさま）と聖霊なる神さまです。この三位は同質であり、三位一体の神さまです。

〈経綸的三位一体〉

前回は、三位一体の神について、おもに救いの歴史における神の御業の面から理解しました。すなわち、父なる神は、天地とその中のすべてのものを造り、統べ治めておられ、イスラエルの民に唯一なる神、全能なる神として御自身をお示しになりました。時満ちて子なる神が地上に遣わされ、十字架と復活の御業を成し遂げました。子なる神は、挙げられて父の右に座し、罪人のために執り成しておられます。さらに、父と子によって遣わされた聖霊が、罪人の内に住み、罪人の心を新たにして、罪人をしてキリストの体なる教会へと建て上げてくださいます。ここにおいて、キリストの成し遂げてくださった贖いの御業が完成され、神の国が完成されます。このように、三位一体を、創造、贖い、完成という神の御業から理解するのです。これを経綸的三位一体、もしくは歴史的三位一体と言います。

〈本体論的三位一体〉

経綸的三位一体とは、ですから、外にあらわされた神の御業から、三位一体を理解することです。これに対して、神の内側の活動、神御自身における三位一体のことを、本体論的三位一体、もしくは存在論的三位一体と言います。

神の三つの位格はそれぞれ区別される主体ですが、その三者はまさしく神御自身であり、その本質は一つです。ですから、三者において、その力、栄光、永遠性において優劣の差はなく、違いはありません。しかし、その活動において区別があり、秩序があります。「父は、永遠に、子を生み、聖霊を發出する。子は、永遠に、父から生まれ、父と共に聖霊を發出する。聖霊は、永遠に、父と子から出る」。神御自身の内において、このような活動の区別があることを、本体論的三位一体と言います。

〈神の本質としての愛〉

神御自身の内なるこの三位の区別は、次のことを明らかにしています。第一に、神は死せる神ではなく、父と子と聖霊の愛の交わりにおいて生命活動を有する生ける神であるということです。第二に、神は孤独な神ではなく、三位一体の愛の交わりの内に満ち足りておられるということ。愛の交わりにおいて欠けないまったきお方であるということです。

「神は愛である」(ヨハネー 4:8, 4:16)。この御言葉は、神の本質を言い表しています。神は、三位に区別される主体を持ちながら、相互に愛し合う親密な交わりを持っておられ、愛は一つです。そこには、分裂や不一致はなく、調和と統一があり、永遠から永遠に至るまで、まったき愛の中におられます。

〈神の愛の御業〉

三位のこの愛が満ちあふれて、神の愛の業として、経綸的三位一体の御業があります。神は、御自身の愛と熟慮に基づいて、歴史における神の御業を成し遂げられました。主として創造の御業は父に、贖いの御業は子に、完成の御業は聖霊に帰されますが、それらはみな三位一体の一致における御業です。創造の御業、贖いの御業、完成の御業はすべて、神の本質である愛に貫かれています。神は、三位一体の神として、唯一の神であり、また、父なる神として私たちの上にあり、子なる神として私たちと共にあり、私たちのためにあり、聖霊なる神として私たちの内に住み、私たちを御自身の交わりの内に生かしてください。聖霊が、私たちが神の三位一体の愛の交わりへと結びつけてくださいます。こうして、私たちは、神と区別される存在でありながら、神と一つにせられます。神の救いの御業は、神のまったき愛の交わりへの招きであり、神の救いは、徹底的に三位一体の神の賜物として与えられるのです。

ヨハネの手紙一4章7～16節
子どもカテキズム 問10

「三一の神、交わりの神、愛の神」

〔単元のねらい〕

三一の神は、充足する愛の神、命の神、生ける神であるゆえに、交わりを持っておられる。神は、このご自身の交わりの中に我々を招き入れようと働いておられる。神に愛されるとはこの三一の交わりの中に招き入れられること。それが、どれほど確かな絆で結ばれることなのか、感動感謝を込めて語りたい。この神を信じ、交わる時、我々も生きることが出来るし、人間同士の交わりのかけがえのなさも根拠づけられる。

今日の聖書の朗読の最後の言葉を改めて読んでみましょう。「神は愛です」「神は愛です」とても短い御言葉ですから、直ぐに覚えてしまえるでしょう。いつまでも忘れて欲しくない、大切で素晴らしい御言葉です。皆で唱えてみましょう。「神は愛です」さて、カテキズムの問7は「神さまは霊なるお方です。」とありました。これは、神さまはどのようなご存在なのか、その本質をあらわしています。そして、今日の聖書の「神は愛です」は、神さまはどのようなご性質をもっておられるのか、という事を中心にあらわしています。神さまは愛そのもののお方です。

さて、愛すると言うことは、独りぼっちでいてできますか。できないでしょう。愛する相手がいなければ、「愛」っていうのはありません。それなら、神さまが愛である、と言うのなら、この地球も、人間も動物もいなかった時、神さまは愛ではなかったのでしょうか。そうではありません。神さまは世界が造られる前から、愛の神さまでした。神さまは父なる神、御子なる神イエスさま、聖霊なる神さまの交わりをもっておられました。ですから、私たちの真の神さまは、お一人だけで寂しくはありませんでした。三位の神さまの交わりは愛の交わりなのです。天のお父さまとイエスさまの間には愛があります。天のお父さまと聖霊なる神さまの間にも愛があります。それぞれが愛の絆で結ばれ、それぞれが愛に溢れておられます。三位一体の神さまとは愛そのものなのです。ですから、今日の聖書の朗読の7節に「愛は神から出るもの」と書かれています。本当の愛とは、この三位一体の神さまご自身、その交わりそのものなのです。だから、本当の愛、本物の愛とは神さまから出るものなのです。

例えば人間は、寂しいのでペット、犬や猫ちゃん

が欲しくなることがあります。しかし、神さまはそれとは全く違います。三位一体の神さまは愛に満ち満ちておられるので、人間をお造りくださったのは、この愛を分け与えてあげよう、この愛で愛してあげよう、この愛の交わりの中で生かしてあげようと考えて下さったのです。誰かに頼まれたわけではありません。神さまの自由な愛によって、僕たち私たちをお造り下さり、生まれさせて下さったのです。僕たち私たちは、神さまから出た愛によって造られ生まれて来たのです。ということは、僕たち私たちは神さまに愛されるために生まれてきたのです。神さまに愛されていない人は世界中で一人もおられません。逆に言えば、皆さんは神さまを愛するために「おぎゃー」と生まれたのです。

私たちは、日曜学校の礼拝でこの神さまの交わりの中に招かれ、そこに座っています。神さまの愛を一杯受けるためです。逆に言えば、神さまに「僕たち私たちは神さまを愛しています」と言うために来ているのです。

先週の暗証聖句を覚えていますか。「父と子と聖霊の名によって洗礼を授けなさい」。イエスさまを信じて教会員になるためには、洗礼を受けなければなりません。洗礼は後で学びます。そのときに、牧師先生は洗礼を受ける人の頭の上に手を置いて「父と子と聖霊の名によって」と唱えてお水を注ぎます。必ず、「父と子と聖霊の名によって」と唱えられるのです。「これからは、この人は、天のお父さまと御子イエスさまと聖霊なる神さまの愛の交わりの中に、ズッと、いつまでもいつまでも生きてゆくことができます。あなたは神さまの子どもとして三位一体の神さまの愛の真ん中、愛の交わりの中で生きて行けますよ。」という意味なのです。

皆さんは、お父さんとお母さんの間に挟まれて、

右の手と左の手を持ってもらってぶらんこのようにぶらぶらしてもらったことがありますか。楽しかったでしょう。真の神さまはイエスさまを信じる私たちを、イエスさまと私たちをぴったりと合体させてくださることによって、三位一体の神さまの真ん中に置いてくださり、愛の中に育ててくださるのです。私たちの神さまの愛から、神さまの子どものわたしたちを引き離すことは誰もできません。どんな強い力でも無理です。

父なる神さまは、私たちをお救いくださる為のご計画を立ててくださいました。イエスさまはそのご計画を実現するために十字架についてくださいました。聖霊なる神さまは、イエスさまを信じる心を与えて、僕たち私たちを神さまの子としてくださいました。そうです。三位一体の神さまは全力で皆さんを愛して下さいましたし、今も、そしてこれからいつまでも、愛しつづけてくださるのです。聖霊なる神さまは今、「イエスさまを信じなさい、信じて救われて神さまの子どもとしていただきなさい。信じている子は、もっともっと御言葉を聴きなさい。お祈りしてご覧なさい。」このように私たちに働きか

けて下さっておられます。信じる僕たち私たちには、聖霊なる神さまが心の中に住んで下さいます。そして、その心の中に住んで下さる聖霊なる神さまはいつもイエスさまと天のお父さまと、交わりをもっておられます。ですから、天にいらっしゃるイエスさまと父なる神さまと私たちは繋がっているのです。それが、私たちがこの地上の教会で礼拝を捧げているときに起こっていることです。信じる私たちは三位一体の神さまの間に生きているのです。

「神は愛です。」三位一体の神さまだからこそ、私たちを愛してくださいるのです。これから、もっともこの神さまを知って、僕たち私たちがどれほど神さまに愛されているか知りたいと思いませんか。そうすれば、もっともっと嬉しくなります。勇気が湧いてきます。喜びが湧いてきます。神さまを愛し、お友達を愛することができるようになります。人生の目的がなくなります。そのために、来週も、日曜学校の礼拝に来ましょう。そして、神さまに愛され、神さまを愛し、この神さまから受けた愛をお友達に分けてあげるために、お友達の誘ってあげましょう。

今週の暗唱聖句

神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、
神もその人の内にとどまってくださいます。

ヨハネの手紙 一 4章 16節後半

〈こどもへの質問〉

Q1 「神さまは〇〇です」。さて、〇〇のところには何が入るでしょう？

そうですね。「あい」ですね。「神は愛です」だったよね。

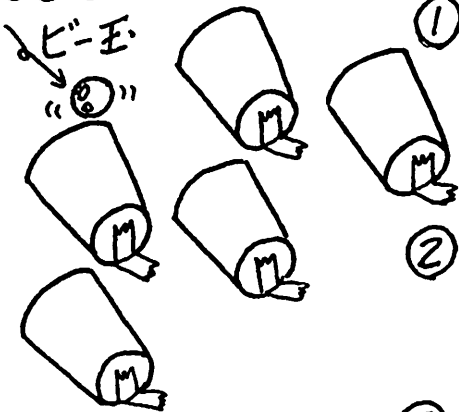
Q2 神さまに愛されていない人は、いるでしょうか？

いいえ、神さまに愛されていない人は、世界中に一人もいません。私たちはみんな、神さまに愛されるために生まれてきたんだよね。

〈祈り〉

天の父なる神さま、神さまは私たちをいつも愛してくださり、たくさんのお恵みをくださいますことをありがとうございます。これからも、もっともっと神さまを知って、神さまを愛しお友だちを愛することができますように、私たちを導いてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

ゲーム ビー玉ころがし



① 床の上に紙コップをねかせて、図のようにセロテープでとめる。

② 一人ずつビー玉をころがして紙コップに入れ、起き上がらせる。

③ 1はばん早く紙コップを起き上がらせた人が勝ち。紙コップの下側に点数を書いておいてもおもしろい。

- よいするもの
- 紙コップ 5個
 - 大きめのビー玉 5個
 - セロテープ

〈目標〉

三位一体の神様はこの世界を造られる前から愛の交わりのうちにおられた。この豊かな愛の交わりに私たちがあずかることができるようにされていることを感謝する。

〈展開例〉

1. いろいろな愛

- ・ 自然に対する愛
- ・ 動物への愛
- ・ 物への愛
- ・ 友達への愛
- ・ 先生への愛、生徒への愛
- ・ 両親への愛、子供への愛
- ・ 恋人や夫婦への愛
- ・ 神への愛

神様がこの世界を創造されたとき、ただ形を持つ物体だけを造られたのでしょうか。神様はそれらのもの間に愛をおいてくださいました。

もし愛がなかったら……。この世界はどんな世界になっているのでしょうか。(話し合う)

例えば生まれたばかりの赤ちゃんに何も話しかけず、だっこもしないでミルクだけをあげ続けたら……。(ある孤児院で本当にあった話ですが)赤ちゃんは数か月で死んでしまったそうです。

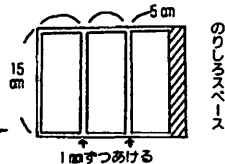
人間は愛がなくては生きられない存在として造られています。この愛はどこから来たのでしょうか。「神は愛である」と聖書には書かれています。神様の愛は父と子と聖霊の交わりから生れる愛です。神様は私たちがこの豊かな愛の交わりの中へと導いてくださっています。

2. 工作「万華鏡をつくろう」



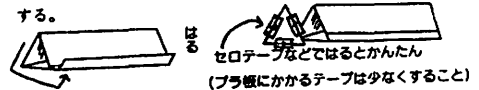
- 使用するもの
- あつ紙 (工作用紙)
 - プラ板 (あつさ2mmくらいからのものがよい)
 - 黒の色画用紙
 - トレーシングペーパー
 - ビーズや色紙など

①透明のプラ板を3枚用意して図のようにはりつける。

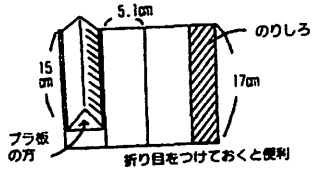


のりは、木工用ボンドなど、透明になるものがよい

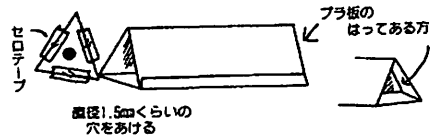
- ②プラ板を内がわにするように、3角のつつにする。
- ③3角のつつにふたをするようにプラ板を切ってはる。



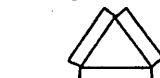
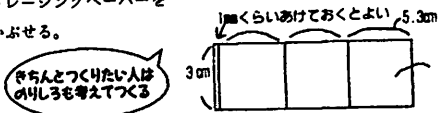
④工作用紙などのあつ紙でぐるむようにまく。



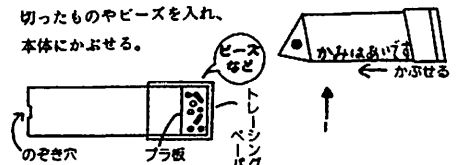
⑤のぞき穴を、あつ紙でつくり、セロテープではる。



⑥あつ紙ではかまをつくり、トレーシングペーパーをかぶせる。



⑦はかまに、折り紙を小さく切ったものやビーズを入れ、本体にかぶせる。



☆「かみはあいです」の聖句を書く

⑧のぞき穴からのぞいてみる。まわすときれいだよ。のぞき穴にプラ板をはってもよい



〈祈り〉

父と子と聖霊なる神様、この世界が造られる前から神様が愛の交わりの中にいらっしやったことを学びました。私たちは悪いものですが、イエス様によって私たちがこの愛の交わりの中に入れてくださったことを本当に感謝いたします。

〈目標〉

神は愛の交わりの家にある方であり、その愛を我々に示してください、その愛によって我々をはぐくんでくださっていることを覚える。

〈指導上の注意〉

神は御自身の愛をもって私たちのそばにいてくださり、間違いなく人を愛し、導いてくださる確信を教師自身がしっかりと持つ。

〈展開例〉

次のポイントを押さえつつ、今日のお話の確認のために、生徒と対話をしつつ一緒に考えましょう。

- ・神様は生きておられる方であること、また、三位一体の方であることを確認する。
- ・それを確認した上で、神様はただ黙って存在しておられる方か？ 神は話される神、交わりを持たれる神、愛の交わりを持たれる神。
- ・神様は私たちに愛を示してください、私たちを愛の交わりに入れ育ててください。

〈ワーク〉

1. 神様はお一人のお方だけ、ひとりぼっちでさびしくないのかな？ 答えはどっちだろう。
a. さびしい b. さびしくない
2. それはどうしてかな？
考えて答えを書いてみて！
3. 次の暗号を解こう！

ヒント＝神様は「つみ」をお嫌いになる方です。

私たちが礼拝の中みで神様みの愛の交わりと呼ばれてます。そして、たつくさんみの神様みの愛を受けます。それは、何つよりみも、父なる神様が私たちに聖霊をつ通して御子イエスをみ信じさせてくださり、私たちが神様がそばにいて成長させてくださるこどもです。

〈ワークの答え〉

1. b 2. 神様は三位一体の方で、御自身の内に愛の交わりを持っておられるから。

〈目標〉

三位一体の神は、人間が天地が創造されるずっと前からおられ、深く愛し合っておられることを知る。

〈指導上の心得〉

存在論的三位一体の考え方から、「御自身だけで、またご自身にとって全く充足しておられる」(ウ信告白第2章第2節)神を強調したい。

〈展開例〉【聴く】以前、まことの神様はただお一人ということを知りました。一人ということについて考えてみましょう。友達がいなくてさみしいですね。ちょっとお買い物に行くにも、一人より友達と一緒に行くほうが楽しいですね。塾に行くにも、友達と一緒にだと心強いですね。一人というのは、さみしいし、つまらないし、心細いのです。そうすると、お一人の神様はさみしいのでしょうか。つまらないのでしょうか。心細いのでしょうか。その答えは、神様は三位一体であるということにあります。つまり一人でありながら、3つのご人格をもっておられるので、さみしくないのです。父と子と聖霊がともに深く愛し合っておられます。その愛は完全で

す。ですからまことの神様は、愛のすばらしさを一番よく知っておられます。神様は愛なのです。ですから、神様はお造りになった私たち人間を、愛せずにはいられないように造られました。友達であれ、恋人であれ、家族であれ、愛する相手がいないと人間はさみしいのです。つまらないのです。心細いのです。あるクリスチャンは、子供の頃、お友達ができますようにという祈りが、そのとおりになった時、神様のご存在を強く感じたそうです。自分は一人ぼっちと思う時があるでしょうか。その時は、思い出してください。あなたは一人ではありません。神様が一緒におられるのですから。そして願えば、必ず、愛するべき相手が与えられるのです。【歌う】「31父なる神様」(ゴスペル・ミュージック、『主を賛美しよう』、いのちのことば社)。輪唱ができます。

〈祈り〉

さみしさと心細さに悩んでいる私たちのすべてをご存知な神様、私の心がかもつとあなたの方に向くことができますように。そしてあなたのその愛を、お友達に伝えることができますように。

〈目標〉神様が私たちに示してくださるのは、いつでもどんなときでも「愛」であるということを確認する。神様の愛のうちに生かされていることを知り、感謝したい。そして、神の愛のうちにあるからこそ、隣人を愛することができることを覚えたい。

〈展開例〉「神は愛である。」実に簡単な言葉ですが、この一言に、私たちと神様の関係について知るべきことのほとんどが含まれています。神様が私たちに示して下さい「愛」について考えましょう。

○神の愛と人の愛

「愛」という言葉は世の中に溢れています。しかし、一言で「愛」と言ってもいろんな愛があります。親子の愛、兄弟愛、もちろん男女の恋愛、そして、今日考えようとしている神様の愛。これらは、日本語ではみんな同じ「愛」という言葉でくくられてしまっていますが、実はもともとは違う言葉なのです。例えば、親子や兄弟の愛はギリシャ語で「フィレオー」と言いますし、男女の愛は「エロース」と言います。それに対して神様の愛は「アガペー」という別の言葉なのです。

それぞれの「愛」についてもう少し見てみましょう。兄弟愛や親子の愛「フィレオー」は、相手が「親」だから、「兄弟」だから、「仲間」だから、大切にしようという愛です。愛する相手に条件がある愛です。また、恋愛「エロース」は、自分が満たされようとする愛です。欠けた所だらけである私たちが、だれかにその欠けた所を満たしてもらうのが、恋愛の根底にあるものです。昔の日本の文学者に有島武郎という人がいて、その人の書いた本に「惜しみなく愛は奪う」というのがありますが、エロースというのは「奪う愛」であると言えるかもしれません。

それに対して、神様の愛「アガペー」は、一言で言えば見返りを求めない自己犠牲的な愛です。そして、その愛の対象にはなんら愛される資格はないのです（Ⅰヨハネ 4:10）。その愛によって、神様は独り子イエスを犠牲にされたのです（ヨハネ 3:16）。イエスは私たちを愛して自ら進んで十字架にかかってくださいました。全てを持っておられる完全な方である神様が私たちに与えて下さるのが神様の愛、アガペーなのです。私たちは、自分にはとてもそんな資格はないにもかかわらず、神様から一方的に大切にされ愛されて、私たちを救うために子なる

神様・イエス様が与えられたのです。そのような神様の愛に私たちは包まれています。そしてその愛は、神様がけして変わることがないように、けして私たちの上から離れないのです。

○互いに愛し合う

私たちは、このような「愛」の中身を知った上で、聖書の語る愛についてさらに考えたいと思います。

今日の聖書箇所、Ⅰヨハネ 4:7に「互いに愛し合ひましょう」という御言葉があります。神様は私たちに愛し合うことを求めておられます。もちろんそれは、「フィレオー」や「エロース」ではなく（これらの愛もちろん私たちには必要ですが）神様の示して下さい「愛」に愛し合うことにならうということです。しかし、私たちにそんなことができるでしょうか？

欠けた所だらけの私たちは、どうしたらそんな「愛」を生きていくことができるのでしょうか。ローマ 12:9,10 でも互いに愛しあう事が勧められています。そこに「尊敬をもって互いを優れた者と思いなさい」という御言葉があります。確かにこれは愛しあう時の基本にあるべきことです。しかし、どうすれば相手を優れた者と思えるのでしょうか。私たちはどうしても自分が一番になりたい者なのです。

私は、神様に「価値高く、貴い」（イザヤ 43:4）と言っていたに過ぎない者です。そして、私の前にいるあの人も、同じように、すべてにおいて完全な神様に「価値高く、貴い」と言っていたに過ぎない者です。そのように、相手の中に働く神様の愛を知ることができれば、私は相手のことを「尊敬をもって」見ることができるのです。隣人を愛する事も、さらに言って、イエス様が教えられた、敵を愛する事（マタイ 5:44）も、私ではなく、私の中に働いて下さる神様がさせて下さることなのです。神様になさる事にどうして不可能があるのでしょうか。私たちは、神様の愛の中においてに過ぎないからこそ、隣人を愛する事ができるのです。

〈祈り〉天の父なる神様。今日は、私が、自分には何のよいところもないのに、イエスを私のためにくださったほどに、あなたに愛されているということを知りました。そしてあなたの愛が、私の周りにいるあの人にもこの人にも注がれているということを知りました。どうか、あなたのゆえに隣人を愛する事ができるように助けてください。

テキスト ダニエル書3章1～30節

ダニエルの三人の友人シャドラク、メシャク、アベド・ネゴが真の神への信仰を貫き通し、試練のただ中から救い出された物語です。同様の物語が6章にもあり、そこではダニエル自身が獅子の洞窟から救出されます。

(1) 偶像崇拜の命令

バビロン王ネブカドネツアルはある時巨大な金の像を造ります。像の高さは約27メートル、幅は2.7メートルであったと言われます。

王は像の除幕式に高官たちを参列させ、諸国、諸族、諸言語の人々がごぞつてこの像にひれ伏して拝むよう命じ、もし拝まない者がいればただちに燃え盛る炉に投げ込むとの刑罰を付け加えます(4-6)。権力者が宗教を政治に利用して自身の支配力を増し加えようとする例は、昔も今も枚挙にいとまがありません。

(2) 三人の信仰告白

しかし、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴの三人は異教の国バビロンにあつて真の神への信仰に生きていました。彼らが主なる神を信じるゆえに、自身の命令を無視して金の像を拝もうとしないことを知って、ネブカドネツアルは激怒し、威嚇して偶像のもとに跪かせようとしています。

16～18は、三人の王への返答です。彼らは言います。私たちの神は、燃え盛る炉から私たちを救う

ことがおできになるし、必ず救い出して下さる。またそうでなくとも、私たちは決して偶像にひれ伏すようなことはしない。

18の「そうでなくとも」という言葉には、殉教も辞さないという彼らの信仰の決意を見ることができ、彼らが復活の信仰を抱いていたこともうかがわれます(12:2-3)。

(3) 神の守り

三人は衣服を着けたまま縛り上げられた上、いつも七倍も熱く燃やされた炉に投げ込まれます。炎の勢いは、彼らを引いていった兵士たちをさえ焼き殺すほどのものでした(19-23)。

しかし、しばらくして王は驚くべき光景を目のあたりにします。炉の中を四人の人が自由に歩き回っており、何の害も受けていないというものです(25)。

四人めの人「神の子のような姿」をしていたとあります。この人については王自身が、神が送られたみ使いであると言っています(28)。

三人は神の毛さえも焦げてはいないという全くの無傷のまま炉から出されました。こうして彼らの神こそ真の神であることが証明され、ネブカドネツアルさえも主なる神をほめたたえずにはおれませんでした(28)。

三人は高い位につけられ、これ以後彼らの宗教は王の公認の宗教とされたのです。第一戒を守り抜く信仰を貫いた者たちへの、神の豊かな報いです。

カテキズム 子どもカテキズム 問11
ウェストミンスター小教理問答 問7、8

子どもカテキズム

問11 私たちの神さまの全能、主権とは何ですか。

答 私たちの神さまが、すべてのものを神さまの栄光のために定め、造り、保ち、支配しておられることです。神さまの力の及ばないところは、宇宙のどこにもありません。

ウェストミンスター小教理問答

問7 神の聖定とは、何ですか。

答 神の聖定とは、神の思慮深い御旨による永遠の決定です。神はこれにより、御自身の栄光のために、すべての出来事をあらかじめ定めておられます。

〈神の聖定〉

この問答は、神の聖定について教えています。すなわち、すべてのものが「神さまの栄光のために定め」られているということです。神の主権と全能は、神の聖定に土台があり、源泉があります。神の聖定の故に、神は主権者であり、全能者なのです。

神の聖定とは、神が御自身の御業を行うに先立って定められた計画であり、神の決意です。聖書は、主なる神が御自身の御業を行う前にあらかじめ計画を定めておられたことを、繰り返し語っています(たとえばローマ 8:29、エフェソ 1:4-5、1:11)。私たちも、何か新しいことを始めるときには計画を立てます。たとえば家を建てるならば、住む人のことを考えて、建物の構造や枠組み、外装、内装、材料をあらかじめ定め、設計図を書きます。そして、その設計図に従って施工します。主なる神も、天地創造に先立って、何のために、何を、どのように造るかを計画し、秩序を定められました。その範囲は、すべてのことに及び、もれたものは何一つありません。神のこの聖定に基づいて、万物が創造され、維持され、治められています。神がすべてを定めておられることに、神の主権性が明瞭にあらわれています。

〈愛の交わりを目指す聖定〉

神の聖定は、神御自身の御心に基づいて定められました。すなわち、神は御自身の自由に基づいてお定めになりました。ここで、神が三位一体であり、愛を本質としており、私たちが三位一体の愛の交わりへと招いておられることを思い起こします(7月22日のカテキズム研究を参照)。そうであるならば、

神の自由は、愛することへと向かいます。神が御自身の自由に基づいてお定めになるとは、私たち被造物を神の三位一体の交わりの内に入れることへと定めておられるということにほかなりません。神の聖定は、こうして神の愛と一つです。神の聖定は、決して冷たく機械的なものではありません。神と人との人格的な愛の交わりへと定めているのです。

〈聖定は買かれる〉

こうして定められた神の聖定は、神の全能の御力によって、すべて間違いなく実行され、成就され、完成されます。創造と摂理において、神の聖定は買われます。神は生きて働いておられます。

ここで問題となるのは、罪についてどう考えるかということです。神に罪を帰してはなりません。罪は人間の責任です。神は、人格的で自由な意思を持つ存在として人間を造りました。そのところで、神は人間の罪と墮落を許容しておられます。そして、大切なことは、この人間の罪と墮落も、決して神の聖定が買かれることの妨げにはならないということです。神は、自由な意思を濫用して罪の悲惨に陥った罪人の救いを成し遂げました。キリストによる罪の贖いによって、罪は取り去られ、聖定は買われます。ここに神の全能の御力があるのです。

この世界と歴史は、決して偶然によって支配されているわけではありません。私たちが愛へと招く神の御心によって支配されているのです。すべての物事の背後に、神の知恵と熟慮と愛を見出すことが大切です。私たちは、この主権者にして全能なる神を信頼して、神に委ねて生きる幸いな者なのです。

ダニエル書3章1～30節
子どもカテキズム 問11

「父なる神、全能にして主権者なる神」

〔単元のねらい〕

神が燃え盛る炎の中でも共にいてくださり、助けてくださった物語を通して、神の主権を明らかにしたい。また、その主権を明らかにするべく偶像礼拝と戦ったイスラエルの三人の少年たちの信仰の姿を描きだしたい。

今日は旧約聖書の物語をお話します。

昔、バビロンという国にネブカドネツアルと言う王様がいました。このバビロンと言う国は、世界中を征服してしまう強い国でした。ネブカドネツアルはそのような国の王様ですから、この王様に逆らえる人、国はありませんでした。小さな国のイスラエルも、この国に征服されてしまったのです。ネブカドネツアル王は、イスラエル人の中から、姿形が美しく、頭もよい少年を選んで、自分に任せさせようと思いました。選ばれた人は四人です。ダニエルとハナンヤ、ミシャエルとアザルヤです。彼らには、バビロンの国の名前を付けて、バビロンの国の王様の宮廷で、教育を施しました。ダニエルの名前はベルテシャツアル、ハナンヤの名前はシャドラク、ミシャエルの名前はメシャク、アザルヤは、アベド・ネゴと付けられました。

この四人は、僕たち私たちと同じ真の神さまを信じておりました。そして、神さまはこの四人を特別に祝福して下さったので、バビロンの国の中で、高い位を与えられました。ダニエルは宮廷にとどまり、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴの三人は、行政官という国の大切な仕事をまかされました。

ところがある日のことです。ネブカドネツアル王は一つの金の像を造りました。高さはおよそ三十メートル、幅は三メートルの金びかの偶像です。朝日が昇るとそれはそれはピカピカに光輝きます。王様は命令しました。「世界中の人々に告げる。音楽が鳴ったら誰でもこの金の像に向かって拝め。さもなければ、誰であろうとも直ちに燃え盛る炉の中に放り込まれる。」ですから、世界中の人達が、この偶像を拜んだのです。

さて、これを聞いた人の中に、三人のことを、ねたましく思っていた役人がいました。「あいつらは、頭も良いし位も高い、けれども、この像を拜んでいない。良いチャンスだ。告げ口をしてしまえば、

あいつらは殺されて、自分があいつらの代わりに高い位につけるかもしれないぞ。」彼らは、王様の所について、言いました。「あのイスラエルの若者は王様の命令を破っています。金の像を拜みません。」

これを聞いた王様はびっくりしました。自分の命令に背く者がいるなど信じられません。もしも、放っておけば王の強さ、偉さが弱まります。そこで、この三人を呼び出しました。王は、高い王様の座る椅子から、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴを見下ろしました。王は言いました。「お前たちが金の像を拜まないのは本当か。もし、拜めば赦してあげよう。だかしかし。もしも、拜まなければ、今すぐ燃え盛る炉の中に投げ込むぞ。どんな神でも、私の手から助け出すような神がいるわけないぞ。」

皆はどう思う。火が轟々と燃える炉の中に入ったら、一瞬にして死んでしまいます。もしも、像を拜めばそれだけで、もとの高い位のお仕事ができるのです。

シャドラク、メシャク、アベド・ネゴの三人は答えました。「王様、答えは簡単です。私たちの真の神さまは天と地と、見えるものと見えないものすべての造り主であられます。全能の神さまです。世界は全て神さまのものです。神さまより偉く、拜むべきものは他にありません。王様の手から私たちを助け出すことなど、神さまにとって簡単なことです。けれども、もしも、神さまが助けて下さらないことが御心であれば、私たちは死んでも結構です。それで神さまの栄光が現されるのですから。偶像に仕えることなどできません。金の像を礼拝してはいけません。本当に礼拝すべきお方はただお一人、私たちの神さま、世界をお造りくださったただお一人の真の神さまだけです。」

これを聞いた王様の顔は火が付いたように真っ赤になりました。兵士たちに命じて、言いました。「彼らを捕まえ、これまで以上に火を熱くして、その真っ

赤な火の中に、彼らを放り込んでしまうのだ。今すぐに。」兵隊は、すぐにその通りにしました。火はあまりにも、轟々と燃えて熱くなっていましたので、放り込むために近づいた兵士たちはそれだけで死んでしまったほどでした。

さあ、この三人は一体どうなってしまったのでしょうか。するとどうでしょう。これを見ていた王様は、まもなく驚いて立ち上がり、言いました。「不思議だ、あの三人は縛られて炉に投げ込まれたのに、私には四人の者たちが自由に歩いているのが見えるのだ。四人目の者は神さまの子どものように見えるぞ。」王様は急いで、炉に近づいて叫びました。

「おーい、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴ、扉は開いているぞ、出てきなさい。」すると、彼らは火傷もせず、髪の毛も焦げていなかったのです。ネバカドネツアル王は心から驚いて言いました。「彼らの神をたたえよ。私は命令する、誰でも彼らの神さまをのしるものがあれば、殺されなければならないぞ。まことに人間をこのように救うことのできる神さまはイスラエルの神さま、天地を創造し、世界を支配される神さま、全能の神さま以外におられない。」

これは、僕たち私たちの信じている神さまがしてくださった出来事でした。神さまの力の及ばないところは、宇宙のどこにもありません。神さまが望まれるのであれば、どんな熱い火の災いでも人間を救い出すこともおできになるのです。すべての物は、神さまの栄光が現されるように造られ、保たれています。これが、私たちの神さまの全能、主権の意味です。

しかし、最後に一つだけ、注意したいことがあります。全能の神さまは、何でもかんでも私たちの思うとおり、お祈りする通りに働いてくださることとは違います。シャドラク、メシャク、アベド・ネゴは、「もしも、神さまが助けてくださらなくても偶像を拝みません。」と言いました。彼らは心の底から、どんなことがあっても全ては神さまの栄光のためになるのだ、神さまのお力が必ず勝利するのだと、確信していたのです。

僕たち私たちは王様のような力はありません。けれども、私たちの神さまは強いのです。この神さまをもっともっと知って、強い心、強い信仰の心を養って頂きましょう。

今週の暗唱聖句

まことに人間をこのように救うことのできる神はほかにはない。

ダニエル書 3 章 29 節後半

〈こどもへの質問〉

Q1 シヤドラク、メジャク、アベド・ネゴの三人は、王さまの命令のとおり、造り物の金の像を拝みましたか？

いいえ、三人は本当の神さまを信じていたので、造り物の神さまを拝んだりはしませんでしたね。

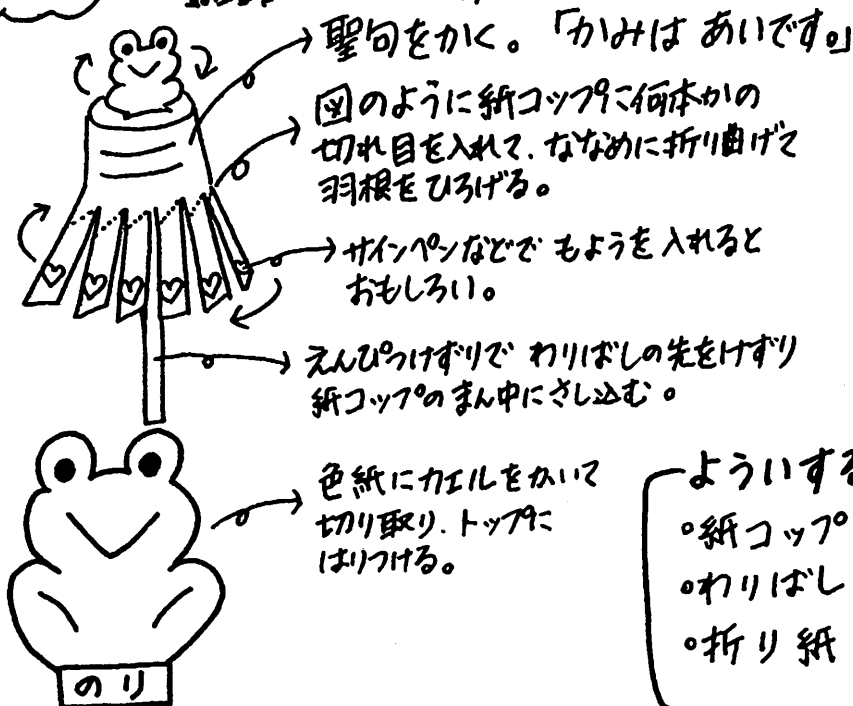
Q2 王さまの命令にそむいて金の像を拝まなかった三人は、熱い火が燃えさかる炉に投げ込まれてしまいましたが、その後どうなったのでしょうか？

そう、三人は、縛られて炉に投げ込まれたのに、やけどもしないし、髪の毛も焦げることなく、無事に炉から出てくることができたんですね。

〈祈り〉

天の父なる神さま。シヤドラク、メジャク、アベド・ネゴの三人は、本当の神さまを信じていたので、熱く燃えさかる炉の中に投げ込まれた時も、助けられました。私たちは、とても小さくて弱い者ですが、何事も恐れることなく、神さまに従っていくことのできる強い信仰をどうぞお与えください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

工作 紙コップの風ぐるま



〈目標〉私たちの信じる神はこの世界のすべての領域において主権者であられる。その御方が私たちと共にいてくださることをおぼえ、どんなときでも、この御方により頼むように導く。

〈展開例〉

1. 次の質問を書いた紙に答えを書いてもらう。

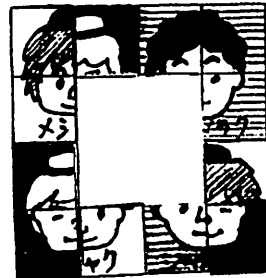
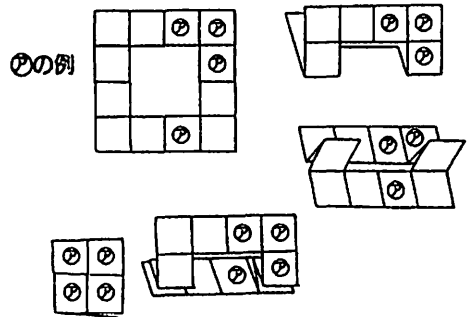
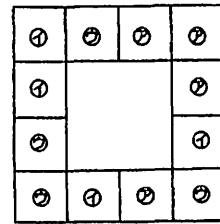
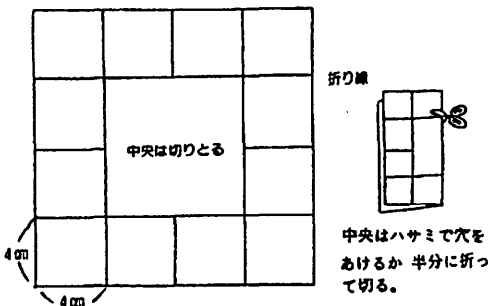
- ①ネバカドネツアル王が3人の少年に拝めといったものは何でしたか。
- ②3人の少年の名前は何でしたか。
シャド○ク、メジャ○、○ペド・ネゴ
- ③3人が王様の命令に従わなかったのはなぜですか
- ④3人はどこに投げ込まれましたか。
- ⑤3人は神様が必ず救ってくださるから拝まなかったのではなく、たとえ（ ）でも金の像を決して拝みませんと言いました。(17、18節)
- ⑥王様は3人がやけどもせず、髪のももこげていないのを見てびっくりしてこう言いました。

「人間をこのように救うことのできるのは、この（ ）以外におられない」

- ⑦本当の神様以外のものを拝めと言われたことがありますか。
 - ⑧あなたがもしこれから偽物の神を拝めと誰かに言われたらどうしますか。
- ・問題はひらがなで書く。
- ・1人ずつに書いてもらい、答え合わせをする。
- また、⑦と⑧について具体的に話し合う。
- ・私たちの信じる神様は火の中から私たちを助け出すことのできる御方である。この世界で神様の力の及ばないものは何一つない。このような神様はこの方以外にはおられないことを共に覚えたい。

2. 回転絵合わせパズル

①ケント紙を下の図のように切る。



4面がそろったら黒いマジックで絵を描き、背景の色をぬっておく。生徒に顔をぬってもらってもよい

パズルを閉じたところ



(ア) (イ) (ウ)

※人数分用意をする。

パズルを合わせて3人の少年の顔をつくる。

〈祈り〉

この世界のすべてのものを造り、御支配くださっています天のお父さま、私たちが本当の神様だけをおそれ、礼拝することができますように。いつでも神様に従っていくことができるように導いてください。

〈目標〉

神はどんな者にも負けない力を持っておられ、その力を、誰にも邪魔されずにお使いになることができることを覚えさせる。

〈指導上の注意点〉

主権者であるということがどのようなことかを、生徒と一緒に確認していく。

〈展開例〉

次のポイントを押さえつつ、今日のお話の確認のために、生徒と対話をしつつ一緒に考えましょう。

- ・ダニエルたちはなぜ燃えさかる炉の中に投げ込まれたか。
- ・神様を信じる彼らはどうなったか。
- ・神様に敵対する人が、神様を愛する人をどんなに苦しめても、神様はその全能の力によって神様を愛する人を守られる。
- ・神様に敵対する者がどんなに邪魔をしようとしても、神様のお働きを邪魔する力も、また権力も彼らにはないし、誰にもない。

〈ワーク〉

1. ダニエルたちは燃えさかる炉に投げ込まれることが分かっていたのに、何で金の像を拜まなかったのかな？
2. 神様以外を拜まないで、炉に投げ込まれたダニエルたちはどうなったかな？ 次の中から選んでね。
 - a. 服も焦げることなく神様に助けられた。
 - b. 炉の中で死んでしまった。
 - c. 自分で火を吹き消したて出てきた。
3. ダニエルたちをお助けになった神様は完全な、何でもできる力をお持ちの方です。その力によって、私たちがイエス様から離れることのないように、私たちを守ってくださいます。そのことが書いてあるダニエル書 3:17 を書いて覚えましょう。

〈ワークの答え〉

1. 神様以外を礼拝してはいけないから 2.a

〈目標〉全宇宙を支配しておられる神は、私の全生活をも支配しておられることをおぼえる。

〈指導上の心得〉改革派教会において、神の主権は徹底的に強調される。その徹底性は、神の御前にあつてかしまることや、立派な行いをするだけでなく、全面的に神により頼むことによって証しされる。従つて、抽象的な話に終始するような展開は避け、それぞれの生活の中に主の御手が働いておられることを確認し、どんなささいなことでも神さまにより頼んでいけるようにしたい。

〈展開例〉【聴く】忘れ物。早起き、天気、地震、風邪。この言葉に共通していることはなんだと思いますか。自分の力ではどうにもならないということです。自分の力ではどうにもならないことについて、私たちはよく祈ります。クリスチャンでなくとも、神社などで願いごとを祈ったりします。でも、自分の力でなんとかなると思うことも実は神様のおゆるしがなければ、何ひとつ自分の思うようにはならないのです。たとえば、お小遣いで買った○○。あなたは前からそれがほしくて、お小遣いをためて、自

分で買ったつもりになっていますが、神様は、それがあなたに必要なものであれば、あなたのお小遣いがもらえないようにしたり、たまらないようにしたり、ほしいものをお店に置かれないうにしたりすることなどが、簡単にできるのです。もちろん神様は、いじわるでそんなことをするではありません。神様は、あなたになくてはならないものはすべてご存知だからです。お父さんお母さんはあなたのことをとっても心配してくれますが、全能の神様はそれ以上にあなたの心配をしています。神様のお許しがなければ、私たちは何もできないのです。だから、自分の力でなんとかなると思えることも、神様に祈ることを忘れず、願いどおりになったら、神様に感謝しましょう。【ゲーム】新聞御言葉がし。暗唱聖句「まことに人間をこのように救うことのできる神はいない」を新聞の活字を切り抜いてつくってみよう。(グループに分けて競ってもいいし、みんなで力を合わせてつくってもよい)

〈祈り〉私たちの主権者、全能の神さまによって守られていますことを感謝いたします。

〈目標〉

「主権」という言葉の意味を把握し、この全宇宙の主権者が神様であることを確認する。この全宇宙は主権者である神様のご計画のうちに創られ守り導かれている。我々の救いも神様のご計画のうちに予め定められたことであり、ゆらぐことがない。

〈展開例〉

皆さんは、社会の時間に「憲法」について勉強しましたか？ 私たちの国、日本の憲法の特徴には有名な「戦争放棄」や「基本的人権の尊重」がありますが、何より大切な特徴は「主権在民」ということです。日本の国の「主権者」＝国のいろいろなことを決めたり、実行していく主人公は、私たち国民一人一人だということです。日本の国がどこへ行くのか、どんな国にしていきたいのか、私たち国民一人一人がこの国のことをしっかりと考えていないと、日本はどんどん変な方向へ行ってしまう。

○全宇宙の主権者

それでは、この地球の主権者＝主人公はだれでしょう？ 創世記 1:28 を見てみましょう。この全宇宙を創られた時、神様は人間に「地を従わせる」「生き物をすべて支配する」ことを命じられました。この地球の主人公は、神様から地球の管理をまかせられた人間一人一人です。しかし、神様に従うより自分が神様みたいになって好きなようにしたいという「罪」を持っている人間は、神様からいただいたこの地球を支配する力「主権」をきちんと果たしてきたとは言えません。そのせいで、この地球上には戦争や環境問題などの地球を滅ぼしてしまいかねないような大きな問題がいっぱいおこってきました。

さて、日本も地球も含めた、この全宇宙の主権者＝主人公はだれでしょう？ それは、この全宇宙を創られた神様です。神様は、何の計画もなく思いつきで天地を創造し、なりゆきで支配しておられるではありません。神様は天地創造に先立って、何のために天地とその中のもの全てを創造するのか、何を目的にそれらを守り導いていくのかを決めておられました。しかし、その目的が何であるのか、私たちがすべてを知ることはできません。それは神様の知恵にかかわることです。神様は前にも学んだように（6月24日）「はかりがたい知恵」がある方ですから、とてもちっぽけな私たちの知恵や知識が及ぶ

ものではないのです（ローマ 11:33）。

○私たちの救いも計画のうちに

しかし、私たちは神様の目的を全て知ることができないからと言って、不安になることはありません。神様は、そのすばらしい知恵の中で、私たちを最初から救いに入れられるように選んでくださいました（エフェソ 1:4、11、ローマ 8:29）。私たちがこうして教会に来ているのは、けして偶然ではありません。神様は、天地を創られる前から、この私を救うことを計画しておられたのです。そのために、いろいろなことを通して、私が教会に来る事ができるように計らってくださるのです。「万事が益となるように共に働く」（ローマ 8:28）というのは、このことです。神様の計画の中で、私たちに起こる事は、私たちを救いへと導くことなのです。

その計画をたてられた神様は、前に学んだように（6月24日）「無限、永遠、不変」の方です。神様の計画は、限りなくいつまでも変わることのないものです。ですから、私たちの救いの計画もけしてゆらぐことのない確かなことなのです。

○すべては神様の栄光（すばらしさ）のために

救いが約束されている私たちから見たとき、神様のご計画はすばらしいものです。私に起こるすべてのことが、私を御國に導くためにあらかじめ計画されているのですから。もちろん、私たちの身の上にかかる事は、楽しいことばかりではありません。悲しいことやつらいこともしょっちゅう起こります。いつもここにこしていただけるわけではありません。しかし、くりかえしになりますが、そのすべてが私を救いへ導くために計画されていることなのです。つらい時にも、神様はそれに耐える力を与えてくださいます（Iコリント 10:13）。

そのすばらしさを、私たちはよろこびましょう。神様のすばらしさをほめたたえましょう。この全宇宙の主権者であられる神様のご計画の全てが、神様のすばらしさを示しているのです（ローマ 11:36）。〈祈り〉天の父なる神様。今日は、あなたこそが、この全宇宙の主人公・主権者であり、あなたのご計画の中に私の救いも入っているということを学びました。けして変わることのないあなたの計画のすばらしさを、いつも私が喜ぶ事ができるように導いてください。

テキスト

創世記1章

創世記の天地創造の記事から私たちが学び取るべき点は、以下の諸点です。

- ・神が唯一の、人格を持つお方であり、かつ永遠のご存在であられること。
- ・天地創造は神の力と全能を示し、被造世界は神の栄光と知恵を照り返していること。
- ・創造が「無からの」「言葉による」創造であること。
- ・神がよきご意志をもってすべての被造物、とくに創造の冠たる人間をお造りになったこと。人間が「六日目」に、準備万端とのえられた世界に、「神にかたどって」(1:26,27)創造されたことの中に、神の特別の愛と配慮を見ることができます。

ここでは1:1に絞って見ていきます。

(1)「初めに」

「初めに、神は天地を創造された」(1:1)というみ言葉は、まず生きています永遠の神のご存在を明確に語り示します。神はすべての命の根源にいますお方です。この神が天地万物を創造されました。天地万物は偶然に生じたのでも、また得体の知れないながしかの力の作用によって生み出されたのでもなく、この永遠の神の明確なご意志によって造られたのです。

神は天地万物の主権者にています。永遠の神は三位一体のお交わりにあつておん自ら満ち足りておられ、何か足りないことでもあるかのように被造物の手を借りなければ立てないということはありません(神が自らの不足を補うために創造のみわざをなさったという考え方を聖書はしりぞけます)。反対に、天地とそこにあるすべての被造物は、まったく神に依存しています。

神はご自身の主権をもって天地を創造され、ただみ言葉によって混沌と闇をご自身の秩序をもってとのえられ、ご自身のよきみ心のいきわたる光の世界となさいました(2-3)。

作品が作者のすばらしさを反映するように、被造物のすべては神の栄光をあらわすことを目的に創造され、神のよきご意志を照り返します。

(2)「神が」

1:1に用いられる「神」は、ヘブル語「エロヒーム」で、神を意味する「エル」という語の複数形です。この複数形は三位一体の反映であるとか、神の尊厳を表すといった説がありますが、いずれにせよ(複数形であるからといって)創造の神が(偶像の)神々であるということではまったくいいことは明らかです。創世記の創造の記事は、むしろ偶像的な古代のさまざまな創造神話を打ち破って、真の世界の「初め」をさし示しているのです。

(3)「創造された」

1:1で用いられている「造る」という意味の語「バーラー」は、神の創造のみわざに限って用いられる言葉です。人が何か物を造る場合には「アーサー」という別の言葉が用いられます。

「アーサー」と「バーラー」の違いは、前者が素材を用いて造ることを意味するのに大して、後者は何ら素材を用いずに造ることを意味するという点にあります。すなわち、「バーラー」は神の、無からの創造を物語っているということです。創造は人の知恵や力をまったく超越した、神としての偉大なみ力によるみわざであったのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問12
 ウェストミンスター小教理問答 問9

子どもカテキズム

問12 神さまの創造のお働きとは何ですか。

答 私たちの神さまが、ただ御言葉によって、世界とそこにあるすべてのものを、極めて良いものとして造られたことです。

〈神と被造物の厳格な区別〉

「初めに、神は天地を創造された」（創世 1:1）。これが聖書の冒頭の言葉です。神が創造主として語られ、「天地」に代表されるすべてのものが被造物として語られます。ここにおいて、神と神以外のものが極めて厳格に区別されています。周囲の諸国民は、人間を神とあがめたり、太陽や月や星をはじめとして自然界の中にあるものを神として礼拝する、偶像崇拜を行っていました。しかし、聖書の民は、自然界に神の御業を見出しました（詩 19 編）が、それらを神とすることはありませんでした。聖書において、神と被造物は明確に区別され、神は神であり、被造物は被造物なのです。

〈御言葉による創造〉

神は、三位一体の交わりの内に満ち足りておられるお方です。ですから、何か欠けたところがあったため、あるいは何かに迫られて、天地を創造されたものではありません。神は、御自身の自由な御心に基づいて、すべてのことをあらかじめ決めました（7月29日のカテキズム研究を参照）。その聖定に基づいて、主権者として、天地を創造されました。ここには、神の意志と知恵があります。「ただ御言葉によって」とは、この神の意志と知恵によって、すべてのものが創造されたことを言い表しています。すべてのものの存在の根拠は神にあります。神と並び立つ創造の材料が何かあったのでもなく、すべてのものが「ただ御言葉によって」、すなわち、神の意志と知恵に基づいているのであり、神に依存しているのです。これを「無からの創造」と言います。

〈六日間の創造〉

天地創造の記事は、神が天地の秩序を打ち立てるさまを描いています。神は秩序を創造するお方です。神は光を造り、光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれました。神は大空を造り、水を分け、天

と地と海を定めました。地は植物を芽生えさせ、光は地を照らして時のしるしとなり、地は生き物を産み出します。この植物や生き物にも、神は秩序をお与えになっています（「それぞれ」と言われること）。こうして、大地は命の舞台、人が生きる舞台として整えられます。神は天地を造り、その秩序を定め、すべてのものに秩序をお与えになりました。「六日間の創造」、すなわち、六日間で創造の御業を終え、七日目に安息なさったということも、神の秩序です。神は、秩序だてて創造の御業を行い、すべてのものの秩序をお定めになりました。

〈良き創造〉

「神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった」（創世 1:31）。創造の御業は、神の聖定に基づき、神の意志と知恵によって行われました。「極めて良かった」とは、欠けがないということだけではなく、神の御心になつた、神の目的になつたということです。すなわち、天地は神の栄光をあらわしています。天地は、神の栄光の舞台として極めて良かったのです。今も、天地の秩序の中に、神の創造の御業を仰ぐことができます。また、今日の世界の無秩序な有様は、「初め」のことでなく、人間の罪と墮落の結果です。神は、キリストの贖いによって、神が神としてあがめられ、天地が神の栄光をあらわすものとなる、新しい秩序を打ち立ててくださるのです。

〈進化論に対して〉

聖書は自然科学の教科書ではありません。進化論との対決は注意深く行われるべきです。進化論は、この世界が偶然によって支配され、また自然淘汰の原理、すなわち弱肉強食の世界であると考えています。そのような考え方を聖書は認めません。この世界は神の愛の御心に支配され、神の栄光の舞台です。神は、小さなもの、弱いものを愛するお方なのです。

創世記1章

子どもカテキズム 問12

「天地創造、創造者なる神」

〔単元のねらい〕

徹底して創造者なる神を伝えたい。信じる者は、この世界を受け入れることができる。安心して生きてゆける。その事を伝えたい。創造者への感謝と被造物への責任を呼び覚ましたい。進化論等は、上級、中学生の分級で取り扱いたい。

「初めに、神は天地を創造された。」これが、聖書の一番最初に記されている神さまの御言葉です。創世記の第1章第1節です。ニカイア信条では、一番最初のところで、父なる神さまのことをこう賛美しています。「私たちは天と地と、見えるものと見えないものすべての造り主を信じます。」

今日は、創世記の第1章を皆と学びたいと思います。もう一度、聖書を読んでみます。「神は言われた。『光あれ。こうして光があった。神は光を見て、良しとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。』神さまはこのようにして、順々に、最初、第一日目には光、次の第二日目には水と大空、第三日目には、大地と海そして草と木、第四日目には太陽と星、第五日目には魚と鳥、第六日目には動物そして最後に私たち人間をお造りになられました。神さまはお造りになられた全てのものをご覧になる度に、とても喜ばれました。すべて良いものとしてお造りになられ、その通り良いものが造られたからです。

皆さんの回りにこう言う人がいませんか。太陽に向かって拝んでいる人。大きな大きな木に縄を巻いて、御神木といって手を合わせている人。白い蛇や白い馬などを神さまのお使いといって敬う人。キツネや狸を神さまの使者といって、石で造ったキツネに油揚げを供える人。

針供養というのを聞いたことがあります。それは、いつも、縫い物をしている方々が、一年に一度、いつも使っているその針が、毎日毎日固い布に刺されるのがかわいそう、ご苦労さまと言って、お豆腐に刺してあげるのだそうです。神主さんが御破いをするそうです。皆さんはどう思いますか。針は、毎日毎日、固い布に刺されて痛いのでしょうか。針にごめんなさい。いつもありがとうございます。と言うのは、正しいのでしょうか。

死んだ人は仏さまとか神さまになるという話を聞いたことがありますか。死んだ人は、生きている人より力が強くなったり、不思議なことをすることが出来るようになるのでしょうか。決してそんなことはありません。江戸時代の将軍の徳川家康は、こう命令しました。「わたしは、死んだら、自分は神さまになるのだから、立派なお宮を造りなさい。」栃木県の日光と言うところに東照宮という立派なお宮があります。けれども、徳川家康は神さまになったわけではありません。今から、50数年前、日本の天皇は、自分自身そして他の人達から神さまと言われて来ました。けれども、その同じ天皇は「自分は神さまではありません」と後で言いました。

昔、石川五衛門という有名な泥棒がおりました。この人は、ルパン三世のように、俺様は、これこれの場所にいついつの時に、盗みにはいる、その金は貧しい人に分けてあげると言って、その通りに、盗みに入ってお金を盗み出したと言われていました。しかし、その石川五衛門も捕まってしまったのです。けれどもこの人が死んだ後で、この人をお祭りした神社が東京の葛飾にあるそうです。二月や三月になると受験生が来てお祈りして、御札を買うそうです。勉強の神さまと言われるのは、菅原道真という人が有名なのです。この人は頭が良かったからです。でも、石川五衛門は何故、受験生がお祈りにくるのでしょうか。それは、「入るのに難しい学校に僕も、私も入らせて下さい。」とお願いしにくるのだそうです。新聞で読んで、先生は笑ってしまいました。

もう僕たち私たちは言うまでもありませんね。そのようなものは神さまでも何でもありません。「ありがとうございます。」とか「ごめんなさい」とか「これこれをおねがいします」と言って、手をあわせるのは、太陽や月や星でもなく、動物でも木でも草でもなく、人間でもありません。それらはすべて

神さまによって造られたものに過ぎません。神さまに向かって、天の父なる神さまに向かってだけ、礼拝するのは、お祈りするのです。

さて、それなら、私たちの神さまが「天と地と、見えるものと見えないもののすべて」をお造りになられたのですから、お魚、昆虫、動物、植物、すべて生命のある自然を大切にしなければなりません。神さまが造られた自然、地球の環境を守ることは、神さまを信じている僕たち私たちの責任です。僕たち私たちは、この地球に住んでいます。ところが、この地球は、このまま行くと人間は勿論、すべての生き物が住めなくなると言われています。今こそ、神さまを信じる私たちが、生き物を大切にすることが必要です。それが、神さまが私たち人間に与えてくださった使命、仕事なのです。

最後に、神さまは、どのようにして、すべてをお造りになられたのでしょうか。それは、神さまの口から出た御言葉によります。「光あれ」と仰った、その時に、何も無いところから光が現れたのです。神さまの御言葉には力があるのです。世界を創造する力が神さまの御言葉にはあるのです。

私たちは今、教会に来て、礼拝の中で、先生から神さまのお話を聴いています。それを説教と言います。そのお話は、神さまからの御言葉です。神さまは先生のお話を通して、僕たち私たちひとり一人に、神さまは語りかけておられます。日本語で話しかけて下さいます。その語りかけは、日本語ですが、神さまの御言葉です。ですから、世界の全てを創造するほどの力のある言葉です。

ですから、この神さまの言葉を自分に語りかけられた言葉として信じて聴いた人には、神さまの御言葉はその通り、実現します。聖書のお言葉の通り、イエスさまを自分の救い主として信じてご覧下さい。イエスさまは私をいつも愛して、いつも一緒にいてお守り下さると信じてご覧下さい。神さまの御言葉は本当で、力があるのです、そのお友達はイエスさまに救われ、神さまの子どもにさせていただけます。

世界をその御言葉でお造りになられた神さまが、今もこの世界を統べ治めておられます。私たちは安心して、生きてゆけます。

今週の暗唱聖句

万物は言によって成った。

成ったもので、言によらずになったものは何一つなかった。

ヨハネによる福音書 1 章 3 節

〈こどもへの質問〉

Q1 はじめに神さまがすべてのものを造られた時、それらのものはみんな良いものでしたか？それとも悪いものでしたか？

神さまが造られたものはすべて良いものでしたね。

Q2 それでは、神さまはどのようにしてすべてのものを造られたのでしょうか？

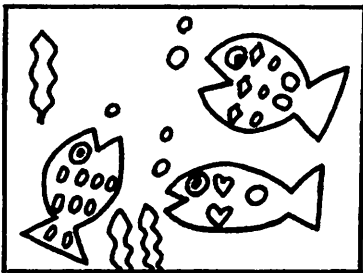
そう、神さまの御言葉によって造られたんだったよね。

〈祈り〉

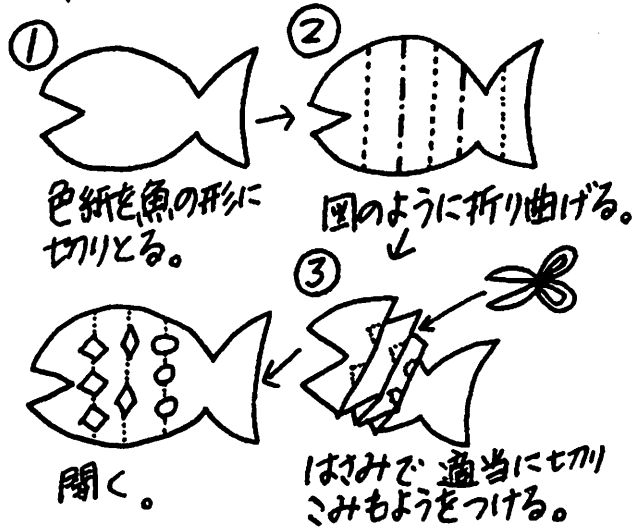
天の父なる神さま。神さまは、すべてのものを御言葉によって造られましたが、どうか私たちが神さまの御言葉に従って、神さまがお造りになられたものを大切にしていけることができますようにお導きください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

工作 魚のぼり絵

- よいするもの
- 画用紙 (色画用紙でもよい)
 - 色紙
 - のり
 - はさみ



できあがった魚を好きなところに貼りつける。



色々なちようを作って楽しんでみよう。

〈目標〉

天地を創造されたのは神様であることを理解させる。神様はこの世界を力ある言葉によって造られた。創造の御わざを順を追って見ていく。世界は極めて良いものとして造られた。

〈展開例〉

1. 天地創造をフネルグラフで振り返る。

段ボールにネル生地をはりフネルボードを作る。その上に黄色の紙をはり、その上に黒の紙をはる。
※紙の裏側をサンドペーパーでこするとつきやすい。

一番初め、世界は真っ暗で何にもありませんでした。神様だけがおられました。

○一日目



黒い紙を半分はがす。



黄色の紙が出てくる。

神様は「光あれ」とおっしゃいました。すると光がありました。この光を昼、暗闇を夜と名づけられました。神様は「これでよし」と言われました。

○二日目



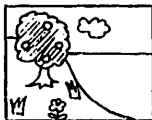
空色

空色の紙と雲をはる。

青色

神様は「大空があるように」とおっしゃいました。するときれいな青い空と雲ができました。神様は、「これでよし」と言われました。

○三日目



陸と海の紙をはる



草や木、花などはる

神様は「天の下の水は一つの所に集まり、乾いた地があるように」とおっしゃいました。すると海と陸ができました。そして陸には草やきれいな花、おいしい果物や野菜ができました。神様は「これでよし」と言われました。

青々とした緑、赤やピンクや黄色の花や果物。神様はこんなに美しいもの、よい香りのするもの、食べておいしいものをたくさん造ってくださいました。

○四日目



先にはがした黒い紙の半分をはる。太陽や月や星をはる。

「天に光るものがあるみんなを照らせ」。昼には太陽、夜には月や星ができました。神様は「これでよし」と言われました。

○五日目



魚や鳥をはる。※魚や鳥、動物などは図鑑をカラーコピーしたものなどを利用してもよい。

神様は水の中に魚が泳ぐように、大空を鳥が飛ぶようにとおっしゃいました。するとそのようになりました。神様は「これでよし」と言われました。

○六日目



動物をはる。



人間をはる。

神様は次にいろいろな種類の動物や虫などをお造りになりました。そして最後に神様は人間をお造りになりました。神様が造ったすべてのものをごらんになると、それはすばらしく良いものでした。

2. 考えよう

- ・神様は何か材料を使って世界を造られましたか。→神様は何も用いないで、何もないところからこの世界をお造りになりました)
- ・神様は○○○によってこの世界をお造りになりました。(ことば)神様の言葉には力があります。

3. 作ってみよう！(神様が作られたもの)

いろいろな形の石を拾ってきて洗って乾かしておく。ポスターカラーやマジックなどでいろいろな動物などの絵を描く。



〈祈り〉

天のお父さま、この素晴らしい世界を造ってください、ありがとうございます。神様が造られたこの世界を大切にすることができますように。

〈目標〉

この世界は神様が造られた作品であることを覚える。

〈指導上の注意〉

自分も含めこの地上の者は神様の作品である。人間が手で作ったものもその材料を造られたのは神様であり、その知恵を与えられたのも神様であることを頭の隅にきちんと入れておく。

〈展開例〉

次のポイントを押さえつつ、今日のお話の確認のために、生徒と対話をしつつ一緒に考えましょう。

・この世のものはどのようにしてできたか。

神の創造によって。

・この世のもので、神様によらずして造られたものが一つでもあるか。ない。

・この世の全てのものを神様は神様の作品として大変素晴らしくお造りになされた。その作品を神様は守られる。我々は、その作品である被造物を感謝をもって用いるべき。

〈ワーク〉

夏休み！ もうみんなは山とか海とかに行っただけかな？ これからの人もいるだろうね。

1. そんな自然や僕たちの周りにある神様の作品を考えて書いてみよう！ 沢山あるよ。

2. 服とか、ビルとかは神様が造ったと言えるのかな？ みんなで考えてみよう！

3. ヨハネ 1:3 と創世記 1:31 を書きましょう。

〈ワークの答え〉

2. 製品の原材料は神様の創造したもの。

〈目標〉神の創造の御業をたたえる。

〈指導上の心得〉

ゲーム感覚で、創造の御業を心に刻み付けることがねらい。ゲーム①はヘブル語そのものを見せながら説明するとよい。

〈展開例〉

【導入】神様の創造の3つのポイントをもう一度復習していきましょう。

【ゲーム】①無からの創造：つぎのそれぞれの文字の並びに1つのヘブル語が隠れています。2文字おきに読んでください。

アアアアササアアササ

バババババラララアアバ

「バラー」は神様が創るといふときに使われ、人が何かを作るときは「アサー」が使われるのです。

「アサー」は何か材料をもちいて作ることを意味し、「バラー」は何の材料を用いずに作ることを意味します（※聖書研究参照）。神様は何の材料もつかわずに、天と地をお造りになったのです。

②言葉による創造：画用紙に「光」「草」「陸」「太

陽」「魚」「鳥」「動物」「海」と書いたものを2枚ずつ作る。字の下に神様が造る時におっしゃった御言葉を書く（「光」―「光あれ」など。御言葉は2枚合わせて一つの言葉となるように）。裏は1から16までの番号をふり、裏向きに並べてカード合わせゲームをしよう。カードが合うごとにみんなで御言葉を読む。

③善き創造：なやみ・死・くるしみ・よろこび・かなしみ・いたわり・ねたみ・けんか・いじめ・殺し・ぬすみ・平和・平安・病氣・災害・安心・まんぞく・たのしい・おもしろい・事故・きよい・ただし・完全・しんばい・やさしさ・恐怖・むなしさ・無氣力・しらけ・無視……。これらの言葉を書き（人の顔で表してもよい）、最初の人間になかったものをみんなに聞きながら消していこう。残った言葉をもう一度読み、それが終わりの時に完全に回復される、人間と全被造物の本当の姿であることを確認し、天の都へのあこがれを高めよう。

〈祈り〉

神様のすばらしい、創造の御業をほめたたえます。

(目標) 天地創造の御業は確かな事実であること。進化論も仮説に過ぎず、進化論をとるか、創造論をとるかは、神様の存在を認めるかどうかの違いである事を確認する。

(展開例) みなさんは、創世記の天地創造の箇所を読んでどう思いますか？ 先生はなかなかこの創世記の箇所に書かれていることを受け入れることができませんでした。学校で教えてもらう事とあまりに違うことですから。「この世のすべては神様が造られた」なんて言ったりしたら、「あいつは『非科学的』なやつだ」と笑われるかもしれません。

○「創造論」は「非科学的」か

「科学」とは何なのかを考えましょう。先生の持っている国語辞典で「科学」をひくと、「一定領域の対象を客観的な方法で系統的に研究する活動」と何やら難しいことが書いてあります。でもここで気をつけたいのは、科学の及ぶのは「一定領域」であるということです。すべての領域ではないのです。

私たちの生きている自然界のいろいろなことは、自然科学の法則で説明する事ができます。それは確かに科学的なことです。その自然科学の法則では確かに、何も無い所から物質が生じたり、命の無いものから生命が生まれ出たりすることはないと教えています。しかし、その自然科学の法則も「一定領域」のものでしかありません。自然科学の法則はこの自然界以外の領域では通用しないのです。

聖書の教えでは、この自然界は神様によって造られました。神様は自然界が造られるのに先立っておられ、自然の秩序は神様によって造られました。神様は自然の秩序というものを重んじられますが、神様ご自身は自然科学の法則に縛られることがなく、自然界を超えておられます。神様が天地万物を造られたという「創造論」は、自然界の法則からは説明できませんけれど、それは非科学的な作り話だからなのではなく、創造の業が自然の秩序に先立つ、科学の領域を超えた、神様の大きな御業だからです。

○「進化論」は「科学的」か？

この自然界の命がどのように生まれ出てきたかの説明で、「創造論」の対極にあるのが「進化論」です。学校で教えてくれる生命の歴史は「進化論」に基づくものです。最初はアメーバみたいな単細胞生物だったのが次第に進化し、今の人間にまで至った

という考え方です。どのように進化が起こるかという事について、「突然変異」と「自然淘汰」というような説明がされていますが、この「進化論」ははたして科学的なものでしょうか？

自然界の基本的な法則の一つに、「ものごとは放っておくと、ばらばらになるように動いていく」ということ(熱力学第二法則)があります。例えば、コップに砂糖を入れて水を注いで放っておくと、水の分子と砂糖の分子がばらばらになるように動いて、砂糖と水が混ざって溶けていきます。これは、規則正しいものよりぐちゃぐちゃのものの方が安定だということです。生物で考えてみましょう。どこが口でどこが足かわからないアメーバと私たち人間の体とどちらが安定でしょうか。先ほどの熱力学の第二法則から言えば、放っておいてぐちゃぐちゃなアメーバから規則正しく器官が分かれている人間ができてくることはあり得ません。言い方をかえれば、どこから力が加わって、ぐちゃぐちゃなものを規則正しい方向へもって行こうとしなければ、アメーバから人間へは進化し得ないのです。それが自然界の法則です。ですから、進化論は進化をもたらした力を説明できません。基本的な法則に反している「進化論」ははたして「科学的」なものでしょうか。

○なぜ人は「進化論」をとりたがるのか

「創造論は非科学的だ」と主張する進化論がけして科学的な考えではないことがわかりました。それでも、なぜ多くの人々は進化論を取りたがるのでしょうか。それは、神様の存在を認めようとしなからず、神様がいらっしやる事を認めれば、その神様が天地を創られた事はけして不思議な事でもなんでもありません。しかし、神様に従うよりは自分が神様みたいになりたい人間は、神様を認めようとしません。そのため、神様抜きで無理矢理つじつまを合わせようと、一見科学的で実は自然法則に反した「進化論」をとらざるを得ないのです。

私たちは、神様を知っています。胸を張って、天地は神様が創造されたと告白しましょう。

(祈り) 天の父なる神様。私たちは、あなたを認めようとしなない世の中で生きています。しかし、私たちがその中で、あなたがいらっしやることを確信し、あなたを天地の創り主と告白できるように、私たちの信仰を導いてください。

テキスト マタイによる福音書 10章 26 ~ 31節

主イエスが 12 弟子たちを選び、福音の使者として派遣されたおりに彼らにお語りになったみ言葉の一部です。主イエスは神の摂理のみ手を力強くお語りになって彼らを励まされます。

〔1〕福音を言い広めよ

10:1 以下には主イエスが 12 弟子たちを呼び寄せて、ご自身の権能をお授けになったことと、弟子たちのリストが記されます。

5 以下からは彼らを福音宣教師として遣わされるにあたって、主イエスがお命じになったみ言葉が続きます。16 以下には、彼らの派遣が「狼の群れに羊を送り込むようなもの」(16)であると言われ、彼らが迫害にあうのだということが明確に予告されています。しかしそうした中で、迫害者たちを恐れず、福音のみ言葉を隠さずに言い広めることこそが彼らの務めなのです。喜びのおとずれを告げる神のみ言葉は、覆うことも隠すこともできず、明るみに出されずにはいないからです(26)。

伝道者はみ言葉を宣べ伝えることをしないなら、迫害にあうことはありません。迫害はみ言葉の宣教にともなって起こってきます。世は依然として罪の世であって、悔い改めて主イエスを受け入れるよりも、主イエスを憎むからです。

しかし弟子たちが真に恐れるべきは、実は「体は

殺しても、魂を殺すことのできない」(28)迫害者たちではなく、「魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方」(28)、人を永遠の命と滅びとに定める権威を持っておられる唯一のまことの神なのです。

〔2〕「恐れるな」

けれども主イエスは彼らに「恐れるな」と仰せになります。彼らは迫害者たちを前にしても、恐れず大胆に語り続けることができるのです。真に恐れるべきお方が、彼らの味方であり、守り手であるからです。彼らはすでにこのお方から罪の赦しと永遠の命の祝福をいただいている者たちなのです。

「一アサリオン」という二束三文の値段で売られている「二羽の雀」という小さな被造物さえ、神の摂理のご支配のもとにあります。その一羽さえ、み心でないならば「地に落ちる」(29)、すなわち命を落とすことはありません。

まして彼らは「神にかたどって」(創世記 1:27)創造され、み子の尊い血潮をもって贖い取られた者たちです。万事を益として下さる(ローマ 8:28)神のよきみ手の中に守られていないはずはないのです。

そのことを信じるならば、弟子たちは神の摂理のみ手に信頼し、おのおのの命を委ねてみ言葉を宣べ伝える働きに専念することができるのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問13

ウェストミンスター小教理問答 問9、ハイデルベルク信仰問答問26～28

子どもカテキズム

問13 神さまの摂理のお働きとは何ですか。

答 今、私たちに働く、神さまの善いお力のことです。神さまのお許しがなければ髪の毛一本も落ちることができないほどに、神さまは私たちの父として私たちを守ってくださいます。ですから、健康も病気も、嬉しいことも悲しいことも、すべてのことが私たちの役に立つよう働くのです。

〈神の秩序に基づく営み〉

生けるまことの神は、主権者なるお方です。この神は、御自身の御心に従って、すべてを定めておられます(神の聖定)。神の聖定に基づいて、天と地とその中のすべてのものが創造されました。この天地創造において、神は、決してただ「物」を、「事物」を創造なさただけではありませんでした。天地創造とは、天地という「事物」が造られただけでなく、天地の秩序が打ち立てられた出来事です。すなわち、天地の営みは、決して偶然まかせではなく、神の秩序によって営まれています。この神の秩序に基づいて天地が営まれていることを、創造の御業とは区別される「摂理の御業」と呼びます。

〈神の秩序の目指すところ〉

摂理の御業は、いま私たちが天地に生かされる中で味わうことができるものです。詩編の詩人が「天は神の栄光を物語り、大空は御手の業を示す」(詩19:2)と讚美するのは、天地の秩序を維持する神の摂理の御業であり、この秩序を打ち立てた創造の御業を讚美する歌声でもあります。そして、この神の秩序は、聖定の目的を目指して方向付けられています。すなわち、私たちが神の三位一体の交わりの内に招き入れることです(7月29日のカテキズム研究を参照)。墮落の後にあっては、主イエス・キリストの贖いの御業によって罪人の救いを成し遂げ、私たちがキリストの命に生かすことです。天地を支配する神の全能の御力は、罪と墮落の悲惨に苦しむ私たちが罪の支配から救い出すことに注がれます。

〈摂理の信仰の確信〉

こうして、いま私たちが受ける摂理の御業は、一つには、神が主権者として、天と地とすべての被造

物を保ち、支配しておられることです。この神によって、「木の葉も草も、雨も日照りも、豊作の年も不作の年も、食べ物も飲み物も、健康も病も、富も貧困も、すべてが偶然によることなく、父親らしい御手によって、私たちにもたらされるのです」(ハイデルベルク信仰問答問27)。私たちを愛してくださる神、また主イエス・キリストによって私たちの父となってくださった神に、心から信頼します。

もう一つには、神がこの全能の御力をもって、私たちがキリストによる救いへと招き、キリストの命に生かしてくださることです。「わたしは確信しています。死も、命も、・・・他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです」(ローマ8:38-39)。この確信に導かれます。

〈神の御心に自らを重ねることへ〉

この信仰は、キリスト教を信じていれば、すべてが自分の思い通りになるとか、病気になるまいとか、困難や苦しみ、悲しみが無いということではありません。「すべてのことが私たちの役に立つ」とは、神の御心にかなって私たちの益となることです。私たちが神のものであることの信仰の確信です。

私たちは、摂理の神を信じることにおいて、生けるまことの神への心からの謙遜と服従を言い表します。神の恵みの支配を覚えて、神を讚美し、神に栄光を帰します。そして、こう祈るのです。「しかし、わたしの願うことではなく、御心に適うことが行われますように」(マルコ14:36)。摂理の信仰において、神の御心と私たちの自由意志が一つに重なります。私たちは、自らの身も心も神に捧げることへと導かれ、神の栄光の器とされるのです。

マタイによる福音書 10章 26～31節
子どもカテキズム 問 13

「畏るべきお方、摂理の神」

〔単元のねらい〕

神の全能の力、創造の力は、今ここにいる我々に働きかけ、生かして下さる。この神を信頼するなら、どれほど生きる勇氣、安心を与えられるかを伝えたい。神信頼を育みたい。

イエスさまは十二人のお弟子さん、12使徒を選ばれました。そして、この十二人にイエスさまの教え（福音）をあずけ、またイエスさまのお力をお与えになられて、イスラエルの人々の所に遣わされました。お弟子さんたちはこれまで、イエスさまと一緒に伝道していたのです。ですから、正直に言うとお弟子さんたちの心の中には恐れがあったのです。しかも、イエスさまはこんなこと迄仰いました。「私の愛する弟子たちよ。私はあなた方を伝道のために送ります。でもそれは、羊さんを癡猛な狼の群れに送りだすようなものです。」

お弟子さんたちは、どんな気持ちになったでしょうか。皆だったら、どうしますか。イエスさまと一緒に付いて行ってくださるなら、狼が何十匹も何百匹いてもちっとも怖くないでしょう。イエスさまは、天地を創造された神さまの御子なのです。この世界の中で、イエスさま以上に強く力のあるものなど何もないのです。でも、今、お弟子さんたちは、イエスさまから離れて伝道して行かなければならないのです。その時に、イエスさまがお弟子さんたちを勇気づけ、励ますためにお話くださったのが、今読んだ聖書の箇所です。

イエスさまは仰いました。「人々を恐れてはならない。」人間の中で、最も強い人は、権力者です。権力者というのは、自分が一番偉く、正しく、自分の気に入らない者なら、裁判にかけて殺してしまうことも出来る人、そのような人です。イエスさまの時代には、このような権力者がおりました。そればかりか、私たちの時代にも、世界にはこのような権力者がいます。日本でも、50数年前まではそのような権力者がおりました。イエスさまの時代には、イエスさまのお話をすると「そのような奴らは殺してしまえ」と命令する権力者がいたのです。ですから、お弟子さんたちは心の中で、恐れがなかったわけではありませんでした。けれども、そのような彼

らの心の中にはイエスさまが一番良くわかってくださっています。だから、仰ったのです。「人々を恐れてはならない。」イエスさまは仰いました。「本当に恐れなければならないのは、『そのような奴らは殺してしまえ』と命令して、体を殺してしまえる威張る人間だとか、お化けだとか、たたりだとかではありません。死んだあとで、地獄で滅ぼすことのできるお方、天地を創造し、これを支配しておられる真の神さまです。」

イエスさまは、仰いました。「二羽の雀は市場に行くとき、1アサリオンで売られていますね。」1アサリオンと言うのは、イエスさまの時代のお金の中で一番安いお金の単位でした。日本なら1円玉が一番安いお金ですね。でも、1アサリオンと言うのは、日本のお金で言うとき、500円玉位の価値があったかもしれません。でも、500円玉より、小さなお金はなかったのです。つまり、雀というのは、お肉の中で一番安いものだったのです。貧しい人達は鶏は食べられなくて、雀を食べていたのです。その雀は、一羽では売れなかったのです。何故なら、1アサリオンより小さなお金がないからです。だから、二羽で売られていました。それほど、安い物、それが雀です。

イエスさまは仰いました。「良いですか。私の愛する弟子たちよ。大切な大切な弟子たちよ。それほど、安い雀であっても、あなたがたの父、あなたがたの天のお父さまのお許しがなければ、地に落ちてしまつて死んでしまうことはありません。あなたがたのお父さまは、あなたがたの髪の毛の一本残らず数えておられます。神さまのお許しがなければ、あなたの髪の毛の一本でも落ちることはありません。心配したり、怖がつたりしなくても大丈夫。あなた方は、雀より神さまの愛を豊かに豊かに受けているのです。あなた方は神さまの子どもとされたのだから、雀以上に神さまが大切にしてく下さるのは

当たり前です。誰をも、何をも怖がることなどないのです。心配しないで。天のお父さまを、天のお父さまとして信じていなさい。」

僕たち私たちは今生きています。これから、何十年も生きて行くと思います。今は、お父さんやお母さんがいて、守ってくれます。でも、いつまでもお父さんやお母さんが一緒にいてくれるわけではありません。いつも健康でいられるとは限りません。病気になることもあります。いつも嬉しいことばかりがあるわけではありません。悲しいこと辛く苦しいことも起こってきます。けれども、そんな時にも、いえ、いつだって私たちの神さまが、信じる私たちにすべてのことが私たちの害にならないように、私たちの損にならないように、働いてくださるのです。病気のとき、悲しく辛いことでさへ、天のお父さまを信じるなら、それらが、私たちの害にはならず、私たちの救いに役立つ用にしてくださるのです。そのように神さまが働いて守ってくださるのです。

なぜなら、イエスさまはこう教えてくださったか

らです。「神さまは、あなたがたのお父さまなのです。神さまはあなたがたの天のお父さまなのです。あなたがたは神さまの子どもです。なぜなら、私は神さまの独り子、神の子です。このわたしを信じているあなたたちの心の中に、私は聖霊を注ぎました。皆さんの心の中には神さまの聖霊が住んでくださっています。信じている皆は、私のお陰で、神さまの子どもにしてもらっているのです。神さまは、皆のお父さまとして、毎日毎日守ってくださるのです。神さまより、強い力を持っているものは何にもありません。心配しないで大丈夫です。」

私たちは健康のときも、病気の時も、嬉しいときも、悲しいときも、神さまの摂理のお働き、今私たちをお守り下さる全能の神さまの良い力に守られて生きてゆきます。ですから、心から感謝して、これからも、「わたしの天のお父さま、私たちの天のお父さま」とお祈りしましょう。イエスさまのお陰でそのようにお祈りしてよいのです。僕たち私たちは今週も、毎日、イエスさまのお名前を通して、「天のお父さま」と呼びます。

今週の暗唱聖句

神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。

ローマの信徒への手紙 8章 28節

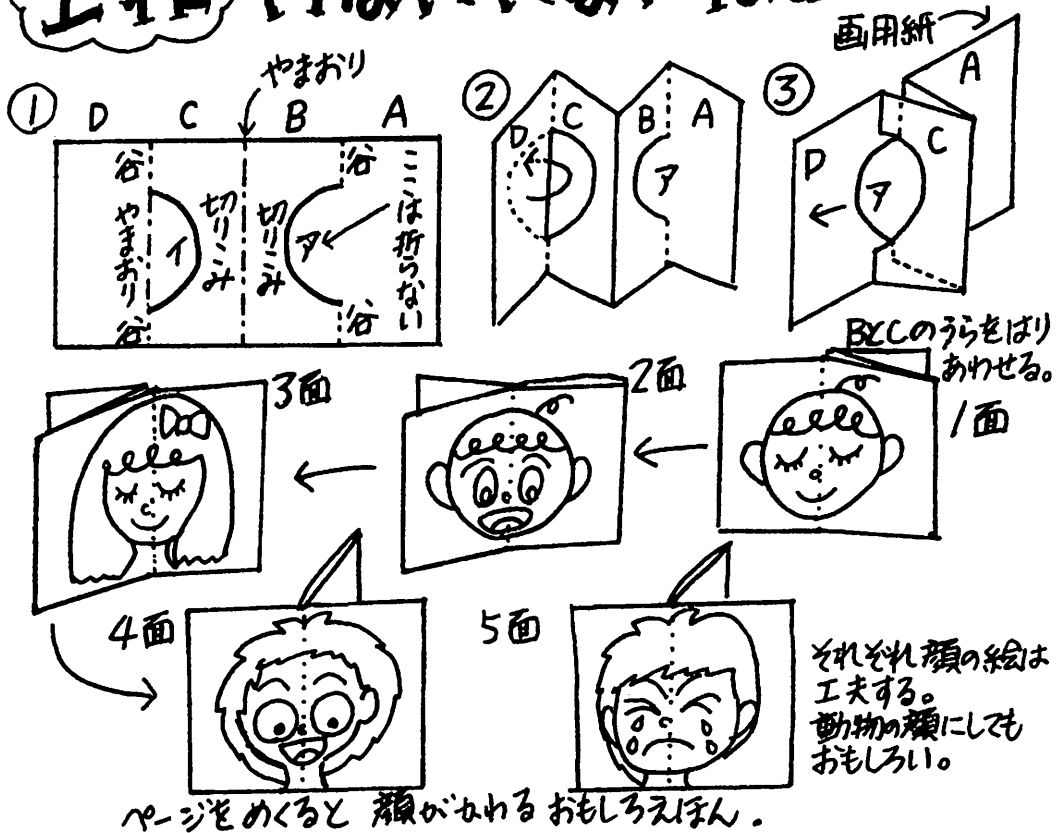
〈こどもへの質問〉

- Q1 イエスさまのお弟子さんたちは何人でしたか？
 そう、12人だったよね。
- Q2 みんなは自分の髪の毛が何本あるか知っていますか？ そんなこと分からないよね。でも、創り主なる神さまは、みんなの髪の毛一本一本を数えておられるんだよね。

〈祈り〉

天の父なる神さま。私たちは、嬉しいときも悲しいときもどんなときにも、神さまのお守りのうちにあることを感謝いたします。どうか、私たちがいつでも愛なる神さまを信じて喜ぶことができますように導いてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

工作 いないないなぱあ



〈目標〉 私たちを創造された神はまたすべてを支配したもう。神の全能を信じることで、また最善をなしてくださることを信じることによって、私たちは安心してその御手の中で生きることができる。

〈展開例〉

1. 神様の摂理の御業について考える。

先週は神様がこの世界を造られたことを学びましたね。神様はそのあと、時計のネジを巻いて放っておくように何もしておられないのでしょうか。いいえ、神様の手で造られたこの世界は創造されたときからずっと神様の手の中で動かされ、支配されています。もしも神様がこの手を離されたら、たちまちこの世界は壊れてなくなってしまうでしょう。

神様の力が及ばないものは何もありません。

- ①宇宙のはてであつても
- ②自然のどんな力も（雨も雷も地震も洪水も）
- ③大きな動物から目に見えないバイ菌までも
- ④世界の国々も
- ⑤人間が生まれる前から死ぬまでも
- ⑥人間の失敗、成功、病気も
- ⑦悪い人の計画や思いさえも
- ⑧偶然とかたまたまとかいわれるようなものでも
- ⑨遠い未来や時間さえも

すべて神様の手からまれるものは何もありません。恐れるべき御方はこの方お一人だけです。それは、すべて、神様の栄光があらわされるためです。

「すべてのものは、神から出て、神によって保たれ向かっているのです。栄光が神に永遠にありますように。」（ローマ 11章 36節）

2. 私たちの生き方

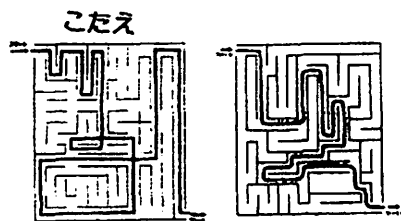
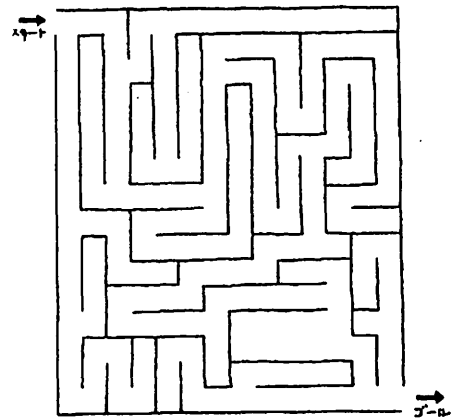
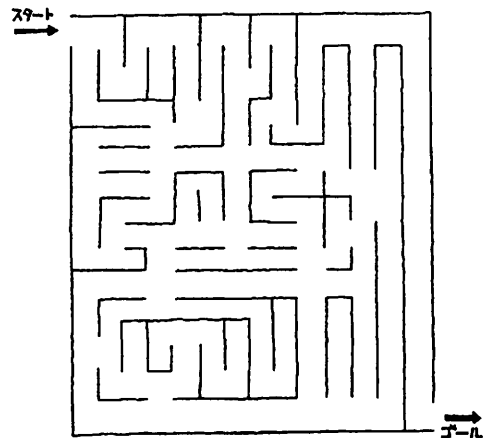
すべての支配者であられる神様はまた私たちを愛してくださる神様でもあります。私たちがなぜと思うことでも、神様はその理由をご存じです。イエス様をくださったほどに私たちを愛してくださる神様は私たちにもっとも良い道を用意してくださるのです。だから私たちはどんなときでも、この神様を信頼して安心して生きることができるのです。

「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています。」（ローマ 8章 28節）

1と2の聖書箇所を開いて読んでもらう。

3. ゴールはどこだ（迷路に挑戦）

私たちの人生は迷路のようなものかもしれません。ゴールが見えないときもあります。迷子になるときもあります。でも神様がちゃんとゴールへと導いてくださいます。



〈祈り〉

天のお父さま、私たちを力強い御手でいつも導いて下さりありがとうございます。神様以外に私たちが支配するものが何も無いことを感謝します。どんなときにも神様に守られていることを忘れることがありませんように。

〈目標〉

摂理の神様を畏れ信頼することを覚える。

〈指導上の注意〉

摂理の御業とはどのようなものか、生徒ともに考える。

〈展開例〉

次のポイントを押さえつつ、今日のお話の確認のために、生徒と対話をしつつ一緒に考えましょう。

- ・ 神の摂理の御業とは何か。摂理とは神様が永遠のご計画に従ってこの世に働かれること。
- ・ この摂理によって、すべて創られたものは、動かされている。しかし、ロボットのようにではなく、とりわけ人間には意思の自由を与えられた。
- ・ 神様以外によってこの世が支えられているのではない。
- ・ この摂理の御業によって神様は創造の世界や、私たち人間に関わってくださる。
- ・ 摂理の御業は私たちのためのものであり、神様は摂理の御業を通して私たちを守り育ててくださるのである。

〈ワーク〉

1. 神様はこの世界をお造りになるとき、あらかじめ全てのことをお決めになりました。神様は、その御計画に従って支配しておられます。その神様の支配、神様がこの世に関わってくださることを何というのかな？
2. 神様が支配しているこの世界で、神様の支配に逆らって存在できるものはあるのかな？
ヒント＝マタイ 10:26-31
3. ある聖書のローマの信徒への手紙 8:28 が虫に食われて読めなくなってしまいました。読めなくなっているところを書いて、分級の先生に教えてあげてください！
「 を愛する者たち、つまり、 に従って召された者たちには、 が となるよう共に働くということ、わたしたちは知っています。」

〈ワークの答え〉

1. 摂理 2. ありません。
3. 神、御計画、万事、益

〈目標〉私たちが神様から離れないように導いてくださる、神さまの摂理のお働きに感謝する。

〈指導上の心得〉7月29日の学びをさらに発展させて、自分にとって悲しいこと、つらいことも、神様がわたしの益のためによしとしてくださったことを覚えて、神様の摂理の働きが、気まぐれでも、いじわるでもなく、私たちを深く愛しておられるゆえのものであることを知ることができるように。

〈展開例〉【読む】教理問答問 13. 病氣や悲しいことも私たちの役にたつよう働くとはどういうことでしょうか。【考える】Q1. 風邪をひいて熱が出ました。あなたは嬉しいですか。(ひよっとして学校を休めるから嬉しいと思う人がいるかも知れません。でも熱で体がぐったりする、体の節々が痛い、喉も痛い、だんだん寝ていることが嫌になる、早く元気になって外にいきたい、遊びたい。たいいていみんなこう思うのですね。やっぱり健康がいいと。病氣は誰でも嬉しくありません。でも病氣によって、神様がくださる健康の大切さを思いだすことができるのです。) Q2. あなたは、運動会のかげっこで、勝ちたいと思っ

ていた人に負けてしまいました。嬉しいですか。(悔しいですね。誰でも負けるのは嫌なもの。でも勝つと自慢したくなり、いばりたくなります。いばること、じまんすることは多くの敵をつくるばかりか、自分の心を神様から離れさせるからです。逆に負けると、心が謙遜にさせられます。負けによって、取るに足らない自分を知り、ますます神様により頼む人とされるのです。がんばって勝つことはすばらしい。でも負けることも、勝つことと同じくらいすばらしいのです。勝つにも負けるにも、神様をほめたたえましょう。) 【読む】こどもカテキズム問 1. 結局一番大切なことは、まことの神様を知り、神様を喜び、神様の栄光をあらわすことなのです。神様はみなさん一人一人を愛しておられるので、みなさんの心が、神様から離れないように、時には病氣を、時には敗北を、時には勝利を与えられるのです。あなたに起こることはなんであれ、神様の栄光があなたに現れるためなのです。

〈祈り〉わたしに起こるすべてのことが、わたしの役に立っていますことを感謝いたします。

〈目標〉この天地を創造された神様は、今に至るまで、また永遠に、この天地を保持し支配しておられる。その神様の大きな力の中に私たちもあり、それは私を救いに導く力でもある。

〈展開例〉先週、神様がこの天地をお造りになったということを学びました。創世記 2:2 には、神様は「創造の業」を6日間で終えられ、7日目に休まれたと書いてあります。それでは、7日目の休みの後、神様はどうしておられるのでしょうか。ずっと、そのまま休みっぱなしなのでしょうか？

○保持し支配される神様

神様は「創造」の仕事はもうお終いにされましたけれど、けしてそのまま天の上でグーグー寝ておられるわけではないのです。

私たちが例えば「ミニ四駆」を作ること考えましょう。私たちは、神様のように「無」からではなく、キットやいろいろな材料を使ってミニ四駆を作ることができます。その後、私たちはそのミニ四駆をどうするのでしょうか。レース場の坂の上に置いて、後は自由にころがっていけ！と手を離して転がり落ちるままにするのでしょうか？ そんなわけはありませんね。十分に整備して、悪い部品は交換し修理して、いつでもレースに出られる様にします。また、レースに出る以上は勝ちたいですから、いつも最高のコンディションになるように注意します。

神様も、ご自分のお造りになった天地をそのまま放っておかれるわけではありません。自然の法則に従って好きなようになればいいと、高見の見物をしておられるのではないのです。神様は、「造る」ということは6日間で終わられましたけれど、その後もずっと、今でも、天地が無くなってしまわず（保持）、いろいろなことがうまく調和をもって起こり進んでいく（支配）ために働いておられます。今日の聖書箇所にあるように（マタイ 10:29）、1羽の雀にさえ、その存在には神様の力が働いているのです。

○私たちに働く神様の力

もしこの天地が自然の法則にだけ従っているのなら、この世や私たちに働き支配しているのは自然法則であり、神様は必要なくなってしまいます。「科学が万能ですべては科学で説明できる」と考えている現代の多くの人々にとっては、自然法則が神なのです。これは、先週お話しした進化論と創造論のこと

と同じなのですが、神様がいらっしやると認めるか認めないかの違いなのです。

私たち人間は、神様に従うより自分が神様みたいになりたいと思う「罪」ある存在ですから、自分から神様を認めようとはしません。神様から目をそむけようとしています。しかし、私は神様がおられることを認め、こうして教会に来ています。神様がおられる事を信じる私たちにとっては、神様が御言葉によって造られた天地を守りコントロールしておられることは、「創造の働き」と同じように確かな事なのです。それならば、この世界で起きる事には「偶然」ということはないことがわかるでしょう。私たちの目に偶然と見えることさえ、神様の力によって起こることなのです。神様は小さな雀や野の草（マタイ 6:30）でさえ、その力のもとに置いてくださいます。そして、雀や草などよりもっと神様に愛されている、神様の子どもとしていただいている私たちにも神様の力はしっかりと働いているのです。

私たちに起こるいろいろなことは、私たちの目から見れば良いことも悪いこともありますけれど、すべてが私たちを神様のもとに導くように計画されて起こっているのです（ローマ 8:28）。

○神様の力の中にある恵み

神様がこの天地を完全なものとしてコントロールするという御心は、この世界の管理を任された人間が神様の御心ではなく自分の欲望に従ったために、ないがしろにされてしまいました。このことが、私たち人間が神様に対して負っている負い目、罪なのです。しかし、私の「罪」を神様はそのままにしておかれません。私たちはこうして教会へ来ています。神様が私たちを救いへと導いておられるのです。

私たちを救いに導く事が神様の御心であるならば、神様の御心に従って支配されているこの世の中のどんなものも、私を救いの十字架から引き離す事はできないのです（ローマ 8:38,39）。

神様の大きな力は、私を救いに導く事にも発揮されるのです。

〈祈り〉天の父なる神様。今日は、あなたが天地のすべてをお造りになった後も、それを保ち支配しておられるということを学びました。その御力が私の上にも働いて、私を救いに導いてくださることを確信できるようにしてください。

テキスト ヨハネによる福音書9章1～12節

主イエスが生まれつき目の見えない人を癒された記事です。ヨハネ9章の全体が、人間にとって真に「見える」とはどういうことであるのかを主題に展開されていきます。

(1) 人の目を遮るもの

主イエスは通りすがりに、生まれつき目の見えない人を見かけられます。その時弟子たちは主イエスに、この人が見えないのは本人の罪か、それとも両親の罪かと問います(2)。

当時のユダヤ教には、神は完全であるので、完全な人間こそが神のお眼鏡にかない、不完全な人間は(本人か両親の)罪の結果の表れであって、神の呪いを受けているという考え方があって、弟子たちもこの思想に影響されていたものと思われます。

このような因果応報的な考え方は、当時のユダヤのみならず、世に広く行き渡っているものです。私たちの周囲にも根強く見られるものです。このような考えから抜け出すことができずに悩み苦しんでいる人々は数多く存在しますし、こういう考え方を説いて、人々の苦悩や弱みにたくみにつけ込む宗教のことも耳にします。主イエスのみが因果応報の思想から真に人を解き放つことができになります。

ただこの聖書箇所は、病や身体的不自由への偏見から長く苦しんできた人々のみに特別に語られるべき箇所では決してありません。

ここで目が見えないということは、決して肉の目が見えないということにとどまるのではなく、霊の目が見えないということをも意味します。そして、始祖アダムにあってすべての人は罪ゆえに真に神を仰ぐ霊の目が妨げられており、真の神と偶像の神々を取りかえてしまう悲惨の中にあります(ローマ1:18以下)。神が見えない時、人は自分を神の座に

まつりあげ、そこで深刻な罪を犯します。

ヨハネによる福音書は、主イエスとユダヤ人たちの対立を繰り返し語ります。ユダヤ人たちは、主イエスが、肉となった言(1:14)であられることに躓き、神を冒瀆する者として石打ちにしようとし(8:59)、これこそ、彼らが「見えない」ことのしるしです。

「生まれつき目が見えない」のは、この人だけのことでありません。上のような意味で、私たちの誰もがそうなのです。

(2) 神の業が現れるため

弟子たちの問いに主イエスはお答えになります。「神の業がこの人に現れるためである」(3)。

神の業が現れるとはどういうことでしょうか。ここでは、この生まれつき見えなかった人が主イエスによって癒されることによって、十字架の赦しと復活の命の恵みが先取りして示されたということにほかなりません。ここで「誰の罪でもない」と仰せになるお方は、やがて私たち罪人の罪を背負って十字架に赴かれます。

主イエスの十字架と復活のみわざは、罪ゆえに神が見えず、因果応報論の悲惨の中になんじがらめにされていた私たちの霊の目を開いて、真の神礼拝を回復させ、主の真理によって自由にして下さいます。そのことを鮮やかに証する証人として、この人は主に用いられたのです。11章にはラザロの甦りの出来事も記されていますが、ラザロと同様に、この人もまた罪の赦しと復活の命の恵みを、人々に身をもってさし示したのです。

この人に与えられた「見える」ようになる恵みを、主イエスは私たちにも与えて下さったのです。

子どもカテキズム

問14 運が悪いと言ったり、占いを気にしたり、たたりを気にすることはできますか。

答 私たちにはできません。神さまより大きく強いものはないからです。父なる神さまは私たちを愛してくださるのです。ですから、たとえひとりぼっちでいてもこわくありません。そんなとき、私たちは、「天のお父さま」とお名前をお呼びします。お祈りすると、神さまが一緒にいてくださることがわかるのです。

〈神のかたちとしての本来的な姿〉

私たち人間は、自らの存在の根拠を求め、また生きる目的を求め、将来の希望を求めます。これは私たちが神のかたちに造られ、霊的な存在として造られたからです。神のかたちに造られた存在の本来的な姿です。そして、キリスト者は、生ける神を信じる信仰と、世界が救いへと導かれていることを前提として、将来を見通し、生きる拠り所を求めます。

〈神を認めない人間の知恵〉

私たちの周囲の世界は、生けるまことの神を知りません。それ故に、生きる指針、生活の拠り所をさまざまなこと求めます。存在の根拠、生きる目的、将来の希望をまことの神以外に求めます。

たとえば、運命論があります。これは、世界が偶然に支配されていると考えます。それ故、世界の方向性は示されず、存在の根拠や目的も示されません。運命論と表裏の関係にあるのが因果応報論です。原因と結果の鎖によって物事を理解しようとし、原因は、自分の過去をさかのぼるばかりではなく、前世や先祖へとさかのぼり、現在の状況の原因を他者に帰します。これらは、一面においては真理です。人間の目では、原因は結果をもたらす、物事は偶然に左右されます。しかし、人間の知恵に過ぎません。

これら人間の知恵は、一面の真理を示しているに過ぎず、そこから生きるための知恵、生きる勇気を汲み出すことができません。むしろ、人間の知恵に生きる土台を据えることは、私たちに、自らの責任を放棄させ、生きる主体性を失わせます。運命論も因果応報論も、いずれにせよ原因を他者に帰して自らの責任を認めないこと、また現状をあきらめることへと至らせます。あるいは、過去や偶然によって人間の現在と将来を拘束しようとし、

占いも、人間の知恵の形態の一つです。多くの場合、占いは人間の経験を統計的に処理した結果に基

づいています。経験の集積ですから当たるのです。それを神秘的な装いによって、また偽りの神々の名によって、人々に提示します。もちろん、偶然に身を委ねる占いもありますが、いずれにせよ自らの責任と主体性によって生きることを放棄するよう求めます。ここに、人間の知恵の特徴があります。たたりなども、人を恐れに陥れて、勇気をもって生きようとする人間の主体性を奪うものです。

これらは、人間の経験のみによって導き出された、神を認めない知恵です。神を認めない人間の知恵には、真の意味で私たちに知恵と勇気と力を与え、私たちが命を生かすことはできません。

〈人を命に生かす聖書の信仰〉

聖書は占いも運命論も因果応報論も認めません。私たちは生ける神の恵みの支配のもとに置かれています。因果応報論が真実ならば人の滅びは絶対です。人は罪の故に死ななければなりません。しかし、神は主イエス・キリストにおいて罪と死の支配の鎖を打ち破りました。キリストによる救いが与えられています。ここに運命論も因果応報論も占いも打ち破られました。福音は、私たちに真実の解放をもたらします。福音は、神以外の何ものによる支配も認めません。最近では、染色体やDNAがすべてを定めていると言われます。もちろん、科学的な意味ではそのとおりでしょう。しかし、人間が生きていう意味において、それは決して真実ではありません。

神がお与えくださった命は、決して貧相で小さなものではありません。生き生きとした豊かなものなのです。神は人間に神の御心に従う自由な意志をお与えになりました。人間は、神の栄光の舞台である天地において、神との交わりの中で、自らの主体性と責任によって、命の光を輝かすのです。私たちは、神を信頼し、同時に自らの主体性と決断によって、この地上を生き抜きます。神はそれを喜ばれます。

ヨハネによる福音書9章1～12節
子どもカテキズム 問14

「生まれつきの盲人、摂理の神」

〔単元のねらい〕

摂理の教理の続き。なかでも、運命論、占い、たたりなどへの誘惑をあらゆるメディアから受けている日本の状況のなかで、子どもたちの心に、全能の神、創造の神への信仰に基づく、摂理の神への信頼を深めたい。分級では、誘惑にどっぶりつかっている未信者の子どもがいるかもしれない。厳しい態度でやめさせたい。しかしそのためには、その根拠となる創造と摂理の神を知る利益を鮮明にできるように。祈り備えましょう。

ある日の事、ある町の通りをイエスさまが歩いておられます。その通りの道端に一人の男の人が座っているのが見えました。何をしていますのでしょうか。何か声がしています。ぼそぼそと、小さな声で何か話しています。「どうぞ、お患みを。どうぞ、お金を下さい。私は目が見えません。あなたがお金をチャリンと落としてくれると私の心の目は、明るくなります。どうぞ、チャリンとお願いします。」そうです。目の見えない人が、道行く人にお金を求めて座っていたのです。その光景を見ていたお弟子さんたちがイエスさまに尋ねました。「先生、この人が生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからでしょうか。本人ですか。それとも両親ですか。」

皆さんは、お弟子さんの質問の意味が分かりますか。お弟子さんは、このような考えをもっていたのです。生まれながら目が見えない人、病気をもって生まれてきた人、不幸な事が続けて起こる人、そのような人は、その人自身が何か罪を犯したせいだ。そうでなければ、その人の両親が神さまに対して罪をおかしたから、神さまの罰を受けているのだ。

皆さんは、人間は生まれ変わって行くという話を聞いたことがありますか。「前世」とか言います。この世に今生まれる前に、昔、犬であったり、猫であったり、あるいは、悪い人間であったり。とにかく、今の自分は誰かの生まれ変わりだということです。でも、それは、まったくの作り話です。そのように言う人達は、例えば、生まれながら目の見えない人がいたら、「その人は今こうして生まれて来たその前の時にとても悪いことをしでかしたから、この今の世で、罰を受けているのだ。」そんな風に言うのです。それは、なんと悲しい考え方、恐ろしい考え方でしょうか。ずーっとそんな風に言われて来た、この男の人の心は一体どんな気持ちだったのでしょ

うか。この人はお父さんお母さんからも捨てられ、見放されていたようなのです。皆、この人の心の中の気持ちを考えてみて下さい。一体どれほどの心の悲しみがあつたでしょうか。毎日泣きたいような辛い気持ち、なんで自分は生まれたときから目が見えないんだ、憤りがあつたのではないかと思います。

イエスさまは、そのように考えているお弟子さんに対して、直ぐに、そしてハッキリと仰いました。「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもありません。人間が何度も何度も生まれ変わって行くなんて事はありません。何よりも、生まれるまえから、この人の罪があるから目が見えないではありません。勿論、お父さんやお母さんが罪を犯した罰が子どもに当たったというのでもありません。」

それなら、イエスさまはこの男の人をどうなさるのでしょうか。イエスさまは仰いました。「神さまの業がこの人に現れる為です。」先週、摂理の神さまのことを学びましたね。今生きておられる愛の神さまが、信じる私たちに働きかけてくださる善いお力のことでした。さあそれなら、この人の上に、神さまの善いお力はどのように働くのでしょうか。イエスさまはそう仰った後ですぐ、その場にしゃがみこまれました。そうして、地面に唾を何度か吐きかけ泥をつくられました。お弟子さんは「あれー、イエスさまは一体何をなさっているのかなあ。」とても不思議に眺めていました。するとどうでしょう。イエスさまは目の見えない人の目に、その土をお塗りになられました。そして『シロアムの池』に行つて洗いなさい。」と命じられました。

皆だつたらどうしますか。「わー、汚い。なんてひどいことをするんだろう。」そう思いますか。でもこの男の人はそう思いませんでした。「この人は、

僕のことを心配してくださっている。僕が悪くてこうなっているんじゃない、親が悪くてこうなっているんじゃないと言ってくれた。嬉しいな。よし、この人の言われたとおりにシロアムの池に行こう。」彼はさっと、立ち上がって、道行く人にたずねたずねしながら、そのシロアムの池に向かいました。そして、言われた通り洗ってみます。するとどうでしょう。だんだん目の前が明るくなります。今まで、真っ暗だったのに、何かぼんやり明るくなって来ました。しばらくすると、目の前に今まで見たことのない世界が広がりました。水が見える。池が見える。空が見える。木が見える。人間の姿が見える。彼は、嬉しさのあまり叫びだしました。「わー。見える、見える、目が開いた。やったー」そう言って、自分のいたところに戻って来ました。

イエスさまは、神さまの御子です。来週学ぶことですけれど、神さまは天と地を創造され、人間を土の塵からお造りくださったのです。だから、イエスさまは、泥を目に塗られたのです。つまりそれはこう言う意味をもった振る舞いなのです。「私は、あなたを造った神です。私があなたをもう一度、新

しくつくりかえてあげます。それが出来ると信じなさい。私が言う通りにしてご覧なさい。」そして、この人はイエスさまの仰る通りにシロアムの池に行って洗ったのです。こうして、神の善いお力を受けることが出来たのです。

シロアムと言う名前の意味は、「遣わされた者」という意味です。遣わされた者とは天のお父さまから地上に遣わされたイエスさまの事を表しています。今、近くにシロアムの池はありませんが、イエスさまはここにおられます。誰でも、イエスさまを信じれば、その人は、天のお父さまの善き力を受けることが出来るのです。摂理の神さま、天のお父さまのお守りの中で生きれます。

ある小学生は、「今日は占いで悪いことが起こります。あんまり出歩かないように」とマンガの本で読んだので、一日中、怖がってお家にいたそうです。私たちは、そんなことは信じません。怖がりません。何故なら、イエスさまがいつも一緒にいてくださるからです。天のお父さまにお祈りすれば、神さまと一緒にいてくださることが分かるのです。

今週の暗唱聖句

わたしは、とこしえの愛をもってあなたを愛し
変わることなく慈しみを注ぐ。

エレミヤ書 31章 3節後半

〈こどもへの質問〉

Q1 生まれつき目が見えない人は、誰かが悪いことをしたから、そのようになったのでしょうか？

いいえ、それは、誰かが悪いことをしたからではなく、神さまのわざがこの人に現れるためだったよね。

Q2 イエスさまは、目が見えない人の目に泥を塗って、「シロアムの池に行って洗いなさい」とおっしゃいました。そして、イエスさまのおっしゃるとおりにしたその人は、どのような人になったのでしょうか？

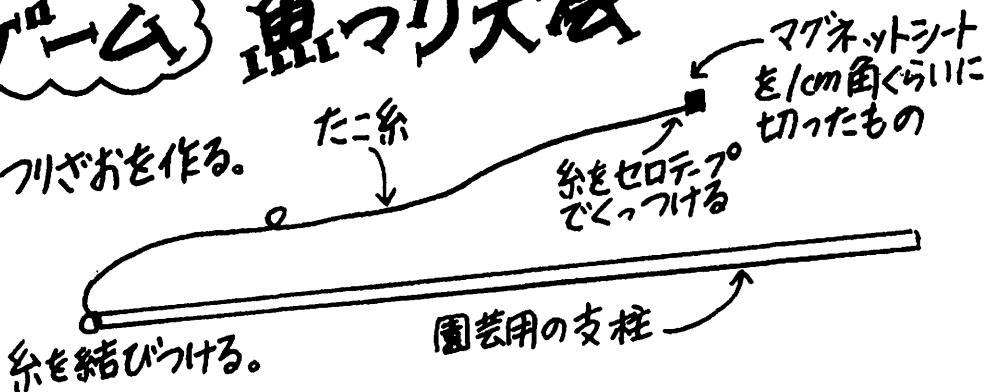
そう、何と、見えなかった目が見えるようになったんだよね。

〈祈り〉

天の父なる神さま。どうか、いつも私たちと一緒にいてください。そして、目が見えるようにしていただいた人のように、私たちの見えない心の目を見えるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

ゲーム 魚釣り大会

① フリざおを作る。



② 魚やいかなどを作る。

金属クリップを口もとにつける。

色画用紙に魚などの絵をかいてはさみで形を切りとる。たくさんつくとおもしろい。



③ みんなで魚つりを楽しもう!

〈目標〉

私たちの人生を支配しているのは運命でもたりや占いなどの力でもない。すべてを支配し導いておられる摂理の神は、私たち一人一人に御自身の御わざがあらわされるための御計画を持っておられる。

〈展開例〉

1. レーナ・マリアの話

皆さんはレーナ・マリアという人を知っていますか。彼女は生まれたときから両腕がなく、左足は右足の半分の長さしかありませんでした。レーナが生まれたとき、お医者さんからこのことを聞いたお母さんはこう思いました。「神様はどうして私の赤ちゃんにだけ、こんなひどいことをなさるのでしょうか。何か私がとんでもない悪いことをしたのでしょうか」と神様をうらまずにはいられない気持ちでした。でも、赤ちゃんを見たときそのかわいさに自分の考えが間違っていたことに気がつきました。

レーナには手がないので足でご飯を食べたり洋服を着たり、絵をかいたりします。一人で足を使っていろいろなことができるために、何回も何回も練習を続けなければなりません。コップから水を飲むという私たちには簡単にできることでも、レーナにとっては大変なことです。右足でコップをテーブルの端まで持ってきて、口でコップをかたむけて飲むということがするために、どれだけ練習を繰り返したことでしょう。でもレーナは頑張りやでいろいろなことがとんとんできるようになっていきました。「あるとき、学校でレーナは友達から「一本足、一本足」をからかわれました。けれどもレーナは平気でした。小さい頃からお父さんやお母さんに「あなたは大切な者。あなたの体は神様からの特別なものです」と言われていたので、自分の体がみんなと違っていることを悲しいと思ったり、落ち込んだりしたことは一度もなかったからです。

レーナは3歳のときから体の訓練のために水泳を始めました。だんだん上手になってもぐったり、泳いだりできるようになりました。18歳のときには世界の大きな水泳大会で金メダルを4つももらいました。また歌を歌うことも大好きでした。歌だけでなく、足でピアノを弾き、歌をつくることもしました。その美しい歌声は聞く人々の心を打ちました。

レーナは今、歌手となり神様を賛美する歌を歌うために世界中を回っています。レーナが歌う歌は多くの人々に感動を与えています。

レーナはこう言っています。「両親はいつも私にこう話してくれました。私には神様の特別な御計画があって他の人とは違う形に造られたのだと。ですから私は、この特別な体を神様のために使っていただきたいと思っています」

レーナの歌は語ります。「どうしてあなたはそんなさびしそうな顔をして空を見ているのでしょうか。小さくてなんの価値もないような雀にだって、心から愛の目をとめられるイエス様が、私たちの友だちでいてくださるのをご存じないのですか。私はうれしくて、大きな声で歌わないではいられないのです。小さな一羽の雀さえ愛して守ってくださるすばらしい神様！」

私たちの人生を動かしているのは、占いや運命、何かの罰があたったというようなものではありません。レーナだけでなく、神様は私たち一人一人に御計画を持っておられます。それは神様のみわざがあらわれるための御計画です。

2. レーナ・マリアの歌があれば、一緒に聞く。

また、写真などがあれば見せる。レーナの生き方について感想を話し合う。



友だちとお絵かきをするレーナ、6歳

〈祈り〉

天のお父さま。いつも私たちを愛し、導いてくださることを感謝します。私たちの目を開いて、神様のことがよくわかるようにしてください。そして神様をほめたたえて生きることができるよう。

〈目標〉

私たちに起こる全てのことは、神様が私たちに益となるようにご用意下さっていることであることを覚える。

〈指導上の注意点〉

どのような方法によっても神様の御意志や、ご計画を人間が知ることはできないのであるという認識を指導者は自分の内に新たに確立させる。

〈展開例〉

次のポイントを押さえつつ、今日のお話の確認のために、生徒と対話をしつつ一緒に考えましょう。

- ・自分の将来のことなどを知りたいと願うが、それを知ろうとして、占いをすることはよいことか。
- ・ではそれはなぜいけないのか。神様が禁止しておられるし、神様の御業ではないから。
- ・神は全てを私たちの救いとなるようにご計画を立ててくださっている。それは運命ではない。神様に信頼をおいて従っていくべきである。

〈ワーク〉

1. 今日のお話しに出てきた人の目が見えないのは、誰かの罪のためだったのかな？ それとも別の理由があったのかな？ 答えを次から選んでね。
 - a. お父さんやお母さんの罪
 - b. 他の先祖の罪
 - c. そんなのは関係ない！ 神様の栄光が表されるため！
2. 僕たちに運命とかがあってあるのかな？ みんなで考えてみよう！ 全ては神様のご計画。神様はもっと先のことまで考えてくださっている。
3. もしこの男の人が占いとかが、魔術に頼っていたらどうなっていたと思う？
3. エレミヤ書 31:3 の後半を書いて覚えよう！

〈ワークの答え〉

1. c 2. 運命ということではない。

〈目標〉 占いなどを求める心理をみつめ、神に向き直ることによって、何が起っても動じない、強さをいただく。

〈指導上の心得〉 すぐろくを通して、順境にあっても、逆境にあっても、信じる者はみな神に守られ、天国へいけるという神さまの変わらない愛を確認する。またゲームの結果は占いではない。不幸のマスにたくさん止まってしまって、何か不吉な思いにさせられるかもしれない。私たちの心には、将来に対する不安が根強くある。それが占いや姓名判断に頼る原因である。人生何が起るか分からない。しかし万事を益としてくださるまことの神により頼むことによって、何が起っても動じない強さを必ずいただくことができる。すぐろくを終えたら、必ず祈りをもってしめくろう。

〈展開例〉【ミニ人生ゲーム】(1) 準備：①スタートとゴール(天国)と100個のマスを描く。マスには年齢を示す数字を100まで書く。赤いマスと青いマスをランダムに10個づつ作る。赤いマスは一見不幸と思われること(交通事故・癌・受験失敗・

10万円を落とす・けんか・就職失敗・無気力・失恋・落第・地震で家を失うなど)を書き、青いマスには一見幸福と思われること(学年で成績トップ・クラスの人気者・美人(ハンサム)な恋人・宇宙旅行・アメリカ留学・有名スポーツ選手・有名タレント・お金持ち・大きな家・仕事で成功など)を書く。100歳マスは必ず止まり、クリスチャンになるマスとする。(2) ルール：赤マスに止まったら1回休み。ただしこの1回休みは人生を見つめ直すための休みで、ペナルティではない。青マスに止まったらもう1回サイコロをふることができる。ただし2回目をふるとき、「感謝します」と言わなかったら、一つ前の青マスにもどり1回休み。神さまを忘れた時思わぬ落とし穴が待っている。全行程を通じて、最初の6が出た時にクリスチャンになる。(コマをかえるとよい)。6が1回も出なかった人も、100歳マスで必ず止まり、クリスチャンになる。こうしてさまざまな人生を通りながらも、皆天国へ行ける。

〈祈り〉 万事を益としてくださる神様。将来何が起っても動じない、強い心を、お与えください。

〈目標〉ただ一人の神様だけが天地を支配しておられるので、私たちは占いやまじないに心を乱される必要はないし、縁起をかつぐ必要も無い。神様への全面的な信頼が私を支える基本である。

〈展開例〉皆さんは、「占い」を気にしたりする事がありますか？

○占いを気にしたり縁起をかついだり

占っているんなどころにありますよね。「星占い」のページがある雑誌はいっぱいありますし、「今日の運勢」が載っている新聞もあります。信じてはいないけれど、ちょっと気になる。良いことが書いてあったらうれしくなったり、悪い事が書いてあったら「今日はちょっと気を付けよう」なんて思ったりしませんか？ それと、これはみなさんのような若い人たちには少ないかもしれませんが、大人の人たちの中には「大安」とか「仏滅」とかいうのを気にして「今日は縁起がいい」とか「今日は日が悪い」とか言って、予定を変えたりする人たちもいます。これらのことは、ごくごくあたりまえのこととして行なわれていますし、多くの人々が「信じてはいなくても気にしている」のではないかと思います。

しかし、神様はそんな占いやまじないなどを喜ばれません（レビ記 19:26、民数記 23:23）。そのことを最初に覚えておきたいと思います。

○なぜ、人は占いにひかれるのか

それでは、どうして私たちを含めて人は「占い」等に心をひかれるのでしょうか。それは、不安だからです。何かに支えていてほしいと願っているからです。では、なぜ不安なのでしょう？

私たち人間が造られたときのことを思い起こしましょう。人間が造られた目的は、神様に従って地球上の生き物を治めることでした（創世記 1:26-28）。しかし、最初の人間は「神様みたいになれる」という悪魔の言葉にそそのかされて（創世記 3:4）、神様の命令に背いてしまったのです。それ以来、人間は本当の神様を思わず、自分自身を神様のように思って自分に頼ってきたのです（フィリピ 3:19）。

もちろん人間は神様ではありません。神様は「無限・永遠・不変」の方ですが、人間の力には限界があり、寿命にも限りがあり、変わらないことなどありえない者なのです。神様はいつでもいつまでも信頼し続けることのできる方ですが、人間はそういう

わけにはいきません。自分自身を神とするということは、本来頼りにならないものを頼りにしようとする事です。だから、人間は不安なのです。他に頼るものがほしくて、占いやまじないが気になったり、縁起をかついだりするのです。逆に言えば、占い等に心ひかれるのは、本当の神様を神様として信頼していない、ということになるのです。

私たちが神様を信じていると言いながら占いを気にしたりするのであれば、私たちは実は心に不安を抱いているということであり、何でもできる神様に全面的な信頼を持っていないということです。そんなことを神様が許されるわけがありません。

○神様への全面的な信頼

神様が私達に求めておられるのは、全面的な信頼です。神様はすべてを支配しておられる力ある方であり、その大きな力は私を救いに導くためにも働いています。神様は私たちの信頼に応じて余りある方であり、私たちの信頼を裏切る事のない方です。私たちは、神様を全面的に信頼して良いのです。

しかし、私たちは、神様に選ばれ、このように教会に導かれ、イエス様の十字架による救いを約束されながらも、なお罪から完全に自由になれないでいる者です。この世に生きている限りは、どうしても、自分が神様になって好きなようにしたいという思いが頭をもたげてきます。それはみなさんも先生も同じです。神様に全面的に信頼したいと願う同じ心が、自分自身を神にしたいくなり、そのことで不安になって占い等に心ひかれたりするのです。

そんな私に力を下さるのも神様です。神様の大きな力が私たちの心に働くとき、私たちは神様に対する信頼をしっかりと持つことができます。神様に信頼する力を与えてくださるように祈りましょう。神様は必ず祈りに応えてくださいます。それは一度限りではありません。私たちがこの世にある間、何度罪の力に負けそうになっても、神様はそのたびに力を与えてくださるのです。私たちは「減ひる事がない」（ヨハネ 3:16）と約束されているのですから。

〈祈り〉天の父なる神様。あなたが私をあなたの力の中に置いて下さることを感謝します。どうか私にあなたを全面的に信頼する力をいつも与えてください。どうか、あなた以外のものに頼ろうとしないように助けてください。

テキスト 創世記2章6～25節

創世記 2:4-25 は、1:26 以下とともに、創造の冠としての人間の創造について語ります。神の「よき創造」(1:31)は、六日目の人間の創造をもって完成へと至ったのです。

(1) 人間の創造

2:7 は、土の塵（ヘブル語「アダマ」）で形づくられた人（「アダム」）が、神によって命の息を吹き込まれたことによって生きる者となったと記します。このことによって人が、他の動物とは異なった特別な存在、すなわち神にかたどって造られた被造物(1:26)であることが理解されます。

人は体を持つ点で神と異なりますが、霊的、人格的存在である点で神と共通する者として創造されました。人は神のかたちを持ち、神を礼拝することを本分として生きる者として、最初から造られているのです（ウ小教理問1参照）。

(2) エデン

神は人をエデンの園に置かれました。エデンは神がとくに人のために設けて下さった場所です。エデンの園はよく潤った、美しい木々の生い茂る至福の場所として描かれています。人はそこを守り耕すこと、すなわち労働の務めを神から与えられましたが(15)、彼にとって労働もまた純粋な喜びでした。

園の中央には「命の木」と「善悪の知識の木」と

が生えていました(9)が、神は人に善悪の知識の木から食べることは禁じられ、食べると必ず死ぬと警告されました(17)。

これは、善悪の木自体に魔力があったとかではなく、人が神のみ言葉に従うかどうかを神がお試しになったということであって、純粋な信仰のテストでした。被造物は造り主のみ言葉によって生かされます。み言葉への服従は命の祝福の前提です。もしもこのみ言葉に従ったなら、人には最高度の命の祝福が与えられたはずですが。

(3) 女の創造

人がひとりで生きるのではなく、他者との交わりにおいて共同の生をいとなむことは、そもそも創造の秩序における神のみ心です。人には特に彼にふさわしい助け手が必要でした。

他の動物はいずれもそのような存在とはなり得ませんでした。そこで神は人を深い眠りに落とされ、彼のあばら骨の一部を抜き取って、女を造り上げられました(22)。

眠りから覚めた人が女を見ると、彼は「ついにこれこそ／わたしの骨の骨／わたしの肉の肉」と言いました(23)。人のこの叫びには、文字通り自身の骨肉、一心同体の助け手を見出した喜びがあふれています。

カテキズム 子どもカテキズム 問15
ウェストミンスター小教理問答 問10

子どもカテキズム

問15 神さまは人間をどのように創造されましたか。

答 神さまは、人間を神さまのかたちに似せて、男の人と女の人として造られました。土のちりから造り、神さまのいのちを吹き入れてくださいました。こうして、人間はただの動物ではなく、神さまとの交わりを持つものとされました。ですから、人間にとって生きるとは、神さまを礼拝すること、お友だちを愛することです。

〈神のかたちとしての人間〉

私たちは、自分のことは自分がいちばんよく知っていると思っています。ところが、それは、自分の理想像であったり、虚像であったりします。人間ということについても、人間のことは人間がいちばんよく知っていると思っています。しかし、それは思い込みに過ぎません。この問答で示されるのは、聖書が語る人間の姿です。それは、神との交わりの中に生かされる素晴らしい姿です。人間は、「極めて良かった」(創世 1:31) 被造物の冠たる存在です。

人間の素晴らしい源泉は神にあります。すなわち、人間は、神にかたどって、神に似せて造られました(創世 1:26-27)。人間が「神のかたち」に造られたことです。「神のかたち」とは、ですから、人間が神に似ていること、共通性、類似性を持っていることです。それは、肉体とか物質という「かたち」ではありません。むしろ、「神が霊である」という「かたち」であり、人間が霊的な存在として造られたことにあります。「主なる神は、土のちりで人を形作り、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった」(創世 2:7)。この神の「命の息」こそ、神の霊であり、霊を吹き入れられて、人間は霊的な存在となりました。こうして、神の御前に命ある存在、「生きる者」となりました。

〈霊的、人格的な存在〉

人間が霊的な存在であるとは、「人格的」であるということです。何よりも神御自身が人格的なお方です(6月24日のカテキズム研究を参照)。霊的な存在は、主体性を持って他者との関係を築きます。他者との交わりに生きることを喜びます。神御自身が、三位一体の愛の交わりの中に生きておられるお

方です(7月22日のカテキズム研究を参照)。私たちは、神のこの愛の交わりに招かれ、生かされます。私たちは、自らの人格において、自由に、また主体的に、責任を持って、神を知り、神を愛し、神を讃美し、神に仕えるのです。

この他者との交わりは、人間の関係においても具体化されます。神は、人間を男と女に創造されました。ここに、人間が決して一人で生きるのではないこと、孤立的に存在するのではないことが示されています。人間は、他者との交わりにおいて共同の生を営みます。また、男であることと女であることの区別が積極的に肯定され、その協力によって人間が人間として生かされます。人間は、他者との交わりに喜びを見出し、他者を愛し、また愛されることを求める霊的な存在です。ここに、人間が社会を形成していく基本的な土台があります。

〈人間の目的〉

ウェストミンスター小教理問答の問10は、神が、この人間に、被造物を治めることをお委ねになったと告白しています。神は、人を祝福して、「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ」(創世 1:28)とおっしゃいました。ここに、人間の根本的な使命、召命があります。生きる目的があります。「神のかたち」に造られたとは、神の主権の代行者として、この世界を治め、支配するためです。そのときに、私たちは、「神のかたち」として支配します。すなわち、霊的な存在として、人格的な交わりの内に支配するのです。すべてのものを三位一体の神との交わりの中に治めるのです。神の命に生かすのです。神を礼拝し、人を愛することがその中心です。

創世記2章6～25節

子どもカテキズム 問15

「神のかたちに創造された人間、人間とは何か」

〔単元のねらい〕

人間は神へと造られた。それ故に、礼拝者として生きるとき、人間は人間として回復される。神の形に似せられて男と女とに創造された。それ故に、人間同士の真実、愛の絆を結ぶことが求められる。人間は、素晴らしい存在であることを伝えたい。

僕たち私たちは人間です。もちろん、当たり前的事ですね。でも、人間と他の動物との違いは、何でしょうか。ある人は、人間は、猿がだんだん進化して、賢くなって人間となったのですとまったくおかしなことを言います。けれども、そのような考えをする人は少なくありません。これまで、神さまが「天と地と、見えるものと見えないものすべての造り主」であることは、何度も学んで来ました。一番最初の人間がどのように誕生したのか、それは、私たちがどれほど研究しても分かりません。どんなに賢い学者が研究しても分かりません。それは、人間をお造りくださった神さまから教えてもらう以外にありません。今日、神さまは僕たち私たちに聖書を通して人間とは何か、人間はどのように造られたのか、何のために生命を与えられたのかを教えてください。

創世記第1章27節を読みます。「神はご自分に似たどって人を創造された。男と女とに創造された。」人間と動物との違いは、動物も神さまに造られたのですが、それは、ただ地上の物を用いて造られただけです。ところが、神さまは人間だけを神さまの形にかたどり、似せてお造りになられたのです。勿論、人間も、土のちり、この地上の物を用いて造られました。その意味では動物とまったく同じです。けれども違いがありました。それは、神さまにかたどってということです。神さまに似せてということです。でも、誤解しないでください。神さまには顔があって、手があって、足があるというように、人間のような形をしておられるということではないのです。人間は、神さまにかたどられた、似せられた時、男の人・女の人として、造られたのです。順序は男の人が先、その次に女の人です。けれども、神さまは決して男の人だけを造ろうとなさったのではありま

せん。最初から、男の人・女の人をお造りになろうとお考えになられたのです。

どうして、神さまの形にかたどられると、男の人・女の人になるのでしょうか。誤解しないでください。神さまに男の神さま、女の神さまがいるわけではありません。私たちの真の神さまはどのような神さまでしたか。覚えてくれたお友達はいませんか。そう「三位一体の神さまです。」カテキズムの問い10にあるでしょう。「御父なる神さまと御子なる神さまイエスさまと聖霊なる神さまです。この三位は同質であり、三位一体の神さまです。」神さまは、父と御子と聖霊の交わりをもっておられ、離れることがない、愛の神さまということ学びましたね。愛の神さまに似せて造られた人間ですから、人間どうし真実に、誠実に、愛をもって深い深い絆で結ばれることが大切なのです。皆が、お友達を大好きになる事、お父さんお母さんが大好きになることは、とても素晴らしいことです。神さまはそれをとつても喜んで下さいます。人間が人間として素晴らしいくなるのはお友達を愛するときなのです。逆に、人間が人間どうし憎しみ合ったり、喧嘩しあったり、ある時には、殺しあったりするなら、どれほど神さまを悲しませることになるでしょうか。人間はお互いを自分にとってかけがえのない大切な相手ですと思ふ必要があるのです。それが、神さまにかたどり似せられて造られた人間の本当の姿なのです。ですから、神さまに似せて造られた私たちは、少しでも、お友達を大切に、仲良くすることを目標にするのです。

さて次にまた聖書を読みます。創世記第2章6節、「主なるかみは、土の塵で人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。」人間は、動物と同じように土の塵で造られたのです。その意味で、人間は死んだら土の塵に戻ってしまいます。でも、それだけだったら人間は本当の人間になれません。人間が

人間となるのは、私たちの鼻に命の息、つまり神さまの命を吹き入れられたとき、その時人間は人間となったのです。

今、僕たち私たちは息をしているでしょう。どこでしているのかな。口で息を吸う人もいるかもしれませんが。でも、大抵は、鼻で息をするのです。空気を吸って、人間は生きています。今、実験をしてみましょうか。口を閉じて鼻をつまんで下さい。もうすぐに苦しくなってしまうでしょう。皆が1分とか2分息を止めたら、先生は大急ぎで救急車を呼ばなければなりません。息を止めたら死んでしまいます。神さまは人間の鼻に命の息を吹き入れられました。それは、どう言うことを意味しているのでしょうか。それは空気を入れたということではありません。神さまの命、神さまの息、聖霊です。聖霊なる神さまを注ぎ込まれたのです。「それが、人間が本当に生きることですよ」と教えてくださいました。それなら、今、私たちは空気ではなく、神さまの命の息、聖霊を吹き入れられているのでしょうか。神さまの生命の息は口から出るのでしょうか。そうして、私たち人間は、鼻から吸うのでしょうか。それは、こう言うことを言おうとしているのです。「神さまの御顔の方に自分の顔を向けることが必要なのですよ。神さまに背中を向けていれば、神さまの息が入りませ

んよ。神さまに近づきなさい。どんどん近づきなさい。」

それなら、僕たち私たちは、どうしたら、近づくことになるのでしょうか。それは、礼拝を捧げることです。今、僕たち私たちがしていることです。礼拝を捧げるのです。今、先生は、神さまのことばを語っています。皆は先生の顔を見てくれていますね。それは、ただ先生の顔を見るということだけを意味しているではありません。目に見えないけれどもここにいらっしゃる神さまのお顔を見ていることなのです。もちろん、先生の顔は神さまの御顔ではありませんよ。けれども、先生の口から出ることばを信じて聞いている人には神さまが聖霊を注いでおられるのです。そのときには皆はますます、神さまを好きになり、神さまのことを信じ、教会に来ることが楽しくなります。そして、日曜日だけではなく、毎日、神さまを礼拝したくなります。毎日お祈りして礼拝するのです。

今週も、神さまは優しい愛の御顔を向けて、優しい目で僕たち私たちを見守っていて下さいます。それなら、私たちも、背中を向けて無視したりしないで、神さまの方へ顔を向けましょう。「神さま、天のお父さま、イエスさま」と呼びして過ごしましょう。

今週の暗唱聖句

主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。

創世記2章7節

〈こどもへの質問〉

Q1 人間の最初は猿だった、と信じている人がいますが、それは本当でしょうか？

いいえ、人間は最初から人間として神さまの形にかたどって造られたんだってよね。

Q2 私たちはどうしたら神さまに近づくことができるのでしょうか？

それは、礼拝をささげることだったよね。神さまの御言葉をよく聴いて、神さまにお祈りをすることによって、神さまに近づくことができるんだよね。

〈祈り〉

天の父なる神さま。私たちは神さまの形にかたどって造られました。どうか私たちに聖霊を注いでくださり、神さまの御言葉を喜んで聞いたり、お祈りしたりできるようにしてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

工作 ころころすべり台

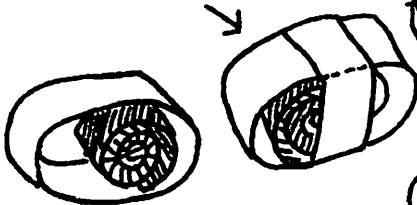
① 幅2cm長さ12cmの画用紙で輪をつくる。



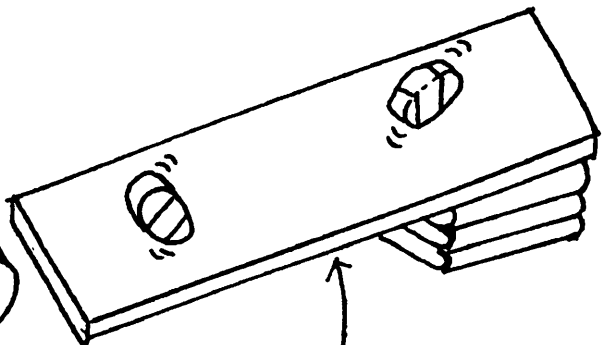
② 厚紙幅1.5cm長さ35cmを丸めセロテープでとめる。



③ 玉を入れて、出ないように紙を巻く。



④ 板に傾斜をつけてころがすとおもしろい動きをする。



〈目標〉

人間は「神のかたち」に似せて創造された。神と交わることでできる霊的存在として造られたということをお教える。神が命の息を吹き入れられ、人は生きる者となった。

〈展開例〉

1. 人間とは何かを考える。

人間が動物や他の生き物と違っているところは何かを考えさせる。

- ① 考えたり、工夫したりする知恵がある。
- ② 自由に話したり、言葉を書いたりできる。
- ③ 物を作り出すことができる。

など、いろんなところで動物とは違った特別なところがあることに気づかせる。

○人間だけが神と交わるものとして造られた。

- 動物は神に祈ることができない。
- 動物は神様を礼拝しない。
- 動物には善と悪がわからない。

○人間は「神のかたち」に似せて造られた。

↓
神に似たものとして造られた。

↓
神様を受し、礼拝するものとして造られた。

2. 次の中で正しいものに○をつけましょう。

- () サルは、何のために生まれてきたのかと時々悩んでいる。
- () 犬は道に落ちているお金を拾ったら交番に届けなくてはと考える。
- () 世界にはお祈りするめずらしい猫がいる。
- () 最初に造られた人間の名前はアダムである。
- () 人間は木から造られた。
- () 造られた時、人は神様と話することができた。
- () インドにいるあるチンパンジーは、手紙を書くのが趣味だそうだ。
- () 最初の女の人は最初の男の人のあばら骨から造られた。
- () 神様は人に命の息を吹き込まれた。
- () 人間はサルからだんだん形が変わって今のよな姿になった。
- () 最近の犬は「ワンワン」ではなく、「おはよう」と鳴く。

3. 作ってみよう

「神様に命の息を吹き入れられた人間」

風船でアダムさんとエバさんを作ろう。

〔用意するもの〕

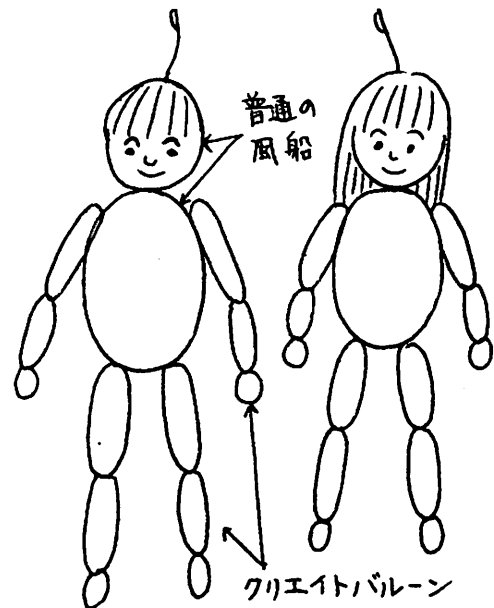
普通の風船 6 個、クリエイトバルーン 8 個、クリエイトバルーンのポンプ、ひも、マジック（黒と赤）、セロテープ

(注) クリエイトバルーンは細長い風船のことです。おもちゃ屋さんには売っています。お近くになれば次のホームページで注文できます。15 個にポンプ付きで 280 円。

<http://w2232.nsk.ne.jp/toraya/event.htm>

アダムさん

エバさん



- ・手や足の部分のクリエイトバルーンは3～4回ねじって関節をつくる。(長すぎる場合は余った部分を付け根の方にまとめてテープではる)
- ・髪の毛をひもで作ってつける。
- ・頭の上にひもをつけて持てるようにする。

〈祈り〉

天のお父さま。私たちを特別に神様に似た者として造ってくださりありがとうございます。いつも神様の方を向いて、感謝をもって生きることができまうように。

〈目標〉

人間は神様を礼拝するために作られたものであることを覚える。

〈指導上の注意〉

なぜ、自分が礼拝できるのかを思い起こす。

〈展開例〉

次のポイントを押さえつつ、今日のお話の確認のために、生徒と対話をしつつ一緒に考えましょう。

- ・人間はどのようなかたちに造られたのか。神のかたちに造られた。
- ・人間は他の動物とどのように違うのか。神のかたちに造られたことによって、神と交わりの持つことができる。
- ・なぜ人間は男と女に造られたのか。愛の交わりを持つ存在として造られた。
- ・人間が人間らしくあるとはどういうことか。神との交わり、人との交わりを持つ。神との交わりとは神礼拝ができるということである。

〈ワーク〉

1. 神様は人をどのように創られましたか？ 下の（ ）の中を自分で考えて埋めてね。
神様は人を神様の（ ）に似せて造られました。それは、人間がただの（ ）ではなく、神様との（ ）が持てるようになるためです。
2. なぜ、人は男と女に、一人ではなく複数に造られたのかな？
a. 何となく
b. 神様のように愛の交わりができるように。
3. 創世記 2:7 を書いて暗唱しましょう。
覚えたら、先生に聞いてもらおう！

〈ワークの答え〉

1. かたち、動物、交わり 2. b

〈目標〉

神にかたどられた人間のすばらしさを知る。

〈指導上の心得〉

人を殺してはならない理由を説明できない大人が多いといわれる時代です。その真の回答を与えることができるのは、聖書の教え以外にないことを確信し、神にかたどられた人間のすばらしさと、その命を奪うことの大罪性をしっかりと語ろう。

〈展開例〉

【導入】神様は何というお言葉で、人をお造りになったか覚えていますか。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう」とおっしゃいました。人間は神様に似ている。これはどういうことでしょうか。

【三択問題】Q1. 人間と神様の似ている点は次のうちどれでしょうか。①霊をもっていること。②体を持っていること。③死なないこと。(A.①) Q2. 「霊」とは何ですか。①神さまの命の息。②幽霊。③超能力。(A.①) Q3. 神様の霊をもつとはどういう意味ですか。①神様の不思議な力を持つということ。②神様のように透明になること。③神さまと人を愛し、

交わりに生きることを喜ぶこと。(A.③) Q4. 神様はなぜ人を男と女に造られたのですか。①夫婦げんかをするために。②男は料理をつくれなから。③人間は一人では生きることができないから。(A.③) Q5. 女が男のあばら骨から造られたことは、何を意味していますか。①二人は一体であること。②女は男の奴隷であること。③女はアダムの造ったということ。(A.①) Q6. なぜ人を殺してはいけないのですか。①刑務所に入れられるから。②人は神様が創ってくださった大切な命だから。③まわりの人がそう言っているから。(A.②) 「殺してはならない」と十戒にあるように、自分のものであれ他人のものであれ、神様からいただいている大切な命を奪うことは、決して赦されません。人殺しに対する一番重い刑は肉体の死である死刑です。しかし、まことの神様の刑罰は、肉体も魂も死に定められる永遠の地獄です。

〈祈り〉

命の神様、あなたからいただいた、大切な命を大事にし、同じ命をもつ、お友達や家族とともに生きることを喜ぶことができますように。

〈目標〉人間は進化の産物ではなく、神様がはっきりとした目的をもって、しかも神様に似せて創造されたものである事をしっかりと刻み込む。それゆえに、私たちは神様を礼拝する事ができ、愛し合うことができる。

〈展開例〉以前に、この天地の全てのものを神様がお造りになったという「創造論」はけして非科学的ではなく、かえって「進化論」の方が科学的とは言えないということを学びました（8月5日）。

○人間は類人猿から生まれたのか

進化論では、人間は類人猿から進化して生まれたと教えます。先生たちの中学生位頃は、学校で、アフリカで発見された化石の類人猿「アウストラロピテクス」が人間の最も古い先祖だと教えられました。しかし、前にもお話ししましたが、偶然や自然だけの力で、より秩序だった高次の生き物に進化して行くことは、自然の法則からはずれています。化石が発見されているのですから、神様は「アウストラロピテクス」をも創造なさったのでしょうか。しかし、彼らは「人間」として造られたものではありません。あくまで、人間とは違う生き物として造られ、神様のご計画のうちに絶滅して行ったのです。

神様は、私たちと同じ種の生物、生物学的に言うところ「ホモ・サピエンス」を「人間」としてお造りになったのです。人間と生物学的にはよく似ているけれど違う生き物とを分けているのは何でしょうか。そのことを、聖書に書かれている人間の創造の記事から考えてみましょう。

○人間はどのように造られたのか

人間の創造は創世記 1:26-28、2:7 に書かれています。まず、1章の方から見てみましょう。他の生き物が造られた時とどこが違うのでしょうか？

神様はご自分に似せて人を造られました。前にも学んだように（6月24日）、神様は「霊」ですから、目で見える形を持っておられるわけではありません。「人間は神様に似せて造られたのだから、神様にも人間のような体があるのだろう」と思うのは大きな間違いです。体は人間もチンパンジーもあるいは猫であっても、構造的には似ています。それは、神様に似せて造られた人間の特徴ではありません。

神様の大きな特徴は「霊」であるということです。ですから、その神様に似せて造られた人間の特徴も

「霊」を持っているということです。「霊」を持っているということはどういうことでしょうか。2:7を見てみましょう。神様は人間をお造りになった時、鼻に「命の息」を吹き込まれました。この「命の息」こそが「霊」であり、他の生き物は持っていない「神を想う力」です。チンパンジー等の類人猿がいくら人間に近い「社会」を築いていたとしても、神様の事を想い、神様を礼拝するということはありません。彼らには「霊」が無いからです。このことが、人間の根本にある非常に大切なことです。私たちには「霊」があるからこそ、神様を礼拝し、神様を喜ぶ事ができるのです。私たちは、他の生き物との違い、神を想うことをもっとも大切にするべきです。

しかし、私たちの「霊」は罪によって歪んでいます。神様の力が私たちの中に働いて初めて、私たちの「霊」は真の神様を想う力となり、創造された時のように私たちを真に「生きる者」とするのです。

○男と女に造られた

さて、神様は人を男と女に創造された（1:27）と書かれています。人間に男と女があるのは神様の御心です。そして、その目的はお互いに「助ける者」となるためでした（2:20）。助け手を与えられたアダムの喜びは大きなものでした（2:23）。そして、男と女が結ばれること、つまり結婚も、神様の御心なのです（2:24）。ですから、私たちが異性を愛することも、神様から与えられた恵みであると言えます。異性を好きになることは、けして取っかきいことでも後ろめたいことでもないのです。

しかし、人間は神様がお造りになった時の姿からずれてしまっています。「罪」は男女の関係も、おかしくしてしまいました（3:16）。本来、お互いに助け合うはずだったものが、支配-被支配という関係になってしまったのです。男女の真の幸せをもたらす愛は、どちらかが上だということではなく、「尊敬をもって互いに相手を優れた者と思う」（ローマ 12:10）本来の愛です。そして、そのような愛は、神様のもとでこそ可能なのです。

〈祈り〉天の父なる神様。あなたが人間をご自分に似せて造られ、命の息を吹き込んでくださったからこそ、私たちがあなたを礼拝することができるということを学びました。どうか、ますます、「真の神」を想う力を育んでください。

創世記3章の人間の墮落の記事を二回に分けて学びます。(二回目は9月16日です)

(1) 罪の現実

主なる神は人を至福の場所であるエデンの園に置き、園を耕し守る者とされました。また神は人に、助け手である女をお与えになりました。エデンで人は、神を見、神と交わる喜びと祝福に満ち足りていました。

神は人に、ひとつの命令を与えていました。園の中央にある、善悪の知識の木の實を決して食べてはならないという命令でした(2:17、8/16の箇所を参照)。この命令を守るなら、人は最高度の命の祝福を与えられるはずでした。反対にこれに背いた場合には、必ず死ぬと警告されていました。これは純然たる信仰のテストでした。

しかし人は、サタンの使いである蛇の誘惑を受けて、この命令に背いて木の實を食べます。この罪によって始祖アダムと、彼の子孫である全人類は墮落し、人類に罪と死の法則が入ることになります。聖書では死とは命の神から離されることです。そしてサタンは、人を誘惑して罪を犯させ、神から引き離そうとする存在です。

この聖書箇所で見逃しおれないのは、サタンが人を誘惑する時のたくみさです。サタンはまず助け手である女に語りかけ、神のみ言葉そのものの確かさを疑わせ、神のみ言葉そのものから、善悪の知識の木のうろわしさのほうに目をそらせようとします。このサタンの巧妙さは、現代においても変わることはありません。

(2) 神のようになれる

人を決定的に魅了し、同様させたサタンの誘惑の言葉は、木の實を食べてもあなたは決して死ぬことはない、むしろ目が開け、神のように善悪を知るものとなるのだとの言葉でした(4-5)。

羊が羊飼いのもとにあつて初めて生き得るように、被造物である人は造り主である神のみ手にあつてはじめて真の命を生き得ます。もしも人が神から離れたなら、命を失って滅びるほかはありません。サタンはそのことを熟知していますから、人を神から引き離すために、あなた自身が神になれるというまことに効果的な言葉をもって誘います。

現代に至るまで、これは人にとってまことに魅力的な言葉であり続けています。自分を神のような絶対的存在とする志向は、バベルの塔を築く試み(創世記11:1以下)に象徴的にあらわれていますが、私たちはすでに最初の人々がエデンで、サタンからの誘惑に揺さぶられたことを知っています。人のあらゆる罪の根は、神になろうとするこの根本的な志向に根ざしています。

これは具体的には偶像崇拜の姿であらわれます。真の神を離れるとき、人は自分の言うことを何でもきいてくれる神をこしらえ、その神の主人として君臨しようとするからです。(偶像とはたんに宗教的な彫像ということにとどまらず、例えばには、金銭や能力や権力といったものも含まれるでしょう)。

しかし、いかなる偶像も人に命を与え、罪と死の悲惨から救い出すことはできません。自分を神とする道は命ではなく、滅びに至る道です。神のみ子イエス・キリストを通して悔い改めに導かれ、真の神へと立ち返るとき、人は初めて真の命を回復することができるのです。

カテキズム

子どもカテキズム 問16

ウェストミンスター小教理問答 問12, 13, 15

子どもカテキズム

問16 最初の人間は、極めて良いものとして続きましたか。

答 いいえ。アダムとエバは、神さまの御言葉を破って、罪を犯しました。

ウェストミンスター小教理問答

問12 神は、創造された時の状態にある人に、どのような特別の摂理の行為をされましたか。

答 神は、人を創造された時、完全な服従を条件として、人と命の契約を結ばれました。そして、死の刑罰をもって、善悪を知る木の果実を食べることを禁じられました。

〈一般的な摂理の行為〉

今日の間答には、「神さまの御言葉を破って、罪を犯しました」とあります。ここでは、最初の人間であったアダムとエバが、神さまの御言葉を守り、御言葉に従うべき存在であったということが前提となっています。それが、ウ小教理問12で「命の契約」と呼ばれています。さらに、ウ小教理問12は、「特別の摂理の行為」として命の契約が結ばれたことを語っています。そこでは、「一般的な摂理の行為」があったことが前提となっています。

「一般的な摂理の行為」について、ウ大教理の問20にこうあります。「創造された時の状態の人間にたいする神の摂理は、彼を楽園におき、それを耕すよう命じ、地の産物を食べる自由を与え、被造物を彼に支配させ、彼の助けのために結婚を定め、御自身との交わりを彼に与え、安息日を定められました」。これが一般的な摂理です。こうして、人は、神との人格的な交わりの中に、主体的に地を治め、社会を形成し、神に仕える存在として生かされました。

〈特別の摂理の行為・・・命の契約〉

一般的な摂理と共に、神は、霊的な存在である人間に対して、特別な摂理の行為を行われました。すなわち、「善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう」(創世2:17)と命じられたことです。この神の御言葉において、神と人との間に契約関係が成立したと理解します。

この背景に、契約神学があります。神と人との関係を契約関係として理解するのです。神は、契約を結ぶことを通して人を交わりに招き、人を御自身との主体的な応答関係に置かれます。それは、アブラ

ハムにおいてそうであり、モーセにおいて、ダビデにおいて継承され、キリストにおいて完成されました。この契約の枠組みに基づいて、神と最初の人との間にも契約が結ばれたと理解いたします。これが特別の摂理の行為としての「命の契約」です。キリストにおける「恵みの契約」との対比によって「わざの契約」と呼ばれることもあります。この契約の前提として一般的な摂理が与えられており、最初の人は契約を守る能力を与えられていました。ですから、この契約においては、彼が、自らの主体的な自由において、神との契約すなわち神の御言葉に従うかどうかの問題とされました。神に信頼し、神に依り頼むという信仰の姿勢が試みられたのです。

〈契約の約束と刑罰〉

神は絶対的な主権者なる造り主であり、人間は被造物です。ですから、この契約は、神のへりくだりによって人に与えられた、恩恵としての契約にほかなりません。人は、神のかたちに造られ、自由意志によって主体的に神に応答する存在として契約の中に立たされました。人はロボットではなく、また奴隷として他律的に神に服従するのでもありません。主体的に自律的に神に服従することが求められました。そのときにこそ、人は神との交わりにおいて神の命に生かされるのです。人が神に服従することを止めた時には、当然のこととして、その命を失うほかなりません。そのとき、人は神を離れ、自らの力によって生きることを始めます。人は、自ら神になろうとします。それがサタン誘惑であり、また罪と死の支配にほかなりません。人は、神の極めて良いものであることを自ら止めて、墮落したのです。

創世記3章1～7節

子どもカテキズム 問16

「墮落した人間、人間とは何か」

〔単元のねらい〕

神に似せて形づくられた人間が、神に背いてしまった事、それが、今の人間の姿になってしまったことを伝える。分級で、神さまは何故、人間が罪を犯すのを許されたのか。神さまの方が悪いのではないか。もっと立派に人間を造ったらよい、人間を造った神さまにこそ責任があるとの問いが出るかもしれない。そのような子は真剣に考えているゆえなので、ゆっくりと牧会してあげたい。〕

神さまの形に似せて造られた人間は、男と女に造られました。男の人の名前はアダム、女の人の名前はエバです。アダムさんは、エバさんを初めて見たときにこのように歌い出しました。嬉しくてたまらなかったのです。「エバさん、あなたは私の骨の骨、わたしの肉の肉。」つまり、一番身近で、一番好きな人という意味です。この二人は、とてもとても仲良しでした。神さまに似せて造られた二人なので、神さまを愛し、お互いをそのあるがままで、大好きでなりません。二人は結婚したのです。隠すこともなど何もありませんでした。二人は、神さまの用意してくださったエデンという園のなかで、それはそれは幸せな素晴らしい生活を続けました。園の中には、神さまが与えてくださった美しい自然があります。動物もいます。みんな仲良く暮らしています。ライオンも人間を襲いません。大きな動物も人間に噛みつきません。人間は、園のすべての木の実を自由に食べることが出来ます。まさに、天国のような場所、それが最初人間が住んでいたエデンというところです。

さて、そんな素敵な生活を送っていたある日のことです。二人の前に、蛇が現れました。蛇、これは、悪魔の事です。蛇はエバさんに言いました。「エバさん、園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」神さまは、人間にこう言われていました。注意して聞いてくださいね。創世記2章の16節です。「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」神さまは何と仰ったのですか。「園のすべての木から取って食べなさい」と仰いました。悪魔は何と言ったのですか。「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」悪魔はずるがしこ

く、正反対のことを言いました。神さまは、「園のどの木からもとって食べなさい」と仰ったのであって、食べてはいけないとは仰っておりません。ただし、たった一本。たった一つだけ神さまが禁じられていたのが、「善悪の知識の木」と呼ばれる木だけは食べてはいけない、ということでした。悪魔は、エバを何とかそそのかして、神さまの御言葉、命令を破らせようと働きます。

これに対して、エバさんは何と答えたのでしょうか。「私たちは園の木の果実を食べてもよいのです。」これは、当たっています。その通りです。エバさん間違っています。けれども、エバさんは続けてこう言いました。「でも、園の中央に生えている木の果実だけは食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神さまは仰いました。」さて、この答えは正しいでしょうか。ちょっと聞いただけでは、正しいように聞こえるのです。が、間違っています。なぜなら、第一に「触れてもいけない」などとは仰っていません。第二番目に「死んではいけない」とも仰っていません。「食べると必ず死ぬ」と警告されたのです。「死ぬかもしれませんよ」というような、のんき言い方はなさいませんでした。エバさんは、神さまの御言葉に対して真剣ではなかったのです。心を注いで、真剣に聴き、そして従うのだという気持ちがたるんでいたのです。

そこを見逃さないのが、悪魔の悪知恵です。すぐに、サタン悪魔はエバさんの心の隙間に攻め込みます。「死ぬことなんてありませんよ。神さまはその木を食べるとあなたが神さまのようになることを知っているのです。意地悪を言っておられるのです。さあ、良く見てご覧なさい。美味しいですよ。さわってご覧なさい。美味しそうでしょう。なめるだけなら、いいじゃないかな。食べるのが駄目なら、かじっ

てみてはどうですか。」そしてとうとう、「ガブツ」。エバさんは、一人してしまったので心細くなったのでしょうか、一緒にいたアダムさんにも木の実を差し出して、言いました。「どうぞ、この木の実は特別に美味しいですわよ。」アダムさんも、「ガブツ」。

アダムさんとエバさん、この二人はそれまで園の中で楽しく幸せに暮らしていました。どうして楽しく幸せだったのでしょうか。それは、二人が神さまと正しい関係にあったからです。神さまとの正しい関係ってどんな関係なのでしょう。どんなことでしょうか。それは、神さまの御顔の方を向くことでした。自分の顔を神さまに向けて、神さまの息を受けることでした。それは、神さまの御言葉をしっかり聞いて、それを守ることです。御言葉を守らないときには、人間は神さまとの交わり、神さまの命の息が失われてしまうのです。そうすると、どうなるのでしょうか。先週、鼻をつまんでもらったでしょう。そのまま続けたら死んでしまうのでしたね。そのように、神さまとの交わり、神さまの命の息がかからない間柄、遠く離れてしまったり、背中を向けてしまったら人間は、動物のように生きていくかもし

れませんが、人間らしくは生きれないのです。神さまとの正しい関係を失ったら、人間は人間以下になってしまうのです。

ある有名な牧師さんがこう仰っていました。「神さまとの正しい関係、神さまの御言葉を破っている人間は、動物のようになるのではなく、動物以下になっている。」とても厳しいことばです。でも、動物は、神さまの御言葉を自由に守ることもできませんし、ですから破ることもできません。人間だけがそれのできるのです。その人間が、御言葉を破ってしまうなら、動物にも劣ってしまいますのです。

私たちは今、イエスさまによって、罪を赦して頂いています。つまり、神さまとの間に正しい関係を造って頂きました。でも、油断していると、あのアダムとエバのように、神さまの御言葉をいい加減に聞いてしまい、過ちを何度もして、神さまを悲ませてしまいます。今朝も、皆で真剣に聖書のお話を、神さまの御言葉を聞いたことを感謝しましょう。そして、神さまとの正しい関係をつくってくださったイエスさまに感謝して、イエスさまを信じつづけてきましょう。

今週の暗唱聖句

このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。

ローマの信徒への手紙 5章 12節前半

〈こどもへの質問〉

Q1 神さまに最初に造られたアダムさんとエバさんは、エデンの園で楽しく暮らしていましたが、ある日二人の前に何かあらわれましたね。それは何でしたか？

そう、蛇があらわれましたね。

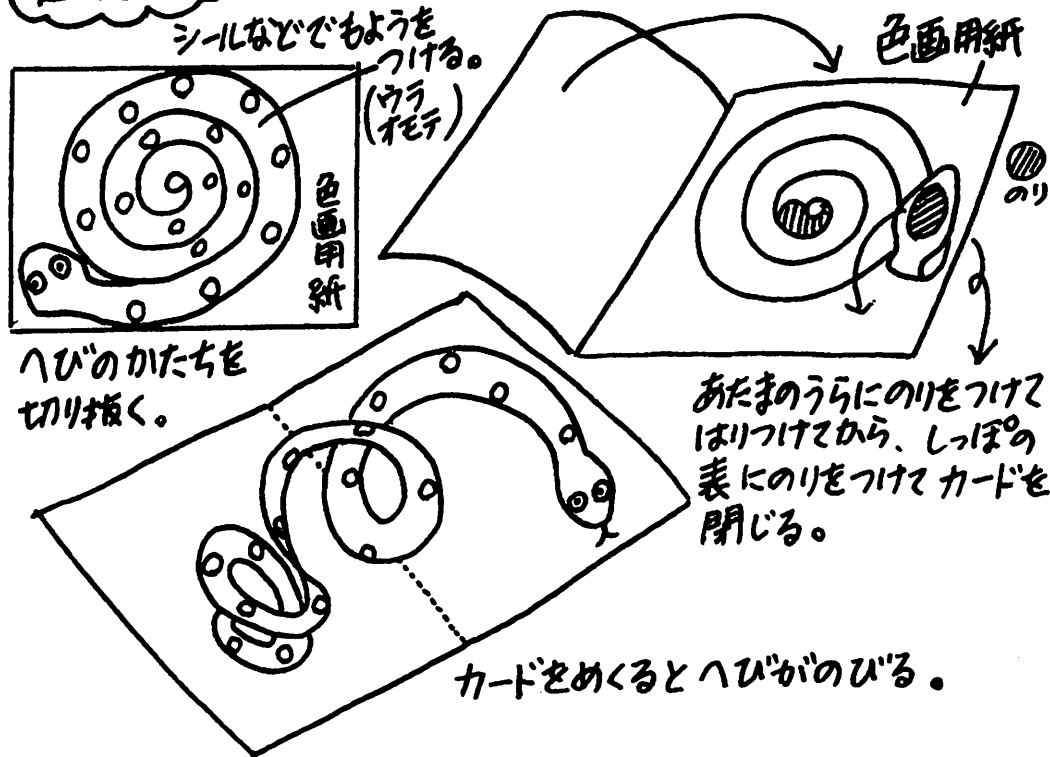
Q2 蛇は、食べてはいけないことになっていた善悪の知識の木の実を食べさせるために、エバさんをそそのかしましたが、エバさんはその時どうしたでしょうか。

そう、「食べたらず死ぬ」と言われていた善悪の知識の木の実を食べってしまったんだよね。

〈祈り〉

天の父なる神さま。アダムさんとエバさんは、神さまとの約束を破ってしまいましたが、私たちも神さまの教えを守らないで神さまを悲しませるようなことをたくさんしてしまいます。どうか、私たちが神さまの御言葉をしっかりと聞いて、神さまを心から信じていくことができますようにお導きください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

工作 ヘビのカード



〈目標〉

最初の間人がどのようにして罪を犯したのかを学ぶ。神の言葉に従わないことが罪である。

〈展開例〉

1. 最初の罪について考える。

①創世記2章15～17節と3章1～6節を読む。

・神様がアダムに与えた命令は何でしたか。

「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、()の知識の木からは、決して取って食べ()。食べると()。」

・蛇はエバさんにどう言いましたか。

「園の()からも食べてはいけない、などと()は言われたのか」

・エバさんはどう答えましたか。

「私たちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、()てはいけない、()てもいけない。()から、と神様はおっしゃいました。」

・蛇はエバさんにウソをつきました。

「決して()ことはない。それを食べると、目が開け、()のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」

②神様の言葉とエバさんの言葉を比べる。

神様の言葉・・・「食べると必ず死んでしまう」

エバの言葉・・・「死んではいけないから」

→どこが違うかを考えさせる。

神の命令をそのままなく、自分の考えに置き換えてしまっている。

③木の実を食べることがどうして悪いの？

→子どもたちに木の実を食べることがどうして罪なのかと問う。

・この木の実に死ぬような毒が入っていたのではない。神様の命令に背いたことが罪。

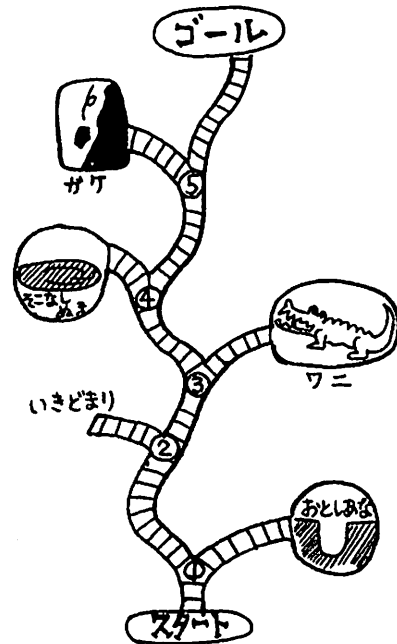
・食べるなどという命令は何をあらわしているのか。

「あなたは私に従いなさい」という神様の戒め。

2. ゲーム「御言葉が示す道」

駒を一つ用意する。順番にサイコロをふり、進む道の分岐点で番号の御言葉を読み、どちらの道が正しいかを選んで進む。聖書を開いて調べてもよい。

ゴールの方を棒などで見えないように丸めておき、少しずつのばしてゲームをする。



①右「信じない者より信じるの方が得です」

左「信じない者ではなく信じる者になりなさい」

ヨハネ 20:27

②右「何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい」

コリントー 10:31

③右「何をするにしても、すべてよく考えてからやりなさい」

④右「あなたがたの体には手や足があり、一人一人の顔もまた違っています」

左「あなたがたはキリストの体であり、また一人一人はその部分です」

コリントー 12:27

⑤右「体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな」

マタイ 10:28

左「体は殺しても、魂を殺すことはできない」

⑥右「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない」

創世記 2:16、17

左「園のどの木からも食べてはいけない」

〈祈り〉

天にいらつしやる父なる神様。人間は神様の言葉に背いて罪を犯しました。そして神様から離れてしまいました。自分の考えではなく、神様の言葉に従っていくことができるように導いてください。

〈目標〉

墮落がもたらした悲惨を覚える。

〈指導上の注意〉

人間は神様に背いて墮落し、その結果神様を第一とすることができないものとなったことを頭に置いて話す。

〈展開例〉

次のポイントを押さえつつ、今日のお話の確認のために、生徒と対話をしつつ一緒に考えましょう。

- ・アダムとエバは大変良いものとして創られ、神のご命令に従って、エデンの園で何不自由なく暮らしていたことを共に聖書から確認する。
- ・アダムとエバは神のご命令をずっと守ることができたか？
- ・彼らはサタンに唆されて何をやったのか。
- ・その結果彼らはどうなったのか。(神のみ顔を堂々と見ることができなくなった。その結果、人は神を礼拝することのできないもの、神との正しい関係にいないことのできないものとなった。

〈ワーク〉

1. 神様はエデンの園で人にどのような命令を与えられたのかな？ その聖書箇所を書いてみよう。
2. アダムとエバはそのご命令を守ることができたかな？ どっちだろう。
 - a. できた
 - b. できなかった
3. ローマの信徒への手紙 5:12 の前半を暗唱しましょう。

〈ワークの答え〉

1. 創世記 2:16.17
2. b

〈目標〉 人間の墮落のいきさつを知る。

〈指導上の心得〉 人間の罪と悪魔の巧妙な手口をわかりやすく語りたい。特に悪魔の手口は神の言葉の曲解を誘っている。神の言葉を神の言葉とすることがいかに大切か語りたい。下記の展開例は、ワークシート方式にするとよい。

〈展開例〉

【読む】 創世記 2:17 (いのちの約束) 「園のすべての木からとって食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死ぬ」を読みましょう。

次に、サタンとエバの会話に本音の言葉を付け加えてみました。読んでみましょう。

サタン：「園のどの木からも食べてはいけない」(なんて、神様ってひどいお方だねえ)

エバ：「(いいえちがいますわ。) わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも(おかしなことに) 園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない。触れてもいけない、死んではいけないから(なんておっしやったのよ。ひょつ

としたら死なないかもしれませんけど。)」

サタン：「決して死ぬことはない。」(あなたはだまされているのだ。)[それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存知なのだ。](さあ木の実を食べて、神になりなさい。それはすばらしいことじゃないか)

こうしてエバは木の実を食べ、アダムも食べました。

【穴埋め問題】 エバの罪を考えてみましょう。①神の言葉への(A)。②神の言葉への(B)。③(C)になりたい。(答：A = 疑い、B = 不満、C = 神)。次にサタンの誘いの方法について考えてみましょう。

①エバの小さな(A)を(B)ませ、神を疑わせる。

②人の(C)につけこみ、人を(D)し、神に逆らわせる。(答：A = 不満、B = ふくら、C = 欲望、D = だま)。

【暗唱聖句】 ローマ 5:12、アダムとエバが犯した罪はすべての人間におよびました。

〈祈り〉 神様、あなたのみ言葉をいただいて、正しく理解することによって、今も働くサタンの誘いで、罪に陥ることがないように守ってください。

〈目標〉アダムとエバの墮落は、神様がくださった自由な心を、神様を喜ぶためにではなく、自分勝手に使ってしまったためであることを学ぶ。

〈展開例〉先週、人間はどのようにしてこの地上に登場したのかということ学びました。それは、けして類人猿から進化したのではなく、神様ご自身の手で、「霊」＝神様の事を想うことのできる力を持つ者として、男と女に造られた、ということでした。しかし、最初に造られた私たちの祖先、アダムとエバは、今日の聖書箇所にあるように、悪魔の誘惑にあつて神様の命令にそむいてしまいました。なぜ、そんなことになったのでしょうか。

○神様のくださった自由な心

神様は、人間をもともと、神様の命令を守る事ができないような不完全なものとしてお造りになったのでしょうか。もしそうなら、人間の「神様に従おうとしない」罪には神様にも責任があるということです。しかし、神様はそんなふう人間をお造りになったわけではありません。もう一度、創世記の創造の記事を読み返してみましょう。神様は人間を「ご自分にかたどつて」(1:27) 造られました。そして創造の御業が完了した後、お造りになったすべてのもの（そこにはもちろん人間も含まれています）を神様が御覧になった時、「それは極めて良かった」(1:31) のです。人間は最初、不完全なものではなく「極めて良いもの」として造られたのです。

しかし、神様は人間をあやつり人形としてお造りになったわけではありません。あやつり人形は人形遣いの人の思いのままに動きます。しかし、そこには「心」がありません。子どもカテキズムの問1には、人生の目的は、神様を知り、神様を喜び、神様の栄光をあらわすことだと書いてあります。神様は、あやつり人形のように誰かに操られてではなく、人間が自発的に自分の心で「神様ってすばらしい」と喜ぶ事を望んでおられるのです。神様は、人間をそのような自由な心を持つ者として造られました。

○自由な心のまちがった使い方

アダムとエバは、そのような自由な心を持つ者として造られました。最初のうち、エデンの園で、彼らは、神様に操られてではなく自分たちの自由な心で神様に従う事を選び、神様とともにあることを喜んでいたのでと思います。しかし、そのすばらし

い日々も長くは続きませんでした。蛇＝悪魔が彼らを誘惑したのです。悪魔はささやきます。「善悪の知識の木の実を食べると、死ぬどころか、神様みたいになれるんだよ」と。アダムもエバも、悪魔の誘惑に心を動かされ、神様の命令にさからつて木の実を食べてしまいました。

ここで注意しなければならないのは、悪魔はアダムとエバを押さえつけて無理矢理その口に木の実を押し込んだのではないということです。悪魔は彼らをそそのかしはしましたが、木の実を取り口に運んだのは彼ら自身の手であり、そうさせたのは彼らの自由な心だったということです。自発的に神様を喜ぶことのできる「自由な心」は、同時に、神様の命令にそむくこともできるのです。もちろん、神様は、本来、神様を喜ぶために人間に「自由な心」を与えてくださったのです。神様の命令にそむくことは、「自由な心」の間違った使い方です。その間違った使い方を、アダムとエバは選んでしまいました。

○私達にも受け継がれる「罪」

アダムとエバの罪は、彼らだけにとどまるものではありませんでした。墮落した後、彼らの中には子どもが生まれました。創世記 5:3 にはその男の子は、「アダムに似た、アダムにかたどつた」子どもであったと書かれています。神様にかたどられたアダムに「霊」的であるという神様の性質が与えられていたように、アダムにかたどられた子どもはアダムの「罪」の性質を受け継ぐことになりました(ローマ 5:12)。私たちは皆、アダムにかたどつて生まれて来るのです。それは、アダムの罪までもが同じように私たちに受け継がれてきているということです。アダム以来、人は、神様からいただいた自由な心の間違った使い方をして、神様にしたがうより自分が神様になろうとするのです。

しかし、私たちは、神様を想う霊をも同じように、受け継いで来ています。その霊の真の働きを神様が目覚めさせてくださる時、私たちの自由な心は神様に従う事を選ぶ事ができるのです。

〈祈り〉天の父なる神様。アダムが罪を犯したのは、あなたからいただいた自由な心の間違った使い方のせいであることを知りました。どうか、あなたが私たちの霊を目覚めさせてくださり、私の自由な心で神様を喜べるようにしてください。

テキスト

マルコによる福音書 10章 17 - 27節

さまざまな神ならぬものに妨げられて、自分の力では永遠の命を得ることのできない私たち人間に、ただ神おひとりが救いの恵みを与えることがおできになることを示す箇所です。

(1) 主イエスの前から立ち去った人

ある時ひとりの人が主イエスの前に走り寄り、ひざまずいて、永遠の命を受け継ぐには何をすればよいか(17)と質問しました。「何をすればよいか」という尋ね方から、彼が救いを自力で何かをなして得るものと考えていたことがうかがえます。

そして彼は何かをなすことのできる自信に満ちていました。彼には道徳的に正しい生活をしているとの自負がありました(20)。主イエスが 19 で命じておられるのは十戒の後半の戒めですが、彼はこれらの戒めはことさら教わらなくてもすでに知っており、また子供の時から守ってきたと答えます。さらに彼にはたくさんの財産がありました(22)。

主イエスは熱心に救いを求める彼を慈しみ、ご自身のもとに招いて下さるために、ただひとつ彼に欠けていたことをお命じになりました。それは主イエスに従うということでしたが、彼にとって主イエスに従うとは、持ち物をすべて売り払って、貧しい人々にほどこすことであつたのです(21)。それが彼が主イエスが歩かれる道、すなわち十字架への道に従って、永遠の命を得るための大前提であつたのです。

永遠の命は人間が神の前に積む何らかの功績の報いとして与えられるものではなく、自分の存在の根拠を神に置き、神にすべてを委ね、神の国と神の義(マタイ 6:33)を求め、ただ神おひとりを善き方

として(18)生きるところでこそ与えられるのだということ、主イエスは彼にはっきりとお語りになったのです。

(2) 神にはできる

ところが主イエスのみ言葉を聞くと、この人は悲しみながら立ち去りました。それはたくさんの財産を捨てることができなかつたためであると 22 は語ります。主イエスは、金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通るほうがまだ易しいと仰せになります(25)。

金銭自体は神の恵みの賜物であつて、正しく管理し用いるならよきものです。けれども金銭はしばしば偶像となり、人を支配し、ひざまずかせます。

この世において多くのものを所有していることが神の国に入る妨げとなるということはあるのです。主イエスが貧しい者は幸いであると仰せになる(マタイ 5:3、ただし「心の貧しい者」)時、その貧しさとは空(から)であるという意味です。自分において空である者は神を頼りとし、神の恵みに満たされますが、この世のもので満たされている者は神のかわりにこれに頼ろうとするのです。そこに、富む者が神のみ国に入ることのむずかしさがあります。

けれども、人にはできないことも神にはできる(27)のです。神への愛も隣人への愛も忘れて金銭欲と名誉欲のとりことなっていた徴税人ザアカイ(ルカ 19:1 以下)を思い起こしましょう。彼は主イエスの愛によって生まれ変わり、すすんで財産を貧しい人々に分け与える人となつたのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問17
 ウェストミンスター小教理問答 問14

子どもカテキズム

問17 罪とは何ですか。

答 神さまの御言葉を破って、それに背くことです。一つでもかなわないならば、私たちは神さまの御前に罪人です。

ウェストミンスター小教理問答

問14 罪とは、何ですか。

答 罪とは、神の律法に少しでも適合しない点があること、あるいは、神の律法を犯すことです。

〈「罪」を判断する基準・・・神の御言葉〉

「罪人」という言葉は、一般的には「ザイニン」と発音されますが、教会においては「ツミビト」と発音します。これは、一般的な意味の罪人と、教会における罪人の内容が違っているためです。一般的な意味の「罪」と、教会的・聖書的な意味の「罪」は、内容が違っています。「罪」を判断する基準、物差しが違っているのです。

一般的な意味の罪の場合、その国や地域の法律が定められており、ある行為がその法律にかなうかどうかを判断して、罪かどうか定められます。物を盗むのが罪であるのは、日本の法律に物を盗むことが罪であると規定されているからです。法律に規定されていることが、罪を定める根拠となります。

聖書的な意味では、神が人と契約関係を結び、人に律法を与えました。ですから、神の律法に合うかどうか、罪の判断基準があります。神の律法は、たとえば、「善悪の知識の木からは、決して食ってはならない」(創世 2:17)という神の命令であり、モーセを通して与えられた十戒がその典型です。しかし、これはただ律法として命令の形で与えられたものにとどまりません。神が、人に対して「このように生きなさい」とおっしゃった神の御言葉、その神の御心が神の律法です。これらは、明文的に与えられたものだけではなく、「神のかたち」として人の心に刻み込まれたもの、すなわち心の良心もあります。聖書では、これらをも含めて神の律法と理解します。神の御心、神の御言葉が罪の基準です。

〈積極的な罪と消極的な罪〉

この神の御心にかなわないこと、従わないことが、

すべて罪です。小教理は、この点で、消極的な面と積極的な面の両面から、罪を指摘します。積極的な罪は、神の律法を犯すことです。たとえば、「善悪の知識の木からは、決して食ってはならない」という御言葉に対して、木の実を取って食べたことです。「してはならないこと」を「すること」、また「すべきこと」を「しないこと」です。そして、消極的な罪もあります。神の御心に対して十分に答えないことも罪なのです。たとえば、「わたしをおいてほかに神があってはならない」においては、偶像礼拝をしないというだけでは十分でなく、神を正しくあがめ、神を礼拝することが求められています。「殺してはならない」においては、殺さないというだけでは十分でなく、人を愛し、人の命を守り、生かすことが求められています。積極的に神と隣人を愛さないならば、神の御心に十分に答えることにはならず、罪であるというのです。

〈全的墮落〉

そうであるならば、いったい誰が、自分は罪人ではないと言うことができるでしょうか。主イエスは、金持ちの男に、「持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。それから、わたしに従いなさい」(マルコ 10:21)とおっしゃいました。多くの財産を持ちながら、貧しい人々に対して心を閉ざしていることは、決して神の御心にかかっていません。

罪を知ることは、自らの惨めさを知り、自らの無能力を知ることです。神の御前に善い業を行うことはまったくできない、すなわち「全的墮落」です。これを認めてはじめて、救いが「恵み」として与えられるというその恵みの大きさが分かるのです。

マルコによる福音書 10章 17 ~ 27 節
子どもカテキズム 問 17

「金持ちの男、罪とは何か」

〔単元のねらい〕

罪についての学びが続く。子どもを認罪に導いて下さるのは、聖霊ご自身であられる。十字架のイエスを主キリストと告白できるのは、自分の罪を認め、嘆く者だけであるので、丁寧に罪の問題を説きたい。また、ここでこそ、子どもらとの個別の祈り、カウンセリングを持ちたい。三週の内予定を立てて、子どもらと自分自身の個別の罪について聴き、赦しの確信、十字架の信仰へと導きたい。

イエスさまが、伝道の旅に出ようとされた、ある日のことです。お金をたくさん持っている男の人が走り寄って来ました。すると恭しくひざまずいてこう言いました。「イエスさま、善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」この人は、とても真面目な人のようですね。ふつつ、お金持ちの人のなかには、こう言う人が多いのです。「イエスさま、すみません。今、お金儲けに忙しいので、そのうち、お話を聞かせてもらいます。さようなら。」あるいは、「イエスさま、最近、何か儲かる話はありませんか。」ところが、この人はとてもとても真剣で真面目です。どんなお話を聞きたいのかといえば、「永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」という、イエスさまが一生懸命お教えになっておられるお話の中心についてだったのです。

さて、イエスさまはこの真面目で立派な人に、なんと仰るのでしょうか。「何故、私を『善い』というのか、神お一人のほかに、善い者は誰もいません。」イエスさまの言葉は、何だか冷たい感じがするかもしれませんね。イエスさまは仰っています。「善いというのは、神さまだけにしか当てはまらないのだ。」「あなたは、本当に、わたしのことを神さまと信じているのですか、信じていないのでしょうか。信じていないのに、軽々しく、善い先生など言っただけはいけません。」

さて、その後続けて仰いました。「殺してはいけない。姦淫してはいけない。盗んではならない。偽証してはならない。隣人の家を欲してはならない。あなたの父母を敬え。あなたはこの掟を知っているでしょう。」皆の中で、このことばが何であるかに気がついた人がいるかもしれません。そうです、十戒のことばですね。十戒のことばの中には、神さま

の御心が明らかにされています。つまり、永遠の命を受けるために生きるのであれば、先ず何より大切なのは、この十のことばを守って生きれば良いということです。神さまのことば、神さまの戒めを守って生きることです。

これにたいして、男の人は直ぐに返事をします。「イエスさま。えっへん、そういう事くらいは簡単です。当たり前すぎます。なぜなら、僕は、それくらいのことなど子どもの時からきちんと守ってきたのですよ。そんな当たり前のことを聞きたいのではないのです。もっと、難しいことはないでしょうか。これを守ったら絶対永遠の命を受けることが出来るという、そんな何かを聞きたいからこそあなたのところに来たんですよ。」

するとイエスさまの目は、涙でうるんだようになりました。「本当にかわいそうに、本当に永遠の命を与えてあげたい、この人に是非、永遠の命を・・・。」そのような御目と声色で、優しく彼に語りかけました。「あなたに欠けているもの、足りないものが一つあります。行って持っているものを売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば天に富を積むことになります。それから、これが一番大切なこと、これこそあなたに足りない、一番大切なそのたった一つのことを言います。それは、わたしに従って行くことです。あなたはわたしに従いなさい。そうすれば永遠の命を受け継ぐことが出来ますよ。」

するとどうでしょう。この金持ちの男の人は、がっかりして、目に涙を浮かべてながら、イエスさまのところから立ち去ってしまいました。たくさんの財産を持っていたので、それを捨てることができないと考えたからです。

さあ、皆は、この男の人のことをどう思いますか。また、この時のイエスさまをどう思いますか。「イ

イエスはひどいよ。そんな無理なことを言ったら、かわいそうだと思います。」「僕だったら、やっぱり、その人と同じになると思う。持っているものの全部を貧しい人、困っている人にあげられないな。」このように思う人の方が多いでしょう。でも、もしかして、「えっへん、僕だったら、わたしだったら、この人には出来なかったことだけど、永遠の命を受けるためなら、できるぞ。できます。」こう心の中で考えているお友達はいますか。実は、イエスさまのお弟子さんのペトロさんは、「えっへん、イエスさま、僕たちは、違います。僕たちはイエスさまのお弟子さんです。なににもかも捨てて従ってきました。あの男の人とは違います」と言ったのです。二人とも大きな間違い、勘違いをしています。

愛する皆さん、イエスさまはこの人をご覧になって、目に涙を溜めて、仰いました。それは、気づいて欲しい、お願いだから、分かって欲しいという思いが心の中に溢れたからです。何に気がついて欲しかったのでしょうか。それは、この人が、自分の力で、自分の善い行いで、永遠の命を獲得できる、ゲットできる、ととんでもない勘違いをしていたことについてです。本当は、この人は、神さまの十戒

をうわべは守って生きてきたと思います。でも、大切なのは、うわべではなく、心の底から、神さまを愛し、隣人を愛して生きてきたのかということです。神さまの御言葉を完全に守れる人は、イエスさまの他だれもおられません。だから、イエスさまに救ってもらう以外に永遠の命を受けることはできないのです。イエスさまが、「私に従って来なさい」と仰ったのは、「永遠の命は、私があなたに与えるのですよ。私から離れていたなら、あなたは神さまの御心を完全に、100点満点で守れないのではないですか。だから、自分の全財産を貧しい人に施せなかったのではないですか。いや、たとえがんばってうわべだけで施たとしても、神さまと人への愛がなければ、100点満点ではありませんよ。誰でも、私たちは神さまの御前に罪人なのです。だから、私が、あなたを救ってあげるのです。私を信じれば永遠の命を受けることが出来るのです。」

イエスさまはこの後、事実、この男の人のためにも、あのペトロさんのためにも、十字架について下さいました。僕たち私たちの罪を償ってくださったのです。

今週の暗唱聖句

イエスは彼らを見つめて言われた。「人間にできることではないが、神にはできる。神は何でもできるからだ。」

マルコによる福音書 10章 27節

〈こどもへの質問〉

Q1 あるお金持ちの男の人が、イエスさまのところへ来て何か尋ねましたね。この人はいったい何を知らなかったんでしょうか？

この人は、「永遠の命をいただくためにはどうしたらいいのだろう」ということが知りたかったんだよね。

Q2 自分の力で永遠の命をいただくことはできるのでしょうか？

いいえ、誰でもイエスさまに救っていただく以外に、永遠の命を受けることはできないんだったよね。

〈祈り〉

天の父なる神さま。私たちは小さく弱く、罪をたくさん持っているので、永遠の命をいただくにはふさわしくありません。でも、イエスさまが十字架について私たちの代わりに死んでくださいました。どうか、私たちが心からイエスさまの十字架の救いを信じて、永遠の命をいただくことができますように導いてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。



〈目標〉

罪とは神の法に背くことである。神の律法にかなわないこと。的を外れたことである。神の厳しい基準を完全に守れる者は、主イエス以外に誰もいない。

〈展開例〉

1. 金持ちの男について正しいものに○を付ける。
 ・この青年はイエス様に何を教えてほしいといいましたか。(お金持ちになる方法、長生きする方法、永遠の命を得る方法)
 ・イエス様の答えはどれですか。(十戒を守りなさい、修行をしなさい、お店で買いなさい)
 ・それを聞いた男の人はどう思いましたか。(難しくてできない、そんなことは子どもの時から守っている、めんどくさい)
 ・それに対してイエス様は何と命令しましたか。
 (もっと働きなさい、持っているものを全部売って貧しい人々にあげなさい、学校に行きなさい)
 ・イエス様は男の人に足りないものは何だとおっしゃいましたか。(心から神様と隣人を愛すること、真面目に働くこと、勉強すること)
 ・男の人はそれを聞いてどうしましたか。(その通りにした、笑った、がっかりして立ち去った)

2. 考えよう。

○あなたはどうですか。

男の人は自分の力で永遠の命を得ることができると思っていました。あなたはどうですか。この命令を完全に守れる人はいると思いますか。

○永遠の命を得るためには

神様が要求するテストに完全に合格しなければなりません。100点満点でなければなりません。イエス様だけが100点を取ることができます。私たちの中には罪があるので、神様の命令を守ることができません。

私たちは誰も自分の力で永遠の命を得ることはできません。神様の命令を完全に守ることができるイエス様だけが、永遠の命を持っておられます。

私たちのために十字架にかかれ、神様の命令を完全に守られたイエス様を信じることによって、永遠の生命が与えられます。

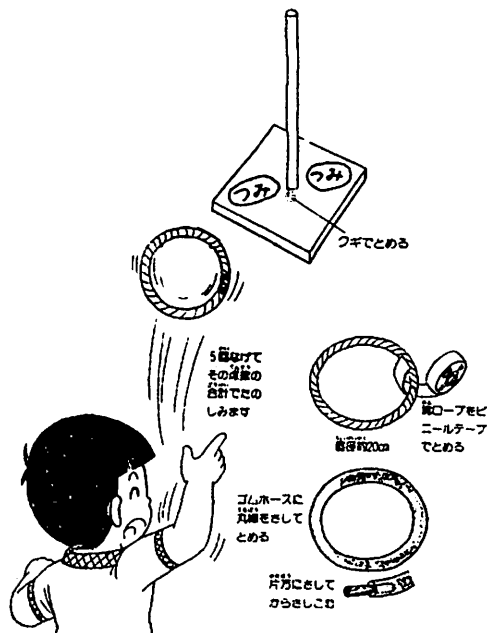
○罪とは何ですか。

罪とは神様の命令に従わないことです。的や道はずすということです。神様の道からはずれていることです。人間に対して犯す罪も、実は神様に対して罪を犯しているのです。神様は私たちの隠れたところで犯す罪も、心の中で考える悪いこともみんな御存じです。神様の命令を守ることができない私たちは皆、神様の前に罪人です。

3. 輪投げを作って遊ぼう！

「罪=まとはずれ」

材料・ 板材、丸棒、綿ロープ、
ビニールテープ



〈祈り〉

天のお父さま、人間の力では神様に喜ばれるような本当に正しいことはできません。私たちの汚れた心を清くしてくださるためにイエス様が死んでくださったことを感謝します。イエス様を信じ、正しいことができるように導いてください。

〈目標〉

墮落した結果、罪が入ってきた。罪とは何かを教える。

〈指導上の注意〉

自分にも罪があることを認識し、罪の現実は全員にあるということに気を付けつつ教える。

〈展開例〉

次のポイントを押さえつつ、今日のお話の確認のために、生徒と対話をしつつ一緒に考えましょう。

・先回は墮落をしたことを学んだ。墮落の結果、罪が入ってきたと言うことを確認する。

・罪とは何か。(カテキズム問17)

・私たちは神の御言葉(ご命令)を、一つも破らずに守ることができるのか。

・そんな私たちが神様の御言葉を守ったと神から見られるために何をすればよいか。

人間の力では何もすることはできない。しかし、ただ主イエス・キリストを自らの救い主と告白し信じることによる。

〈ワーク〉

1. 聖書の言う罪って何だろう？

a. 国の法律を破ること。

b. 神様の御言葉を破ること。

2. 私たちが神様の御言葉を完全に守ることではあるのかな？ 考えて答えを書いてみてね。

3. 自分の力で、罪から救われることはできません。

それでは、私たちは罪から救われることはないのかな？次から選んでね。

a. もうどうしようもない。

b. 私たちを救うためにイエス様を神様は送って下さった。

4. マルコ福音書 10:26, 27 節を書いてね。

〈ワークの答え〉

1. b 2. 罪人の私たちが神様の御言葉を完全に守ることはできません。 3. b

〈目標〉罪について知るとともに、慈しみ深い主イエスにすべてをゆだねる。

〈指導上の心得〉罪人に対する主イエスの慈しみににじみ出ている記事である。罪の定義を深めるより、主イエスの慈しみに力点を置いた構成とした。

〈展開例〉

【導入】今日の聖書箇所、「イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。」とあります。永遠の命を受ける道をたずねてきた青年に対する、イエスさまのやさしい眼差しを想像してみてください。イエスさまは「わたしを見た者は父を見たのである」とおっしゃいました。私たちもイエスさまに心を向けましょう。そうすれば神様がいかにやさしく、いつくしみにみちたお方であるかよくわかるのです。

【話し合う(死をみつめる)】誰も人間の未来について予言することはできません。しかしこれは絶対に間違いなくみんなに起こると断言できることがあります。それは人間は皆死ぬということです。金持ちの青年の質問は、どうしたら死なないで済むかということでした。誰でも死は怖い。死を身近に体験

したことがありますか。死体を見たことがありますか。(死人を前にした時の悲しみ、むなしさなどの体験を話し合ってみよう。)死を見つめることは大切です。死を見つめれば見つめるほど、命の大切さがわかるのです。世のみんなは死ねば終わりと思っています。でもキリスト教では、死は新しい命の始まりだという点で、世の考え方と正反対です。みなさんは死で自分の人生が終わってもよいと思いますか。そんなことはありませんね。人生は永遠に続いてほしい、いつまでも命をもっていたい。誰でも願います。本当にそれができる道があるのです。

【メッセージ(永遠の命への道)】その道は、主イエス・キリストを通してまことの神を知り、主の十字架によって罪赦され、永遠の命が約束されていることを信じる心をいただくことです。自分の力で得ようとしてはいけません。ただいつくしみ深いイエスさまにお願いするのです。

〈祈り〉

神様。私を、恐ろしい死の恐怖から解放し、永遠の命へと導いてください。

〈目標〉私たちが神様の命令を完全に守る事ができない事の確認。神様は100%守る者しか「正しい」とはみなされない。

〈展開例〉今日は、神様の前での「罪」とはどんなものであるのかを考える事にしましょう。

○「罪」を明らかにするもの

「罪」とは、子どもカテキズム問17の答のとおり、神様の御言葉（命令）に一つでも従わないことです。しかし、何が神様の命令であるのかを知らなければ、何が神様の喜ばれない事なのかを知る事もできません。もちろん人殺しや泥棒が悪いこと＝罪だと言うことはわかりますが、自分で当たり前だと思っている事、だれもがしているからかまわないと思っている事、そんな中にも神様に喜ばれない事はいっぱいあります。神様の命令をまず知らなければ、自分がいかにそれを守れていないかも分からないのです。ローマ7:7に「律法によらなければ、私は罪を知らなかった」とあるのは、そういうことです。律法に「むさぼるな」と書かれていなかったら、私は「むさぼる」という罪を犯している事を知らなかったに違いない、というのです。私たちに聖書を通して示されている神様の命令＝「律法」こそが、私たちに何が罪であるのかを示しているのです。

○神様の命令

神様の命令とはどんなものでしょうか。何を見れば私たちはそれを知る事ができるでしょうか。それは十戒に要約されています。

イエス様はさらに簡潔に要約されました。『心を尽し、精神を尽し、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』（マタイ22:37-39）。イエス様の要約は、神様の命令の基本的な考え方を教えています。十戒は、その考え方を具体的に私たちの生活に適用したらどうということになるかを教えています。こうして私たちは神様の命令を知る事ができます。ところが残念な事に、私たちはその掟を完全に守る事ができないのです。

○私も罪の中に

神様の律法という鏡に自分を映してみると、自分がいかにそれを守る事ができない者であるかがわかります。「そんなことないよ。人殺しなんかしてい

ないし、万引きだってしたことがないよ」という人もいるかもしれません。しかし、イエス様は「人を馬鹿と言う者は殺したのと同じように裁かれる」（マタイ5:21,22）とおっしゃるのです。「そんなあ。なんで人殺しと馬鹿って言うことが同じなんだよ」と思うかもしれませんね。イエス様の教えられた事は、神と人とを愛する事です。たとえ殺さなくても、人を愛していなければ、同じように神様の前では「罪」なのです。どうですか。バカとかアホとかよく言ってしまうませんか。自分では軽い気持ちで言っても、言われた人は悲しくなってしまうかもしれない。それは「愛している」ことではないですよ。「あんなやついなけりやいいのに」と思うことも、心の中で人殺しをしているのと同じだとしたらどうですか？ 私は、とてもじゃないけど「殺すな」という掟を守っているなんて言えません。

○100点か0点か

「でも、いいことだつてしてるよ。友達をたすけてあげることや、お年寄の手伝いをしてあげることもある」神様の命令を全部が全部守れないわけじゃないよ」と思う人もあるでしょう。しかし、神様が求めておられるのはパーフェクトであることなのです。100点でなければ0点と同じなのです。きびしいですねえ。しかし、神様は全く完璧に正しい方ですから、少しの欠けたところも認める事はできないのです。ちょっと足りないけどまあいいかと言って正しくないことを正しいと認めることは、神様の完全な正しさとは両立することができないのです。

今日の礼拝のお話に出てきたお金持ちの議員は、神様の律法をきちんと守っているつもりでしたが、自分の財産を売り払って貧しい人々に施すこと、貧しい人々を愛する事ができませんでした。そのことが「罪」であることは、イエス様に指摘されるまで彼にはわかっていませんでした。

私たちが、礼拝で「十戒」を唱えるのは、神様の前で神様の命令を思い起こす事によって、自分の力では神様の命令を100%守る事ができない「罪人」であることを知るためなのです。

〈祈り〉天の父なる神様。私はほんとうにあなたの前では何一つよいことのできない罪人です。私が自分に頼る事なく、あなたの御力に頼ることができるようにしてください。

テキスト 創世記3章8～24節

9月2日に続く、創世記3章の学びの二回目です。

神はご自身のみ言葉に背いて墮落した人を尋問され(8-13)、アダムと女とを断罪され(16-19)、エデンの園から追放されます(22-24)。しかし蛇に対する断罪のみ言葉(15)の中に、私たちは福音の明確な萌芽を見出すのです。

(1) 罪の現実性

まず、聖書が罪をきわめて具体的なものとしてとらえていることを知らされます。神の尋問を受ける人のありさまをよく見たいと思います。

蛇に語りかけられた女は、神のみ言葉を歪曲します(3節を2:17と比較)。蛇の巧みな言葉を聞かされると、女はみ言葉から目をそらされて、木の実自体に目を奪われます(6)。木の実を食べた女は、男にも食べさせて、共犯者をつくります(6)。

罪なき者から罪ある者への変化は、神の顔を避けて木の間に隠れるありさまに如実にあらわれています(8)。これまでは顔と顔を合わせて神を見ることは祝福そのものであったのです。

アダムと女は神の尋問を受けますが、神への罪の告白と赦しの懇願はなく、たがいに相手に罪の責任を転嫁しようとし(11-13)。

これは現代の私たちが、またすべての人間が罪を犯す時のプロセスそのものです。創世記の記述は、決して古い神話などではなく、まさにここには神の前での罪人の真相が語られているのです。

(2) 「原福音」

人へのさばきの宣告(16以下)に語られるのは、以下の事柄です。まず、男と助け手としての女とのうるわしい関係が損なわれ、相互の関係は支配と隷

属の関係となります。人は一生涯苦しんで働かねばなりません(喜びであったはずの労働が苦しみに変わります)。そしてそのはてに、人は塵に返(19)らねばなりません。死を見ない者として創造された人が死ぬ者となったのです(2:17)。

さらに、人の罪の影響が被造世界そのものにも及ぶこととなりました(17)。創造の冠、被造世界の管理者としての栄光と重責を担っていた人の墮落の深刻さを思わずにおれません。

神は人をエデンの園から追い出されます。神が園に置かれた「ケルビム(「ケルブ」の複数形)」(24)は人頭有翼の像で、人の野望から園を守るためのものでした。

このように人の墮落の悲惨が深刻に記されるこの箇所において、私たちは一筋の光をも見ます。それは蛇すなわちサタンへの神の宣告の中にあります。

15のみ言葉は「原福音」と呼ばれます。ここにすでにイエス・キリストの贖いの恵みが語られていると見ることができるからです。

人は墮落によってもはや救いにおいて無能力となり、サタンとのたたかいにおいても無力に敗北し、滅びるほかない者となりました。しかし、神はそうようになった人のかわりに、おん自らサタンとの間に「敵意を置」いて下さると言われます。これは、サタンを滅ぼす救い主を人類の間から生まれさせて下さるという約束です。

蛇は彼のかかどを砕きはしますが、致命傷にはなりません。彼は蛇の頭を砕きます。サタンは敗北します。このたたかいはやがて十字架の上になしとげられることになるのです。神は人に死を宣告されるそのただ中において、ご自身の一時的な恵みによる命の約束をも語っておられるのです。

カテキズム 子どもカテキズム 問18
ウエストミンスター小教理問答 問17, 18, 19

子どもカテキズム

問18 罪を犯した人間はどのようになりましたか。

答 神さまとの交わりを失い、生きているあいだも、死んだあとも、神さまの怒りを受けなければならなくなりました。ですから、心が曲がって、自分中心になり、お友だちとけんかをしたり、うそをついたり、盗んだり、悪いことをしてしまうのです。

〈罪と悲惨〉

ウ小教理は、人の墮落を「罪と悲惨の状態」に陥ったことと語り、「罪の状態」と「悲惨の状態」に区別して語っています。子どもカテキズムは、それを念頭に置いて、とくに悲惨について語っています。

罪と悲惨の区別は、ちょうど何かの犯罪を犯して有罪と判決されることにたとえることができます。罪とは、有罪と定められること、また罪の責任を負って刑罰に服することです。それに対して、悲惨の状態とは、投獄されて家族の交わりから引き離され、職を失い、名誉や財産を失い、さまざまな不利益を甘受しなければならないことです。有罪の結果として引き受けなければならない惨めな状態です。

〈罪の状態〉

罪とは、有罪と定められ、罪の責任を負って刑罰に服することです。ウ小教理は、それを「原罪」と呼び、罪の責任と、最初の義を失ったこと、全性質が腐敗したことを挙げています。これらは、一言で言いますと、人が造られた時に与えられた「神のかたち」が歪んだということにほかなりません。人は、神にかたどって、「神のかたち」を持つ霊的な存在、人格的な存在として造られました。それ故に、神の特別な摂理である命の契約を与えられ、神との応答的な関係に置かれ、神に従う存在とされました。しかし、最初の人々が罪を犯すことによって、最初の義すなわち神のかたちが歪みました。それ故に、神との正しい応答関係に立つことができなくなったのです。私たちは、全性質において、神から離れ、自らを神とする腐敗の中に陥りました。

〈悲惨の状態〉

悲惨とは、罪の結果として生じる惨めな状態、罪人である限り引き受けなければならない悲惨です。神のかたちが歪み、私たちは、神との正しい応答関係に立つことができず、神を求めながらも、神

ならぬもの、また自分自身を神としてあがめます。こうして、私たちは自分の身に神の裁きを招き、神の怒りのもとにおかれています。ここに、私たちのすべての悲惨、罪の悲惨の根源があります。

創世記3章は、この罪の悲惨の状態を明確に言い表しています。第一に、「アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れる」とありますように、神と共に生きることを恐れ、神を避けるようになりました。神との交わりを失い、そのため、人は生きる目的を見失いました。第二に、神の怒りを引き受けること、小教理では、「神の怒りと呪いのもとにある」ということです。神は愛なるお方ですが、しかし、人を愛し、被造物を愛するからこそ、神は罪に対して怒り、呪われます。罪人は神の怒りと呪いの正当な対象です。神は蛇に対して、また女とアダムに対して、怒りと呪いを与えました。人と大地の間に呪いがかかれ、人は大地の産物を得るために労苦し、あるいは搾取します。人と獣の間も呪われ、人は獣を虐げ、獣は人を襲います。男女の関係にも呪いがかかれ、「生めよ、増えよ、地に満ちよ」の祝福に苦しみが伴い、男が女を支配するようになりました。人間関係に苦しむのです。

神との交わりを失い、神の怒りと呪いのもとに置かれている故に、この世のあらゆる悲惨と死があります。自己中心や人間関係の苦しみ、悪い行いがあり、自分が願っていないくても、私たちは悪を行います。そして、「罪が支払う報酬は死です」(ローマ6:23)。死は、人間にとって本来的なものではなく、罪の報いとして与えられたものです。私たちが死を恐れるのは、死が神の怒りと呪いの現れだからです。

しかし、神はアダムと女に「どこにいるのか」と呼びかけ、キリストにおいて招いてくださる方です。「しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです」(ローマ6:23)。

創世記3章8～24節

子どもカテキズム 問18

「アダムとエバ、罪を犯した人間の姿」

〔単元のねらい〕

キリストの光の下で初めて、認罪が与えられる。それだけに、道徳的なアプローチに傾いてはならない。罪の学びが続くこの時、子どもたちが、日曜学校に喜んで通って来れるように、福音の喜びのなかで罪を語り、悔い改めに導きたい。

先々週、創世記のアダムとエバさんのお話をしました。エバさんがエデンの園の木の中のたった一本の木、神さまから食べてはいけないと命令されていた善悪の知識の木の実を「ガブツ」と食べたお話です。アダムも食べたのでしたね。さてその後、この二人はどうなったのでしょうか。彼らは直ぐに、自分たちが裸であることを知りました。何か、変だと思いませんか。なぜなら、これまでだっぴつと裸だったのですから。

つまりこう言うことです。二人はこれまで、自分自身についてこう思っていました。「自分は神さまに似せて形づくられたすばらしい人間なんだ。人間って良いな。人間ってすばらしいな。」「エバさん、君はすばらしい女の人です。」「アダムさん、あなたこそ素敵なお男の人です。」「神さまはわたしたち二人を愛してお造りくださったんだよね。だから、わたしたちは神さまのことが大好きだし、お互いのことが大好きなんだね。」「神さまを敬い、御言葉に従って生きるって、本当に幸せだね。嬉しいね。」

ところが、二人が神さまの御言葉を破って罪を犯し、神さまに背き神さまとの正しい関係を壊して罪を犯してから、どうなったのでしょうか。二人は、自分のあるがままの姿が自分で恥ずかしい、嫌だな、嫌いだなと思うようになってしまったのです。自分が自分であることが嫌になってしまったのです。だから隠したくなりました。本当の自分を知られたら困る、嫌だと思うようになってしまいました。お互いの事も嫌になってしまったのです。自分との関係もお友達との関係も悪くなってしまったのです。

みんなこの歌、知っていますか。「象さん、象さん、お鼻が長いね。そうよ。母さんも長いよ。」先生はとても好きです。「象さん、象さんお鼻が長いね、象さんのだから当たり前でしょう。でも、キリンさんから見たり、ライオンさんから見

たり、「うわあー、なっがーい」と思われるでしょう。もしかすると、そのことばのなかには、意地悪な気持ちで込められているかもしれません。「象さん、お鼻長すぎない？」この子どもの象さんは、そんな風に言われて、決して怒っているのでもないのです。ひねくれて、わたしはこれでも短いんだよ」とも言いません。とても、嬉しそうに言うのです。「そうよ。母さんも長いよ。わたしはお母さんの子どもに生まれて嬉しいな。象で生まれてきた良かった。」象さんをはじめ、動物は罪を犯しませんから、きつと嬉しいんでしょう。

ところが、罪を犯した、人間は、人間でいることが嬉しくなくなったり、自分自身でいることが嫌いになったりしてしまったのです。

その次に、起こったのはなんでしょうか。神さまは、二人に「どこにいるの」と仰いました。これは、返事をしないと分からないので、返事をしなさいということではありません。神さまが二人を見失ってしまうことなど絶対にありません。神さまは二人の方から、自分たちの方から「ごめんなさい」と謝れるように、「どこにいるの」と語りかけてくださったのです。彼らは答えました。「わたしは隠れています。神さま急にあなたさまのことが怖くなってしまいました。」ここで分かるのは、罪を犯した人間は、神さまから逃げたくなる、神さまを怖がる、神さまに正直になれなくなるということです。神さまとの良い関係が失われてしまったのです。

神さまは仰います。「アダム、あなたは、私の命じた御言葉を破ったのですか。」アダムは答えます。「は、はい。木の実を食べてしまいました。でも、神さま、それは、あの女のせいです。あの女が私に食べさせたのです。でも・・・、あの女は神さまが私に与えられたのでしたよね。」アダムさんの言っている意味が分かりますか。アダムは、罪を

犯したのは自分が悪いのではない。これまで大好きですと言っていたエバのせいにしました。それだけでもありません。最後には、神さまがあんな悪い女を与えられたからです、と言って、神さまの責任にまでしてしまうのです。

次に、神さまは、エバさんに言います。「何ということをしてしまったのですか。」エバさんも答えます。「へ、蛇が悪いのです。私はだまされただけです。」つまりエバさんも「私が悪いんじゃない、他の人が悪いからこうなってしまったんだ」と誰か他の人のせいにしてしまうんです。ごめんなさいと言えないのが罪であり、罪の結果なのです。

罪を犯した人間は、神さまの怒りを受けなければならなくなりました。神さまに従うことが嫌になってしまったのです。神さまにもそして人にも素直でなくなりました。心が曲がってしまったのです。それを自分中心、自己中心と言います。罪は自己中心によって、どんどんどんどん大きくなって行きます。嘘をついたり、けんかをしたり、最後には人を殺してしまうことになってしまうのです。

こうして、アダムとエバは、エデンの園を追放さ

れます。でも、不思議なことに、神さまはアダムとエバが直ぐにそこで死なれるようには、なさいませんでした。むしろ、二人のために、頼まれもしないのに、毛皮の服を着せてくださったのです。神さまは、神さまに背いた二人でさえもなおも、愛しておられたのです。しかし、この二人の為に、動物の毛皮が必要となったということは、動物にどういうことが起こったのか想像できますか。そうです、動物が犠牲となって死ななければならなかったのです。罪というのは、それほど恐ろしいのです。誰かの命が犠牲になるのです。勿論、本当は、罪を犯した本人が命を落とさなければなりません。

けれども、やがてこの人間の罪を償うため、犠牲になるために、動物の命ではなく、神の御子イエスさまのお命が十字架で犠牲になられたのです。この毛皮になった動物は、そのイエスさまの十字架をわたしたちに前もって教えてくださる事だったので、イエスさまの十字架の予告です。僕たち私たちは、このイエスさまの十字架を信じて、神さまとの正しい関係を取り戻して頂きました。神さまを愛し、喜ぶ人にして頂きました。心から感謝しましょう。

今週の暗唱聖句

ただし、善悪の知識の木からは、決して食べ
てはならない。食べると必ず死んでしまう。

創世記 2 章 17 節

〈こどもへの質問〉

Q1 神さまから「食べてはいけない」と言われていた善悪の知識の木の実を食べてしまったアダムとエバさんは、神さまから「食べたのか？」と聞かれたときに、どのように答えたでしょうか？

アダムさんは、「あの女が私に食べさせたのです」とエバさんのせいにしました。そしてエバさんは、「蛇がだましたので食べてしまいました」と蛇のせいにしてしまったんだよね。

Q2 神さまとの約束を破ってしまったアダムさんとエバさんは、そのままエデンの園で暮らすことができたでしょうか。

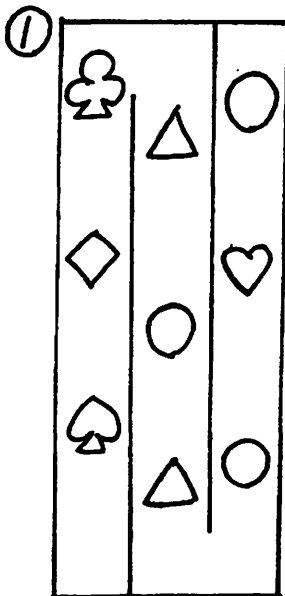
いいえ、エデンの園から出て行かなくてはならなくなったんだよね。

〈祈り〉

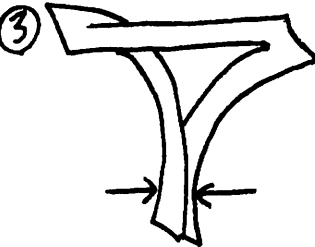
天の父なる神さま。私たちは神さまのお約束を破ってしまうようなことをたくさんしています。このような私たちの罪のためにイエスさまは十字架にかかって死んでくださいました。どうか、私たちがイエスさまを心から信じて、イエスさまに従っていくことができますようにお導きください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

工作

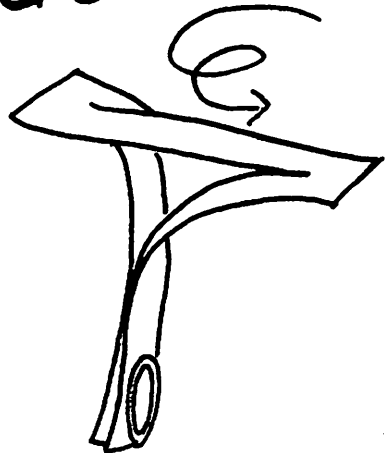
くるくるおとし



色画用紙を図のように七割り取り、好きな模様をかく。



クリップで両端をはさむ。



高いところから手を放すとまわりながら落ちていく。クリップが重すぎるとストーン落ちてしまうので重すぎないようにする。

〈目標〉

墮落の結果、人間は神との交わりを失い、のろわれる者となった。また神の御言葉どおり死ぬ者となった。罪を犯した人間はすぐに神を恐れるようになり、お互いを愛せなくなった。罪を犯した人間がどのような状態になったのかを学ぶ。

〈展開例〉

1. 人間は罪を犯した結果どうなったのか。

罪を犯す前の アダムとエバ	罪を犯した後の アダムとエバ
・きれいな心だった	・わがままで自分勝手になり憎しみや怒りなどで汚れた心となった
・ありのままの姿で愛し合っていた	・お互いが恥ずかしくなり、愛せなくなった
・疲れず、健康だった	・疲れたり病気になる
・善いことしか知らなかった	・悪いことをするとどういふことを知った
・神様と交わっていた	・神様が怖くなった
・楽しく幸せだった	・不幸になった
・死ななかった	・死ぬものとなった

私たちの不幸の原因、みじめな状態は神様に従わなかったことから始まっていることを教える。
二人はエデンの園を追い出される。死とはまず、神さまと交わりを失うことである。

2. 劇をしよう。

①人形とエデンの園を作る。皮の洋服も用意する。



②劇をしよう。役を決めて台本を読む。

ナレーター 神様に造られたアダムとエバはとても幸せでした。神様は園の真ん中にあるよいことと悪いことを知る木の実だけは絶対に食べてはいけ

ません、それを食べると必ず死にますとおっしゃいました。あるとき、エバさんのところへ悪魔であるへびがやってきました。

へび この園のどの木の実も食べてはいけないと神様は本当におっしゃったのですか。

エバ いいえ食べてもいいのです。でも「真ん中の木の実だけは食べてはいけない。触ってもいけない。死ぬといけいから」とおっしゃいました。

へび 絶対に死にませんよ。その実を食べると神様のように利口になれるんですよ。(エバ、善悪の知識の木の実を取って食べる。もう一つ取ってアダムにあげる。アダムも食べる。二人は恥ずかしそうにする。いちじくの葉っぱを腰に巻く)

ナレーター 二人は神様の歩かれる音を聞きました。(二人は木の間に隠れる)

神様 アダム、どこにいるのかね。

アダム あなたの足音が聞こえたので、恐ろしくなって隠れています。私は裸ですから。

神様 あなたはわたしが食べてはいけいと言った実を食べたのか。

アダム あなたがいつしよにしてくださったあの女がくれたんです。

神様 エバ、何と何をしましたのだ。

エバ だって、へびがだましたんです。

神様 へびよ、おまえは呪われ、一生はいまわるようになる。女よ、おまえは苦しんで子供を産むようになる。男よ、おまえは一生苦しんで働かなくてはならない。そして最後には死ぬ。

ナレーター 神様は二人に皮の服を着せてやりました。(洋服を着せる)そして二人にエデンの園を出ていこうとおっしゃいました。(二人はエデンの園を出ていく)

ナレーター こうしてアダムとエバは、楽しく幸せだったエデンの園を追い出されてしまいました。しかし、神様はその後も二人を守ってくださいました。そして私たちに罪から救う救い主を送ってくださるとの約束をもしてくださいました。

〈祈り〉

天のお父さま、私たちの心の中にも神様にすぐにあやまらない心があります。自分の罪を人のせいにする悪い心があります。このような心を悲しむことができますように。

〈目標〉

罪を犯した人間がどうなったのか。罪と悲惨の現実をはっきりと教える。

〈指導上の注意〉

何週も罪について語っている。同じことの繰り返しのようなのだが、罪の事実をまず知ることは大事なことであることを心に留めて指導する。

〈展開例〉

次のポイントを押さえつつ、今日のお話の確認のために、生徒と対話をしつつ一緒に考えましょう。

- ・ 罪を犯した人間は神との交わりを失ったことを再び確認する。
- ・ それはどのようなことを我々にもたらしたのでしょうか？ 神の怒りを受ける者となった事実。
- ・ 神との交わりの欠如は人間同士の交わりに、どのような変化をもたらしたか。自己中心、争い、ねたみ、嘘等々。
- ・ このような者となったことは、我々が霊的に死んだ者となったことを伝える。

〈ワーク〉

1. 罪を犯した人間は神様とどうなったのかな？

下の文章の（ ）を※の所から言葉を選んで埋めてみよう。

「罪を犯した人間は、神様との（ ）を失い、生きている時も死んだ後も、神様の（ ）を受ける存在となってしまいました。それは、神様からの霊の息を頂くことができないことで、私たちは（ ）者となってしまったのです。

※ア) 交わり、イ) 喜び、ウ) 笑われる、エ) 怒り、オ) 宝、カ) 霊的に死んだ

2. 罪は私たちの中にどんな風に現れてくるのかな？

考えて書いて、自分たちの中にある罪を見つけてみよう。

〈ワークの答え〉

1. ア、エ、カ
2. (例) 喧嘩、口答え、妬み等々

〈目標〉

アダムとエバの罪の結果と、神の変わらぬ愛を知る。

〈指導上の心得〉

8月5日に善き創造の学びで確認した、善いものがすべて失われてしまったことにも触れながらすすめていこう。

〈展開例〉

【導入】罪を犯したアダムとエバは、どうなったでしょうか。創世記3:7-13を朗読。

【3 択問題】Q1.自分が裸であるとわかったアダムとエバは、なぜいちじくの葉で腰を覆ったのか。①自分のあるがままの姿が恥ずかしく、嫌いになったから。②かっこいいから。③神様になったしるしだから。(答:①) Q2.神様が来られた時、二人はなぜ園の木の実の間に隠れたのか。①神様の足音が大きくて恐かったから。②雨が降ってきたから。③木の実を食べたことがばれるとまずいと思ったから。(答:③) Q3.アダムは、木の実を食べた理由をなんて言い訳しましたか。①エバのせいです。②蛇の

せいです。③おいしそうだったから。(答:①)

Q4.エバはなんて言い訳しましたか。①蛇のせいです。②わたしのせいです。③アダムのせいです。(答:①) Q5.エバに対するさばきはどれですか。①死。②苦しんで子を産む。③蛇と暮らす。(答:①と②) Q6.アダムのさばきは何ですか。①食べ物を得ようと苦しむ。②マラソン10周。③死。(答:①と③) Q7.なぜアダムとエバはすぐに死ななかったのですか。①神様はもっと苦しませてから死刑にしようと思ったから。②神様は2人の罪をも赦そうと考えておられたから。③神様の言葉は嘘だったから。(答:②。キリストの十字架)

【聴く】これらのアダムとエバの罪は人ごとではありません。アダムとエバと同じ罪は、生まれた時から私たちの内にもあるのです。ローマ5:12 暗唱

〈祈り〉

恵み深い神様。アダムとエバをはじめとする全人類に、イエス・キリストの十字架のあがないによって、救いへの道を開いてくださり、感謝いたします。

〈目標〉罪を犯した人間は、造られた時の本来の姿を失っており、神様とも人とも正しい交わりを持ってなくなっていることを学ぶ。

〈展開例〉今日は、神様の命令を破り、罪を犯してしまった人間が、そのためにどんな状態になってしまったかを考えましょう。

○人間の本来の姿

まず、人間が造られた時の本来の姿をもう一度見てみましょう。神様は、人間を御自分に似せてお造りになりました(創世記1:26)。これは、人間が「霊」である神様に似た「霊」的な存在であるということです。創世記2:7にある、神様が人の鼻に吹き入れられた「命の息」というのが「霊」のことです。人間の中には神様からいただいた霊があるので、神様のことを思うことができ、神様を礼拝し、神様と交わりをもつことができます。これが、他の造られたものと人間との最大の違いであり、そのことによって人は真に生きる(創世記2:7)者とされていたのです。そのような状態の人間は、神様と正しい交わりを持ち、人どうしはお互いに助け合い(2:18)、神と人とを愛することができていたのです。

○人との交わりを失う

蛇に誘惑されて、神様から禁じられていた「善悪の知識の木の実」を食べた人間がまずしたのは、お互いが裸であることに気付いて「いちじくの葉」で腰を隠すことでした。それまでの二人は助け合う存在(2:18)であり、お互いを「尊敬をもって相手を優れた者」(ローマ12:10)と見ていたので、お互いに隠し合うものなどなかったのです。しかし、神様の命令に背いてしまった時、神様に従うよりは自分が神様になりたいと思った時、二人の関係は完全に対等な関係から、「自分のほうが相手より上」と思いたくなる関係になってしまいました。そして、互いに相手の視線から自分を隠そうとするようになりました。彼らが「いちじくの葉」で隠したのは肉体的な面だけではなく、心の中も相手に見られないようにしたのです。こうして、罪のために人間どうしの関係は「互いに尊敬しあう」愛の関係から、自分の方が相手の上に立って支配したいと思う関係になりました。互いに相手よりも上になりたいと思う関係は、平和な関係ではなく争いの関係です。こうして、私たちは隣人との愛の関係を失ったのです。

○神様との交わりを失う

その日、風の吹く頃、神様が来られたのを知ったアダムたちのしたことは、神様から隠れることでした(創世記3:8)。人間は、お互いどうしだけではなく、神様からも自分を隠さなければならなくなったのです。神様に従うよりは自分が神様みたいになりたいと思った心を、とても神様の前で見せる事はできなかったのです。

神様は姿を隠したアダムたちに「どこにいるのか」と声をかけられました(3:9)。神様がそんなことがわからないということはありません。神様は、アダム達が自分で神様の前に立ち、神様の前で罪を告白して悔い改め、神様との交わりを回復するチャンスを与えられたのです。しかし、彼らはそのチャンスを生かすことができませんでした。彼らは、神様に背を向けることを選んだのです。そして、神様からの問いかけに対しても、自分の罪を認めるよりは、女や蛇に責任を転嫁しようとしてしました(3:12,13)。こうして、人は神様から「たましい」をいただきながら、神様に背を向けるようになり、真の生き方からはずれていってしまったのです。

○罪の悲惨と神様の恵み

その結果、人間のおちいった状況はどんなものでしょうか。神様からいただいた命を伝えていくという大きな務めが、苦しみに満ちたものになってしまいました(3:16)。また、神様のもとの喜びであったはずの労働が、苦しみになりました(3:18,19)。男女の関係も助け合う関係から支配・被支配の関係となりました(3:16)。そして何より、人は死んで塵に帰るものとなってしまいました(3:19)。

このままでは、人の一生はただ土に戻るための苦しみの日でしかありません。しかし、神様は人をそのままに放っておきはなさいませんでした。これらの悲惨を宣告される前に、はっきりと人の子孫が悪魔の頭を砕く、息の根を止めてしまうことを約束されました。この「子孫」とは、イエス様のことです。神様は私たちを滅んでいくままにせず、新しい命へと導く道を備えられたのです。

〈祈り〉天の父なる神様。私たちは罪のために、あなたとも隣人とも、正しい交わりを結ぶ事ができないでいます。どうか、救い主イエス様にあつて、正しい交わりを回復できますように。

テキスト 創世記4章1～16節

カインとアベルの物語です。アダムとその妻の最初の子カインが弟アベルを殺してしまうという出来事の中に、墮落の悲惨の深刻さがあらわれています。同時に、殺人者となったカインをみずから守られる神の恩恵にも目をとめるべきです。

(1) 罪を支配せよ

成長してそれぞれ農夫、また羊飼いとなったカインとアベルは、ある時それぞれ主に献げ物を献げたのですが、主はアベルの献げ物にのみ目を留められ、カインのそれには目を留められませんでした。

その理由についてはさまざまな解釈がなされています。信仰の熱心の違いだという説もありますが、そのような功績的な理解は正しくはないでしょう。また、「アベル」という名が「息」を意味することから、神があえて(息のように)弱くはかない者をお選びになるお方であることを示すものだとの意見もあります(申命記 7:7 を参照)。ともかく聖書は神がこのようになされた理由については記していません。

ただ、この時のカインの怒りの背後には、彼の両親が善悪の木の実を食べて罪におちた事実を見ることができそうです。この時以来、人は自分を善悪をはかるはかりとしました。自分が神のような絶対者となって(3:6)、神のふるまいをも自己中心のはかりで判定するようになりました。それゆえカインは神がなされたことを正しいこととして受け入れることができずでした。

怒りに燃えて、顔を上げて神を仰ぐこともできなくなったカインに、神は戸口で待ち伏せている罪を支配せよと警告なさいます(7)。

人は自力で罪を支配することはできません。人が

罪にうちかつためには、主のみ手に逃れていくほかはありません。しかしカインは神の警告と招きを拒否し、アベルを殺してしまいます。

(2) 罪人への守り

神はアベルを殺したカインに、アベルはどこにいるのかと問われます(9)。木の実を食べたアダムと妻への「どこにいるのか」(3:9)との問いを思い起こさせます。人の存在の根本を問う神の問いです。そして、彼の両親同様、彼もまた罪の責任を負おうとせず、虚偽の言葉を語ります(9)。

しかし人の目からは逃れることはできても、神の目からは逃れることはできません。神の審判のみ言葉を聞いたカインは自分の罪の恐ろしさに震え上がり、この神の叱責と罪の記憶からはどこまで逃れていっても逃げ切れはしないと慟哭します。また、弟を殺した報いとして今度は自分が誰かに殺されるだろうとおびえます。

そのカインに神はしるしを付けられ、彼を殺そうとする者から彼をおん自ら守られます。安住の地を失ってさすらい人となることは彼への審きですが、そこにも神の守りのみ手は伸ばされます。

神はアベルを殺したおりに、「どこにいるのか」と語りかけ、関係を持つようになさいました。同様に、追放のしるしは追放のしるしでありつつ、彼がなおご自身のものであることを示す聖なるしるしともなり、人々の罪とねたみの連鎖から彼の命を守るものとなったのです。

このカインに付けられた聖なるしるしは、神の罪人への愛のしるしです。使徒パウロの「イエスの焼き印」という言葉(ガラテヤ 6:17)を思い起こします。

カテキズム 子どもカテキズム 問19
ウェストミンスター小教理問答 問16

子どもカテキズム

問19 あなたは罪人ですか。

答 はい、私も神さまの御前に罪人です。

ウェストミンスター小教理問答

問16 全人類は、アダム最初の違反で、墮落しましたか。

答 アダムと結ばれた契約は、彼自身だけでなく、その子孫のためでもありました。そのため、普通の生まれ方でアダムから出てくる全人類は、彼の最初の違反において、彼にあって罪を犯し、彼と共に墮落しました。

〈命の契約の代表者としてのアダム〉

私たちの霊的な目は曇っており、私たちは自分の真実の姿を知りません。自分が罪人であり、墮落しているということ。これは、私たちの理性や経験では理解できない、聖書から聴くべき事柄です。

「このようなわけで、一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入り込んだように、死はすべての人に及んだのです。すべての人が罪を犯したからです」(ローマ 5:12)。この御言葉は、一人の人の罪と墮落をすべての人の罪と墮落として語り、罪の報いとしての死もすべての人に及んだと語っています。これを、ウ小教理は、神と人との「契約関係」において理解しています。神が最初の人アダムと結んだ命の契約は、アダムが個人的に結んだのではなく、彼の子孫である全人類の代表者として結んだのです。アダムはすべての人の代表であり、彼が罪を犯した時、すべての人が罪を犯したのです。

今日の問答は、「わたしも神さまの御前に罪人です」と答えます。ここでももちろん、私たちが実際に犯している罪、悪い行いを思い起こして、自分が罪人であると認めることは大切です。しかし、罪は決して自分が気づいていることばかりではありません。むしろ、気づいていない罪のほうがはるかに多く、大きいのです。この問答の背後には、神と人との契約関係があり、最初の人においてすでに契約に違反し罪を犯して墮落したという理解があります。アダムは私たちみな代表であり、代理です。アダムにおいて私たちも罪人であり、罪を犯す存在であること、このことを認め、受け入れるのです。

〈私たちはみな、罪と死に支配されている〉

私たちすべての人が神の御前に罪人であるという

こと、このことを知るならば、神が罪人をどのようにお取り扱いになるのか、それはすべて神の自由であると、わきまえなければなりません。「神は御自分が憐れみたいと思う者を憐れみ」(ローマ 9:18)ます。それは、決して不公平とか理不尽ではなく、罪と死に支配され、滅びに定められた罪人を救い出す、恵みと憐れみの行為にほかなりません。

神がアベルとその献げ物に目を留められ、カインとその献げ物には目を留められなかったこと(創世 4:4-5)。これも、神の恵みと憐れみの行為です。神はアベルを憐れまれました。カインにとって、これは確かに不条理であり、不可解であったでしょう。しかし、だからといって、怒りに支配されてはならないのです。神の行為を自分自身の基準、自分の物差しで判定するならば、それは自らを神とすることにほかなりません。そのときには、神に対して顔を上げることはできず、神の御前から逃れようとするばかりです。罪と死に支配されているのです。

〈神の契約的取り扱い〉

神は、罪を支配することをカインに求めました(創世 4:6-7)。しかし、私たち罪人は罪と死に支配されるばかりであり、自ら罪と死を支配することはできません。このところにおいて、神は人を契約的に取り扱ってくださいます。主イエス・キリストにおける恵みの契約です。「一人の罪によってすべての人に有罪の判決が下されたように、一人の正しい行為によって、すべての人が義とされて命を得ることになったのです」(ローマ 5:18)。十字架と復活のキリストが恵みの契約における私たちの代表であり、代理です。キリストが恵みの賜物です。キリストの故に、私たちは罪と死に打ち勝つのです。

創世記4章1～16節

子どもカテキズム 問19

「カインとアベル、わたしも罪人」

〔単元のねらい〕

罪を自分自身の問題として認め、キリストの救いを求めさせることが、我々の大きな課題である。しかも、それは、大衆伝道的なアプローチではなく、個人伝道の営みにおいてこそ、真実に伝えられるであろう。この教理の体得は一生涯の事である。教師自身が、罪人であること、しかも赦されたこと、その喜びの中で、愛する子らに罪の悔い改め、告白（具体的な何かがあれば聞き、祈ることも必要）へと招き、導きたい。

先週は、アダムとエバが善悪の木の実を食べて、神さまの御言葉をやぶり、神さまとの正しい関係を壊してしまったことを学びました。エデンの園を追放されたのでしたね。

さて、しばらくして、この二人には、赤ちゃんが生まれます。神さまはこの二人を憐れんでおられるのです。カインが生まれました。次に弟のアベルが生まれました。カインとアベルは仲良し兄弟でした。大きくなって働くようになります。そしてお父さんお母さんに教えられた通り、それぞれが、働いて得た収穫物を神さまに献げました。カインはお百姓さんになりました。アベルさんは、羊飼いになりました。カインさんは、土から実ったお米や野菜などを神さまに献げ物としました。アベルさんは、羊の中の最初に生まれた一番太っている羊を選び分けて、神さまに捧げました。するとどうでしょうか。神さまは、カインとその献げ物を喜ばれませんでした。しかし、アベルとその献げ物は喜ばれました。カインさんはそれを知って、頭のなかがぐらぐらしました。心のなかがいらいらしました。激しく怒っているのです。もう怒れて怒れてなりません。その時には、神さまのことなどすっかり忘れています。神さまから目をそらしているのです。下を向いてしまったのです。

でも、皆のなかには、「エッー、何故、神さまは不公平なことをなさるのだろう」って思ったお友達もいるかもしれません。先生も、最初に読んだときは、「カインさんはかわいそうだな」と思ったのです。でも、その後のお話を聞きましょう。

カインが神さまから目をそらして、憤りで煮えくり返っているのを見ておられました。ですから、すぐに、神さまはカインに仰いました。「愛するわたしのカインよ。何故、それほどまでに怒っている

のですか。あなたが正しいのなら、私の方に顔を向けてご覧なさい。私を礼拝できるはずでしょう。下を向いているのは、あなたの心が曲がってしまったからではないですか。そのままにしているのは絶対駄目です。そのまま放っておいたら、けんかをしたり、嘘をついたり、盗んだり、そのような悪いことをしてしまうのですよ。あなたは、確かにわたしに献げ物をしました。でも、一番大切なのは、『神さま、僕の汚れた罪の心、曲がってしまった罪の心を赦してください。僕を、神さまの喜ばれるような心にして下さい。』と、お祈りする心を持つことなのです。かっこうをつける必要なんかありませんよ。わたしはあなたを愛しているから。』

しかし、この神さまの御言葉を耳では聞きました。が、心の底では聴いていません。心の中は神さまへの怒り、アベルへの妬み、憎しみに溢れていたのです。カインは心のなかで言います。「僕だって、神さまに献げ物をしたはずだ。弟のアベルの献げ物より僕のほうが良いものに決まっているのに。アベルなんかより、僕のほうが偉いはずだ。」そしてどうとう心の中に、このような真つ黒で、恐ろしい気持ちの沸いてきたのです。「アベルなんかいなくなつてしまえ、アベルなんか死んでしまえ、そうだ殺してしまおう。」

ある日の事です。お兄さんのカインさんは、アベルに言いました。「なあ、弟アベルよ。久しぶりに、子どものころ遊んだ野原に行ってみないか。」「うん、兄さん、行こう行こう、それにしても、久しぶりだなあ。お兄さんは畑仕事を一生懸命しているから、いつも忙しいんだよなあ。」野原につきました。カインはアベルの後ろから、持っていたナイフで襲いかかりました。殺してしまったのです。それまでの、青く美しい空の色も、緑の草原の輝きもくすんでし

まいりました。

今、世界には、戦争や人殺し、病気や災害がいっぱいあります。そしてすべての人間は死ななければならなくなりました。アダムとエバ、そしてカインが神さまに罪を犯したからです。兄弟が兄弟を殺してしまったのです。人が人を殺してしまったのです。罪を犯したことによって、神さまの造られた美しい世界を人間が壊してしまったのです。

なぜ、そんなに恐ろしいことをしてしまったのでしょうか。カインの心の中には、「自分が一番だ、自分が一番賢いし、力が強いし、褒められたいし、幸せになりたい。」そういう自分中心の心が染みついていたのです。罪の心が染みついていたからです。だから、一つの事件をきっかけにして、心の中の罪が外に、表に、行いになって現れたのです。

神さまは、一生懸命、そのようなカインに御言葉を語ってくださったのです。「真っ黒な心をそのまま放ってはいだめだ。自分が罪を持っていることを認め、ごめんなさいと素直にあやまりなさい。わたしは、あなたの罪を赦す事が出来ます。」

愛する皆さん。僕たちわたしたちの心の中にも、

そのような罪がありませんか。「僕は日曜学校に来ているんだ、良い子に決まっている」と思うなら、もしかするとあなたもカインと同じではありませんか。今日のカテキズムにこうあります。「あなたは罪人ですか。」「はい、私も神さまの御前に罪人です。」そうです。神さまの御前に、僕たち私たちも罪を犯しています。神さまは、優しく御言葉を語っておられます。「わたしは、あなたの罪を赦すために、あなたの身代わりにわたしの独り子イエスさまを十字架にかけました。あなたが、ただこのイエスさまを信じるだけで、罪を赦し、汚い心は綺麗に洗い、神さまを中心に生きて行く心を造ってあげます。」

今日、皆でお祈りしましょう。先生のお祈りの後について、皆も声に出して祈りましょう。「天のお父さま、わたしは、お友達に意地悪を言ったり、行ったことがあります。嘘をついたこともあります。そんな、自分中心の汚い心を持っているわたしを赦して下さい。イエスさまが、そんなわたしの身代わりに死んでくださった事を信じます。そして復活して、わたしの心を新しい心に造り変えてくださることを信じます。アーメン。」

今週の暗唱聖句

罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。

ローマの信徒への手紙 6章 23節

〈こどもへの質問〉

Q1 お兄さんのカインさんと弟のアベルさんが神さまにささげものをしたとき、神さまはどちらのささげものを喜ばれましたか。

弟のアベルさんのささげものを喜ばれたんですよね。

Q2 それを知ったカインさんは、どうしたでしょうか？

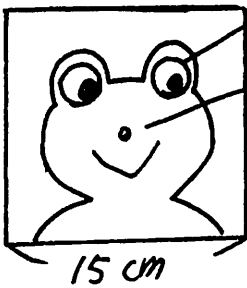
なんと、弟のアベルさんを殺してしまったんだよね。私たちの心の中にも同じような罪があるのです。

〈折り〉

天の父なる神さま。私たちは悪い心を持っています。こんな私たちのためにイエスさまは十字架にかかって死んでくださいました。どうか私たちの心を新しく造り変えてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

工作 キョロキョロがえる

①

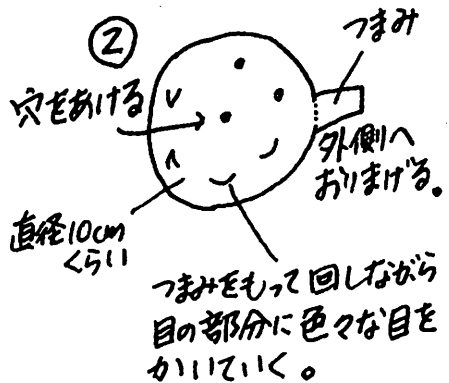


まるく切り取る

まん中に穴をあけてうらに②を重ねてゆわいてとめる。

15cm 四方の正方形にカエルの絵をかき、目の部分をまるく切り取る。

②

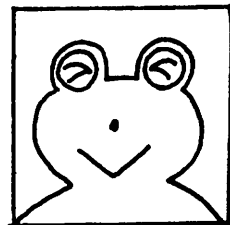


穴をあける

直径10cm くらい

つまみをもって回しながら目の部分に色々な目をかいていく。

③目を動かして楽しもう!!



カエルちゃんの目が色々変わるよ!!

〈目標〉

心の中に芽生えた罪をそのままにしておく、大きくなって形を伴う罪へと成長してしまう。この私の中にも、罪を指摘されたとき神様をうらむ罪があることに気づかせ、救いを求めるよう導く。

〈展開例〉

1. 人類最初の殺人事件をさぐれ！

①なぞ・その1／なぜカインの献げ物は受け入れられなかったのか。

→ 献げる心に問題があった。

「カインのようになってはいけません。・・・なぜ殺したのか。自分の行いが悪く、兄弟の行いが正しかったからです」(ヨハネー 3:12)

「信仰によって、アベルはカインより優れたいけにえを神に献げ、その信仰によって正しい者であると証明されました」(ヘブライ 10:4)

②なぞ・その2／なぜカインは顔をふせたのか。

→ カインが正しいことをして受け入れられなかったのであれば、堂々と神様の方に顔を向けられたはずである。自分の心が正しくなかったことを知っていたから、神様の顔を見ることができなかった。その心は怒りに満ちていた。

③なぞ・その3／なぜカインはアベルを憎んだのか
→ 神様がアベルだけを受れているように思えて、弟アベルを憎む思いでいっぱいになった。

④なぞ・その4／あなたの心にはカインと同じ思いがひそんでいないだろうか。

- ・ 悪いことをして叱られた時、反対にうらむ。
- ・ 自分が悪いのに、友達や兄弟を憎む。
- ・ 罪を隠そうとしてうそをつく。

→ 罪をそのままにしておくとともに恐ろしい罪が生み出されることを教える。自分の経験を話し合う。このような罪が社会のいろいろな不幸を生み出していることに気づかせる。

2. びっくりカメラを作ろう

「その人の心の中が写る(?) びっくりカメラ」
心の中をのぞいてみたら、どんな顔が写るかな。

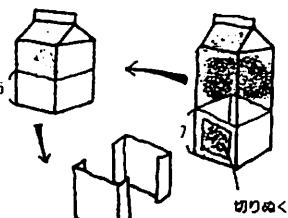
神様は私たちの心をごらんになっています。カインのような顔をしている子はいないかな。

用意するもの=牛乳パック、あつ紙、たこ糸、画用紙、マジック、セロテープ、はさみ

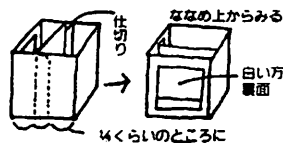
①牛乳パックを底から7cm切りはなす。

②前に1cmずつのわくをとって4角く窓をあける。

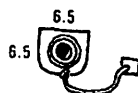
③残りの牛乳パックで、6.5cmの輪切りをつくり、たて半分に切りはなす。



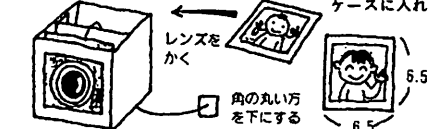
④切りはなしたものを、4角く開いた窓に、白い面がでるようにとりつける。



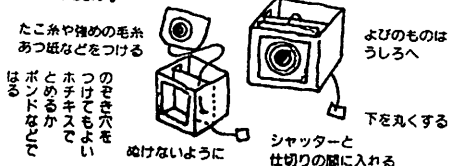
⑤厚紙でシャッターをつくる。



⑥左右6.5×6.5の画用紙などに絵をかいて写真をつくりケースに入れる。



本物の写真でもよい。



⑦仕切りの前に写真を入れます。

⑧シャッターを角をまるくしてある方を下にして写真の前に入れます。

⑨ひもをひっぱるとシャッターがとれ写真があらわれます。



- ・ 二人組になって相手の顔を描いて写す。
- ・ 笑っている顔や怒っている顔、うらんでいる顔、悲しい顔など、いろいろな表情の顔を用意する。
- ・ お互いに撮り合って、どんなことを思っている顔かを説明する。

〈祈り〉

天のお父さま、罪を犯した私たちのためにイエス様を送ってくださいありがとうございます。悪いことをして叱られたとき素直にごめんなさいと言うことができますように。

〈目標〉

全員罪人であるとの認識を持つ。

〈指導上の注意〉

教師自身も罪人である事実と同時に、それが神に許された事実を伝える。

〈展開例〉

次のポイントを押さえつつ、今日のお話の確認のために、生徒と対話をしつつ一緒に考えましょう。

- ・我々人間は、アダムを罪を引き継ぐものであり、誰一人として罪人でない者はない。だから、全員が神の怒りを受ける者なのである。
- ・アダムを罪を引き継ぐというのはあまりに不当ではないか。アダムが元々、神に従えるように創られた事実を知る。その性質はどの人も同じである。
- ・自分の中にある罪を共に考える。喧嘩や、人に迷惑をかけた、言うことを聞かなかったり等等。
- ・そのような人間の罪の赦しを子どもたちに語り、イエス・キリストの十字架の贖いを語る。

〈ワーク〉

1. 私たちは、ふだん警察に捕まるような悪いことはしてないよね。だけど、罪人なのかな？
a. 絶対違う b. 可能性がないとは言えないね
c. 私も神様に逆らう罪人です
2. みんなの先生も罪人です。でも、もう神様はみんなの先生のことを罪人とは見ていません。そして、神様はみんなのことも「あなたはもう罪人ではないですよ」と言っておられるんですよ。どうしてだろうね。考えて書いてみよう。
3. ローマの信徒への手紙6:23を書いて暗唱しよう。

〈ワークの答え〉

1. c 2. イエス様がわたしたちの救い主だから。

〈目標〉心をご覧になる、父なる神を考える。

〈指導上の心得〉神は、心をご覧になるとしても、冷徹な裁判官のようにではなく、我が子を心配する父としてご覧になるのである。我が子を思う父の視点で分級をすすめていきたい。

〈展開例〉

【導入】今日はアダムとエバの最初の2人の子供、カインとアベルのお話です。カインは農夫、アベルは羊飼いでした。

【聴く】カインもアベルもお父さんのアダムとお母さんのエバから、神様のお話を聞いて育ちました。地の実りや豊かな家畜はすべて神様の恵みでした。二人は神様に感謝するために、カインは土の実りから、アベルは家畜から、一番いいものを神様にささげていました。ところがある日、カインは土の実りから最上のものをささげませんでした。カインはだんだんと神様にささげものをするのが面倒臭くなっていったのです。自分の仕事が嫌だったのかもしれませんが。それをみてとった神様は、カインのささげものを受け入れませんでした。アベルに負けた悔

しさと憎しみのため、カインは怒って顔をあげることができませんでした。この時、神様が言われた言葉は、裁判官のようにカインの罪を決めつけるようなものではありませんでした。正しいのか正しくないのか、カインに考えさせようとしておられるのです(7節)。よき父は、子供を罪に定めるような言い方はしないものです。子供に考えさせ、自分で悔い改めるよう導くものです。しかしカインは弟を殺してしまいました。父なる神はどれほど悲しまれたことでしょう。しかし、全能なる天の父は、カインを見捨てることはなさいませんでした。厳しいさばきはありましたが、自分のした罪の重さに苦しむカインにするしをつけ、追放後もカインを誰も殺さないようにしてくださったのです。

【考える】ささげものを受け入れられなかった時の、カインの罪は何だったのでしょうか。(アベルに対する競争心あるいは憎しみ、神に対する不満)。アベルの罪はあなたの内にもありますか。

〈祈り〉全能の父なる神さま。自分の罪の深さをもっと教えてください。

〈目標〉アダムの子孫である私たちも罪の悲惨さに無関係ではなく、私たちには救いにいたるとんなよいこともできないが、私たちにはイエスの焼印がしるされていることを学ぶ。

〈展開例〉アダムとエバがおちいった罪の悲惨さは、私たちにどのように関わっているのでしょうか。

○罪は受け継がれていく

今日の礼拝で、アダムとエバの子どもたちの間に起こった事件について聞きました。それは、どんな事件だったのでしょうか。それは、兄による弟殺しという悲惨な事件でした。その直接の原因は、カインがアベルをねたんだからなのですが、このことが起こったのは、実はアダムとエバの罪がその子どもたちへも受け継がれていたからなのです。

創世記 5:3 に、「アダムは、自分に似た、自分にかたどった男の子をもうけた」とあります。これは、人が神様にかたどって造られたことと似ていますが、「かたどった」ことの内容はかなり違います。神様からアダムにかたどられたのは霊的であるということでした。それに対し、アダムからカインにかたどられたのは、神様に従うのではなく自分が神様になりたいという「罪」でした。

ローマの信徒への手紙 5:12 に「一人の人によって罪が世に入り、罪によって死が入りこんだように、死は全ての人に及んだのです」という御言葉があります。アダムの罪はカインに受け継がれ、そしてカインの子孫たちにも同じように受け継がれていきました。その結果、今の私たちもアダムの子孫ですから、神様に従うよりは自分が神様になりたいという罪を同じように受け継いでしまっているのです。

○正しい人は一人もいない

パウロは、ローマの信徒への手紙 3:10-12 で、「正しい者は一人もいない」と言っています。アダムから罪を受け継いできた結果、今の私たちの中には真に正しい人、神様の命令をパーフェクトに守って天国に行けるような人は、だれもいないのです。そのままでは、だれもかれもが神様のすばらしさをあらわし、神様を喜ぶという、人生の本来の目的のために「役に立たない者」になってしまったのです。

確かに私たちはよいことをすることができます。人に喜んでもらえるようなこともすることができます。しかし、そのよいことは、私たちを天国に導く

事はできません。神様が求められる正しさは、神様の命令をすべて守るパーフェクトな正しさです。パーフェクトな存在である神様は、パーフェクトな正しさしか「正しいもの」として受け入れることはできません。つまり、私たちのしているよいことは、それ自身では私たちを天国に導く事はできません。

どんなよいことができる人でも、やっぱりどこかで、自分のことを神様や隣人より大切に思ってしまうのです。「よいことをしている自分は大丈夫だ、これで天国に行けるんだ」と思いがちなのです。しかし、そうではありません。私たちは、自分自身を天国に導くための「よいこと」はできないのです。

○私たちを天国に導く「正しさ」

私たちには天国に行くための道は残されていないのでしょうか。だれ一人「正しい人」がいないのだとしたら、だれも天国に行けないのでしょうか。

私たちの神様は、完璧に正しい方で、少しのごまかしもゆるされない方ですが、同時に大変情け深い方でもあります。神さまは、アダムが罪を犯した時に、すでに救い主が来られて悪魔の力を打ち砕くことを約束しておられます（創世記 3:15）。彼らをエデンから追放された時も、後は知らないとはばかりに放り出されたのではなく、二人に皮の衣を作って着せられました（創世記 3:21）。最初の殺人者であるカインに対しても、彼が殺される事が無いように「しるし」をつけられました（創世記 4:13-16）。このように、神様は罪人に愛を示される方です。

その愛は私たちにも及んでいます。神様は、人間が全て滅んでしまうことをよしとはされず、神様があらかじめ選んだ人々を救おうとしておられます。あたかもカインにしるしをつけられたように、選ばれた人々には「イエスの焼印」（ガラテヤ 6:17）をつけておられます。その焼印は目に見えるものではありません。しかし、焼印と同様、消えることがないものです。その焼印を私も君も神様からつけられています。だからこそ、私も君もこうして日曜日に教会で神様の前で出合う事ができるのです。

〈祈り〉天の父なる神様。アダムの罪が私にも受け継がれていると言う事を学びました。私は自分を天国に導くようなどんなよいこともできませんが、あなたは私を憐れんで救いの道を準備してくださっています。私もその道へと導かれますように。

テキスト 創世記6章1節～7章

洪水とノアの物語です。神は洪水の審きのただ中で信仰者ノアの命を救われ、彼に人の創造の通りの祝福のみ言葉（「産めよ、増えよ、地に満ちよ…」、創世1:28）を改めて語り直されます(9:1)。人の罪にもかかわらず、ノアの子孫から再び人類の歴史は始められ、ただ神の恵みによって世界の歴史は保持されます(9:12以下)。

〔1〕「後悔」の意味

6:6,7には「後悔」という言葉があります。全知全能の神がご自身のみわざを後悔されることがあるのか、としばしば議論になる箇所です。

神の創造のみわざはどこまでも完全で、神はこれを後悔されることはありません。ただし、神は人を機会仕掛けの人形のような存在として造られたわけではありません。人は神のみ前に人格的な責任を負う者として創造されており、人が与えられていた自由意志を、神への服従ではなく、背きのために用いたことは、神のみ心を深く痛めたのです。

神の「後悔」は、創造のみわざへの悔いと言うよりも、むしろ人がご自身に背いて罪を重ねることを悲しみ、心を痛められたという意味であると思われます。

〔2〕主が戸を閉ざされた

地上の人間たちが「常に悪いことばかりを心に思い計って」(6:5,12)いた中で、ノアは「神と共に歩んで」(6:9)いました。ノアの信仰は、例えば洪水の兆しもいっさい見られない中、音空の下で来る日も来る日も神のみ言葉に従って巨大な箱舟を造り続け

たことにもあらわれています(6:22)。

ノアはみ言葉に従って箱舟に入り、主ご自身がノアの後ろで箱舟の戸を閉ざされます(7:16)。洪水は四十日の間地上を覆いつくします。

箱舟の戸を閉ざされたのが主なる神であったことから、この出来事的主人公が義人ノアではなく、神ご自身であることがわかります。そして箱舟の戸は、まさに命と滅びとを隔てるものであったのです。人の生死を握っておられるのは造り主なる神ご自身であることが厳かに語られています。そして神はご自分の義のはかりに従って、地を正しくお審きになります。同時に、そのような正しい審判のただ中で、イエス・キリストを信じる信仰によって罪人を義として下さる神のくすしい恵みがあらわされます。

使徒パウロは「今や、恵みの時、今こそ、救いの日」(二コリント6:2)と語っています。救いの戸は今再び開かれています。イエス・キリストという門から入るなら、誰もが救われます。ただ、地が再臨の主によって再び審判される日が来ます。主は仰せになります。「その日、その時は、だれも知らない」(マタイ24:36)。「人の子が来るのは、ノアの時と同じだからである。洪水になる前は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていた。そして、洪水が襲って来て一人残らずさうまで、何も気がつかなかった。人の子が来る場合も、このようである」(マタイ24:37-39)。

救いの「今」の厳肅さを覚えます。信仰をもって「その日、その時」に備えたいと思います。

カテキズム 子どもカテキズム 問20
 ウェストミンスター小教理問答 問19

子どもカテキズム

問20 あなたも神さまの怒りを受けなければなりませんか。

答 はい、私も神さまの怒りを受けなければなりません。

ハイデルベルク信仰問答

問10 神はそのような不従順と背反とを罰せずに見逃されるのですか。

答 断じてそうではありません。それどころか、神は生まれながらの罪についても実際に犯した罪についても、激しく怒っておられ、それらを正しい裁きによってこの世においても永遠にわたっても罰したもうのです。・・・後略

問11 しかし、神は憐れみ深い方でもありませんか。

答 確かに神は憐れみ深い方ですが、また正しい方でもあられます。ですから、神の義は、神の至高の尊厳に対して犯される罪が、同じく最高の、すなわち永遠の刑罰をもって体と魂とにおいて罰せられることを要求するのです。

〈神の義と私たちの不義〉

神は愛と憐れみに満ちておられます。同時に、聖書は神が義なる方であることをも強調しています。「主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち、幾千代にも及ぶ慈しみを守り、罪と背きと過ちを赦す。しかし罰すべき者を罰せずにはおかず、父祖の罪を、子、孫に三代、四代も問う者」(出エジプト 34:6-7)。神は愛であり、神は義でもあります。このどちらも神の本質です。

私たちの義について、人間が神のかたちである故に、神との関係において、義また不義と言われます。人が神を正しくあがめ、神に従うときに神に対して「義」であり、人が自己に執着し、自らが被造物であることを忘れて神を拒み、自らを神とするときに神に対して「不義」となります。私たちは、アダムの墮落以来、生まれながら罪を持ち、神に対して不義であり続けています。私たちは罪と死に支配されており、実際の罪を犯します。

〈神の義の発露としての神の怒り〉

罪人に対して神は怒りを現します。「不義によって真理の働きを妨げる人間のあらゆる不信心と不義に対して、神は天から怒りを現されます」(ローマ 1:18)。「天から」とは神の御座からということで、神の超越的かつ絶対的な尊厳と義と聖を表します。「現される」とは覆いを取り除くことです。神は忍耐しておられます。その覆いを取り除かれて、私たちの目に見える御業として怒りが現されます。この

怒りは、人間の怒りのような感情的なものではなく、神の義の発露です。神の御心の実現を妨げる人間の罪に対して、神の義が貫かれ、怒りとして現されます。神の義は罪が罰せられることを要求します。

〈神の怒りとしてのノアの洪水〉

神の怒りは、ノアの時代に洪水として現されました。「この地は神の前に墮落し、不法に満ちていました」(創世 6:11)。それ故に、神は、「見よ、わたしは地もろとも彼らを滅ぼす」(創世 6:13)とお語りになり、洪水が全地を覆いました。これは、神の義が貫かれるための刑罰でした。

洪水の後、神は虹をしるしとして契約を立て、「水が洪水となって、肉なるものを滅ぼすことは決してない」と約束しました。今の時代、地が神の御前に墮落し、不義に満ちているにもかかわらず、なお滅ぼされずに保たれているのは、ただ契約に対する神の真実です。神は忍耐強く、憐れみ深いお方です。

〈キリストの十字架における神の義〉

この神の義がもっとも明らかなかたちで現され、貫かれたのが、主イエス・キリストの十字架の御業でした。キリストの十字架において神の義が貫かれ(ローマ 1:17)、キリストの肉において神の刑罰がくだされました(ローマ 8:3)。キリストの十字架には、神の怒りと刑罰が現されています。このキリストにおいて神の義が全うされた故に、キリストに罪の赦しがあり、永遠の命があります。罪人の救いは、キリストにおける神の義にあります。

創世記6章9～22節

子どもカテキズム 問20

「ノアの箱舟、生まれながらの怒りの子」

〔単元のねらい〕

一ヶ月余りに渡って罪について学び続けた。その最後。カテキズムに則ったカリキュラムだからこそ、このような学びができた。しかし、罪についての学びが福音の光の下でなされるときに、それは決して暗い礼拝式や分級にならないであろう。徹底して罪人たる自覚の深化、救い主への信仰、感謝を呼び覚まし、深めたい。

先週は、カインとアベルのお話を致しました。カインは弟のアベルを妬んで、殺してしまったというお話でした。アダムとエバが神さまに罪を犯してから、アダムとエバの子どもたちは、ますます、罪を犯しつづけてきました。その心はいつも悪いことばかり考えていました。ビー玉を坂道に置くと、必ず低い方に向かってゴロゴロ転がり落ちてゆきますね。同じように、人間は、放っておくと、神さまから目を離し、悪いことを考え、行ってしまふのです。ごろごろ、悪いほうに転がり落ちて神さまに背中を向けてしまうようになりました。

神さまは、そのように人間にどんどんどん罪が増し加わってゆくのをご覧になっておられました。神さまがご自分のかたちに似せてお造り下さった人間、神さまの命を注いで下さった人間です。神さまの最も愛されたその人間が、今ではまったく神さまを無視し、神さまの御心に逆らい、自分勝手な悪いこと、罪を犯しつづけているのです。神さまは、悲しみと憤りが高まり、心を痛めておられました。

けれども、そのような人間たちのなかで、キラリと光る人がいました。その人の名はノアと言います。ノアさんは、神さまのことを第一に思う人でした。神さまに従うことを喜び、どんなことでも、神さまに従うように生きていたのです。ですからノアさんはいつもどんなときでも神さまと一緒に歩んでいました。ある日の事です。神さまは、ノアさんに仰いました。「ノアよ。人間はいつもいつも私の前に罪を犯しています。そのために、世界中の自然も、生き物も悪い影響を受けてしまっています。私は、この世界を人間と一緒に滅ぼしてしまうこととした。けれども、ノア、あなただけは違います。ですから、これまでのように、今から言うことを良く聞きなさい。」

こうして、ノアさんとその家族は、神さまが仰

た通りに、それはそれは大きな大きな木の舟を造りはじめました。135メートルの長さ、22.5メートルの幅、高さは13.5メートルです。ノアさんには、奥さんと3人の子どもとその奥さん、全員で7名の家族がおりました。皆で協力しながら、その巨大な舟を造り上げたのです。そして、動物や鳥の雄と雌とを神さまがお命じになったとおりに入れました。舟が出来上がって動物たちが入り込みました。するとどうでしょう。神さまが仰った通りに、ザーッと大雨が降りはじめました。その雨の勢いは止まりません。ザー、ゴオーとすごい音を立てて、降りつづけてました。しばらくすると、船はブカリと浮かびはじめました。その大雨がどれほどのものだったかという一番高い山も水の中に入ってしまった程なのです。神さまは本当に、ノアさんの家族以外、ノアさんの箱舟の中に入った動物たち以外は滅ぼされたのです。

人間は勝手な思い込みで、こんな風に考えるのです。「誰だってやっていることだから、僕だけが悪いんじゃない。私だけが悪いんじゃない。」「そうだよそうだよ、少しぐらい悪いことしたって、たいしたことないさ。」「木の実を食べてはいけないんだったら、かじったら良いのさ。死ぬことなんてないのさ。死んだって大丈夫、誰だってみんな死ぬんだからね。」けれども、生きておられる私たちの神さまは、罪を憎み、罪を怒り、罪を罰する正しい神さまです。正しい神さまは、罪をそのまま見過ごすことはなさいません。ですから、神さまが本当の神さまだったら、罪をお怒りになり、罰する以外にはありません。神さまは本気です。神さまは僕たち私たちをただ怖がらせるために仰つるものではありません。神さまは本当に、罪を犯した全ての人を罰するのです。神さまがどれほど本気なのか。どれほど、罪を怒り、罪を憎み、罪を罰せられるのか。ノアの箱船

の物語を読めば分かります。

けれども、それ以上にはっきりと分かることがあります。それはイエスさまの十字架です。十字架を見ればはっきりと分かるのです。イエスさまは神さまの御子、独り子なる神さまです。けれども、僕たち私たちが罪を犯して、神さまの子どもになれず、むしろ神さまの怒りを受けなければならないことを憐れんでくださったのです。憐れんでくださって、人間となってくださいました。そして、僕たちの罪を償うために、十字架で父なる神さまの恐ろしい怒りを受けられたのです。それは、どんなに恐ろしい罰でしょうか。でも、父なる神さまは、私たちの罪を赦し、神さまの子どもとして買い戻すために、御子イエスさまの命を犠牲にする以外なかったのです。父なる神さまはイエスさまだからといって、手加減をしようとはなさいませんでした。まったく罪のないイエスさまを、まるで罪人の中の罪人のように罰したのです。僕たち私たちの罪を全部、イエスさまの上に乗せられて、十字架のイエスさまにおいて罪を罰せられたのです。

神さまは、今、誰でも箱船に乗りなさいと招いておられます。箱船とは教会の事です。教会にはイエスさまと一緒にいられます。このイエスさまの教会に来て、イエスさまを信じれば、みな神さまの怒りを受けなくて済みます。なぜなら、もうイエスさまが十字架で神さまの怒りを受けられたからです。

先生の右の手には、聖書が乗っています。これは先生の罪を表します。左の手はイエスさまです。イエスさまには罪がありません。先生は罪を持ったままだったら、神さまの怒りを受けて減んでしまいます。でも、イエスさまは先生に、「あなたの罪をわたしに下さい」と仰いました。先生は、イエスさまを信じました。すると、イエスさまが先生の罪を取って、代わりに父なる神さまの審きを受けて死んで減んでしまわれたのです。けれども、三日目に復活させられました。ですから、先生はもう、罪の罰を受けなくとも良いのです。皆も同じです。イエスさまの教会に来て、イエスさまを信じれば、決して、神さまの怒りを受けることはありません。心から神さまに感謝しましょう。

今週の暗唱聖句

それで今や、わたしたちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

ローマの信徒への手紙 5章 9節

〈こどもへの質問〉

Q1 神さまを信じていたノアさんは、ある時、神さまから、何かを造るように言われました。何を造りなさいと神さまは仰ったのでしょうか？

そうです。箱舟だよ。

Q2 ノアさんとノアさんの家族が箱舟の中に入った後に、何が起こりましたか。

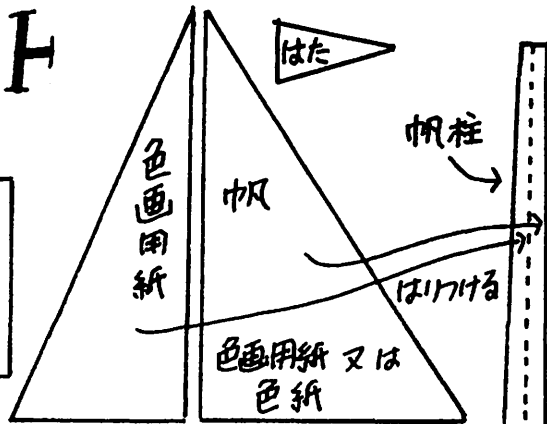
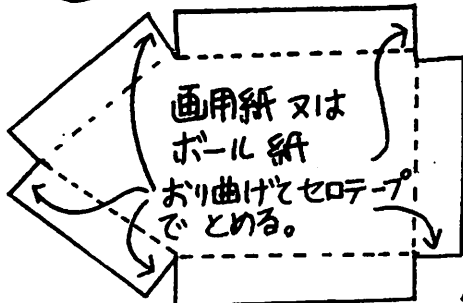
そう、大洪水が起こって、箱舟に乗った人たち以外はみんな滅ぼされてしまったんだよ。

〈祈り〉

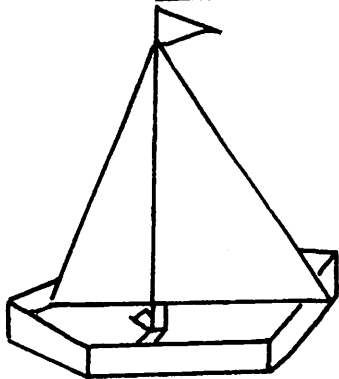
天の父なる神さま。私たちは罪を持っていますから、本当は神さまの怒りを受けて滅んでしまうべきものですが、イエスさまが私たちの身代わりになって死んでくださったので、イエスさまを信じれば、もう罪の罰を受けなくてもよいことを知りました。どうか、私たちが心からイエスさまを信じて救いの喜びを味わうことができますように導いてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。

工作

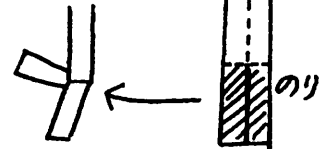
ヨット



まん中を折り曲げる



舟体にろうをぬると
水に浮かびます。
帆が重いとひっくり返る
ので注意しましょう。
ヨットに好きなまようを
つけると楽しいです。



セリ開いて舟のまん中にのりではりつける。

〈目標〉

まずノアの箱舟の出来事の全体を把握させる。罪は必ず罰せられなければならない。愛の神はまた正しく裁かれる正義の神でもある。しかし私たちの罪はすでに御子キリストによって十字架の上で裁かれていることを教える。

〈展開例〉

1. ノアの箱舟テスト

赤ちゃんの頃から教会学校に来ている子供なら、ノアの話は何度も聞いているだろう。またあの話かと思う子供もいるかもしれない。教える効果的なやり方の一つは、子供たちに質問を考えさせることである。テストを受けるのは先生。もし半分以上答えられなかったら不合格。子供たちは一生懸命問題を考えて、また記憶するであろう。

①創世記6章9節～8章から問題を作らせる。

問題例

- ・ノアの息子の名前は何ですか。
- ・箱舟は何という木で作られましたか。
- ・箱舟の長さど高さは？
- ・箱舟は何階建てでしたか。
- ・雨は何日間降り続けましたか。
- ・洪水が起こったとき、ノアは何歳でしたか。
- ・水が減りはじめたのは何日目ですか。
- ・箱舟は何という山で止まりましたか。
- ・ノアが一番最初に飛ばした鳥は何でしたか。
- ・その鳥はどうしましたか。
- ・次に飛ばした鳥は何でしたか。
- ・その鳥はどうしましたか。
- ・次に飛ばした鳥は何でしたか。
- ・その鳥がくわえてきた葉っぱは何でしたか。
- ・ノアは箱舟から出て最初に何をしましたか。

教師が問題を解く（もちろん聖書を見ずに）。子供たちが採点をし、合格か不合格かを定める。答えられなかった問題は、正しい答えを子供たちに教えてもらう。最後に「なぜ神様は洪水を起こしてノア以外の人々を滅ぼしたのか教えてください」と質問する。このことについて話し合う。

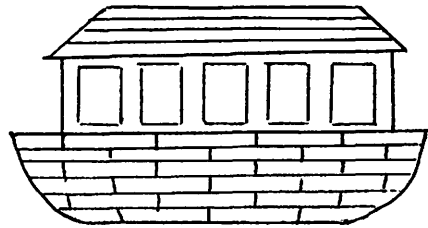
神様は決して悪をそのまま見過ごされるような御方ではないこと、悪いことをしたら必ず罰せられる正しい神様であることを教える。主イエスの十字架は私たちの罪が罰せられたしるしである。

2. ノアの箱舟の工作

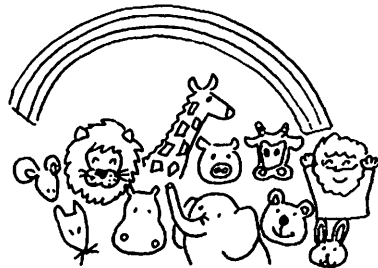
用意するもの

白のマグネットシート(マグエックス社の「びたえもん」など)、マジック、金属の板(お菓子の缶のふたなど)

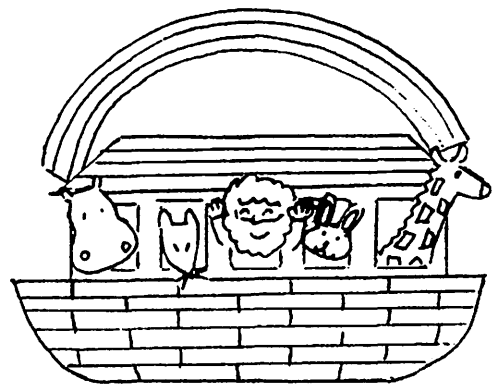
- ①マグネットシートにマジックで箱舟の絵を描く。
窓の中は色をぬらない。



- ②もう一枚のマグネットシートに、箱舟の窓に入る大きさの動物とノアさんと虹の絵を描く。



- ③缶のふたに箱舟を貼り、窓に動物やノアさんを貼る。虹を箱舟の上に貼る。マグネットなので、はがしたり、貼ったりできる。



〈祈り〉

天のお父さま。ノアとその家族を洪水から救い出してくださいありがとうございます。私たちにイエス様の救いが与えられていることを感謝します。

〈目標〉

生まれながらの怒りの子であることを覚え、神が救いをお与え下さる方であることを学ぶ。

〈指導上の注意〉

罪人である自分を教師自身も見つめ自覚し、主イエス・キリストの恵みをしっかり捉えて教える。

〈展開例〉

次のポイントを押さえつつ、今日のお話の確認のために、生徒と対話をしつつ一緒に考えましょう。

- ・我々の中に、生まれたままの状態で神の怒りから逃れることのできる者が一人でもいるか。
- ・神の怒りを受ける者であるということはどういうことか。減らされるべき者。
- ・罪の報酬は死である。滅びとは永遠の死であり、永遠の苦しみである。我々もそれを受けるべき存在であるが、そこから逃れる道はあるのか。
- ・逃れる道は、父なる神様が我々にお送り下さった救い主、主イエスを信じることによつてのみあり得るのである。

〈ワーク〉

1. あなたも神様の怒りを受けなければいけない人なのかな？ 答えを下から選んでね。
 - a. 私も神様の怒りを受けなければなりません。
 - b. いや！僕だけは絶対にそんなことはない！
2. 神様の怒りを受けた人はどうなるのかな？ みんなで考えて答えを書いてね。
3. 私たちが神様の怒りから許されるにはどうしたら良いんだろう？
 - a. 良い子になるように一生懸命努力する。
 - b. 神様が我々に送って下さった救い主、イエスを信じる。
4. ローマの信徒への手紙5:9を書いてね。

〈ワークの答え〉

1. a 2. 苦しみ、滅び、死など 3. b

〈目標〉現代のノアの箱舟である教会にとどまろう。

〈指導上の心得〉箱舟と教会の比較を通して、終わりの日に備えるよう導かれない。

〈展開例〉【聴く】カテキズム問20は厳しい言葉です。神の怒りはみな受けなければなりません。父なる神がいかに慈悲深くても、罪が大目に見られてしまうと、神さまの真つ白な正しさにしみがついてしまうことになるからです。そこで罪深い人間を救うには身代わりをたてる必要があったのです。その身代わりが主イエスさまです。

ノアの箱舟は、現代にたとえると教会です。教会とノアの箱舟は似ています。教会は正確にはこの建物ではなく、一人一人のクリスチャンの集まりのことをいいます。ですから一人一人のクリスチャンが聖書を勉強して成長すればするほど、教会がしっかりとします。悪い教えや罪の誘惑に力強く戦うことができる強い教会になるのです。時には神さまを信じない人から笑われたり、蔑まれたり、攻撃されたりすることがあります。でもクリスチャンは神様に従って、教会を建て上げていくのです。ノアも、ま

わりの人々にばかにされながら、山の中で大きな舟を黙々と造り続けました。水がはいってこないよう、材料と材料の間にしっかりとタールを塗り込みました。くぎはしっかりと打ち、木と木は頑丈に結び、丈夫な舟を造り上げていきました。

人々は洪水などくるわけがないと言いました。今の人々も神さまなどいないと言います。しかし洪水は、確かに、しかも突然来たのです。さて、聖書には、将来あることがノアの洪水のように突然やってくると、書いてあります。それはイエスさまの再臨です。今度イエスさまが来られる時は、世の終わりです。罪の世がすべて神の怒りを受け、裁かれます。信じない者は永遠の地獄に落とされ、信じる者はイエスさまとお会いして、完全に聖くされるのです。その時、私たちに、完全なる永遠の命が与えられます。その日に備えて、私たちは人々に笑われても、神の怒り免れるためにイエスさまの十字架と復活を信じて教会にとどまるのです。

〈祈り〉全能なる神様、あなたを信頼して、現代の箱舟である教会にとどまることができるよう。

〈目標〉罪のむくいは減びでしかなく、神様は確かにそれを実行されるが、神様に選ばれた者は信仰を与えられて救いへと導かれることを学ぶ。

〈展開例〉今日の礼拝ではノアの箱舟のお話を聞きました。私たちはこのお話から、神様の裁きのきびしさと、救いに導いてくださる慈しみとを知ることができます。

○神様の裁きの洪水

アダムとエバは神様から与えられた自由な心を、本来の目的である神様を喜ぶ為ではなく、神様の命令に背く事に使ってしまった。こうして人間は罪に陥り、その罪はアダムにかたどって生まれたカインやその子孫たちにも受け継がれました。そして罪ある人間が地上に増えできた時、神様は人間が自由な心を神様を喜ぶために用いないことに心を痛められ、彼らを滅ぼすことを決心されました。

神様はそれまで忍耐を重ねておられたのですが、人間たちは悔い改めて神様の方を向こうとしませんでした。神様の完全な正しさは、罪を受容する事はもちろん、見逃すこともできません。神様は決然として罪のむくいとしての減びを、洪水を用いて人間たちの上にもたらされたのです。

罪ある人間はいつかは裁かれなければなりません。それは、ノアの時代も今の私たちも同じ事です。神様は今忍耐しておられます。それは裁かれないということではありません。ノアの時代にも、雲一つ無い青空の後に大洪水がきたように、今気配が無くとも裁きはいつの日か必ず訪れるのです。

○ノアに示された救い

洪水の中でノアと家族だけは箱舟に入って救われました。なぜノアたちだけが救われたのでしょうか。それはノアが神様の好意を得たから(創世 6:8)です。それ故、ノアは神様に従う事ができました(6:9)。ノアが神様に従っていたから神様の好意を得たわけではありません。ノアを含めて私たち人間には、自分を救いに導くどんなよいこともできません。あくまで最初に神様がノアを選んで好意を示されたのです。それが、なぜノアであったのかは、私たち人間の側からは知ることのできない神様のご計画です。

雨の気配も無い所で大きな舟を作ろうとするノアたちの行動は、他の人たちからみたらさぞ奇異なものだったでしょう。しかし、神様から信仰を与えら

れて神様への信頼に生きるノアたちには、他の人たちの目やうわさ話など、気にかける必要も無かったに違いありません。

さて、雨が降り始めたとき、ノアたちが神様の選ばれた動物たちと共に箱舟に入ると、神様が箱舟の戸を閉じられました(7:16)。その結果、四十日四十夜降り続いた雨も、さかまく大波も、舟の中に入り込むことは無く、ノアたちは減びを免れることができました。ひょっとしたら、ノア以外にも舟に乗って洪水を免れようとした人はいるかもしれません。しかし、彼らの舟は神様によって戸を閉じられなかったもので、たちまち雨が振り込み波にのまれ、洪水の底へと沈んでいったことでしょう。神様の御手が、ノアたちを減びから救われたのです。

○私たちも例外ではなく

ノアの大洪水は過去のお話ですが、神様の裁きはこれから必ず起こる事です。イエス様がそのことを教えてくださっています(マタイ 25:31-46)。裁きの時に、世界中の人々が神様の前に引き出されます。そして、羊飼いであるイエス様(ヨハネ 10:11)が、ご自分のものである羊とそうではない山羊とを分けるように、救われる者とそうではない者とを分けられます。そして、救われる者は永遠の命へと、そうではない者は永遠の罰へと入れられるのです。羊と山羊のどちらが「優れているか」が問題なのではありません。どちらが「羊飼いのものか」が問題なのです。そして、羊が羊飼いのものかイエス様のものとされるのは、イエス様の一方向的な好意なのです。

私たちも例外ではありません。私たちも裁きの時に神様の前に引き出されます。しかし、恐れる事はありません。神様はノアと同じように私たちに「好意」を示してくださっているからです。だからこそ、私たちはこうして教会に来て、聖書のお話を聞く事ができるのです。私たちに、ノアと同じように神様が守られる箱舟のような確かな救いが約束されているのです。

〈祈り〉天の父なる神様。あなたがノアに好意を示して下さって救いの箱舟へと導かれたように、私に好意を示して下さって教会へと招いてくださったことを感謝します。どうか、私にもノアのように、あなたに従うゆるぎない信仰を与えてくださいますように。

日曜学校 2001年度カリキュラム (10～12月分)

2年サイクル第1年(子どもカテキズム問1～36)

月日 教会暦	主 題	子どもカテキズム	参考教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単元の目標			
10月7日	あがない主	問 21	小教理 20、ハイデ 15,18
		ヨハネ 7:53-8:11	ヨハネ 8:11b
神の主権的救いの御計画、神の恵みの選びへの感謝、讃美を。			
14日	二性一人格(1)	問 22	小教理 21,22、ハイデ 35,36
		ルカ 1:26-38	ルカ 1:35
神であり人である主イエス・キリストを紹介する。ここでも福音の物語をもって。			
21日	二性一人格(2)	問 22	小教理 21,22、ハイデ 16,17,18
		ヘブライ 2:14-18	ヘブライ 2:17
なぜ、救い主は二性一人格でなければならないのか。ヘブライ書から学ぶ。			
28日 宗教改革記念	主は救い、イエス	問 23	ハイデ 29,34
		マタイ 1:18-25	マタイ 1:21
主イエスの御名。主イエス・キリストの名前を信仰の喜びをもって呼ばせたい。			
11月4日	神の御子、キリスト	問 23	ハイデ 31,33
		マタイ 16:13-20	マタイ 16:16
キリストの職務。主イエス・キリストの名前を信仰の喜びをもって呼ばせたい。			
11日	謙卑のキリスト	問 24	小教理 27
		マタイ 27:45-50	マタイ 27:46
主イエス・キリストはへりくだり、私たちのためにすべてを捧げてくださった。			
18日	高擧のキリスト	問 24	小教理 28
		使徒 1:6-11	使徒 1:9
主イエス・キリストは高く挙げられ、私たちのために働いておられる。			
25日	預言者イエス	問 25	小教理 24、ハイデ 31
		マタイ 7:24-29	ヘブライ 1:2a
生ける神の言葉イエス・キリストが、聖書・教会・礼拝において語っておられる。			
12月2日 待降節	約束の実現を待望する		
		イザヤ 8:23b-9:6	イザヤ 9:5
神の約束の確かさに信頼して、待ち望んで生きることに招く。			
9日 待降節	預言の成就		
		マタイ 1:18-25	マタイ 1:22-23
神の預言の成就を示し、御言葉への信頼を養う。			
16日 待降節	神の愛の勝利		
		ルカ 2:1-7	ルカ 2:7
この世に対する神の愛の勝利としてのクリスマスの事実を伝える。			
23日 クリスマス	クリスマスの喜び		
		ルカ 2:8-21	ルカ 2:10-11
クリスマスの大きな喜びを伝える。			
30日 年末	感謝をささげよう		
		詩編 103	詩編 103:2
一年の恵みを共に振り返り、感謝する。			

編集後記

●幼稚科の子どもたちは工作やゲームが大好きですから、子どもたちの楽しそうな顔を思い浮かべながら、「今度はどんな工作にしようかな」と考える時間もそれはそれで楽しいものです。（伊藤節子、四日市教会日曜学校教師）。●教壇を子どもの視点でわかりやすく表現することに苦勞しました。この奉仕を通して自らの御言葉の学びを深めることができ、感謝しています。（漆崎春美、金沢伝道所日曜学校教師）。●自分の力不足を痛感しつつ、なんとか書き上げることができました。少しでも皆さんのお役に立てれば幸いです。（山口英俊、豊明伝道所日曜学校教師）。●展開例を作っていくことは、信仰告白を自分の言葉で刻んでいく作業であると痛感しています。この「強いられた恩寵」に感謝しています。（伊藤治郎、四日市教会日曜学校教師）。●表紙について・・・聖霊の風を受けて、天の喜びと結ばれて、地でも喜びが湧き

あがる様子。（弓矢容子、名古屋教会日曜学校教師）。●中会の財政支援をいただき、心から感謝いたします。中会内で三分の二の採用、他中会や他教会の方々からのご支持・・・驚きと責任を感じます。皆様のご参加とご支援を心からお願いいたします。（相馬伸郎、名古屋岩の上伝道所宣教師）。●よりふさわしいかたちの教案誌にしていきたいために、ご意見ご要望をお寄せくださいますと感謝です。（木下裕也、豊明伝道所宣教師）。●何とか第2号も発行にこぎ着けました。神様のお導きに感謝しつつ、子どもへの信仰継承のため、これからの導きを願ってやみません。（春名義行、津島伝道所宣教師）。●第二号を皆様のお手元に届けることが許され、感謝です。教案誌の作成において自分自身の信仰が問われることに畏れを覚えています。この業が主に用いられるよう祈ります。（望月信、高蔵寺伝道所協力牧師）。

●編集部より、お知らせとお願い

『日曜学校教案誌』第一号に対して、皆様からさまざまなお声をお寄せいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。皆様のご批判に耳を傾けながら、より良い教案誌を作成していきたいと、編集部では考えております。

内容的には、時間をかけて、中部中会においてご批判いただき、中会の教案誌として皆様によって育てていただきたいと願っております。教案誌としての本文の充実に努めると共に、日曜学校・教会学校の紹介や、工作などのアイデアの提案、他中会の取り組みの紹介なども、誌面を用いて行っていきたいと考えています。掲載の希望や寄稿・投稿も大歓迎ですので、ぜひお寄せください。多くの方々のご参加を心からお願い申し上げます。

誌面の構成や文字の大きさなど、形式的な面についても、多くのお声をお寄せいただきまして、心から感謝申し上げます。今号において、すでに御覧いただいたように、巻頭説教や論文など、可能な部分の文字の大きさを若干大きくいたしました。次号においては、本文の文字の大きさも若干ですが大きくする予定です。また、現在、編集を有志の教師が行っておりますが、今後について専門の編集者に委託する方向で検討しています。その過程で、誌面の構成やフォントの使い方、文字の大きさ、イラストの使用などをあらためて検討して参ります。

この教案誌は、なお試行的な段階であり、さまざまな改善が求められています。皆様の教会で採用していただき、そのご感想やご意見、ご批判のお声をお寄せいただくよう、引き続きよろしくお願いたします。

執筆担当		編集部
聖書研究 木下裕也	幼稚園 伊藤節子	相馬伸郎 (長)
カテキズム研究 望月信	小学科下級 漆崎春美	木下裕也
説教展開例 相馬伸郎	小学科中級 春名義行	春名義行 (会計、販売取次)
表紙イラスト 弓矢容子	小学科上級 山口英俊	望月信 (書記、編集)
	中学科 伊藤治郎	

日本キリスト改革派教会 中部中会 『日曜学校教案誌』

2001年7・8・9月号 (季刊)

第2号

2001年6月17日発行

発行	日本キリスト改革派教会 中部中会 教育委員会
編集・発行所	日本キリスト改革派教会 中部中会 日曜学校教案誌編集部 名古屋岩の上传道所 宣教教師 相馬伸郎 〒458-0008 愛知県名古屋市緑区平手北2-1701 協英ビル3F Tel/Fax. 052-877-8962
頒布取り次ぎ	津島伝道所 宣教教師 春名義行 〒496-0038 愛知県津島市橋町2-30 Tel/Fax. 0567-26-4221
印刷	株式会社あるむ
頒価	900円 (本体価格)
